

# 講義概要

---

## 正課科目

シラバスは 2020 年 1 月 28 日時点の情報です。  
最新情報は、エクステンション・センター HP にて  
随時更新いたします。

URL : <https://www.andrew.ac.jp/extension-center/kouza/06.html>



講義名称	曜日
アジア経済論Ⅰ〈春〉	月 4

**【教員名称】**

内山 怜和

**【講義概要】**

本講義では、東アジア(特にアジア NIES)を対象とする。「東アジアの奇跡」と賞賛された1970年代以降の経済発展を光と影の両面から分析する。東アジア経済の全体像を抑えたうえで、韓国、台湾、中国の各国経済の発展過程、経済の現状と課題、日本との経済関係について解説する。講義は坂田幹男・内山怜和著(2016)『アジア経済の変貌とグローバル化』晃洋書房に沿って進める。ASEAN(東南アジア諸国連合)については、秋学期の「アジア経済論Ⅱ」で主に扱う。

**【学習目標】**

東アジアの経済問題や周辺情勢に関心を持つこと。アジア NIES が奇跡と呼ばれる経済発展を遂げた諸要因、その歴史的背景について理解すること。A.O.ハーシュマンの不均衡成長論など開発理論の考え方を知ること。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス:講義の進め方と重点、アジア経済を分析する視点
- 第2回：序章:アジア経済の基礎知識
- 第3回：第1章:東アジアの成長をどう捉えるか(1)アジア的停滞から東アジアの奇跡へ
- 第4回：第1章:東アジアの成長をどう捉えるか(2)雁行形態の出現
- 第5回：第1章:東アジアの成長をどう捉えるか(3)東アジアの成長過程と局地経済圏
- 第6回：第1章:東アジアの成長をどう捉えるか(4)東アジアの成長と日本の役割
- 第7回：第2章:東アジア経済発展の光と影(1)東アジアの奇跡と開発主義体制
- 第8回：第2章:東アジア経済発展の光と影(2)東アジアの奇跡とアジア通貨危機
- 第9回：第2章:東アジア経済発展の光と影(3)構造改革とグローバル化
- 第10回：第3章:アジア NIES の経済発展(1) NIES の発展要因
- 第11回：第3章:アジア NIES の経済発展(2) 韓国の経済発展
- 第12回：第3章:アジア NIES の経済発展(3) 台湾の経済発展
- 第13回：第4章:中国の経済発展(1) 改革・開放政策の始まり
- 第14回：第4章:中国の経済発展(2) 市場経済化の新しい局面
- 第15回：総括

**【事前および事後学習の指示】**

東アジアに関するニュースを新聞、雑誌、書籍、インターネット等を利用し、随時フォローしておくこと。

**【テキスト】**

アジア経済の変貌とグローバル化 坂田幹男・内山怜和 晃洋書房

**【参考文献】**

日本の外務省や経済産業省、JICA(国際協力機構)、JETRO(日本貿易振興機構)、JBIC(国際協力銀行)、IMF(国際通貨基金)、日本アセアンセンター、現地政府の報告書等。

**【コメント】**

成績評価は基本的に期末試験で行う。場合によっては、中間試験を行う。授業中のスマホの使用は禁止。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
アジア産業論Ⅰ〈春〉	金 4

**【教員名称】**

江川 暁夫

**【講義概要】**

本講義は、アジア(特に ASEAN)の主要各国の産業構造の状況を概観し、その形成過程と、アジア各国自身が目指す今後の産業構造転換の方向性を学ぶことを主眼とする。

具体的には、ASEAN という地域全体における産業の現状とその成り立ちを簡潔に俯瞰した後(第1~4回)、アジア各国の農業、製造業、サービス業の現状と課題について考えていく(第5~10回)。これらで得た知識を用いて現状を分析できるようにするため、日系企業と ASEAN とのかかわりについて、その現状と見通しを把握する(第11~15回)。

**【学習目標】**

- (1) アジア各国の経済をけん引する産業とその状況は千差万別であり、成長に貢献する産業の姿も、過去・現在・未来で変わっていくということを、具体的にかつ大局的に理解できるようになる。
- (2) 実社会に出た後にも、アジアでのビジネスをより上手に企画できるようにするために必要な最低限の知識を得ることができる。

**【講義計画】**

- 第1回：講義概要の説明、アジアの各国経済の世界における位置付け
- 第2回：「産業」の定義、ペティークラーク法則
- 第3回：ASEAN 主要国の経済発展段階、産業発展の変遷と所得水準との関係
- 第4回：ASEAN 各国の産業構造の現状とその特徴
- 第5回：農業部門:過去から現在までの動きと、将来の農業・農村の発展と衰退
- 第6回：ASEAN で農業を守る重要性和農家を守る非効率性
- 第7回：ASEAN の工業化の変遷:雁行形態型経済発展論の第一モデル
- 第8回：ASEAN の工業化の変遷:雁行形態型経済発展論の第二モデル
- 第9回：ASEAN 主要国の第三次産業(特にサービス産業化)の状況と「日本ブーム」
- 第10回：ASEAN が産業高度化を実現する上でのチャンスと制約、「4.0」に向かう ASEAN
- 第11回：サプライチェーンとして位置づけられる ASEAN の製造業
- 第12回：アジアの製造業の今後:アジアは今後「サプライチェーン」の一角なのか?
- 第13回：日系企業の進出先としての ASEAN:①状況
- 第14回：日系企業の進出先としての ASEAN:②見通し
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

事前学習:日頃、新聞の経済欄や経済関係の社説等を読み、経済の議論においてよく用いられている語句を理解するとともに、どのような日本企業がアジアのどの国に進出しようとしているかを把握し、傾向を掴むことが有益である。  
事後学習:授業に出て講義資料に書き込んでいくだけでは理解できない点も多くなることが考えられる。そのため、授業の中で強調された用語や理論を、参考文献なども頼りに、事後に十分に確認しておくことが望まれる。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

『アジア経済読本』第4版 渡辺利夫編 東洋経済新報社  
『キャッチアップ型工業化論—アジア経済の軌跡と展望』末廣昭著 名古屋大学出版会  
『タイでのビジネスプロトコル』今井宏著 パンコク日本人商工会議所発行  
『新興アジア経済論—キャッチアップを超えて』末廣昭著 岩波書店  
その他、各回講義に関連する参考文献等は、その都度紹介する。

**【コメント】**

- (1) 試験やレポートの採点は、学部2年次の学生が最低限到達すべきレベルを基準とするため、粗点での評価ではない。
- (2) レポートの50点については、①毎回、授業の途中ないし終了時に10分程度の小テスト(1回あたり2~4点満点)に取り組み、その点数をレポート点として付加(全体で総合点の30%)、②1,300字程度のレポートが1本(20点満点)。
- (3) 出席は必要に応じて取るが、電子的な手法により、スマートフォンによるQRコードの読み取りをしてもらう。必要なアプリ等のインストールは学生自身の責任で準備すること。
- (4) 公欠や病欠、就職活動を理由とする欠席の場合は、大学ないし就職活動先が発行する証明書等の書類が提出された場合に限り、出席点の考慮と、当該回の小テストの平均点の加点を行う。

**【留意事項】**

・アジアで経済担当の外交官の経験を踏まえた授業内容  
・経済官庁でアジア経済分析や対アジア経済協力等を経験した者による実践的な授業内容

講義名称	曜時
アジア文化史 A 〈春〉	月 2

【教員名称】  
辻 高広

【講義概要】

本講義では中国を中心とした東アジア諸国にかかわる様々な文化的事象をとりあげ、その歴史的背景について学びながら、東アジア世界における歴史的なつながりについて理解する。

なお、本講義では中国の歴史について、高校世界史レベルの知識を有することを前提とする。高校時代の教科書を残している者はそれに目を通していただくこと。

【学習目標】

現代をとりまく様々な文化的事象が長期にわたる歴史的背景をもって形成され、東アジア世界に伝播していったことを理解することができる。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：中国史概説1—古代～中世
- 第3回：中国史概説2—近世～近現代
- 第4回：漢字の歴史1—漢字の誕生
- 第5回：漢字の歴史2—漢字の成立
- 第6回：漢字の歴史3—漢字の伝播
- 第7回：漢字の歴史4—漢字の変容
- 第8回：漢字の歴史5—漢字の現在
- 第9回：女性の歴史1—神話のなかの女性
- 第10回：女性の歴史2—漢代の女性
- 第11回：女性の歴史3—唐代の女性
- 第12回：女性の歴史4—宋代の女性
- 第13回：女性の歴史5—明清時代の女性
- 第14回：女性の歴史6—チャイナドレスと近代女性
- 第15回：まとめ—東アジア世界のつながり

【事前および事後学習の指示】

授業前には指示する時代について、高校教科書および参考文献に目を通し、その時代背景について基礎的な知識を身につけておくこと。授業後には講義内容について確認し、理解不足の点があれば質問すること。

【テキスト】

【参考文献】

尾形勇・岸本美緒編『新版世界各国史 3 中国史』山川出版社、1998年  
講談社『中国の歴史』シリーズ(全12巻)、2004年～2005年

【コメント】

期末には論述を中心とした試験を、学期中に複数回のレポートを課す。出席は回数ではなく、授業への参加や理解度に応じて加点するものである。

【留意事項】

本講義はアジア文化史 B とあわせて受講することが望ましい。

講義名称	曜時
アジア文化史 B 〈春〉	木 3

【教員名称】  
辻 高広

【講義概要】

本講義では中国を中心とした東アジア諸国にかかわる様々な文化的事象をとりあげ、その歴史的背景について学びながら、東アジア世界における歴史的なつながりについて理解する。

なお、本講義では中国の歴史について、高校世界史レベルの知識を有することを前提とする。高校時代の教科書を残している者はそれに目を通していただくこと。

【学習目標】

現代をとりまく様々な文化的事象が長期にわたる歴史的背景をもって形成され、東アジア世界に伝播していったことを理解することができる。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：中国史概説1—古代～中世
- 第3回：中国史概説2—近世～近現代
- 第4回：日中交流の歴史1—日中交流のはじまり
- 第5回：日中交流の歴史2—遣隋使
- 第6回：日中交流の歴史3—遣唐使
- 第7回：日中交流の歴史4—倭寇
- 第8回：日中交流の歴史5—居留地と雑居地
- 第9回：神になった人々1—歴史のなかの関羽
- 第10回：神になった人々2—世界に広がる関帝廟
- 第11回：神になった人々3—歴史のなかの楊貴妃
- 第12回：神になった人々4—楊貴妃渡来伝説
- 第13回：食の歴史1—主食の歴史
- 第14回：食の歴史4—食卓の歴史
- 第15回：まとめ—東アジア世界のつながり

【事前および事後学習の指示】

授業前には指示する時代について、高校教科書および参考文献に目を通し、その時代背景について基礎的な知識を身につけておくこと。授業後には講義内容について確認し、理解不足の点があれば質問すること。

【テキスト】

【参考文献】

尾形勇・岸本美緒編『新版世界各国史 3 中国史』山川出版社、1998年  
講談社『中国の歴史』シリーズ(全12巻)、2004年～2005年

【コメント】

期末には論述を中心とした試験を、学期中に複数回のレポートを課す。出席は回数ではなく、授業への参加や理解度に応じて加点するものである。

【留意事項】

本講義はアジア文化史 A とあわせて履修することが望ましい

講義名称	曜日
アジア文化研究－韓国・朝鮮文化 A 〈春〉	火 1

**【教員名称】**

青野 正明

**【講義概要】**

近年、日本と韓国との交流が様々な分野で盛んになってきた。その一方で、現代にまで続く歴史的問題が原因で政治的には冷え切った状態が続いている。そこで、この授業では日本の地から現代韓国を知り理解することを目指して、時事問題に重点を置きながら歴史や政治、社会の分野に焦点を絞って概説していく。具体的には、歴史・地理・宗教・社会制度などの諸項目について、パワーポイントを用いて、その他視聴覚資料も多用しながら学んでいく。また、終盤では北朝鮮事情や在日コリアンについて講義して、日本社会におけるナショナリズム問題も考えてみたい。

**【学習目標】**

日常生活では正確な情報を得ることが難しいため、ネット情報に誤りが多いことはわかっている、つついそれらに頼ってしまう人が多いと思われる。そこで、この講義では日韓関係についての客観的な情報をベースに、韓国の置かれた状況を文化的な視点から理解していく。その過程で日韓関係を多面的に見つめ直すことにより、各回で学ぶ基本的な知識を修得するとともに、多文化共生について自分の考えをもつことを目標としている。

**【講義計画】**

- 第1回：講義の流れや成績評価等の説明、韓国・北朝鮮についての概説
- 第2回：歴史1 (ナショナリズム教育の問題、渡来人と仏教文化の伝来)
- 第3回：歴史2 (秀吉の侵略、家康以降の友好関係)
- 第4回：歴史3 (日本による植民地支配、南北分断後の政権)
- 第5回：地理1 (ソウル:王朝時代の面影)
- 第6回：地理2 (ソウル:植民地の残影)
- 第7回：地理3 (映画「共同警備区域 J S A」と南北分断)
- 第8回：美術1 (黄金、白衣と白磁)
- 第9回：美術2 (丹青、紋様、石仏、青磁)
- 第10回：社会制度1 (姓と本貫)
- 第11回：社会制度2 (社会的な差別、伝統的な結婚)
- 第12回：日韓での大衆文化受け入れ (韓流ブームまでの道のり)
- 第13回：北朝鮮事情 (支配体制など)
- 第14回：在日コリアン1 (在日とは? :民族教育、映画「パッチギ!」)
- 第15回：在日コリアン2 (日本人とは? :帰化行政の問題、アイデンティティとは)

**【事前および事後学習の指示】**

たとえば、歴史1・2・3のように連続する分野は、それぞれのつながりに留意して、その分野を総体的に理解することを勧める。また、事前学習では各回のテーマについて図書館やインターネット (適切なサイトを選ぶ) で調べておき、事後学習では各回の配布プリントをよく読み掲載された関連サイトや資料にも目を通しておくこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

配布プリント  
金両基監修『読んで旅する世界の歴史と文化・韓国』新潮社  
他にも必要に応じて授業で紹介する。

**【コメント】**

学期末試験は出席・受講状況が反映するような基本的な知識を問う設問を予定している。欠席が多かったり、出席しても勉強しなければ、そのまま試験の点数に反映するということがある。なお、欠席が8回を越える者は成績評価の対象外とする。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
アジア文化研究－韓国・朝鮮文化 B 〈春〉	金 3

**【教員名称】**

青野 正明

**【講義概要】**

近年、日本と韓国との交流が様々な分野で盛んになってきた。その一方で、現代にまで続く歴史的問題が原因で政治的には冷え切った状態が続いている。そこで、この授業では日本の地から現代韓国を知り理解することを目指して、異文化理解に重点を置きながら、伝統的な文化やそれらの変容について全般的に概説していく。具体的には、言語・風俗・衣服・料理などの諸項目について、パワーポイントを用いて、その他視聴覚資料も多用しながら講義する。そして、奥深い韓国・朝鮮文化のディープな部分まで可能な限り理解していく。

**【学習目標】**

まずは知らないことが多い隣国の文化を知ることが大切。そして異文化の特質を見つけて理解するための視点や分析方法も学ぶ。その過程で、韓国・朝鮮文化の面白さを自分なりに見出しながら、各回で学ぶ基本的な知識を修得するとともに、多文化共生について自分の考えをもつことを目標としている。

**【講義計画】**

- 第1回：講義の流れや成績評価等の説明
- 第2回：言語1 (言語のルーツと漢字文化圏)
- 第3回：言語2 (ハングルの構造と特徴、外来語)
- 第4回：宗教1 (巫俗)
- 第5回：宗教2 (仏教・儒教)
- 第6回：宗教3 (キリスト教・新宗教)
- 第7回：集落と住居1 (住居における儒教・風水の要素)
- 第8回：集落と住居2 (集落における風水の要素)
- 第9回：風俗1 (正月、村祭り、秋夕)
- 第10回：風俗2 (葬法 陰曆行事の意義)
- 第11回：料理と酒1 (焼肉:日韓の比較)
- 第12回：料理と酒2 (キムチの特徴、焼酒とマッコリ)
- 第13回：舞踊・演劇 (農楽⇒サムルノリ⇒NANTA、仮面劇)
- 第14回：衣服 (韓服と和服の起源と比較)
- 第15回：音楽 (「アリラン」いろいろ)

**【事前および事後学習の指示】**

たとえば、言語1・2のように連続する分野は、それぞれのつながりに留意して、その分野を総体的に理解することを勧める。また、事前学習では各回のテーマについて図書館やインターネット (適切なサイトを選ぶ) で調べておき、事後学習では各回の配布プリントをよく読み掲載された関連サイトや資料にも目を通しておくこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

配布プリント  
金両基監修『読んで旅する世界の歴史と文化・韓国』新潮社  
他にも必要に応じて授業で紹介する。

**【コメント】**

学期末試験は出席・受講状況が反映するような基本的な知識を問う設問を予定している。欠席が多かったり、出席しても勉強しなければ、そのまま試験の点数に反映するということがある。なお、欠席が8回を越える者は成績評価の対象外とする。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
医学入門 A (春)	木 4

**【教員名称】**

梅木 茂宣

**【講義概要】**

- ①人の成長・発達
- ②心身機能と身体構造の概要
- ③国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要
- ④健康の捉え方
- ⑤疾病と障害の概要
- ⑥リハビリテーションの概要

**【学習目標】**

- 社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士に必要な「人体の構造・機能及び疾病」についての知識を理解させる。
- ①心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。
  - ②国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解する。
  - ③リハビリテーションの概要について理解する。

**【講義計画】**

- 第1回：医療と福祉 (イントロダクション)
- 第2回：人体の構造と機能 (1) 呼吸器・循環器系
- 第3回：人体の構造と機能 (2) 消化器系
- 第4回：人体の構造と機能 (3) 骨格・筋肉系
- 第5回：人体の構造と機能 (4) 神経・内分泌系
- 第6回：医学的リハビリテーション (1) 疾病と障害・国際生活機能分類
- 第7回：医学的リハビリテーション (2) リハビリテーションの実際
- 第8回：現代社会と疾患 (1) がん、生活習慣病 1
- 第9回：現代社会と疾患 (2) がん、生活習慣病 2
- 第10回：現代社会と疾患 (3) 各種感染症
- 第11回：現代社会と疾患 (4) 神経・精神疾患
- 第12回：現代社会と疾患 (5) 先天性疾患
- 第13回：現代社会と疾患 (6) 難病
- 第14回：現代社会と疾患 (7) その他
- 第15回：試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

健康医学などに興味をもつことが大事

**【テキスト】**

人体の構造と機能及び疾病 改訂版 第4版 福祉臨床シリーズ委員会編  
978-4335611841 弘文堂

**【参考文献】**

なし

**【コメント】**

出席は4分の3 (75%) 以上しなければ評価されない。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
イギリス文化研究－ヴィクトリア朝ロンドンの世界 A (春)	火 2

**【教員名称】**

日下 隆平

**【講義概要】**

この講義はヴィクトリア朝ロンドンの社会と文化を学ぶことを目的としています。この時期は、今から100年から150年前で、日本でいえば、幕末から明治の終わる頃にあたります。1980年代の首相サッチャーの「ビクトリア朝時代に帰れ」というスローガンにもあるとおり、ヴィクトリア朝とは、世界に冠たる19世紀大英帝国の最盛期であり、現代イングランドの基礎が形成された重要な時期です。大英帝国は他国に先駆けて産業化を成し遂げパックス・ブリタニカといわれるほどの富と力を築きました。しかし、その繁栄の光の背後には影と数多くの犠牲がありました。前半期のこの授業ではヴィクトリア朝時代の光と影について学んでいきます。この授業は、春学期 A と秋学期 B と一方だけの履修も可能ですが、より深い理解を得るためには、両方の履修が望ましい科目です。

**【学習目標】**

到達目標は、現代イギリスの基礎を形成した19世紀イギリスを知ること、より深く現代イギリスの文化や病巣を理解することです。また、イギリスは、政治体制など明治維新の日本がお手本にした国でもあることから、ひいては自国文化の理解にも繋がるものと言えます。授業では、前半の時間は PPT、DVD などを用いて説明していきます。後半は そのトピックに関する英文資料を講読しながら理解を深めていきます。授業方法は以上のようなやり方で行いますが、授業で扱うトピックは文化、芸術、社会等のさまざまな分野から選び、この時期の文化の特徴を検討していきます。取り上げるトピックは以下の通りです。また、DVD についても映画、特集録画などを使用する予定です。

**【講義計画】**

- 第1回：導入－授業内容についての全般的説明  
時代の枠組みからみたヴィクトリア朝
- 第2回：ヴィクトリア朝までのロンドン  
18世紀までのイギリスの歴史を概観する。
- 第3回：ヴィクトリア朝時代概観 (1837-1901)
- 第4回：ヴィクトリア朝初期  
ブレイク (William Blake) から見た社会－『煙突掃除の少年』を読む
- 第5回：三角貿易 賛美歌 "Amazing Grace" と奴隷貿易  
奴隷商人と恩寵  
ビデオ
- 第6回：2人の対照的な政治家－ディズレーリとグラッドストーン
- 第7回：ヴィクトリア朝初期－その2  
East End の世界－路地裏のロンドンと移民たち  
1 ユグノー教徒、アイルランド人、ユダヤ系移民が織りなす文化
- 第8回：East End の世界－路地裏のロンドンにみる大衆文化  
2 ユグノー教徒、アイルランド人、ユダヤ系が織りなす文化－ドレの版画とメイヒューから検討する。
- 第9回：不足部分の追加説明と理解のための小テスト
- 第10回：ヴィクトリア朝中期：ロンドンの拡大と繁栄  
大英博覧会 (1851) と水晶宮の建設  
大英博覧会 (1862) と文久使節団
- 第11回：メガロポリス・ロンドンの発展と都市文化
- 第12回：女性作家の時代  
『ジェーン・エアー』、絵本作家ケート・グリーナウェイなどからみた女性像と職業
- 第13回：『ピター・ラビット』の作者 Beatrix Potter と湖水地方
- 第14回：DVD『世界遺産：湖水地方』からナショナル・トラストを学ぶ
- 第15回：まとめと試験

**【事前および事後学習の指示】**

事前に配布した資料を読んできて下さい。事前1時間事後1時間 計30時間程度。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

君塚直隆 (編著) 『よくわかるイギリス近現代史』、ミネルヴァ書房

**【コメント】**

- 1 毎回、配布し講読予定の英文資料をよく理解しておくこと。
- 2 その理解を助けるために授業前半で PPT などによって説明をしていく。
- 3 その他の40% とは、出席30% と授業中に実施する出席確認を兼ねた小テスト10%の合計をさす。
- 4 授業の最終日にテーマに関する論述問題を出題する。

**【留意事項】**

社会人の方へ (聴講に際して) 本講義はイギリス文化研究－ヴィクトリア朝ロンドンの世界 B (秋) とあわせて受講することが望ましい。

講義名称	曜日
異文化間コミュニケーション論 A 01 (春)	火 1

**【教員名称】**  
金本 伊津子

**【講義概要】**

情報は瞬時にして世界を駆け巡り、物は国の境を超え、人は文化の壁を越え始めた。地球規模で地域・組織・家族の多文化化が進み、日常生活の中でも異文化と出会う機会が増大した。このような国際社会の関係性の変化に伴い、文化的背景が異なる人々とのコミュニケーション(交流)やネゴシエーション(交渉)を行う異文化間コミュニケーション能力が重要視されるようになってきた。グローバル時代に直面する様々な問題を解決する鍵となる、言語・思考・価値観などの多様性をマネジメントする力が、現代のリーダーシップに不可欠な要素となった。「異文化コミュニケーション学」とは、このような時代背景から生まれてきた学問であり、このような時代を生きるための実践の学問である。

この科目においては、言語・思考・価値観などの文化的背景が異なる人々がコミュニケーションを行う場合に生じる様々な現象や問題点を、交換留学生等とのコミュニケーションを通して体験的に学ぶ。そのため、複数回の授業において留学生との交流を行う。

**【学習目標】**

- (1) 言語・思考・価値観などの文化的背景が異なる人々がコミュニケーションを行う場合に生じる現象や問題点を理解し、その問題を解決できるコミュニケーションスキルを身につけることができる。
- (2) 英語教員志望者は、英語が使用されている国や地域の人々のコミュニケーション行動をその歴史的・社会的・文化的背景から理解することができる。
- (3) 自分自身のコミュニケーションの特性を理解し、自分自身についての理解を深めることができる。

**【講義計画】**

- 第1回：コースの概要の説明：なぜ、今、異文化間コミュニケーションを学ぶのか？  
エクササイズ(1)：アフリカ系アメリカ人の日本での体験("Struggle and Success")
- 第2回：文化とは何か？：文化の「見える化」から見えるもの  
エクササイズ(2)：日本人にとっての太陽は何色？ / 船はどちらに進む？ / 雨は直線？
- 第3回：コミュニケーションのルールを探る：コミュニケーション・モデル  
エクササイズ(3)：自己開示とコミュニケーション
- 第4回：言語コミュニケーションの特徴を分析する(1)：ことばと文化の関係  
エクササイズ(4)：クイズ「ちやうちやうちやうちやうとちやうんとちやうと」
- 第5回：言語コミュニケーションの特徴を分析する(2)：ことばとコンテクストの関係
- 第6回：コミュニケーションのルールを探る  
エクササイズ(5)：ゲーム "OUTSIDE EXPERT"
- 第7回：非言語メッセージを戦略的に使う(1)：身体特徴・動作学・近接空間学
- 第8回：非言語メッセージを戦略的に使う(2)：接触学・準言語(パラランゲージ)・時間学  
エクササイズ(6)：時間・空間の使い方チェック
- 第9回：コミュニケーションを文化比較する：コミュニケーションの多様性
- 第10回：異文化との出会いから自分を見つめる：カルチャー・ショックと異文化適応能力  
エクササイズ(7)：異文化適応能力チェック
- 第11回：コミュニケーションの障害を理解する：ステレオタイプと偏見
- 第12回：グロービッシュとは？：国際語としての英語(lingua franca)と様々な英語(Englishes)
- 第13回：多文化組織におけるリーダーシップとは？  
エクササイズ(8)：異文化のインターフェース
- 第14回：日本人のグローバル・マイグレーション：海外の日本人と「国民」の多様化  
エクササイズ(9)：国際結婚のこどもたちの文化的アイデンティティ
- 第15回：日本文化のグローバル化と文化のオーセンティシティ：寿司と SUCHI / 柔道と JUDO

**【事前および事後学習の指示】**

- ・毎回の授業に関連する参考図書(章・節)を授業中に指示する。
- ・「今」まさに起きている国際関係を素材として授業を展開していくので、新聞記事を読むことを推奨する。

**【テキスト】**

毎回の授業において講義のための資料を配布する。

**【参考文献】**

- 石井敏、久米昭元、遠山淳(編)(2011)『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣  
金本伊津子(共著)(2005)『異文化コミュニケーション研究法』有斐閣  
金本伊津子(共著)(2009)『日本文化論のキーワード』有斐閣

**【コメント】**

- 成績評価の方法は以下のように総合的に評価する。
- (1) 授業への積極的な参加(ディスカッションや発言など)(10%)
  - (2) 授業中に実施するエクササイズに関する提出物(全7回)(40%)
  - (3) 学期末テスト(50%) 授業で学んだキーワードを問う問題を出題する。授業内で配布した資料を持ち込むことができる。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
異文化間コミュニケーション論 B 01 (春)	金 2

**【教員名称】**  
金本 伊津子

**【講義概要】**

情報は瞬時にして世界を駆け巡り、物は国の境を超え、人は文化の壁を越え始めた。地球規模で地域・組織・家族の多文化化が進み、日常生活の中でも異文化と出会う機会が増大した。このような国際社会の関係性の変化に伴い、文化的背景が異なる人々とのコミュニケーション(交流)やネゴシエーション(交渉)を行う異文化間コミュニケーション能力が重要視されるようになってきた。グローバル時代に直面する様々な問題を解決する鍵となる言語・思考・価値観などの多様性をマネジメントする力が、現代のリーダーシップに不可欠な要素となった。「異文化コミュニケーション学」とはこのような時代背景から生まれてきた学問であり、このような時代を生きるための実践の学問である。

この科目においては、言語・思考・価値観などの文化的背景が異なる人々がコミュニケーションを行う場合に生じる様々な現象や問題点を、交換留学生とのコミュニケーションを通して体験的に学ぶ。そのため、複数回の授業において留学生との交流を行う。

**【学習目標】**

- (1) 言語・思考・価値観などの文化的背景が異なる人々がコミュニケーションを行う場合に生じる現象や問題点を理解し、その問題を解決できるコミュニケーションスキルを身につける。
- (2) 英語教員志望者は、英語が使用されている国や地域の人々のコミュニケーション行動をその歴史的・社会的・文化的背景から理解する。
- (3) 自分自身のコミュニケーションの特性を理解し、自分自身についての理解を深める。

**【講義計画】**

- 第1回：コースの概要の説明 異文化コミュニケーションの基礎知識(1)：グローバル化時代の異文化間コミュニケーション
- 第2回：異文化コミュニケーションの基礎知識(2)：ホフステードの6次元モデルの実践的活用法
- 第3回：文化の志向性とコミュニケーション  
コミュニケーションのプロトタイプとしての「ディベート」と「寄り合い」  
エクササイズ：ディベート演習
- 第4回：欧米と日本のコミュニケーション比較：文化の志向性とコミュニケーション
- 第5回：アメリカの社会・文化とコミュニケーション(1)：「アメリカ人」はどのように作られるか？  
ディスカッション(1)：移民国家アメリカにおける危機：文化的不寛容社会の到来
- 第6回：アメリカの社会・文化とコミュニケーション(2)：「アメリカ人」はどのようにものを決めるか？  
ディスカッション(2)：大統領選挙にみるコミュニケーション行動にみる多数決原理と全員一致
- 第7回：アメリカの社会・文化とコミュニケーション(3)：「アメリカ人」はなぜ分断されるのか？  
ディスカッション(3)：対立コミュニケーションのメカニズム：宗教・人種(エスニシティ)・クラス・ジェンダー
- 第8回：イギリスの社会・文化とコミュニケーション(1)：階層社会イギリスにおける分断  
ディスカッション(4)：スコットランド独立問題 / 北アイルランド問題 / ウェールズのバイリンガリズム
- 第9回：イギリスの社会・文化とコミュニケーション(2)：移民国家イギリスにおけるマイグレーションとエスニシティ  
ディスカッション(5)：ブレグジット(Brexit)とEUの未来
- 第10回：オーストラリアの社会・文化とコミュニケーション：白豪主義から多文化主義への転換  
ディスカッション(6)：オーストラリアにおける多文化主義の未来
- 第11回：日本の社会・文化とコミュニケーション：日本企業における対立回避のコミュニケーション
- 第12回：異文化コミュニケーション研究(1)：日本の小さな町の国際紛争：クジラ論争における欧米人のコミュニケーション行動
- 第13回：異文化コミュニケーション研究(2)：日本の小さな町の国際紛争：クジラ論争における日本人のコミュニケーション行動  
ディスカッション(7)：日本の国際交渉力を分析する
- 第14回：異文化コミュニケーション研究(3)：異文化コミュニケーションの研究法
- 第15回：異文化コミュニケーション研究(3)：異文化コミュニケーションの研究法

**【事前および事後学習の指示】**

- ・毎回の授業に関連する参考図書(章・節)を授業中に指示する。
- ・「今」まさに起きている国際関係を素材として授業を展開していくので、新聞記事を読むことを推奨する。

**【テキスト】**

毎回の授業において講義のための資料を配布する。

**【参考文献】**

- 石井敏、久米昭元、遠山淳(編)(2011)『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣  
金本伊津子(共著)(2005)『異文化コミュニケーション研究法』有斐閣  
金本伊津子(共著)(2009)『日本文化論のキーワード』有斐閣

**【コメント】**

- 成績評価の方法は以下のように総合的に評価する。
- (1) 授業中に実施するディスカッションへの貢献(10%)
  - (2) 授業内の提出物(全3回)(40%)
  - (3) 学期末テスト(50%) 授業で学んだキーワードとクジラ論争に関する記述式問題を提出する。授業中に配布した資料を持ち込むことができる。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
英語学概論 A 01 〈春〉	火 2

**【教員名称】**

清水 真一

**【講義概要】**

まずは、英語を自然言語として明確に位置づける。そして、従来「英文法」という名の冠せられてきた英語の仕組みを扱う分野について触れ、英語の基本文型と品詞論を概観・整理する。英語の音の仕組みについての基礎を学習し、語形成のメカニズムの初歩を学ぶ。しかる後、二つの解釈部門、即ち、音と意味の二つの部門を仲介する生動的部門としての文法（即ち、統語論）の基礎的概念を学ぶことになる。また、現下における英語の国際的ステータスを顧みたととき、英語の文化・歴史の研究に目を向けることの意義を確認する。

**【学習目標】**

人間言語と、人間以外の動物のコミュニケーション手段あるいはその他の人工システムとはどのように峻別しうるのか。言い換えれば、人間言語とは何かを考えることは英語という自然言語を研究の対象とする英語学の担うべき重要な研究課題の一部をなす。本講では、主として音・形態・文法を中心に英語の基本的特徴を観察・分析するための初歩を身につけ、これにより英語研究の基本的考え方・方策を学ぶ。また、国際語としての英語の文化・歴史を学ぶことは英語学研究の重要な一部を成してしかるべきであり、我々は、英語という言語の歴史の変遷を文法・形態・音の変化という観点から考察を加える。

**【講義計画】**

- 第1回：自然言語と動物のコミュニケーション
- 第2回：英語学、言語学、そして科学
- 第3回：英語の音 (1)：調音法・調音点
- 第4回：英語の音 (2)：子音と母音
- 第5回：英語の音 (3)：同化と異化
- 第6回：英語の音 (4)：語の強勢
- 第7回：英語の形態論 (1)：形態素・接辞
- 第8回：英語の形態論 (2)：派生・複合
- 第9回：英語の文法 (1)：英語の基本文型
- 第10回：英語の文法 (2)：品詞論
- 第11回：英語の文法 (3)：構成素構造
- 第12回：英語の文法 (4)：複文
- 第13回：英語の文法 (5)：重文
- 第14回：英語の歴史 (1)：英語の時代区分
- 第15回：英語の歴史 (2)：語尾変化／音変化

**【事前および事後学習の指示】**

授業の前に、学習・研究項目について指定した文献等を精読しておくこと。事後学習においては、学習した内容を肝心の論点とともに整理しておくこと。

**【テキスト】**

ファンダメンタル英語学 (改訂版) 中島平三 著 (2011)  
978-4-89476-575-7 ひつじ書房

**【参考文献】**

井上和子・原田かつ子・阿部泰明 共著 (1999) 『生成言語学入門』大修館書店。  
桑原万寿太郎 著 (1963) 『動物と太陽コンパス』岩波書店。  
A.J. プリマック 著 (1978) 『チンパンジー読み書きを習う (改訂版)』思索社。  
寺澤盾 著 (2008) 『英語の歴史』中公新書。

**【コメント】**

【試験】(70%) は、学期末試験 50% とクイズ (1回) 20%。なお、授業を 4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象外とする。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
英語学概論 B 02 〈春〉	金 4

**【教員名称】**

Kevin R. Gregg

**【講義概要】**

「英語学」とは、英語を対象とする言語学、つまり言語の科学である。科学だからこそ、言語学の目的は、言語現象を記述するだけでなく、その現象を説明することにある。したがって、この授業の目的は、英語に関する事実をたくさん覚えさせることでは決してない。むしろ、英語を人間言語の一例として取り上げ、言語学という科学の研究対象、基礎概念、それに研究方法を把握してもらうことを目指す。

**【学習目標】**

受講生は、この授業で十分な成果をあげることができれば、次の目的を達成することになろう

- ・人間言語とりわけ英語を科学研究の対象とする方法や特徴を理解する。
- ・英語学の下位分野 (音声学、音韻論、形態論、統語論など) の基礎知識を得る。
- ・英語の特徴 (英語の歴史の変遷及び国際共通語としての英語の実態など) を理解する。

**【講義計画】**

- 第1回：概要
- 第2回：統語論 (1) 範疇
- 第3回：統語論 (2) 構成素
- 第4回：統語論 (3) 句構造規則
- 第5回：統語論 (4) 繰り返し
- 第6回：統語論 (5) X' 理論
- 第7回：統語論 (6) NP・N'
- 第8回：統語論 (7) 補部・付加部
- 第9回：統語論 (8) VP その他の語彙範疇
- 第10回：統語論 (9) c 統御
- 第11回：統語論 (10) 照応
- 第12回：語用論 (1) 会話の規則
- 第13回：語用論 (2) 含意
- 第14回：語用論 (3) 丁寧表現
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

講義で指示します。

**【テキスト】**

毎回の講義でプリントを配布する。

**【参考文献】**

授業中に適宜紹介する。

**【コメント】**

**【留意事項】**

講義名称	曜時
英語の文法 A 〈春〉	火 3

## 【教員名称】

清水 真一

## 【講義概要】

句を線形順序のみで捉える文法研究の不備を確認する。歴史的な脈における生成文法の意義にも触れながら、英語学を科学として位置づけることを試みる。文構造における構成素間における関係、即ち、節点間関係についてどのような規定が可能なかを点検すると同時に、英語に見られる文法関係について論じる。また、Xバー理論を支える投射という概念を踏まえ、語順のパラメータを言語習得の文脈から論じてみる。主題関係を動詞との関連で論じ、「名詞句」等の語彙範疇を含めた文の骨子について議論する。さらに、補文標識、時制、相をも含めた機能範疇と文形成の関わりを論じる。

## 【学習目標】

伝統文法をも含めた英語研究における知見を概観した上で、生成文法における英語学研究の基本的理念と思考法を学びながら英語の文法を研究する。本講では、英語の文法研究に必須の基本的概念・分析手法を学習する中で所与のデータを実際に分析し、その説明のための明示的な議論の仕方を学ぶ。文法の基本単位としての文の組成を研究するため、Xバーの型式に基づき統語構造における線形順序と階層関係を表示する方法を学ぶ。かくして、文組成の表示としての樹形図を正確に作成しこれに習熟することを目指す。

## 【講義計画】

- 第1回：ことばと科学
- 第2回：伝統文法
- 第3回：文法と言語
- 第4回：生成文法
- 第5回：構成素構造と樹形図
- 第6回：構造関係(1)：支配、先行、構成素統御
- 第7回：構造関係(2)：文法関係
- 第8回：Xバー理論(1)：投射と「バー」スキーマ
- 第9回：Xバー理論(2)：パラメータと語順
- 第10回：Xバー理論と機能範疇(1)：決定詞句
- 第11回：Xバー理論と機能範疇(2)：節
- 第12回：主題関係と項構造
- 第13回：機能範疇(3)：補文標識
- 第14回：機能範疇(4)：時制・相
- 第15回：機能範疇(5)：法助動詞

## 【事前および事後学習の指示】

次の講義で扱う英語の関連データに必ず目を通しておくこと。事後学習においては、学習した内容を肝心の論点とともに整理しておくこと。

## 【テキスト】

プリント  
Brush Up Your English Composition 増田綱  
4-7919-5014-3 C1082 Seibido

## 【参考文献】

- Carnie, A. (2013) *Syntax : A Generative Introduction* (Third Edition). Wiley-Blackwell.
- A.S. ホーンビー著／伊藤健三訳注(1977)『英語の型と語法』オックスフォード大学出版局。
- 戸田山和久著(2005)『科学哲学の冒険』日本放送出版協会。

## 【コメント】

「試験」(60%)は学期末試験。「その他」(40%)については、毎回、授業の終わりに担当者の用意したコメントシートに記入して提出することとする。なお、授業を4回以上欠席した場合は、成績評価の対象外とする。

## 【留意事項】

講義名称	曜時
英語の歴史 A 〈春〉	月 4

## 【教員名称】

西原 哲雄

## 【講義概要】

本講義では、「英語」という言語の特色を歴史的に考察し、学習と教育に生かすための知見を獲得する。特に、世界共通語として日々変容する英語のルーツをたどり、どのような歴史を経て現在の多文化性・多言語性を帯びていったのかについて学んでいく。

## 【学習目標】

世界共通言語としての地位を築きつつある現代英語の利点と欠点について、歴史を通して具体的に理解し、英語への知識と感性を深める。

## 【講義計画】

- 第1回：英語ってどんな言語？現代英語の多文化性と多様性
- 第2回：世界言語としての英語
- 第3回：英語の歴史とそのルーツ
- 第4回：ケルト文化と英語
- 第5回：他民族の侵略
- 第6回：イギリスの名称について
- 第7回：英語の時代区分
- 第8回：ヴァイキングの侵略
- 第9回：自国語意識
- 第10回：フランス人の侵略1:ノルマン・コンクエスト
- 第11回：フランス人の侵略2:「ロマンス」系言語とは
- 第12回：フランス人の侵略3:借用語
- 第13回：ビデオ鑑賞
- 第14回：中世の英語と文学
- 第15回：試験および総まとめ

## 【事前および事後学習の指示】

必ず予習をしたうえで、出席すること。

## 【テキスト】

簡略英語史概説 西原哲雄 晃学出版、2015年  
The English Language Simon Horobin Oxford, 2016年

## 【参考文献】

- Albert C. Baugh & T. Cable, *A History of the English Language* (Routledge 2002)
- 唐澤一友『世界の英語ができるまで』(亜紀書房、2016)
- 堀田隆一『はじめての英語史：英語の「なぜ？」に答える』(研究社、2016)

## 【コメント】

試験:70% 授業中の取り組み・グループワークへの参加度:30%

## 【留意事項】

講義名称	曜日
映像メディア論 A (春)	火 4

**【教員名称】**

森田 良成

**【講義概要】**

この講義では、多様な目的と背景のもとで制作された、私たちに与える「異文化」が描かれた映像作品(ドキュメンタリー映画、民族誌映画、企業広告、広報映像など)を取り上げる。そこには、われわれにとっては非日常的だが「彼ら」にとっては当たり前の風景や、われわれが想像するものとは異なった歴史が描かれていたり、異文化を理解しようとする実践の過程そのものが記録されていたりする。

映像メディアは、異文化をどのように描くことができるのか。また映像メディアが何かを描こうとする際に、政治的、経済的な利害や思惑がどのように関係してくるのか。映像メディアには、活字など他のメディアとは異なるどのような特性(危険性を含む)があるのか。異文化とのコミュニケーションのあり方について理解を深めながら、映像メディアの問題と可能性を学ぶ。

**【学習目標】**

映像メディアを多角的に検討し、その特性を学ぶ。  
映像メディアが「異文化」をどのように描きうるのかについて理解を深める。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：広告映像から見る消費と暮らし(1)
- 第3回：広告映像から見る消費と暮らし(2)
- 第4回：広告映像から見る消費と暮らし(3)
- 第5回：映像から見る宗教生活(1)
- 第6回：映像から見る宗教生活(2)
- 第7回：映像から見る宗教生活(3)
- 第8回：選挙映像から見るナショナリズム(1)
- 第9回：選挙映像から見るナショナリズム(2)
- 第10回：選挙映像から見るナショナリズム(3)
- 第11回：ドキュメンタリー映像から見る民主主義(1)
- 第12回：ドキュメンタリー映像から見る民主主義(2)
- 第13回：ドキュメンタリー映像から見る民主主義(3)
- 第14回：ドキュメンタリー映像から見る民主主義(4)
- 第15回：試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

講義中に紹介する文献資料を読み、資料映像を視聴すること。  
課題に積極的に取り組むこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 村尾静二、久保正敏、筋内匡・編(2014)  
『映像人類学(シネ・アンソロポロジー)ー人類学の新たな実践へ』せりか書房
- 南出和余、木島由晶・編(2018)  
『メディアの内と外を読み解くー大学におけるメディア教育実践』せりか書房
- Pink, Sarah (2005)  
The Future of Visual Anthropology: Engaging the senses. Routledge  
ほか、授業において指示する。

**【コメント】**

(その他40%)  
平常点を評価するために、到達目標に対応する小テスト(論述)を複数回実施する。論述の内容、すなわち授業内容を理解し、議論を踏まえたうえで自分の考えを論理的に記述できているかどうかを評価する。なお、ふだんの受講態度に問題がある場合には減点をする。  
(最終試験60%)  
到達目標に対応する問題を出題する。試験では資料の持ち込みを不可とする。授業内容を理解し、議論を踏まえたうえで自分の考えを論理的に記述できているかどうかを評価する。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
英文簿記会計 (春)	木 1

**【教員名称】**

小澤 義昭

**【講義概要】**

「グローバルビジネスに役立つ知識を身につけよう！」  
ビジネス活動の国際化により、英文による簿記・会計の理解が重要となってきています。英文簿記会計といっても、単に財務諸表の日本語表記を英語表記に置き換えるだけではなく、国際的な会計基準と日本の会計基準との差異についての理解も必要となります。本講義では、国際的な会計スキルの前提となる英文簿記の基礎を学習します。日商簿記の3級の知識さえあれば、誰でも理解ができます。演習もふんだんに交えて、英語があまり得意でない人でもわかりやすい授業としたいと考えています。

**【学習目標】**

本講義は、国際会計検定試験(BATIC)に焦点を合わせ、受講生諸君の国際ビジネス能力の向上に寄与することを目的として開講します。国際会計検定試験(BATIC)は、国際的な会計スキルを判定するための試験であり、東京商工会議所の主催で年2回(7月と12月)実施されます。  
本講座の学習目標は、国際会計検定試験(BATIC)のアカウントレベルの取得を目標としています。グローバル化時代の就職に絶対に役立つ資格ですので、是非チャレンジしてみてください。

**【講義計画】**

- 第1回：講義内容説明/会計と簿記の基本概念(Basic Concepts of Accounting and Bookkeeping)
- 第2回：取引と仕訳(その1)(Transactions and Journal Entries)
- 第3回：取引と仕訳(その2)(Transactions and Journal Entries)
- 第4回：仕訳帳と元帳(その1)(Journals and Ledgers)
- 第5回：仕訳帳と元帳(その2)(Journals and Ledgers)
- 第6回：試算表(Trial Balance)と今までの復習
- 第7回：決算修正仕訳(その1)(Adjusting Entries(1))
- 第8回：決算修正仕訳(その2)(Adjusting Entries(2))
- 第9回：棚卸資産と売上原価の会計処理(Accounting for Inventory and Cost of Goods Sold)
- 第10回：締切仕訳(Closing Entries)
- 第11回：財務諸表(Financial Statements)
- 第12回：一般に公正妥当と認められた会計原則(Generally Accepted Accounting Principles)
- 第13回：財務諸表分析(Financial Statement Analysis)
- 第14回：内部統制(Internal Control)
- 第15回：総まとめとテスト(期末試験)

**【事前および事後学習の指示】**

予習までは必要ありませんが、前回の講義内容を復習して授業に出席してください。

**【テキスト】**

- BATIC subject1 公式テキスト 新版 東京商工会議所
- 9784502265013 中央経済社

**【参考文献】**

- B A T I C Subject1 問題集 新版(中央経済社)

**【コメント】**

最低限、授業に出席することが必要です。4回以上欠席した場合には、成績評価の対象外とします。「その他」の評価としては、出席を前提にした簡単なコメントシートを記入して提出していただきます。残りの70%は、期末テストで評価します。

**【留意事項】**

公認会計士として、35年間、ニューヨーク、東京他において、国際業務に従事してきた教員が、その経験及び国際会計の知識に基づいて英文簿記会計の基本知識について解説を行う。

講義名称	曜時
応用言語学研究 A 〈春〉	月 2

**【教員名称】** 英語による  
Michael Carroll

**【講義概要】**

The course functions as an introduction to discourse analysis. Beginning with an outline of the nature of text, connected texts and discourse, participants will be introduced to the notion that traditional grammatical descriptions are necessary but insufficient to describe the variety of lexical and grammatical choices that actually underlie communication. There will be a brief overview of cohesion, coherence, the nature of spoken texts, including discussion of speech acts, adjacency pairs, and Grice's cooperative principles. There is considerable overlap with 応用言語学研究 B, and so the course will be much easier for students who take both subjects. If you have questions, contact carroll@andrew.ac.jp

**【学習目標】**

At the end of the course students should be able to analyse written and spoken texts in terms of their discourse structure and show how writers and speakers convey meanings through their choice of lexis (words), and grammar (how they put the words together), and how readers and listeners process those meanings.

**【講義計画】**

- 第1回：What is discourse analysis?
- 第2回：The discourse analysis assessment tasks
- 第3回：Parts of speech
- 第4回：Grammar: how we put words together
- 第5回：Analysing written texts: grammatical cohesion
- 第6回：Analysing written texts: lexical cohesion
- 第7回：Analysing written texts: coherence, writers' purposes, good and bad writing
- 第8回：Analysing spoken texts: conversation and speech acts
- 第9回：Analysing spoken texts: turn-taking, adjacency pairs and politeness
- 第10回：Analysing spoken texts: Grice's cooperative principles
- 第11回：Analysing spoken texts: fillers and backchannels
- 第12回：Turn-taking and politeness
- 第13回：Review and Presentations
- 第14回：Review and Presentations
- 第15回：Examination

**【事前および事後学習の指示】**

英語による授業。The course is conducted entirely in English. Take a look at the Deborah Tannen article (<https://www.linguisticsociety.org/resource/discourse-analysis-what-speakers-do-conversation>) for a brief introduction to discourse analysis

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- Pridham, F. (2001) The Language of Conversation. London: Routledge.
- Salkie, R. (1995). Text and Discourse Analysis. London: Routledge
- Tannen, D. (undated) Discourse Analysis: what speakers do in conversation. The Linguistic Society of America (<https://www.linguisticsociety.org/resource/discourse-analysis-what-speakers-do-conversation>)

**【コメント】**

Analysis of a written text 30%.  
Analysis of a spoken interaction 40%.  
Examination 30%.  
(Participation in forums (online discussions), and submission of all assignments is a pre-requisite for taking the examination.)

**【留意事項】**

講義名称	曜時
応用言語学研究 B 〈春〉	木 5

**【教員名称】** 英語による  
Michael Carroll

**【講義概要】**

The course is an introduction to corpus linguistics. A corpus is a large collection of 'real life' language (often millions of words) stored in a database. Corpus linguistics is based on analysing this data using corpus software. Corpus analysis can answer questions about which words and phrases are most frequent in a language or in a type of text, how a given word is usually used in context, whether a 'grammar rule' really does describe what people do in language, and so on. In other words it helps us to understand how language works in real life as opposed to how it is often presented in grammar books and textbooks. A range of simple, user-friendly corpus software will be introduced. No prior computer skills or knowledge are necessary. There is considerable overlap with 応用言語学研究 A, and so the course will be much easier for students who take both subjects. If you have questions, contact carroll@andrew.ac.jp

**【学習目標】**

At the end of the course students should be able to use corpora for answering questions about language use, and build and analyse their own corpora.

**【講義計画】**

- 第1回：What is a corpus, and what is corpus linguistics?
- 第2回：The corpus assessment task
- 第3回：Frequency, concordance and collocation:
- 第4回：Parts of speech
- 第5回：Building a corpus
- 第6回：Grammatical tagging in the corpus
- 第7回：Corpora and Lexis
- 第8回：Collocations, lexical chunks, and lexical bundles
- 第9回：Layers of meaning
- 第10回：More on frequency
- 第11回：Corpora and grammar
- 第12回：The connection between grammar and lexis: lexicalised grammar or grammaticalised lexis?
- 第13回：Review and presentations
- 第14回：Review and presentation
- 第15回：Examination and evaluation

**【事前および事後学習の指示】**

英語による授業。The course is conducted entirely in English. Take a look at the Thoughtco article (<https://www.thoughtco.com/what-is-corpus-linguistics-1689936>) for a brief introduction to corpus linguistics.

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- Timmis, I. (2015) Corpus Linguistics for ELT. Oxford: Routledge
- Thomas, J. (2017) Discovering English with Sketch Engine. Versatile (<http://versatile.pub>)
- Nordquist, R. (2017) Corpus Linguistics. Thoughtco. (<https://www.thoughtco.com/what-is-corpus-linguistics-1689936>)

**【コメント】**

Project: Building and analysing a corpus 70%  
Examination 30%  
(Participation in forums (online discussions), and submission of the assignment is a pre-requisite for taking the examination.)

**【留意事項】**

講義名称	曜時
会計学総論〈春〉	月5

**【教員名称】**

中村 恒彦

**【講義概要】**

「できるだけ数字を使わずに学ぶ会計学」  
 会計学総論では、教養として必要な会計の知識・知恵を学びます。主に会計理論の原理・原則、会計理論の歴史を中心に学習します。学習内容は初歩的で会計の面白いことばかりです。正確には「会計」というよりも「経営」の数字のことといったほうがよいでしょう。

**【学習目標】**

この講義を通じて、論理的な考え方がどのようなものかについて理解が深まればよいと思います。論理的な考え方に固執することはいけませんが、自分の視野を広げるためにも論理的な考え方が必要となります。会計学者や会計士や企業の財務担当者が考える論理の世界について体感していただければよいと思います。

**【講義計画】**

- 第1回：アカデミックスキルについて
- 第2回：アカデミックなエッセイを作成する
- 第3回：会計のイメージ
- 第4回：会計の世界
- 第5回：会計の目的
- 第6回：会計制度
- 第7回：収支の期間配分
- 第8回：利益の認識と測定
- 第9回：中間確認テストとふりかえり
- 第10回：資産・負債の認識・測定
- 第11回：費用配分のバリエーション
- 第12回：資本金計
- 第13回：会計制度の歴史
- 第14回：配分からみた会計
- 第15回：総括とまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

財務諸表論や簿記関連科目や監査論と重複する部分が多いので、関連科目を履修することを勧める。さらに、歴史を勉強する際には、世界史や地理の知識があると楽しく講義を受講できる。

**【テキスト】**

はじめて出会う会計学 新版 川本 淳, 野口 昌良, 勝尾 裕子, 山田 純平, 荒田 映子  
 978-4641220614 有斐閣アルマ  
 歴史にふれる会計学 友岡 賢  
 4-641-12027-7 有斐閣アルマ  
 会計のヒストリー 野口昌良ほか編著  
 中央経済社 近日刊行予定

**【参考文献】**

**【コメント】**

成績評価は以下のとおりの方で主に行う予定にしています。本講義では①および②で主に評価する。  
 ①レポート課題  
 ②期末試験  
 講義を欠席することのフォローは一切行いません。詳しい評価方法については、初回の講義で説明します。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
外国史 01〈春集〉	火3/金2

**【教員名称】**

梅田 百合香

**【講義概要】**

本講義では、教職を目指し、中学・高校で歴史教育に従事することを想定している学生を前提に、世界史とりわけ西洋史について、現在の研究水準を踏まえうえで近世から現代までの通史を解説するとともに、映像資料などを用いながら臨場感ある授業を進めていく。

**【学習目標】**

受講者は、教育目標を達成するための西洋史の基礎的学力を身につけることを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回：講義ガイダンス  
宗教改革
- 第2回：ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成
- 第3回：重商主義と啓蒙専制主義Ⅰ—イギリス革命と絶対王政
- 第4回：重商主義と啓蒙専制主義Ⅱ—プロイセン、オーストリア、ロシア
- 第5回：重商主義と啓蒙専制主義Ⅲ—ヨーロッパ諸国の海外進出
- 第6回：アメリカ独立革命
- 第7回：フランス革命とナポレオンⅠ—革命の勃発
- 第8回：フランス革命とナポレオンⅡ—ナポレオンの帝国
- 第9回：ウィーン体制の成立Ⅰ—ウィーン会議
- 第10回：ウィーン体制の成立Ⅱ—1848年革命
- 第11回：ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生Ⅰ—ロシア、イギリス、フランス
- 第12回：ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生Ⅱ—イタリア、ドイツ、非列強国家
- 第13回：南北アメリカの発展Ⅰ—ラテンアメリカ
- 第14回：南北アメリカの発展Ⅱ—南北戦争
- 第15回：帝国主義と列強の展開Ⅰ—イギリス、フランス、ドイツ
- 第16回：帝国主義と列強の展開Ⅱ—ロシア、オーストリア、イタリア
- 第17回：世界分割と列強対立
- 第18回：第一次世界大戦とロシア革命Ⅰ—第一次世界大戦の勃発
- 第19回：第一次世界大戦とロシア革命Ⅱ—ロシア革命
- 第20回：ヴェルサイユ体制下の欧米諸国Ⅰ—ヴェルサイユ条約とワシントン体制
- 第21回：ヴェルサイユ体制下の欧米諸国Ⅱ—第一次世界大戦の各国への影響
- 第22回：世界恐慌とファシズム諸国の侵略Ⅰ—世界恐慌
- 第23回：世界恐慌とファシズム諸国の侵略Ⅱ—ナチス＝ドイツの成立
- 第24回：第二次世界大戦Ⅰ—ナチス＝ドイツの侵略と開戦
- 第25回：第二次世界大戦Ⅱ—アジア・太平洋戦争とアメリカの参戦
- 第26回：戦後世界秩序の形成
- 第27回：米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興
- 第28回：第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り
- 第29回：社会主義世界の変容とグローバル化の進展
- 第30回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

講義中はノートを取り、授業後テキストと自分のノートを読み返し復習すること。復習後、自分のノートをもう一度まとめ直し、次回の講義内容に備え予習すること。

**【テキスト】**

詳説世界史研究 木村靖二・岸本美緒・小松久男編  
 978-4-634-03088-6 山川出版社

**【参考文献】**

**【コメント】**

- ①学期末試験において、到達目標に対応するテーマに関する選択式問題を出题する。授業内容を踏まえた基礎的学力が身につけているかどうかを評価する。
- ②中間時点で、到達目標に対応するテーマに関するレポート課題(A4・1枚1600字程度)を課す。  
 レポート課題の提出は学期末試験を受けるための必須条件であり、提出がなければ、学期末試験を受けたとしてもD判定となるので注意すること。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
会社法〈春集〉	月1/木4

【教員名称】  
大川 清穂

【講義概要】

2005(平成17)年に、会社の組織・運営・管理を規律するまとまった単行法として、会社法典(以下「会社法」という)が制定された(2006(平成18)年5月施行)。近年、会社法は、経済のグローバル化に伴い、ほぼ毎年のように法改正が行われている。その中でも、2014(平成26)年には、コーポレート・ガバナンスの強化および親子会社に関する規律等の整備を図るべく、大幅な会社法の改正が行われた。2019(令和元)年にも、株主総会参考書類等の電子提供制度の導入、社外取締役設置の義務化等に関する改正がなされた。本講義は、このような会社法のうち、株式会社の組織・運営、および事業活動に係る基本的な法的諸問題についての概観を与えることを目的とする。

会社法上の会社の種類としては、株式会社のほかに合名会社、合資会社、合同会社(以下「持分会社」という)がある。特に株式会社は、国内外の経済社会において重要な役割を果たすものである、といえる。本講義のねらいは、持分会社との比較的观点から、主として株式会社の組織・運営、および事業活動に係る法的諸問題(シラバスの授業計画の内容)について、受講生のみなさんに会社を規律する会社法の総体的なイメージを掴んでいただけるよう、解りやすく講述することにある。

そこで、本講義では、受講生のみなさんの会社法に関する体系的理解度を高めるべく、(1)会社の組織・運営、および事業活動に係る法制度を概説したうえで、(2)具体的な事例に対する裁判例の見解、(3)法的諸問題に対する学説の見解について、①法制度論、②法規範論、③法解釈論の観点から順次にアプローチし、講述する。受講生のみなさんが、会社法の主要なルールについて、問題意識をもって具体的に考えることができる「双方向授業」を行うよう、心がけたい。

【学習目標】

会社法は、とっつきにくい法律科目である、という声をよく耳にする。しかし会社法は、持分会社を含む株式会社の組織・運営、および事業活動に関する法律として位置づけられる重要な実践的学問である、といえる。本講義のねらいは、受講生のみなさんに、特に株式会社の組織・運営、および事業活動に関する法律問題についての総体的なイメージを掴んでいただけるよう、分りやすく講述することにある。なお具体的な学習目標については、本講義の単元ごとに「学習チェック項目」という形で提示する。

【講義計画】

- 第1回: 本講義に関するガイダンスおよび企業の形態
- 第2回: 株式会社(以下「会社」略する)の機関設計構造および機関相互間の関係
- 第3回: 株主総会①(株主の経営参加)
- 第4回: 株主総会②(総会の招集手続)
- 第5回: 株主総会③(総会の議事と決議)
- 第6回: 株主総会④(総会決議の瑕疵)
- 第7回: 会社経営に関する法律関係①(取締役・執行役(以下「取締役等」という)の職務と義務)
- 第8回: 会社経営に関する法律関係②(取締役等の会社との競業)
- 第9回: 会社経営に関する法律関係③(取締役等の会社との利益相反取引)
- 第10回: 会社経営に関する法律関係④(取締役等の報酬)
- 第11回: 会社経営に関する法律関係⑤(業務執行機関の権限)
- 第12回: 会社経営に関する法律関係⑥(業務執行機関の権限濫用)
- 第13回: 会社経営に関する法律関係⑦(表見代表取締役の責任)
- 第14回: 会社経営に関する法律関係⑧(取締役会の機能・権限)
- 第15回: 会社経営に関する法律関係⑨(取締役会決議を欠く業務執行行為の効力)
- 第16回: 会社経営に関する監査システム①(監査役(会)・監査(等)委員会・会計参与・会計監査人)
- 第17回: 会社経営に関する監査システム②(監査役(会)・監査(等)委員会・会計参与・会計監査人)
- 第18回: 役員等の法的責任と株主代表訴訟
- 第19回: 会社が発行する株式に係る制度①(株主の地位と権利・義務、株主平等の原則)
- 第20回: 会社が発行する株式に係る制度②(株式の譲渡と制限)
- 第21回: 会社が発行する株式に係る制度③(株式の譲渡と制限)
- 第22回: 会社が発行する株式に係る制度④(株式名簿と名義書換)
- 第23回: 会社の事業展開のための資金調達の方法とその問題点①(資金調達一般)
- 第24回: 会社の事業展開のための資金調達の方法とその問題点②(募集株式の発行)
- 第25回: 会社の事業展開のための資金調達の方法とその問題点③(新株予約権)
- 第26回: 会社の事業展開のための資金調達の方法とその問題点④(社債)
- 第27回: 企業の組織再編①(事業譲渡)
- 第28回: 企業の組織再編②(企業合併・分割・株式交換・株式移転(親子会社創設))
- 第29回: 企業の組織再編③(企業合併・分割・株式交換・株式移転(親子会社創設))
- 第30回: 期末試験

【事前および事後学習の指示】

限られた授業時間内において、会社法のすべての内容について網羅的に詳説するのは、可能なことではない。そこで、本講義では、①授業で講述すべき内容と、②受講生のみなさんの自学自修に期待し委ねるべき内容とに振り分けることによって、授業の効率化および学習効果の最大化を図りたい。したがって、本講義では、受講生自らが、事前学習をする際にテキスト等を読むだけで理解でき、または理解しやすい内容もしくは説明しなくてもよい内容については、説明を省略する。その代わりに、主として会社法の重要な論点として検討すべき内容に焦点を合わせて授業を進行する。

この点、受講生のみなさんには、会社法の主要内容から選別した重要論点(学習チェック項目)を中心に進める授業内容を理解するべく、必ずテキスト・レジュメ・参考文献を使い、授業で詳説しない内容または取り扱っていない内容についても幅広く学習していただきたい。

なお事前および事後学習の範囲については、1週間前に講義レジュメを配布する際に具体的に提示する。

【テキスト】

タイトル:会社法概説〔第4版〕 著者:高橋英治 出版社:中央経済社 I S B N: 978-4-502-33701-7  
 タイトル:ポケット六法令和2年版 著者:佐伯仁志=大村敦志 編集代表 出版社:有斐閣 I S B N:978-4-641-00920-2  
 タイトル:会社法判例40! 著者:久保田安彦=船津浩司=松元暢子 出版社:有斐閣 I S B N:978-4-641-13822-3

【参考文献】

伊藤靖史ほか「リーガルクエスト会社法〔第4版〕」(有斐閣、2018年)  
 前田節=前田雅弘「会社法大要〔第2版〕」(有斐閣、2017年)

【コメント】

【成績評価の方法】試験:100%

【留意事項】

講義名称	曜日
科学技術史〈通期〉	水2

【教員名称】  
本間 栄男

【講義概要】

西洋科学技術史の流れを概観する。その際、西洋科学技術の出発点としての古代ギリシャ、近代科学の考え方が生まれたルネサンス近代初頭、現代の科学の直接の起源である19世紀、及び現代科学の特徴を際立たせる20世紀前半の科学の流れに沿って考察する。

【学習目標】

世界の市民として必要な教養として科学の発展の大筋を理解し、現代文明の基盤を理解する素養を持つことが基本的な目標である。そのためには、時代ごとの科学の特徴と、著名な科学者の事績を把握しておくことが必要である。

【講義計画】

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 科学という言葉の歴史
- 第3回: 古代(1)ピュタゴラス
- 第4回: 古代(2)アリストテレス
- 第5回: 古代(3)古代ギリシャの医療
- 第6回: 古代(4)古代アレクサンドリアの科学技術
- 第7回: 中世イスラム圏とヨーロッパの科学
- 第8回: 近世(1)ルネサンスの三大発明(1)羅針盤と印刷
- 第9回: 近世(2)ルネサンスの三大発明(2)火薬
- 第10回: 近世(3)絵画芸術
- 第11回: 近世(4)天文学の革命(1)コペルニクス
- 第12回: 近世(5)天文学の革命(2)ティコとケプラー
- 第13回: 17世紀(1)ガリレオ(1)機械学と運動学
- 第14回: 17世紀(2)ガリレオ(2)望遠鏡と宗教裁判
- 第15回: 17世紀(3)科学革命論
- 第16回: 17世紀(4)ニュートン
- 第17回: 18世紀(1)啓蒙思想と博物学
- 第18回: 18世紀(2)江戸時代の日本の科学技術
- 第19回: 19世紀(1)19世紀の医学
- 第20回: 19世紀(2)医療技術
- 第21回: 19世紀(3)ファラデー
- 第22回: 19世紀(4)ダーウィン(1)博物学者ダーウィン
- 第23回: 19世紀(5)ダーウィン(2)進化論
- 第24回: 19世紀(6)ノーベルとノーベル賞
- 第25回: 20世紀(1)アインシュタイン(1)特殊相対性理論
- 第26回: 20世紀(2)アインシュタイン(2)一般相対性理論
- 第27回: 20世紀(3)寺田寅彦
- 第28回: 20世紀(4)マリー・キュリー
- 第29回: まとめ
- 第30回: テストと解説

【事前および事後学習の指示】

科学的な話題に敏感であるように、ネットニュースや新聞での科学記事に注目すること。

授業で用いるパワーポイント教材は情報センターのSドライブのehonmaフォルダ内の「科学技術史」フォルダ(あるいはM-port内)にPDFファイルとして事前に掲載するので、予習・復習に利用すること。

【テキスト】

【参考文献】

各回にその回の話題についての参考図書を提示する。

【コメント】

可否判定は、学年末テストの成績のみによって決定する。

学芸員資格課程の科目として履修する学生は出席が全体の75%以上なければ試験を受けられない。

【留意事項】

講義名称	曜時
科学思想史〈春集〉	月1/木4

**【教員名称】**

本間 栄男

**【講義概要】**

西欧近代を成功させ、今日の我々の文化にも重大な影響を与えているが、まだ十分に理解し、使用されているとはいえない「科学的な考え方」を歴史の実例を挙げて解説する。

**【学習目標】**

個々の科学に関する事実を暗記するのではなく、「科学的な考え方」を身につけることを目標とする。そのために、「科学的な考え方」とは何かを十分に理解し、それを応用して自ら問題を解くことができるようになることが目的である。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：科学と神話
- 第3回：文字と思想
- 第4回：デカルトと方法
- 第5回：仮説演繹法概説(1) 歴史的概観
- 第6回：仮説演繹法概説(2) 実例
- 第7回：原理(1) はじまり
- 第8回：原理(2) 原理の性質
- 第9回：命題
- 第10回：定義
- 第11回：演繹推論
- 第12回：数学の公理系
- 第13回：懐疑(1) 古代懐疑論
- 第14回：懐疑(2) 近代懐疑論
- 第15回：コペルニクス革命
- 第16回：進化論革命
- 第17回：仮説
- 第18回：帰納推論
- 第19回：観察
- 第20回：アナロジー(1) アナロジーの意味
- 第21回：アナロジー(2) アナロジーの応用
- 第22回：組み合わせ
- 第23回：セレンディピティ
- 第24回：実験
- 第25回：検証
- 第26回：仮説実験演繹法(1) 概論
- 第27回：仮説実験演繹法(2) 具体例
- 第28回：革命
- 第29回：科学的な考え方と日常的な考え方
- 第30回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

科学的なものの考え方に鋭敏になるために、TVの科学番組などを積極的に視聴する。

講義で使用するスライド等は事前あるいは事後にSドライブ内のehonmaフォルダ内の「科学思想史(月木)」フォルダ(あるいはM-port)に掲示するので、予習復習に利用すること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 金森修・井山弘幸『現代科学論』新曜社 2000年
- 内井愨七『科学哲学入門』世界思想社 1995年

**【コメント】**

学期末の試験のみで成績を決めます。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
家族社会学[2]〈春〉	金1

**【教員名称】**

木下 栄二

**【講義概要】**

家族と聞いてどんなイメージを持つだろうか。温かい家庭、父母兄弟、あるいは結婚や恋愛を思い浮かべるかも知れない。しかし、現実には多様である。家庭が温かいとは限らないし、父母兄弟の仲が良いとも限らない。恋愛にしても、ふられた方から見れば、排除の論理である。さらに、家族のあり方は、国によって時代によっても多様である。それでは家族とは何か。この講義では、誰でも知っているが、実はよくわからない「家族」という現象を切り口として、社会について考える家族社会学の基本的な方法について論じてみたい。

**【学習目標】**

家族社会学の基本的な考え方、家族の多様性、歴史、社会とのかかわりについて理解する。そのことを通じて、身近な現象と社会全体の関わりについて考える視点を獲得することが目標である。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション  
家族社会学の視座 家族と社会を結び
- 第2回：歴史に見る家族
- 第3回：地域ごとに見る家族
- 第4回：家族の多様性
- 第5回：親族と地域社会
- 第6回：家族形態の変化
- 第7回：家族機能の変化
- 第8回：家族観・家族イデオロギーの変化
- 第9回：近代家族論
- 第10回：結婚と結婚行動① 結婚って何？
- 第11回：結婚と結婚行動② 配偶者選択過程
- 第12回：夫婦関係
- 第13回：子育てと子どもの社会化
- 第14回：親子関係
- 第15回：階層と家族

**【事前および事後学習の指示】**

家族に関わる日々のニュース等に注意すること。配布されたプリントを復習すること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 永田夏来・松木洋人、2017、「入門 家族社会学」新泉社
- 由井秀樹、2017、「少子化社会と妊娠・出産・子育て」北樹出版

**【コメント】**

出席は原則としてとらない。授業中にうるさい者、ふざけた態度の者は即刻不可とするので、聞きたくないものは出席しないように。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
学科特殊講義－異文化見聞録－世界の文化思いつくままに 01(春)	火 4

**【教員名称】** 英語による  
Philip Billingsley

**【講義概要】**  
Whenever I get the chance, I like to hit the road ( 旅 に 出 る ) to visit somewhere new. I talk to people living there and find out about their lives, then I bring their stories home and tell them to my students. This course will be based on some of the stories I have heard in various countries and, most important, what I learned from those stories. 旅先で聴いた「異文化理解」にかかわるストーリーが講義の「ネタ」となる！日本の学生へ：Although the lectures are in ENGLISH, I will speak very slowly and clearly. So, even if you don't feel confident, please give this class a try! 英語とはいえ、易しい英語だから試してみてくださいね！

**【学習目標】**  
People usually think their own way of doing things is normal, so when they go abroad they may suffer from culture shock because everything is so different. But travel to other places can be a way of broadening your horizons, and also a chance to learn a few things you had not noticed about your own culture. By the end of this course, I hope, you will understand the world (and yourself?) much better, and your English listening ability will improve, too! 自分の文化のやり方しか知らない人はほかの国の習慣に接すると「カルチャーショック」にかかりやすくなる。しかし、旅は同時に、「視野を広める」機会だから、とても重要だ。ほかの文化に接することによって、自分の文化、または自分自身を見直すこともできる。このコースを受講することによって地球の文化を学びながら英語力も磨ける！

**【講義計画】**  
第1回：Introduction to the course: how to make the lectures easier and more interesting, how to download the recordings, what you will have to do to pass the course, etc. コース内容について、英語による講義の「賢い受け方」のについて、講義録音のダウンロード方法についてや受講生の責任などについてを(日本語交じりの)英語で説明する。  
第2回：Repeat of first lecture 念のため、一回目の講義をもう一度行う。  
第3回：What is Travel? まず最初に、「旅」とは何ものか？  
第4回：A Message from the Arizona Desert アリゾナ砂漠の「インディアン」から学んだこと  
第5回：The Masai people of Kenya: education vs. tradition ケニアのマサイ族を訪ねて：教育と伝統の善し悪し(1)  
第6回：Continued 続き  
第7回：The Masai and the British Working Class - a strange parallel マサイ族とイギリス労働者階級の不思議な共通点  
第8回：Islamic Egypt: from business to bakshsheesh エジプトのイスラム文化：商売のルールと「バックシース」の再検討(1)  
第9回：Continued 続き  
第10回：Continued 続き  
第11回：Egypt and China: tradition, romance, and the I.T. Revolution エジプトと中国：伝統社会、恋愛、そしてI.T.革命(1)  
第12回：Continued 続き  
第13回：Lessons about living from China's Loess Plateau: "of course" revisited 中国の黄土高原で気づいたこと：「住居の当たり前」を超えて  
第14回：Summary of the main points of the course コース全体の要約  
第15回：Revision and Test 試験 + まとめ

**【事前および事後学習の指示】**  
日本の受講生へ：予備知識を持っていると講義中の英語が理解しやすくなる。世界地図などを利用して、個々のトピック(国、地方、項目など)について基礎的なことを先に学んでおこう！A little prior knowledge will make the lectures easier for you to follow.

**【テキスト】**

**【参考文献】**  
教科書はなく、関連資料は毎回配布する。There is no textbook: instead, materials will be handed out in class.

**【コメント】**  
毎回しっかり聴かないと英語力は上達しない。したがって、出席を特に重視する。講義は毎回録音されるので、リアルタイムで聞き取れなくても録音をダウンロードすれば何度でも聴きなおすことができる！まめに受講・ダウンロードさえすれば、思うほど難しくない。  
Regular attendance is required, and there will be occasional homework, but your score will depend chiefly on the result of the final test.

**【留意事項】**  
日本の受講生の英語力を配慮して講義時間は約45分間で、クラスの後半では関連するビデオなどを観賞する。As most Japanese students are not used to listening to lectures in English, each lecture will last only about 45 minutes. In the second half of each class we will watch videos or do activities related to the topic of that day's lecture. My speaking speed will be adapted to Japanese students' English level too. If your English skills are good, you may find this course rather slow, but I believe that you will still find the contents interesting.  
授業中の携帯電話・スマホの利用は禁止、授業中発覚した場合は退室してもらうこともある。教室に入る前に電源を切り、カバンの中に入れておいてください。スマホ依存症は立派な精神病です！Also, please do not put your cellphones / smartphones on the desk; switch them off beforehand and keep them in your bag.

講義名称	曜日
学科特殊講義－人間言語の音声体系〈春集〉	火 4/ 金 2

**【教員名称】**  
Kevin R. Gregg

**【講義概要】**  
音声学は言語の発音の物理学的かつ生理学的な面を調べる科学なら、音韻論は発音の心理学的な面を調べる。言語の母語話者は喋る際、身につけた規則に従う。本授業では、英語や日本語をはじめ世界のいろいろな言語を見て、言語の発音に関する規則を見つけ出す。

**【学習目標】**  
うまく行けば、受講者は音韻論の基礎知識を得るだけではなくて、音韻論という自然科学の調べ方(データの分析や仮設形成・検証)を経験する。そのため出来る限り、担当者がただ講義を行なうばかりよりも、受講者諸君が「言語学をする」ワークショップを行いたい。

**【講義計画】**  
第1回：概要  
第2回：自然科学としての言語学  
第3回：心理学の下位分野としての言語学  
第4回：言語学修得と刺激の貧困  
第5回：発声器官  
第6回：子音  
第7回：母音  
第8回：記号・表記  
第9回：音・音素、分布  
第10回：データ分析・仮説検証  
第11回：基底表示・表層形式  
第12回：最善の説明への推論  
第13回：規則と制約  
第14回：弁別的組成：概要  
第15回：母音の素性  
第16回：主要類素性  
第17回：調音点・調音様素性  
第18回：規則の形式化  
第19回：α表記  
第20回：語中音添加・削除  
第21回：母音調和  
第22回：規則の適用順序  
第23回：証拠と推測  
第24回：定式の種類  
第25回：音節：概要  
第26回：音節の構造  
第27回：音節の制約  
第28回：聞こえ度  
第29回：最大頭子音の原理  
第30回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**  
Fay ce que voudra.

**【テキスト】**

**【参考文献】**

**【コメント】**  
小テストを毎週(多分12回)行ない、期末試験もある。宿題を毎回配る。宿題は採点しないが、提出しなければいけない。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
環境経済論Ⅰ〈春〉	水3

**【教員名称】**

風岡 宗人

**【講義概要】**

「持続可能な社会」という視野のもと、皆さんに身近なテーマを取り上げ、私たち一人ひとりのライフスタイルとの関係を出発点に、環境問題の現象面、その原因となっている社会経済の構造、その解決へのアプローチ法について、教員による情報提供を交えつつ、自ら(他者とともに)主体的に学びます。  
 なお、本講義は秋学期に開講される「環境経済論Ⅱ」の導入として位置づけています。環境経済学の理論的な内容は主に「環境経済論Ⅱ」で取り扱います。

**【学習目標】**

環境問題とその原因としての社会・経済のあり方を自分自身のライフスタイルとの関係で理解することができるようになることを目標とします。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス、持続可能な社会とはどんな社会かイメージを持とう、宿題の提示
- 第2回：宿題の共有、つながりマップづくり
- 第3回：【テーマ1】プラスチックごみの問題について、グループディスカッション、宿題の提示
- 第4回：宿題の共有、資料・映像から学ぶ、グループディスカッション、全体での共有
- 第5回：【テーマ2】気候変動問題について、グループディスカッション、宿題の提示
- 第6回：宿題の共有、資料・映像から学ぶ、グループディスカッション、全体での共有
- 第7回：【テーマ3】エネルギー問題について、グループディスカッション、宿題の提示
- 第8回：宿題の共有、資料・映像から学ぶ、グループディスカッション、全体での共有
- 第9回：【テーマ4】開発問題について、グループディスカッション、宿題の提示
- 第10回：宿題の共有、資料・映像から学ぶ、グループディスカッション、全体での共有
- 第11回：【テーマ5】自然・生態系の問題について、グループディスカッション、宿題の提示
- 第12回：宿題の共有、資料・映像から学ぶ、グループディスカッション、全体での共有
- 第13回：【テーマ6】持続可能な社会に向けて私たちにできること、グループディスカッション、宿題の提示
- 第14回：宿題の共有、資料・映像から学ぶ、グループディスカッション、全体での共有
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

本講義では、各テーマごとに事前に資料を読む予習やレポート等の宿題を課します。授業では宿題を使ったグループディスカッション等を行います。宿題をこなせないと授業への参加が難しくなります。また日々、テーマに関する関心を持って新聞などに目を通し、自主的な情報収集に努めてください。

**【テキスト】**

使用しない

**【参考文献】**

その都度提示する。

**【コメント】**

レポート:宿題として提示するレポートの内容によって評価します。  
 その他:ワークショップで作成したワークシートおよびグループ発表の内容と討論への参加度合いによって評価します。

**【留意事項】**

環境 NGO スタッフである教員が、環境問題とライフスタイル、経済の関係について身近なテーマに引き寄せて講義やワークショップを行う。  
 教員からの情報提供を聴くだけでは十分な学習は期待できません。「提示されたテーマについて自ら考えてみたい」「それを他者と共有し考えをさらに深めたい」という率直的な意欲を求めます。

講義名称	曜日
環境問題概論〈通期〉	金1

**【教員名称】**

巖 圭介

**【講義概要】**

気候変動、リサイクル、化学物質・・・、環境問題はすでに身近にあり、多くの人が漠然とした不安を持ちながら、しかし具体的に行動を起こさずことなく毎日を送っている。私たちの生活の何がどのように問題なのか、多くの情報があふれかえる現在、信頼できる基礎知識を身につけ、それをもとに論理的に思考してこれからの自分の行動を決めていかなければならない。この講義では、世界の市民としてこれからの時代を責任をもって生きていくうえで必須と思われる、主要な環境問題に関する基礎知識と考え方を身につけてもらう。

**【学習目標】**

主要な環境問題(気候変動、ゴミ問題、人工化学物質汚染、大気汚染、オゾン層破壊、土壌劣化、水危機、食糧問題、エネルギー問題)について、起きている問題の内容とその原因を説明できる。それぞれの問題に対し、今何がなされているか、何ができるかを論理的に人に伝えられる。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション:持続不可能な地球
- 第2回：気候変動1:現状と原因
- 第3回：気候変動2:これからの予測
- 第4回：気候変動3:適応策と緩和策
- 第5回：気候変動4:暮らしと対策
- 第6回：気候変動5:バイオマスエネルギー
- 第7回：気候変動6:国際的取組み
- 第8回：第1回イン・クラス・レポート
- 第9回：イン・クラス・レポートふりかえり  
原子力エネルギー
- 第10回：ゴミ問題1:基本の枠組みと現状
- 第11回：ゴミ問題2:リサイクル法
- 第12回：ゴミ問題3:容器包装リサイクル
- 第13回：ゴミ問題4:LCA
- 第14回：ゴミ問題5:循環型社会へ
- 第15回：第2回イン・クラス・レポート
- 第16回：イン・クラス・レポートふりかえり  
産業廃棄物
- 第17回：化学物質汚染1:DDTとPCB
- 第18回：化学物質汚染2:ダイオキシン
- 第19回：化学物質汚染3:農薬と化学肥料
- 第20回：化学物質汚染4:リスク論
- 第21回：第3回イン・クラス・レポート
- 第22回：イン・クラス・レポートふりかえり  
水質汚染
- 第23回：水と土の危機
- 第24回：食糧問題
- 第25回：第4回イン・クラス・レポート
- 第26回：イン・クラス・レポートふりかえり  
大気汚染と酸性雨
- 第27回：オゾン層破壊
- 第28回：地球の限界
- 第29回：まとめ:これからの地球に生きる
- 第30回：総復習

**【事前および事後学習の指示】**

日常目にする環境関連のニュースなどをチェックし、常に情報をとりいれておくこと。授業では板書の負担を軽減するため穴埋めプリントを配付するが、その穴を埋めるだけで済むわけではない。ノートを取り、配付資料の内容と授業後に統合して整理することで、はじめて十分な理解ができるはずなので、次の授業までにきちんと復習をすること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

環境省編『環境・循環型社会・生物多様性白書』日経印刷、遠山益『人間環境学』菱華房 2001、安井至『市民のための環境学入門』丸善ライブラリー 1998、東京商工会議所『ECO 検定公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター 2017他、松永和紀『メディア・パイアス』光文社 2007 他、適宜紹介する。

**【コメント】**

イン・クラス・レポートとは、授業時間中に課題してその場で書き上げて提出してもらうレポートで、その時点まで数回分の講義内容を振り返りまとめてもらうことを目的として、テーマごとに4回程度実施する。そのほか、実際に各自で調査して提出してもらうアクションレポートも3回程度実施する。レポートと試験を合わせて成績を評価する。

**【留意事項】**

- ・農水省の研究所で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、温暖化や化学物質、水資源と、食糧問題を含む社会の持続可能性について講義する。
- ・授業内容の順番やイン・クラス・レポートの日程については、進度や都合によって多少前後することがある。

講義名称	曜日
管理会計基礎 〈春〉	金 1

【教員名称】  
山田 伊知郎

【講義概要】

会計学を用いる目的によって分類すると、組織外部への報告を目的とする財務会計と、組織内部での利用を目的とする管理会計に分けることができる。組織内部で会計を利用しようとする管理会計は、経営戦略や業務計画の立案・実行に関する意思決定に深く関係するシステムである。さらに、組織構成員に組織の目標などを何ほどの程度求められるのかを明らかにすることによって、人を動かす影響システムとして働く。

授業では、管理会計に関する基本的な考え方や基礎知識を提供する。その後、いくつかのテーマに沿ってケースを取り上げ、より具体的なイメージがわくような工夫をする。

【学習目標】

組織の中に存在する仕組み・システムがどのように成り立っているのかを具体的に理解する。また、仕組み・システムが作られた時の状況に依存し、環境の変化に応じて再構築を必要とされることを理解することを目的とする。

管理会計の基礎知識を獲得すると同時に、受講生自身が興味を持ったいくつかのトピックスについて、深く理解し、自分の言葉で人に説明できるようになることを達成目標とする。

【講義計画】

- 第1回：管理会計とは(イントロダクション) 会計全体を概括したうえで、管理会計の位置づけを明確にする。管理会計と競争力の関係を説明する。
- 第2回：組織の管理会計(1) 組織図と機能
- 第3回：組織の管理会計(2) コストセンターとプロフィットセンター
- 第4回：予算管理(1) 予算の編成
- 第5回：予算管理(2) 予算の弊害
- 第6回：伝統的コストマネジメント
- 第7回：伝統的コストマネジメントの問題点の整理
- 第8回：直接原価計算
- 第9回：CVP分析
- 第10回：設備投資の意思決定(1) 経済性分析
- 第11回：設備投資の意思決定(2) 差額原価収益性分析
- 第12回：マネジメントコントロールシステム(1) 企業価値を高める
- 第13回：マネジメントコントロールシステム(2) 指標によるコントロール
- 第14回：業績管理
- 第15回：戦略利益の評価、まとめ

【事前および事後学習の指示】

授業の開始前に、テキストを一読しておくことをお勧めします。

【テキスト】

日経文庫 管理会計入門第2版 加戸豊  
978-4-532-11369-8C1234 日本経済新聞社

【参考文献】

谷武幸著(2011)『エッセンシャル管理会計 第2版』、中央経済社。

【コメント】

【留意事項】

- ・医薬品企業の経営企画部・開発部経営管理部に所属し、予算管理・経理部門を経験・担当した教員が講義を行う。
- ・コストマネジメントなどの授業中、計算原理を説明した後、簡単な例を用いて計算方法を確認します。電卓などを持参してください。

講義名称	曜日
教育学概論 01 〈春〉	月 4

【教員名称】  
中島 悠介

【講義概要】

少年犯罪の増加・低年齢化、いじめ、学級崩壊、不登校など、「教育は何のために行うのか?」「本当に学校は必要なのか?」ということが、現代社会において非常に重要な問いとなっている。本講義は、教育の本質・目的について学ぶとともに、教育や学校にまつわる現代的な問題について考えながら、これからの教育の課題・方向性について明らかにしていくことを目的としている。あらゆる教育事象・現状について、その原因や背景である社会や家庭の変容などと関連付けてとらえることができ、これからの方向性について考えることができる力を育成する。

授業の方法としては、主にパワーポイントを用いて進行し、適宜、DVD等の映像資料も用いる。

【学習目標】

教育学の意義と目的を説明することができる。  
日本の教育における現状の課題について、その原因・背景をふまえて説明できる。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション「教育学」で何をどのように学ぶか
  - ・講義の概要と全体像を理解できる。
  - ・教育という行為の独自性について説明できる。
- 第2回：教育の本質と目的:教育の目的、種類、範囲
  - ・教育の目的について説明することができる。
  - ・教育の種類、範囲について説明することができる。
- 第3回：子どもの発達と教育のかかわり① 発達のメカニズム
  - ・発達のメカニズムと学習効果の関係について説明できる。
- 第4回：子どもの発達と教育のかかわり② 発達段階に応じた取り組み
  - ・発達段階に応じた教育のあり方について説明できる。
- 第5回：教育の史的展開① 思想・理念
  - ・「公教育」といった教育に関わる思想や理念を理解し、それらをもとに教育のあり方を説明できる。
- 第6回：教育の史的展開② 制度・実践
  - ・西欧諸国や日本における教育の実践の歴史を理解し、それらをもとに教育のあり方を説明できる。
- 第7回：学校が抱える問題① 不登校
  - ・不登校の現状を説明できる。
  - ・不登校の原因・背景を説明できる。
  - ・解決策について述べることができる。
- 第8回：学校が抱える問題② いじめ
  - ・いじめの現状を説明できる。
  - ・いじめの原因・背景を説明できる。
  - ・解決策について述べることができる。
- 第9回：学校が抱える問題③ 懲戒と体罰
  - ・懲戒と体罰について説明できる。
  - ・体罰の原因・背景を説明できる。
  - ・解決策について述べることができる。
- 第10回：教育課程の構造① カリキュラムの基本
  - ・教育課程の意義や構造について説明できる。
  - ・教育課程の編成について説明できる。
- 第11回：教育課程の構造② 教科外指導、道徳、総合的学習の時間
  - ・教科外指導、道徳、総合的学習、特別活動にかかわる編成の方法を説明できる。
- 第12回：教育改革の動向① メディアを活用した教育方法
  - ・メディアをもちいた教育方法、及びそれらの活用におけるメリットや注意点について説明できる。
- 第13回：教育改革の動向② 教育制度の枠組み
  - ・学校教育の制度や教育法規の体系など、日本の教育制度の概要を説明できる。
- 第14回：学校と家庭・地域との連携
  - ・「学校教育」と「家庭教育」「社会教育」とのかかわりを説明できる。
- 第15回：総括 これからの教育の課題
  - ・改革の動向をふまえ、これからの教育の課題を明確に述べるができる。

【事前および事後学習の指示】

〈事前学習〉事前に指定した資料に目を通し、おおよその内容を理解するとともに、不明な箇所をチェックしておく。  
〈事後学習〉授業時に課された課題に取り組みとともに、最終試験や小テスト・小レポートに備える。

【テキスト】

・本授業ではテキストは使用せず、適宜担当教員がレジュメを配布する。

【参考文献】

『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』など、講義時に適宜紹介する。

【コメント】

平常点(授業中の課題ワーク):30%  
最終試験(論述):70%(論旨の一貫性、内容の適切性を中心に評価する)  
以上を目安に総合的に評価する。

【留意事項】

講義名称	曜日
行政法総論〈春集〉	月1/木3

**【教員名称】**

天本 哲史

**【講義概要】**

行政法は、行政活動に対する法的な規律のあり方を研究する学問分野である。「警察行政」「社会保障行政」「環境行政」「消費者行政」などという言葉があることからわかるように、行政活動は我々の生活に深い関連性を有し、生活の様々な場面において身近に存在する。そして、社会情勢の変化や社会の多様化・複雑化する現代においては、行政に期待される役割も増大している。そこで、本講義では、難解とされがちな行政法について、理論だけではなく、実社会とのかかわりを意識しながら学習する。

**【学習目標】**

本講義は、行政法の基礎的な知識の習得を目標とする。具体的には、①行政法の全体構造についての知識、②行政行為や行政指導などの個別の行為形式に関わる法的問題についての知識、③違法な行政活動に対する救済に関わる法的問題についての知識、のそれぞれの習得である。

**【講義計画】**

- 第1回：はじめに
- 第2回：行政と行政法
- 第3回：行政法の法源
- 第4回：法律による行政の原理
- 第5回：行政組織
- 第6回：行政立法
- 第7回：行政行為① 行政行為とは何か
- 第8回：行政行為② 行政行為の効力
- 第9回：行政行為③ 行政裁量
- 第10回：行政行為④ 附款
- 第11回：行政行為⑤ 行政行為の瑕疵
- 第12回：行政行為⑥ 職権取消と撤回
- 第13回：義務履行強制と緊急措置
- 第14回：行政上の制裁
- 第15回：行政指導
- 第16回：行政計画
- 第17回：行政契約
- 第18回：行政手続① 行政手続
- 第19回：行政手続② 行政手続法
- 第20回：行政不服審査① 行政不服申立て
- 第21回：行政不服審査② 行政不服審査法
- 第22回：行政事件訴訟① 行政事件訴訟法
- 第23回：行政事件訴訟② 取消訴訟
- 第24回：行政事件訴訟③ 取消訴訟以外の抗告訴訟
- 第25回：行政事件訴訟④ 仮の権利救済
- 第26回：行政事件訴訟⑤ 抗告訴訟以外の訴訟類型
- 第27回：国家賠償
- 第28回：損失補償
- 第29回：情報公開
- 第30回：個人情報保護

**【事前および事後学習の指示】**

授業に際しては予習と復習を行なうこと。指定されたテキストを読んでおくこと。講義では、行政法が関係する時事問題についても触れることから、新聞等を読んでおくこと。

**【テキスト】**

行政法概説 第7版 宇賀克也  
有斐閣

**【参考文献】**

天本哲史「行政による制裁的公表の法理論」(日本評論社、2019)

**【コメント】**

レポート課題は、授業内等で後日発表する。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
共通自由特別講義—家の変容と家族〈春〉	木1

**【教員名称】**

大野 啓

**【講義概要】**

現在の日本社会では家が表面化することは少ないが、婚姻や財産相続などの場面では、突如として家が問題となることもある。これまで、日本の家に関する議論は数多く行われてきた。しかし、現在の日本社会では従来の家概念では捉えられない現象も顕在化している。そこで、本講義では民俗学・歴史学・社会学などで家とはどのようなものとして捉えられてきたのかについて検討した上で、現在の家のあり方について再検討する。

**【学習目標】**

従来、日本の家がどのようなものとして捉えられてきたのかについて理解した上で、どのように家が変容してきたのかについて考えられるようにして欲しい。さらに、家の変容に家族がどのような影響を与えたのかについても考えて欲しい。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス・現在の日本における家と家意識
- 第2回：家とはどのような存在なのか1—労働組織としてのオヤーク
- 第3回：家とはどのような存在なのか2—家と家族との関係
- 第4回：日本の家の特色—家産・家名・成員について
- 第5回：日本の家の歴史的展開1—家の成立と広がり
- 第6回：日本の家の歴史的展開2—近世の家と近代の家制度
- 第7回：家制度の影響1—民俗慣行における家の変容
- 第8回：家制度の影響2—家の家族化
- 第9回：家の周縁を構成する人々
- 第10回：家の変容を規定するもの—家の地域性
- 第11回：家意識のゆらぎと家の変容
- 第12回：顕在化する家族と潜在化する家
- 第13回：近代家族と家
- 第14回：日本の社会構造の転換と家・家族
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

講義中に指示した文献にできるだけ目を通すこと。また、日常生活の中で自明視している家族のあり方とはどういふものであるのかを意識すること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

講義中に指示する

**【コメント】**

複数回のレポート提出を要求する。なお、レポートを書く際にWEBからのコピー&ペーストを行なった者は、不正を行なったとみなす。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
キリスト教史 〈通期〉	火 4

**【教員名称】**

齋藤 かおる

**【講義概要】**

日本で暮らし、学びつつ、グローバルな現代社会を生き抜いてゆくためには、何が必要でしょうか？  
キリスト教の基礎知識は、そのような問いと向き合うための、重要な手がかりを与えてくれます。

本講義は、教養として知っておきたいキリスト教の歴史・文化・精神性を解りやすく解説します。  
また、西欧文化圏の伝統を学ぶために必要なギリシア語の初歩についても解りやすく解説します。  
そして、受講者の皆さんの【自己理解】と【他者(社会・世界)理解】の拡張深化を支援します。

**【学習目標】**

人間の三次元性(時間性・空間性・精神性 / スピリチュアリティ)への理解を深めましょう。  
また、ギリシア語を音読したり、ギリシア語の単語の意味を辞書で調べることができるようにしましょう。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション
  - 人間の三次元性
  - 日本の宗教的メンタリティの傾向性
  - 教養としてキリスト教を学ぶことの重要性
- 第2回：聖書の構成① 旧約(Old Testament 旧約)
- 第3回：聖書の構成② 新約(New Testament 新しい契約)
- 第4回：ギリシア語(新約聖書の原語)の基礎① 文字・発音
- 第5回：ギリシア語(新約聖書の原語)の基礎② 基本的な動詞変化・現代語の語源になっている名詞
- 第6回：芸術とキリスト教 建築・美術・文学・音楽の背景にみるキリスト教的スピリチュアリティ
- 第7回：社会情勢とキリスト教① キング牧師が生きた(闘った)20世紀アメリカのスピリチュアルペイン
- 第8回：社会情勢とキリスト教② ボンヘッファー牧師が生きた(闘った)20世紀ドイツのスピリチュアルペイン
- 第9回：社会情勢とキリスト教③ 怒りをもってファンダメンタルな信仰を生きる人々のスピリチュアルペイン
- 第10回：社会問題とキリスト教① 環境問題とキリスト教的スピリチュアリティ
- 第11回：社会問題とキリスト教② 生殖医療・終末医療とキリスト教的スピリチュアリティ
- 第12回：社会問題とキリスト教④ スピリチュアルペインをめぐる公的機関と宗教の協働の重要性
- 第13回：日本とキリスト教① 内村鑑三・新渡戸稲造・新島襄・津田梅子(スピリチュアリティを刷新した人々)
- 第14回：日本とキリスト教② 原胤昭・岩下壮一・杉原千畝・遠藤周作(スピリチュアルペインと向き合った人々)
- 第15回：総括ならびに質疑応答
- 第16回：スピリチュアルペインとイエスの教え① 愛すること
- 第17回：スピリチュアルペインとイエスの教え② 働くこと
- 第18回：スピリチュアルペインとイエスの教え③ 闘うこと
- 第19回：スピリチュアルペインとイエスの教え④ 許すこと
- 第20回：キリスト教的スピリチュアルケアの源流 地中海世界の伝統
- 第21回：キリスト教的スピリチュアルケアの転回 修道性とチャリティ
- 第22回：キリスト教的スピリチュアルケアの伝統① 古代
- 第23回：キリスト教的スピリチュアルケアの伝統② 中世
- 第24回：キリスト教的スピリチュアルケアの伝統③ 近世
- 第25回：キリスト教的スピリチュアルケアの伝統④ 近代
- 第26回：文化とキリスト教① クリスマスの文化史
- 第27回：文化とキリスト教② パン・ワインの文化史
- 第28回：文化とキリスト教③ 地獄・煉獄・天国の文化史
- 第29回：文化とキリスト教④ 天使・悪魔の文化史
- 第30回：総括と質疑応答

**【事前および事後学習の指示】**

キリスト教や宗教全般について自分は何を知っているのか(何を知らないのか)をめぐって、自己省察を重ねてください。

**【テキスト】**

スピリチュアルケア・ハンドブック 岸本光子 / 齋藤かおる  
今春(6月頃)出版予定

**【参考文献】**

授業中に随時指示します。

**【コメント】**

出席状況が良好でない場合、試験答案は評価の対象外となります。

**【留意事項】**

教員が、神学校(キリスト教の聖職者の養成校)の図書館員として、神学生のみならず広く一般市民にも向けたキリスト教史の学びのコーディネーターに従事した経験を踏まえつつ、授業運営を進める。

講義名称	曜時
金融論 I 〈春〉	木 5

**【教員名称】**

木村 二郎

**【講義概要】**

金融論 I では、主に金融全般についての基礎的な理解のための講義が中心となります。この講義は、金融という複合的な事象の理解のために、三つの観点から別けて金融を考えます。顧客の観点、制度全体を見る鳥瞰的な観点、そして、金融機関の観点からの三つです。

**【学習目標】**

複合的で、抽象的な金融現象を、解析し、理解するための、基礎的な観点を獲得することを目標とします。

**【講義計画】**

- 第1回：講義紹介。スケジュール。
- 第2回：お金と経済
- 第3回：現金と預金
- 第4回：通貨制度の歴史
- 第5回：金融の担い手たち1 : 市中銀行
- 第6回：金融の担い手たち2 : 証券会社など
- 第7回：金融市場の構造1 : 資金循環
- 第8回：金融市場の構造2 : 短期金融市場
- 第9回：金融市場の構造3 : 長期金融市場
- 第10回：中央銀行と市中銀行1 : 決済システム
- 第11回：中央銀行と市中銀行2 : 金融政策
- 第12回：金融庁と金融機関1 : 金融監督
- 第13回：金融庁と金融機関2 : 金融システムの安定性
- 第14回：金融と経済
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

・詳細は講義中に指示するが、理解を深めるための予習・復習に努めること。

**【テキスト】**

金融入門(第2版)(日経文庫)日本経済新聞社編  
978-4-532-11367-4 日本経済新聞社

**【参考文献】**

関根猪一郎・木村二郎・大畠重衛・小西一雄『金融論』青木書店、2000年  
川波洋一・上川孝夫『現代金融論』有斐閣、2004年  
池尾和人『現代の金融入門【新版】』ちくま新書、2010年

**【コメント】**

学期末試験を重視する。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
経営学 A 01 (春)	月 1

**【教員名称】**

小嶋 正稔

**【講義概要】**

企業社会を理解するために不可欠な基礎的な知識・情報・スキルを身につけるための、経営学の初学者向けの講義です。まず現代の企業活動を、経営学を通して理解した上で、企業社会の中でどのようにキャリアを作り上げていくのかを考えていきます。

**【学習目標】**

1. 経営学に関する基礎的な用語を理解し説明できる。
2. 具体的な企業の活動を経営学用語を使って説明できる。
3. 経営学の基礎用語を企業の事例を使って説明できる。
4. 競争戦略のマネジメントを企業の事例によって説明できる。

**【講義計画】**

- 第1回：講義の進め方(事前学習の進め方、講義への参加の仕方、講義の流れ・進め方)を説明します。
- 第2回：企業経営の全体像  
①経営学の研究対象とは、②企業の目的、③経営資源とは ④企業活動について、⑤付加価値と利益の違い
- 第3回：企業の全体像  
①組織のマネジメントとは、②経営学とは何か、③ステークホルダー、④コアコンピタンス、⑤コーポレートガバナンス
- 第4回：経営学とは何か  
①アーネストダルのビジネスモデルから経営学の役割を考える
- 第5回：会社と企業  
①会社の誕生(世界編)、②近代の株式会社、③機関投資家の登場と役割
- 第6回：会社と企業(2)  
①法人と個人、②なぜ機関が必要なのか、③株主と株式、④株主構成の変化を見てみよう(トヨタ自動車の株主構成の変遷を調べてみる)
- 第7回：企業のインプット(1)  
①資金調達の手段、②証券会社と証券市場、③銀行グループと企業グループ
- 第8回：前半の理解度テストと講義のまとめ(用語の整理)
- 第9回：企業のインプット(2)  
①資本政策、②上場と上場基準、③投資家(銀行)、④ベンチャーキャピタル、⑤エンジェル
- 第10回：企業のアウトプット  
①戦略とは何か、②戦略のレベルと視点、③富士フィルムを題材に考えてみよう(ケース)
- 第11回：企業のアウトプット(2)  
①組織は戦略に従う(チャンドラー)、②戦略は組織に従う(アンソフ)、③バーナードの組織要素
- 第12回：企業と市場環境  
①環境分析の位置づけ、②マクロ環境分析、③市場環境分析、④競争環境分析とポジショニング、⑤ SWOT 分析
- 第13回：企業と消費者  
①消費者の理解、②知覚リスク、③購買者特性
- 第14回：競争戦略のマネジメント  
①競争戦略とは、②ソフトバンクのケースで考えてみよう、③差別化とは何か、④競争相手はだれか(市場範囲と競争分析) ⑤コストの強みはどこから来るのか(ケース)
- 第15回：後半の理解度テストと講義のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

事前学習 教科書の指定された箇所を読み、重要な用語を事前学習すること。この学習には、毎回2時間×15回＝30時間を必要とする。また事後学習として、講義で説明された内容を確認、理解すること。この学習には、毎回2時間×15回＝30時間を必要とする。

**【テキスト】**

1からの経営学 加護野忠男、吉村典久(編)  
4502696102 中央経済社

**【参考文献】**

**【コメント】**

試験は中間と期末の2回、各100点満点で行う。成績は(中間+期末)÷2が素点となる。  
なお講義に積極的に関与し、発言したのものには、発言点を追加する。発言点は、中間、期末のそれぞれに加算する。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
経営学 A 02 (春)	水 1

**【教員名称】**

齋藤 巡友

**【講義概要】**

経営学とは、企業経営に係る現象を解き明かすための学問である。経営学が生み出した知識や理論は、企業経営に直接的に関与する人にとって不可欠なだけでなく、企業と個人の関わりが強い現代においては殆ど全ての人にとって有用なものとなるであろう。本講義では、経営学を初めて学ぶ人を主な対象として、全体像がつかめるように経営学における重要な概念や理論を説明していく。その際、適宜事例をとりあげて説明することによって、それらの概念や理論が現実の企業経営を読み解くうえでどのように利用できるのかを実感してもらう。

**【学習目標】**

- 本講義の学習目標は以下の通りである。
1. 経営学がどのような学問であるかを理解する
  2. 経営学の基礎的な知識・概念を自分の言葉で説明できるようになる。
  3. 新聞・雑誌で報道される企業経営に関するニュースを経営学の理論を用いて自分なりに解釈できるようになる。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション:授業内容や授業方針、成績評価について
- 第2回：経営学とは
- 第3回：企業の定義とその特徴
- 第4回：株式会社について
- 第5回：経営戦略1:企業戦略と事業戦略
- 第6回：経営戦略2:環境・資源分析
- 第7回：経営戦略3:競争戦略(基本戦略)
- 第8回：経営戦略4:競争戦略(市場地位別の戦略)
- 第9回：経営戦略5:多角化戦略
- 第10回：経営組織1:組織の設計
- 第11回：経営組織2:組織の形態
- 第12回：経営組織3:組織文化
- 第13回：経営組織4:組織学習
- 第14回：経営組織5:モチベーションとリーダーシップ
- 第15回：試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

事前学習としてテキストの該当箇所を読んでおくこと(該当箇所は講義時に指定する)。事後学習においては、講義で扱った概念や理論の復習を行うとともに、それらの概念や理論を用いて解釈することができる事例を自分で探してみること。

**【テキスト】**

ケースに学ぶ経営学[第3版] 東北大学経営学グループ  
978-4-641-18448-0 有斐閣

**【参考文献】**

適宜指示する。

**【コメント】**

- ①到達目標に対応する試験を期末に実施する。試験では、経営学の基礎的な知識や概念の理解度を確認するための問題を選択式・記述式を組み合わせた形式で出題する。成績評価における点数配分は70%
  - ②授業中に抜き打ちで実施する小テストの成績も成績評価の材料とする。点数配分は30%
- ※なお、講義に対して積極的に参加(講義中に発言するなど)している学生には別途加点する。

**【留意事項】**

第1回の授業時に受講するうえで重要な情報の詳細(授業方針、成績評価等)を説明する。

講義名称	曜日
経営学 A 03 (春)	金 4

**【教員名称】**

正亀 芳造

**【講義概要】**

経営学は、企業(会社)を対象とする学問です。本講義では、企業(会社)の仕組みや行動を可能な限り具体的事例を交えながら講義します。

大学を卒業すれば、皆さんの多くが働く場として選ぶのは企業です。あるいは、起業したいと思っている人もいます。本講義の目的は、皆さんの将来にとってこのように深い関わりを持つ企業について、その基本的知識を身につけることにあります。

**【学習目標】**

本講義は、以下の4つを学習の到達目標としています。

目標1: 会社の役割と仕組みを説明できる。

目標2: 経営戦略について説明できる。

目標3: 組織形態と組織間関係について説明できる。

目標4: 現代企業の新動向について説明できる。

補足: 毎回の授業で話す「重要キーワード」について説明できれば、目標1~4は達成することができます。

**【講義計画】**

第1回: オリエンテーション

第2回: 会社の経営とはどんなことかー企業経営入門ー

第3回: 会社はどのようにして社会に役立っているのか

第4回: 会社は誰が動かしているのか(1) 株式会社

第5回: 会社は誰が動かしているのか(2) 所有と経営の分離

第6回: 会社は誰が動かしているのか(3) コーポレートガバナンス

第7回: 会社はどのような方針で動いているのか(1) 経営理念と戦略

第8回: 会社はどのような方針で動いているのか(2) 事業の選択と競争戦略

第9回: 会社はどのようにして商品を提供するのか

第10回: 中間確認テストとこれまでの講義のまとめ

第11回: 会社はどんな仕組みで動いているのか(1) 組織形態の基本モデル

第12回: 会社はどんな仕組みで動いているのか(2) 組織形態のバリエーション

第13回: 会社は他の会社とどのように協力しているのか(1) 企業集団

第14回: 会社は他の会社とどのように協力しているのか(2) 企業グループ、系列、戦略的提携

第15回: 会社は海外でどのようにして経営しているのか

**【事前および事後学習の指示】**

第2回目以降の講義を受講するには、その準備として、予め講義で指定したテキストの該当部分を事前に読み、要点をノートにまとめておくこと。また、講義の受講後は、重要キーワードを中心に復習するとともに、他の文献や資料を活用してさらに深く調べるように努力すること。

**【テキスト】**

経験から学ぶ経営学入門 [第2版] 上林憲雄・奥林康司・團泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林明 978-4-641-18443-5 有斐閣

**【参考文献】**

吉田和夫・大橋昭一(監修) 深山明・海道ノブチカ・廣瀬幹好(編)『最新 基本経営学用語辞典(改訂版)』同文館出版、2015年。

その他、講義中に適宜指示します。

**【コメント】**

学期末試験において、到達目標に対応するテーマに関する問題を出題し、解答の正否をもとに評価を行います。

中間確認テストは、皆さん自身が自分の講義の理解度を確かめるためのものですから、成績評価には含めません。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
経営学 B 01 (春)	木 2

**【教員名称】**

小島 正稔

**【講義概要】**

企業社会を理解するために不可欠な基礎的な知識・情報・スキルを身につけるための、経営学の初学者向けの講義です。まず現代の企業活動を、経営学を通して理解した上で、企業社会の中でどのようにキャリアを作り上げていくのかを考えていきます。

経営学 A は基礎的な理論・用語の理解を中心とし、経営学 B は、経営学 A のトピックのケース、実例が中心に展開される。同時に履修することが望ましい。

**【学習目標】**

1. 経営学に関する基礎的な用語を理解し説明できる。
2. 具体的な企業の活動を経営学の用語を使って説明できる。
3. 経営学の基礎用語を企業の事例を使って説明できる。

**【講義計画】**

第1回: 講義の進め方(事前学習の進め方、講義への参加の仕方、講義の流れ・進め方)を説明します。

第2回: 企業経営の全体像

①経営学の研究対象とは、②企業目的、③経営資源とは ④企業活動について、⑤付加価値と利益の違い

第3回: 企業の全体像

①組織のマネジメントとは、②経営学とは何か、③ステークホルダー、④コアコンピタンス、⑤コーポレートガバナンス

第4回: 会社と企業

①会社の誕生(世界編)、②近代的株式会社、③機関投資家の登場と役割

第5回: 企業のインプット

①資金調達的手段、②証券会社と証券市場、③銀行グループと企業グループ

第6回: 企業のアウトプット

①戦略とは何か、②戦略のレベルと視点

第7回: 企業と市場環境

①環境分析の位置づけ、②マクロ環境分析、③市場環境分析、④競争環境分析とポジショニング、⑤SWOT分析

第8回: 前半の理解度テストと講義のまとめ(用語の整理)

第9回: 競争戦略のマネジメント

①競争戦略とは、②ソフトバンクのケースで考えてみよう、③差別化とは何か、④競争相手はだれか(市場範囲と競争分析)、⑤コストコの強みはどこから来るのか(ケース)

第10回: ビジネスモデル

①違いを作るマネジメント、②差別化戦略と集中戦略、③ビジネスシステムの差別化、④競争社会の設計思想

第11回: 多角化のマネジメント

①事業の多角化、②多角化戦略、③多角化とPLC多角化のマネジメント、④範囲の経済、⑤成長の経済、⑥シナジー効果とコンプリメント効果

第12回: 製品開発のマネジメント

①なぜ新製品を開発するのか、②新製品開発のジレンマ、③新製品の優位性と競争優位、④新製品開発プロセス

第13回: 組織構造

①組織の基本構造、②分業、③権限、④部門化、⑤組織構造によって決まること、⑥職能別組織と事業部制組織、⑦マトリックス組織、⑧アメーバ組織

第14回: ミクロ組織のマネジメント

①インセンティブシステムの設計、②個人のモチベーション、③人事考課、④リーダーシップミクロ組織のマネジメント、⑤リカートの三原則、⑥オハイオ研究、⑦トップの制度的リーダーシップ

第15回: 後半の理解度テストと講義のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

事前学習 教科書の指定された箇所を読み、重要な用語を事前学習すること。この学習には、毎回2時間×15回=30時間を必要とする。また事後学習として、講義で説明された内容を確認、理解すること。この学習には、毎回2時間×15回=30時間を必要とする。

**【テキスト】**

1からの経営学 加護野忠男、吉村典久(編) 4502696102 中央経済社

**【参考文献】**

齋藤毅憲・渡辺峻『個人の自立と成長のための経営学入門』文真堂、2016年  
加護野忠男・伊丹敬之『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞出版社、2003年

田尾雅夫・佐々木利寛・若林直樹『はじめて経営学を学ぶ』ナカニシヤ出版、2005年

**【コメント】**

試験は中間と期末の2回、各100点満点で行う。成績は(中間+期末)÷2が素点となる。

なお講義に積極的に関与し、発言したのものには、発言点を追加する。発言点は、中間、期末のそれぞれに加算する。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
経営学史A (春)	金 1

**【教員名称】**

野田 俊範

**【講義概要】**

経営学は、ドイツとアメリカにおいて20世紀初頭に成立した若い学問であり、これら両国および日本において、今日までめざましい発展を遂げてきた。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響を受けてきたのである。

本講義では、そのドイツ経営経済学の生成・展開の歴史を概観し、主要な理論傾向について概説するとともに、今後の発展の方向について考えることとしたい。経営経済学の歴史を学ぶことを通じて、今日世界の経営学で主流をなしているアメリカ流の経営管理学とは違う、経営学の今ひとつの可能性を知ってほしい。

**【学習目標】**

1. ドイツ経営経済学の生成・展開の歴史を学ぶ。
2. ドイツ経営経済学の今後の発展の方向について考える。
3. 学説と、その学説の歴史的・社会的背景との関連に注目する。

**【講義計画】**

- 第1回：はじめに  
 ー経営学史研究の意義と課題
- 第2回：私経済学の成立(1)  
 ードイツ帝国の成立と経済の発展
- 第3回：私経済学の成立(2)  
 ー商科大学設立運動
- 第4回：私経済学の成立(3)  
 ー私経済学の樹立と私経済学論争
- 第5回：私経済学の成立(4)  
 ー私経済学の成立
- 第6回：経営経済学の確立(1)  
 ーヴァイマル共和国の成立と経営経済学
- 第7回：経営経済学の確立(2)  
 ー経営民主主義と経営経済学
- 第8回：経営経済学の確立(3)  
 ー産業合理化と経営経済学
- 第9回：経営経済学の展開(1)  
 ー西ドイツ経済体制の展開
- 第10回：経営経済学の展開(2)  
 ー社会的市場経済と経営経済学
- 第11回：転換期の経営経済学(1)  
 ー社会的市場経済の動揺
- 第12回：転換期の経営経済学(2)  
 ー経営経済学の多様化
- 第13回：現代の経営経済学(1)  
 ー現代ドイツにおける経済的・社会的状況
- 第14回：現代の経営経済学(2)  
 ー経営経済学の新たな展開
- 第15回：おわりに

**【事前および事後学習の指示】**

適宜指示します。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史』ミネルヴァ書房、2005年。  
 海道ノブチカ／深山明編著『ドイツ経営学の基調』中央経済社、1994年。  
 その他、必要に応じて適宜指示する。

**【コメント】**

学期末試験により評価する。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
経営学総論 01 (春集)	火 1/ 金 3

**【教員名称】**

野田 俊範

**【講義概要】**

経営学は、利益を追求する「企業」を主たる研究対象として、その管理・運営のあり方を探求する学問として生成・発展してきた。しかしこのことは、経営学が単に経営者を目指す人や金儲けをしたい人のための学問であることを意味するものではない。経営学は、現代の経済・社会に生きるすべての人々にとって、無視することのできない大きな存在である企業や組織の本質を、理論的・客観的に解明する学問という側面も持っている。

本講義では、これから経営学を専門的・体系的に学んでいこうとする初学者を念頭に置いて、経営学の全体像について概説することとしたい。経営学とはどのような学問なのか、企業はどのような仕組みで成り立ち、どのような論理のもとに管理・運営されているのか、人はなぜ、どのようにして企業で働くのか、現代の、あるいはこれからの企業経営にはどのような意義や課題があるのか、等々のような、今日まで経営学で議論されてきたさまざまなテーマを取り上げることとする。

受講生諸君には、一人一人が自分にとっての企業の意義や課題を考えるための手がかりとしてほしい。

**【学習目標】**

1. 経営学の全体像を体系的に把握する。
2. 企業経営に関する基礎的な知識や概念を学ぶ。そのような知識や概念に基づいて、企業経営を客観的に認識し、理解する。
3. 現代社会において企業がもつ意義や課題について、受講生各自が主体的に関心をもつ。

**【講義計画】**

- 第1回：はじめに
- 第2回：経営学とはどんな学問か(1)  
 ・経営学の位置づけ ・経営学と経済学
- 第3回：経営学とはどんな学問か(2)  
 ・経営学の成立 ・経営学の特徴
- 第4回：企業とは何か(1)  
 ・家計と企業 ・企業活動の目的
- 第5回：企業とは何か(2)  
 ・市場経済体制と企業 ・企業の社会的役割
- 第6回：株式会社の仕組み(1)  
 ・企業と会社 ・会社の分類
- 第7回：株式会社の仕組み(2)  
 ・株式会社の特徴
- 第8回：株式会社の仕組み(3)  
 ・株式会社の諸機関 ・株式会社の課題
- 第9回：経営管理と経営組織(1)  
 ・経営管理とは ・テイラーの科学的管理
- 第10回：経営管理と経営組織(2)  
 ・管理の過程 ・バーナードの近代組織論
- 第11回：経営管理と経営組織(3)  
 ・経営組織の基本構造
- 第12回：経営戦略(1)  
 ・経営戦略とは ・経営戦略立案の過程
- 第13回：経営戦略(2)  
 ・企業戦略
- 第14回：経営戦略(3)  
 ・競争戦略 ・経営組織と経営戦略
- 第15回：中間試験(授業中試験)と解説
- 第16回：生産管理(1)  
 ・生産管理とQCD ・少品種大量生産方式
- 第17回：生産管理(2)  
 ・品質管理と小集団活動 ・多品種少量生産方式
- 第18回：人的資源管理(1)  
 ・労務管理と人的資源管理 ・動機付け理論
- 第19回：人的資源管理(2)  
 ・リーダーシップ論 ・賃金体系
- 第20回：マーケティング(1)  
 ・マーケティング・コンセプトの変遷
- 第21回：マーケティング(2)  
 ・マーケティング・ミックス戦略
- 第22回：経営財務・企業会計(1)  
 ・経営財務・財務管理とは
- 第23回：経営財務・企業会計(2)  
 ・会計制度の基本知識
- 第24回：グローバル化と企業経営
- 第25回：情報化と企業経営
- 第26回：企業経営における倫理と責任(1)  
 ・企業とステークホルダー ・企業の社会的責任と社会的貢献
- 第27回：企業経営における倫理と責任(2)  
 ・グローバル時代の企業倫理 ・SDGsと企業経営
- 第28回：企業経営の課題(1)  
 ・現代の企業経営
- 第29回：企業経営の課題(2)  
 ・21世紀型企業経営に向けて
- 第30回：おわりに

**【事前および事後学習の指示】**

- ① 普段から新聞をよく読んで、現代の経済・社会における企業経営のあり方について関心を持っておくこと。
- ② 授業前に教科書の該当ページに目を通すなどして、予習をしておくこと。授業は、受講者が予習をしていることを前提にしてすすめられる。
- ③ 授業後に復習をすること。

**【テキスト】**

経営学入門 キーコンセプト 井原久光(編著) 平野賢哉/菅野洋介/福地宏之(著) ミネルヴァ書房

**【参考文献】**

適宜指示する。

**【コメント】**

中間試験および学期末試験によって評価する。ただし、必要に応じてレポートを課す場合がありうる(その場合は、授業中に別途指示する)。なお、授業に関して有意義な意見や質問、提言などを述べて授業運営に貢献してくれた学生には、別途加点する場合がある。

**【留意事項】**

上記「講義計画」は予定である。時事的なトピックを取り上げる、受講者からのリクエストを受けるなど、さまざまな状況によって変更する場合がある。

講義名称	曜時
経営学特講－経営者に学ぶプロジェクト〈春〉	火 2

【教員名称】 英語による  
McLean, Stuart

【講義概要】

This class is designed for (1) exchange students who are interested in Japanese firms and their business strategies in the global economy, and (2) non exchange students who want to conduct group projects in English. The aim of this course is to examine various issues that contemporary Japanese companies have been facing with the changing business environment in the rapidly globalized economy, to conduct project-based learning, and finally conduct presentations. Lectures are given by guest speakers who have experience in Japanese companies.

【学習目標】

The aim of this course is to help students to understand major issues that Japanese companies have been facing with in the changing business environment and the global economy, and develop their language skills through completing group project work.

【講義計画】

- 第1回：Orientation, syllabus explanation, how the classes will proceed, evaluation explanation, presentation rubric explanation, report rubric explanation, and aspects of good and bad presentations.
- 第2回：Guest lecturer: The difference between innovation and invention.
- 第3回：Group preparation presentation (In a computer room).
- 第4回：Presentation with feedback.
- 第5回：Presentation with feedback, and final presentations.
- 第6回：Final presentations.
- 第7回：Guest lecturer: Related to working in a venture company.
- 第8回：Group preparation presentation (In a computer room).
- 第9回：Presentation with feedback.
- 第10回：Presentation with feedback, and final presentations.
- 第11回：Final presentations.
- 第12回：Guest lecturer: Related to working in a major international company (possibly the same presenter as the first).
- 第13回：Presentation with feedback.
- 第14回：Presentation with feedback, and final presentations.
- 第15回：Final presentations.

【事前および事後学習の指示】

Be sure to prepare in advance. If you are not prepared, you will hold back other students, and this will be reflected in your grades. It is recommended that you prepare for one hour and review for 30 minutes for each class. You will be told what you need to prepare each week.

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】

【成績評価の方法】

レポート:100%

備考

Three presentations and preparation evidence 25% each; final project 25%.

【留意事項】

社会人の方へ（聴講に際して）高い英語能力が必要になりますので、その旨ご理解していただければと思います。

第1週目に科目の説明を行うので社会人聴講生が英語能力を確認されたい場合はその時に教示できます。

本科目は留学生と TOEIC スコア 600 以上の日本人大学生を対象としておりますので、英語で行う予定です。

講義名称	曜時
経営財務論（基礎）〈春〉	月 4

【教員名称】 齋藤 巡友

【講義概要】

企業を経営していく上で戦略の策定は非常に重要な意思決定となる。企業経営における戦略とは、企業経営に必要な不可欠な資源である「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」の適切な使途および配分を決定することである。経営財務論では、特に「カネ」すなわち資金面の戦略に焦点を当てる。具体的には企業経営に係わる資金の流れを3つの段階に分けて考えることになる。1つ目は、「どのように資金を集めるのか」という資金調達段階である。2つ目は、「集めた資金をどのように投資するのか」という投資段階である。3つ目は、「投資によって得られた利益をどのように処分するのか」という利益処分（利益還元）の段階である。本講義では、これらの財務的意思決定における問題を理解するためのベースの部分となる概念や理論について学ぶ。

【学習目標】

経営財務に関する諸問題を理解するために必要な知識、概念や理論を習得することに加え、企業を「カネ」の側面から理解するためのフレームワークの習熟が本講義の目標である。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション:授業内容や授業方針、成績評価について
- 第2回：財務活動と財務管理
- 第3回：財務諸表1:財務諸表とは
- 第4回：財務諸表2:貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書
- 第5回：財務諸表3:財務指標からわかる企業の特性
- 第6回：資金の時間的価値
- 第7回：現在価値の公式と株式・債券の価格評価
- 第8回：企業価値の評価指標
- 第9回：リスクとリターン
- 第10回：ポートフォリオ理論1:分散投資の効果
- 第11回：ポートフォリオ理論2:平均・分散アプローチ
- 第12回：資産価格の決定理論
- 第13回：資本コストの概念1:資本コストとは
- 第14回：資本コストの概念2:資本コストの推計
- 第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】

講義前に講義資料をアップロードするので、事前学習として講義資料を読み、疑問点を整理しておくこと。復習の際は、理解出来なかった点を講義後やオフィスアワーに質問する、または参考文献の該当箇所を確認するなどして疑問点を残さないようにすること。

本講義では経営財務に関する応用的な内容を理解するために必要となる基礎概念や基礎理論を学ぶ。位置付けとしては「基礎」となっているが、トピックによっては初学者には難しく感じる部分も出てくると思うので、特に復習に重点をおいて取り組んでもらいたい。

この講義で扱うトピックの中には基礎的な数学知識を前提とするものもあるため、高校で習った数学（特に確率）を簡単でいいので復習しておくことと内容理解が深まるであろう。

【テキスト】

【参考文献】

- 砂川伸幸著『コーポレートファイナンス入門(第2版)』日本経済新聞社
- 高橋文郎・井出正介著『経営財務入門 第4版』日本経済新聞出版社
- 米澤康博・小西大・芹田敏夫著『新しい企業金融』有斐閣アルマ
- リチャード＝ブリーリー・スチュワート＝マイヤーズ・フランクリン＝アレン著『コーポレートファイナンス 第10版上』日経BP社
- ジョナサン＝パーク・ピーター＝ディマーズ著『コーポレートファイナンス入門 編第2版』丸善出版株式会社
- 砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社
- 砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳・佐藤淑子『経営戦略とコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社

【コメント】

①到達目標に対応する試験を期末に実施する。試験では、基礎的な知識や概念の理解度とそれらをどの程度応用できるかを確認するための問題を出題する。問題は選択式・記述式を組み合わせ形式となる。成績評価における点数配分は70%

②学んだ知識の応用力を問うレポート課題を学期中に少なくとも1回は出題する。成績評価における点数配分は15%程度

③授業中に抜き打ちで実施する小テストの成績も成績評価の材料とする（その他の項目）。点数配分は15%程度

【留意事項】

第1回の授業時に受講するうえで重要な情報の詳細（授業方針、成績評価等）を説明する。

講義名称	曜時
経営情報システム A 〈春〉	金 4

【教員名称】  
大村 鍾太

【講義概要】  
「企業の情報システム活用法を知る」

本講義では、企業の情報システムの活用とそれを支える情報通信技術 (ICT) の基礎について学ぶ。将来、自分の仕事に ICT を積極的に活用できるようになることを目指す。  
社会に出ると何らかの情報システムを利用することになる。なぜそのシステムが使われているのか、またそれがどんな仕組みで動いているのかを理解することで、情報システムを単に利用するだけでなく、自分の仕事の問題解決に活用することができる。本講義ではそのために必要な基礎知識について学ぶ。

- 【学習目標】
1. 企業が情報システムをどう活用しているのか理解するために、必要となる情報を探し出し、その情報を的確に読み取ることができる。
  2. 情報通信技術の基礎知識を身に付ける。
  3. IT を目的でなく、経営目標を達成する手段として考えることができる。

- 【講義計画】
- 第1回：企業経営と情報システム
  - 第2回：経営情報システムの変遷
  - 第3回：意思決定と情報システム
  - 第4回：基幹業務と情報システム
  - 第5回：サプライチェーンと情報システム
  - 第6回：顧客関係と情報システム
  - 第7回：チームワークと情報システム
  - 第8回：製品開発と情報システム
  - 第9回：ナレッジマネジメントとゲーミフィケーション
  - 第10回：データベースの構築と活用
  - 第11回：情報システムの形態
  - 第12回：セキュリティ対策
  - 第13回：マルチメディアの活用とビジネスモデル
  - 第14回：プログラミング言語とアルゴリズム
  - 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】  
各授業トピックについてネットで検索して調べておくこと。

【テキスト】

【参考文献】  
授業トピックごとに参考文献を紹介する。

【コメント】  
授業への貢献を加味する。

【留意事項】  
企業への情報システム導入の実務経験を持つ教員が、企業の情報システム活用について解説する。

講義名称	曜時
経営分析入門 〈春〉	木 4

【教員名称】  
小澤 義昭

【講義概要】  
「企業の見方を教えます。基礎から学ぶ実践経営分析」

経営分析は、対象となった企業の財務諸表だけでなく、同業他社との比較、数期間の推移の分析を通して、企業がどれだけ「稼いでいるか」という収益性、「資金がどれだけ継続的に回転しているのか」を示す安全性、「この企業の将来はどうか」を示す成長性及び「この会社の付加価値等に問題はないか」を示す生産性を総合的に把握する手段を学ぶものです。この講義を通して、このような分析能力をつけていただき、社会に出た時に直接役に立つ知識を身につけていただきたいと思います。

- 【学習目標】
- この講義の目的は、財務諸表の見方及び経営分析の一般的な手法を身につけ、企業の価値を数値的な面から評価できる能力を身につけていただくことにあります。授業を真面目に聞いて一緒に勉強していただければその力はずっと信じています。

- 【講義計画】
- 第1回：経営分析の目的と考え方  
(経営管理に役立てるため、投資判断のために必要な情報を会社の数値から分析する基礎の基礎を学びます。)
  - 第2回：財務諸表の役割と仕組み  
(財務諸表は何のためにあるのか、その仕組みはどうなっているのかを学習します。)
  - 第3回：経営分析データの入手方法  
(経営分析に必要な情報をどのように入手するかを学習します。)
  - 第4回：会社法の計算書類とは  
(経営分析の基礎となる計算書類の構造について基礎から学習します。)
  - 第5回：有価証券報告書とは  
(上場企業の最も重要な決算書類である有価証券報告書の概要を基礎から学習します。)
  - 第6回：貸借対照表の見方  
(企業の財政状態をあらわす貸借対照表について細かく見ていきます。)
  - 第7回：貸借対照表の見方(続き)  
(企業の財政状態をあらわす貸借対照表について細かく見ていきます。)
  - 第8回：損益計算書の見方  
(企業の経営成績をあらわす損益計算書について細かく見ていきます。)
  - 第9回：損益計算書の見方(続き)  
(企業の経営成績をあらわす損益計算書について細かく見ていきます。)
  - 第10回：キャッシュ・フロー計算書の見方  
(企業の資金収支をあらわすキャッシュ・フロー計算書について細かく見ていきます。)
  - 第11回：キャッシュ・フロー計算書の見方(続き)  
(企業の資金収支をあらわすキャッシュ・フロー計算書について細かく見ていきます。)
  - 第12回：経営分析の手法の概要  
(一般的に用いられる経営分析の手法の概要を学習します。)
  - 第13回：安全性の分析の概要  
(資金の状況から支払能力をみて、会社の倒産からの安全性を学習します。)
  - 第14回：収益性の分析の概要  
(企業の利益をあげる力を見ようとするのが、収益性の分析です。これを基礎から学習します。)
  - 第15回：総まとめ

【事前および事後学習の指示】  
予習の必要はありませんが、授業の後に復習を少しでもしていただければと考えています。

【テキスト】  
レジュメを作成してお渡しする予定です。

【参考文献】  
講義中に参考文献を紹介させていただきます。

【コメント】  
授業への出席と理解度を判定するために、授業中に配布したレジュメを参照しながら、授業中に理解の整理のためのレポートを2回授業中に実施します。これは資料を見ながらの作業ですので、授業にきちんと出席していれば、それほど難しいものではありません。これを上記で「その他」と称しています。また、受講者の理解度を確かめるための期末テストを持ち込み不可で実施します。これを上記では「試験」と称しています。これらを総合的に勘案して評価させていただくつもりです。

【留意事項】  
公認会計士として35年間、会計監査、企業の財務諸表分析、会計コンサルティングに従事してきた教員が、その経験を活かして、経営分析の概要について解説・講義を行う。

講義名称	曜日
経済開発論Ⅰ〈春〉	月 1

**【教員名称】**

望月 和彦

**【講義概要】**

現在の開発途上国はかつて「後進国」と呼ばれていた。これは先進国に対比する呼び名であったわけだが、失礼な名称であることから開発途上国と呼ばれるようになった。30～40年前は開発途上国とは言いながらほとんど発展していないような国がたくさんあった。ところが今日、経済発展は多くの国で見られるようになっており、開発途上諸国はまさに開発途上にある。本講では経済発展の要因、経済発展の現状、経済発展の将来について考える。

**【学習目標】**

本学の教育の目標である「世界の市民の養成」に則り、経済発展の事例を広く探究することを通して世界の市民にふさわしい知識と判断力を涵養する。

**【講義計画】**

- 第1回：導入 本講の基本的な考え方 科学的思考とは何か
- 第2回：経済発展とは
- 第3回：経済発展の要因 その1 お金
- 第4回：経済発展の要因 その2 資源
- 第5回：経済発展の要因 その3 資本・技術
- 第6回：経済発展の要因 その4 制度 社会主義
- 第7回：経済発展の要因 その5 制度 資本主義
- 第8回：経済発展の要因 その6 制度 政治体制
- 第9回：経済発展の要因 その7 思想
- 第10回：経済発展の要因 その8 所有権・法の支配
- 第11回：経済発展の要因 その9 金融制度
- 第12回：経済発展の要因 その10 企業組織
- 第13回：経済発展の要因 その11 社会秩序
- 第14回：経済発展の要因 その12 社会秩序の形成因
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

- 事前学習：授業中に配付するリーディングリストの文献の学習
- 事後学習：授業内容の復習、レポート作成

**【テキスト】**

**【参考文献】**

**【コメント】**

成績評価は期末テストとレポートで行う。テストでは講義の内容を理解しているかを計るとともに内容から自分で問題を組み立てることができるか、それに自分で適切に答えることができるかを見る。レポートは講義の内容に即したテキストを指定し、その内容についてこちらからの質問に答える形式となる。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
経済学 A 01〈春〉	木 4

**【教員名称】**

澤田 鉄平

**【講義概要】**

ミクロ経済学の基本的な考え方とその理論の理解を通じた実体経済の考え方について学んでいく。範囲は公務員試験程度とし、市場、各経済主体の活動、一国経済、国際経済を網羅的に講義する。一部数学を使うことになるため、講義でも復習するが、学生自身が十分に準備すること。

**【学習目標】**

- この講義に積極的に参加することを通じて
- ①ミクロ経済学で必要とされる基本的な数学的知識を身に付けることができる。
- ②ミクロ経済学の基礎理論を使い、特定の市場の動向を説明する能力を得ることができる。
- ③ミクロ経済学の理論を深く学ぶための基礎能力を得ることができる。

**【講義計画】**

- 第1回：ミクロ経済学概論
- 第2回：2次関数と微分の復習
- 第3回：消費者行動Ⅰ——効用関数と予算制約
- 第4回：消費者行動Ⅱ——効用最大化、需要関数、弾力性
- 第5回：企業行動Ⅰ——費用関数
- 第6回：企業行動Ⅱ——利潤最大化
- 第7回：完全競争市場Ⅰ——均衡理論
- 第8回：完全競争市場Ⅱ——余剰分析ほか
- 第9回：不完全競争市場Ⅰ——独占
- 第10回：不完全競争市場Ⅱ——寡占・複占・ゲーム理論
- 第11回：市場の失敗Ⅰ——外部効果
- 第12回：市場の失敗Ⅱ——情報の非対称性・公共財・政府の役割
- 第13回：国際貿易Ⅰ——自由貿易均衡と貿易政策
- 第14回：国際貿易Ⅱ——比較生産費説
- 第15回：ミクロ経済学まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

- Sドライブに講義資料をアップしてあるので、事前に次回の講義内容を確認すること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

西村和雄(1995)『ミクロ経済学入門』岩波書店

**【コメント】**

定期試験50点、授業内小テスト5回50点の100点満点で評価する。授業内小テストは抜き打ちで実施する。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
経済学 A 02 (春)	火 1

【教員名称】  
田代 昌孝

【講義概要】

経済のグローバル化が進むことで、財やサービスの流れが活発になり、市場が非常に複雑になってきた。それに伴う形で、経済不況による失業や物価の変動など様々な問題が家計や政府の行動に影響を与えている。財政健全化や社会保障財源の確保等、世の中にある様々な問題に対して、政府が対応しきれなくなってきた。この講義ではミクロ経済学的な観点から、今日議論されている様々な経済現象がなぜ生じているのかを学ぶ。

【学習目標】

- この講義に積極的に参加することを通じて
- ①ミクロ経済学で必要とされる基本的な数学的知識を身に付けることができる。
  - ②ミクロ経済学の基礎理論を使い、特定の市場の動向を説明する能力を得ることができる。
  - ③ミクロ経済学の理論を深く学ぶための基礎能力を得ることができる。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス  
ミクロ経済学とはどのような学問であるのか。  
成績評価について。  
レジュメやテキストについての説明。  
講義を受けるうえでの注意事項。
- 第2回：日本経済の現状と課題
- 第3回：消費者行動①(無差別曲線の導出)
- 第4回：消費者行動②(予算線と最適消費)
- 第5回：消費者行動③(所得効果と代替効果—上級財のケース)
- 第6回：消費者行動④(所得効果と代替効果—中級財のケース)
- 第7回：消費者行動⑤(所得効果と代替効果—下級財のケース)
- 第8回：生産者行動①(生産関数について)
- 第9回：生産者行動②(総費用、平均費用、限界費用について)
- 第10回：生産者行動③(企業の利潤最大化—最適条件について)
- 第11回：生産者行動④(企業の利潤最大化—損益分岐点と操業中止点について)
- 第12回：市場メカニズム(市場均衡とその変化)
- 第13回：課税と超過負担①(超過負担の決定要因)
- 第14回：課税と超過負担②(需要の価格弾力性と超過負担)
- 第15回：課税と超過負担③(供給の価格弾力性と超過負担)

【事前および事後学習の指示】

講義テーマに該当する教科書の部分を熟読するようにして下さい。  
前回講義の復習を必ず行ってから、講義を受けるようにして下さい。

【テキスト】

入門経済学 第4版 伊藤元重  
9784535558175 日本評論社

【参考文献】

西村和雄著「ミクロ経済学 第2版」岩波書店、2001年 (ISBN4000266942)

【コメント】

学期末試験において論述問題を5問出題する。成績評価は全問正解がSであり、1問不正解するごとに評価を順に下げていくこととする。

【留意事項】

予習より復習を中心に勉強して下さい。  
講義で分からない部分は必ず質問するようにして下さい。

講義名称	曜日
経済学 B 01 (春)	金 2

【教員名称】  
田代 昌孝

【講義概要】

経済のグローバル化が進むことで、財やサービスの流れが活発になり、市場が非常に複雑になってきた。それに伴う形で、経済不況による失業や物価の変動など様々な問題が家計や政府の行動に影響を与えている。財政健全化や社会保障財源の確保等、世の中にある様々な問題に対して、政府が対応しきれなくなってきた。この講義ではマクロ経済学的な観点から、今日議論されている様々な経済現象がなぜ生じているのかを学ぶ。

【学習目標】

- この講義に積極的に参加することを通じて
- ①マクロ経済学で必要とされる基本的な数学的知識を身に付けることができる。
  - ②マクロ経済学の基礎理論を使い、一国経済の現状を理解する能力の基礎を得ることができる。
  - ③国際経済の現実的諸関係について理解する能力を得ることができる。
  - ④マクロ経済学の理論を深く学ぶための基礎能力を得ることができる。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス  
マクロ経済学とはどのような学問であるのか。  
成績評価について。  
レジュメやテキストについての説明。  
講義を受けるうえでの注意事項。
- 第2回：国民所得の決定①(三面等価の原則)
- 第3回：国民所得の決定②(ケインズ型消費関数)
- 第4回：国民所得の決定③(完全雇用について)
- 第5回：国民所得の決定④(乗数効果について)
- 第6回：投資と経済(IS曲線の導出)
- 第7回：貨幣の役割と中央銀行
- 第8回：金融の仕組み(LM曲線の導出)
- 第9回：財政・金融政策の効果
- 第10回：総需要曲線(AD曲線)の導出
- 第11回：総供給曲線(AS曲線)の導出
- 第12回：AD・AS分析
- 第13回：国際経済(為替レートの決定)
- 第14回：固定相場制下での財政・金融政策
- 第15回：変動相場制下での財政・金融政策

【事前および事後学習の指示】

講義テーマに該当する教科書の部分を熟読するようにして下さい。ただし、10回から12回までの講義では事前に参考文献を熟読するようにしてください。  
前回講義の復習を必ず行ってから、講義を受けるようにして下さい。

【テキスト】

入門経済学 第4版 伊藤元重  
9784535558175 日本評論社

【参考文献】

中谷 巖著「入門マクロ経済学 第5版」日本評論社、2007年 (ISBN978453555136)

【コメント】

学期末試験において論述問題を5問出題する。成績評価は全問正解がSであり、1問不正解するごとに評価を順に下げていくこととする。

【留意事項】

予習より復習を中心に勉強して下さい。  
講義で分からない部分は必ず質問するようにして下さい。

講義名称	曜時
経済学史 I [2] 01 (春)	水 3

**【教員名称】**

北田 了介

**【講義概要】**

授業は講義形式でおこない、毎回終了前に出席確認を行う。  
本講義は、17世紀以来の経済学説(重商主義から古典派経済学、およびマルクスの経済学)とその時代背景をたどることで、現在の経済理論や経済問題を相対化するための視点を手に入れることを目指す。

**【学習目標】**

経済学説の歴史をとおして「経済」の基本的な考え方を学びと同時に、社会がいかなる知の形式から成立しているかをさぐっていく。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション  
経済学および経済学史を学ぶことの意義
- 第2回：重商主義(1)  
アジア貿易とヨーロッパの「重商主義」
- 第3回：重商主義(2)  
重商主義の政策論争
- 第4回：ジョン・ロックの経済思想(1)  
17世紀のイングランドと二つの革命
- 第5回：ジョン・ロックの経済思想(2)  
社会の構成と私的所有権
- 第6回：17世紀イングランドの利率引き下げ論争
- 第7回：ヒュームの経済思想(1)  
経済発展論とインダストリ
- 第8回：ヒュームの経済思想(2)  
貨幣・貿易論
- 第9回：スチュアートの経済思想(1)  
人口論と「近代社会」
- 第10回：スチュアートの経済思想(2)  
貨幣・価格論
- 第11回：ケネーの経済思想(1)  
17-18世紀のフランスとフィジオクラシー(重農主義)の原理
- 第12回：ケネーの経済思想(2)  
「経済表」で示される流通過程と剰余生産
- 第13回：重商主義・重農主義からアダム・スミスへ  
限界とその後の影響
- 第14回：アダム・スミス思想の概略的説明  
道徳哲学から経済学へ
- 第15回：春学期のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

講義に際しては事前学習および事後学習が必要である。事前学習(授業ごとに2時間)では教科書を熟読するとともに、授業内で指示された参考文献に目を通しておくこと。事後学習(授業ごとに2時間)では教科書内に示されている章末問題について、正確な解答を作成することが望まれる。

**【テキスト】**

教養としての経済思想 北田了介(編著)  
978-4-86065-119-0 萌書房

**【参考文献】**

講義時間内で随時紹介する。

**【コメント】**

「試験」は学期末テスト。「その他」は授業終了時にコメントペーパーを提出してもらおう。コメントペーパーを無記入で提出した場合、評価は行わない。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
経済学特講－英語で学ぶ戦後日本経済 (春)	木 1

**【教員名称】**

モグベル ザファル

英語による

**【講義概要】**

This is an introductory course on the Japanese economy with a focus on the domestic aspects of its postwar development. (The related course offered in the fall semester focuses more on the international aspects of the Japanese economy.) The purpose of the course is to familiarize economics majors and non-majors with the basic framework of the present-day Japanese economy and seminal events and developments that have determined the course of the nation. The course will start with an overview of the contemporary Japanese economy, and will move from there to a presentation of one topic per session. Topics will be drawn from current issues of concern related primarily to the economy, but also to social and political developments in Japan.

**【学習目標】**

Students completing this course are expected to become conversant in basic topics pertaining to the postwar Japanese economy, with particular emphasis on current conditions and challenges affecting the Japanese economy. As the discussion portion of the lectures contains extensive references to current events and contemporary Japanese society, politics and culture, students are expected to deepen their knowledge and awareness of issues and developments affecting the Japan economy and the Japanese people.

**【講義計画】**

- 第1回：Overview of the contemporary Japanese economy -- Searching for a vision for the future 25 Years after the collapse of the "Bubble Economy"
- 第2回：Statistical overview -- Macroeconomic Comparison of Japan and Other Countries  
Is Japan a wealthy society?
- 第3回：Topic 1: Demographic trends in Japan -- Living with an Aging and Shrinking Population
- 第4回：Topic 2: Constitution of Japan -- Ideals and Structures
- 第5回：Topic 3: Government and Politics in Japan -- Resurgence in Leadership?
- 第6回：Topic 4: Public Debt in Japan -- The Spectre of Fiscal Crisis and Bankruptcy
- 第7回：Topic 5: The 2011 Earthquake and its Long-Term Socio-Economic Impact -- Relief and Reconstruction
- 第8回：Topic 6: Sources of Japanese Malaise -- Social and Economic Origins of Malaise
- 第9回：Topic 7: Abenomics -- Overcoming a Decade of Deflation
- 第10回：Topic 8: Abenomics -- Viability of Fiscal Policies
- 第11回：Topic 9: Abenomics -- The Missing Third Arrow
- 第12回：Topic 10: Toward a Knowledge-Based Economy -- Innovation in Japan
- 第13回：Topic 11: Japan's Educational System -- New and Old Challenges
- 第14回：Topic 12: Future of the Japanese Economy -- Growth or Stagnation
- 第15回：Summarization and Discussion  
Alternative scenarios for the future of Japan

**【事前および事後学習の指示】**

- Instructions for class preparation:
1. Read materials in advance and be prepared to participate in discussion.
  2. Be prepared to ask questions on topic of study, and provide comparative information on the economy of your home country.

**【テキスト】**

**【参考文献】**

No textbook will be assigned. Handouts will accompany each lecture and will be used as a basis for instruction and discussion.

**【コメント】**

- ① Students will be graded on the substance and quality of a written report of approximately 5 ~ 10 typed pages on a subject chosen from a range of topics in line with the stated objectives of this course.
- ② Students will be graded on their active participation in class discussions, including the presentation of oral reports.

**【留意事項】**

This lecture is conducted in English only and requires a high level of proficiency in written and spoken English.

講義名称	曜時
経済学特講－英語で学ぶ日本・アジア経済〈春〉	金 3

【教員名称】 英語による  
江川 暁夫

【講義概要】

This course is designed to introduce you to the basic understanding on what economic topics are discussed in Japan, and what economic theories and data are useful for these discussions. The course structure is, (1) the current economic situation in Japan (#1-6), (2) structural problems in the Japanese economy (#7-11), and (3) Japan's strategy towards Asian countries and their interrelation (#12-14).

Student's level of proficiency in English does not matter very much in attending the class sessions.

【学習目標】

Throughout the lectures in this course, students will enable to:

- (1) Have basic knowledge in economic affairs in Japan and Asia which are well-known and referred often in the current discussion of the Japanese economy.
- (2) Know analytical tools (both economic and non-economic) which are, and should be, used in the discussions.
- (3) Participate in debates or discussions on current economic affairs, regardless of their major.

【講義計画】

- 第1回：Introduction of the course: Overview of the economic affairs in Japan and Asia  
 第2回：Measurement and comparison of the economic situation  
 第3回：Economic problems for Japan: Macroeconomic  
 第4回：Economic problems for Japan: Microeconomic and structural  
 第5回：Low growth and deflation (1): Low growth  
 第6回：Low growth and deflation (2): Is deflation good for the economy?  
 第7回：Japan's fiscal problems: overview of fiscal deficit and debt outstanding  
 第8回：Japan's fiscal problems: Consumption tax rate hike as a measure for fiscal austerity  
 第9回：Competitiveness: Japan's international competitiveness  
 第10回：Competitiveness: Regulatory reform to tackle structural problems  
 第11回：Competitiveness: Efforts for regulatory reforms in the 2010s  
 第12回：South-East Asia as the centre of economic growth for the world  
 第13回：Connectivity in the ASEAN  
 第14回：US-China trade war: Influence on the Asian economy and Japan's response  
 第15回：Other important topics and exam

【事前および事後学習の指示】

Preparation: Basic comprehension in micro- and macroeconomics will definitely give you an advantage to understand the topics more easily. In addition, reading relevant newspaper articles to each topic is recommended.

Review: Handouts are provided in each class session. The students are advised to check the meaning of important terms and theories as all of them may not be explained enough only within the class session.

【テキスト】

【参考文献】

Indicated in each class session.

【コメント】

Students are required to do two assignment during the term. One is to answer a fill-in-the-blank type questions (25%), and the other is to write a short essay (approx. 500 words) in English (20%).

【留意事項】

An ex-government officer explains the current economic issues on the Japanese and Asian economy.

講義名称	曜時
経済基礎 A 01〈春〉	月 2

【教員名称】  
大澤 健

【講義概要】

われわれが日々暮らしている社会は、市場経済とか資本主義社会と言われます。この社会の基本的な仕組みと特徴を明らかにする学問が経済学です。

この講義では、われわれの社会で生じる様々な出来事をテーマにして、市場経済・資本主義社会とはどういう社会なのかを考えていきます。

【学習目標】

これから経済学を学んでいく上で、現在の経済現象を様々な側面から学ぶことで、経済学を通じて社会を見るときに様々な視点を養うことを目的としています。その中で、経済分野への主体的な関心を養い、経済学を学びたいと考えられるようになることを目指しています。

また、レポートを積極的に書いてもらいます。大学での標準的なレポートの書き方についても教えますので、レポートの書き方を修得することも目指してください。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス および講義への導入としての演習問題  
 第2回：テーマ1. 環境問題、公害問題 ビデオ視聴  
 第3回：テーマ1. 環境問題 講義  
 第4回：テーマ2. 資本主義のダイナミズム ビデオ視聴  
 第5回：テーマ2. 資本主義のダイナミズム 講義  
 第6回：テーマ3. 労働問題 - 市場経済における働く人間の姿 ビデオ視聴  
 第7回：テーマ3. 労働問題 - 市場経済における働く人間の姿 講義  
 第8回：テーマ4. 不況と国家の役割 ビデオ視聴  
 第9回：テーマ4. 不況と国家の役割 講義  
 第10回：テーマ5. 20世紀社会の変貌 ビデオ視聴  
 第11回：テーマ5. 20世紀社会の変貌 講義  
 第12回：テーマ6. グローバリゼーションと21世紀の経済 ビデオ視聴  
 第13回：テーマ6. グローバリゼーションと21世紀の経済 講義  
 第14回：21世紀の資本主義社会と経済学  
 第15回：ふりかえり

【事前および事後学習の指示】

毎日30分程度、新聞の経済欄や日本経済新聞、またはインターネットの経済ニュースを度読むことで、現在起きている経済現象について学ぶこと。また、2回に1回(合計7回)レポート課題を提示するので、関係する資料を調べて作成して提出すること。2回に1回の講義について、復習を行うこと。

【テキスト】

政治経済学の再生 柴田信也編著  
創風社

【参考文献】

用いない。

【コメント】

テーマごとに関連するビデオを視聴し、それについてのレポートを作成してもらいます。そのレポートを加点要素として評価します。レポートの書き方は講義内で指示します。

【留意事項】

講義名称	曜日
経済原論 02 (春集)	火 2/金 1

【教員名称】  
李 晨

【講義概要】

世界的な経済・金融危機が長期化するに伴い、資本主義によって生じる問題が、現代社会で改めて認識されつつある。その一例として「世界規模での格差の拡大」、「ブラック労働」「長時間労働」「なぜ賃金が上がらないのか」という問題などが挙げられる。経済だけでなく人々の意識さえも将来に希望を抱くことが困難な状況に陥っている。それらの課題を解決するには、まず資本とは何か、資本主義とは何か、資本主義に伴う危機とは何か等を包括的に考え、資本主義の運動法則を説明するマルクス経済学を理解しなければならない。

本講義は、マルクス経済学の基礎概念と分析手法を理解し、その分析方法を用いて、現実社会をより正確に読み取る力を培うことを目的とする。これらを通じて、現在の資本主義社会における各課題の背景となる資本主義社会の本質、資本主義社会の根本的な矛盾をはっきり見分けられようになることに主眼を置く。

具体的には、前半の部分にマルクス経済学における基本概念を説明する。中間部分はマルクス経済学の基本分析方法を理解する。それらを通じて受講者は、資本主義の本質・資本主義社会の根本的な矛盾を正確に把握することができるはずである。講義の後半では、マルクス経済学の方法を用いて現実社会を実際に分析する。世界的に拡大する格差、AIと資本主義、資本主義をベースとする日本経済、さらにマルクス経済学を基礎とした社会主義国家である中国の発展経路を考察する。それにより、資本主義社会と社会主義社会の根本的な違いを理解する。

【学習目標】

- ・マルクス経済学の基本概念について、古典派経済学と近代経済学との違いを踏まえて、説明することができるようになる。
- ・資本主義社会の本質、基本矛盾、それと社会主義の違いなどについて、説明することができるようになる。
- ・マルクス経済学の研究対象、分析方法を説明することができるようになる
- ・マルクス経済学の方法論を用いて、現代資本主義社会における諸問題を解決するにあたってのセカンド・オピニオンを持ち、自身の意見を展開することができるようになる。

【講義計画】

- 第1回：なぜ今マルクス経済学か？
- 第2回：経済学の発展 ①古典派経済学からマルクス経済学へ
- 第3回：経済学の発展 ②マルクス経済学から近代経済学へ
- 第4回：マルクス経済学の研究対象とは？
- 第5回：商品と貨幣
- 第6回：市場経済と資本主義経済の形成
- 第7回：資本と剰余価値
- 第8回：資本と剰余価値
- 第9回：資本主義経済の一般的運動法則——資本蓄積過程
- 第10回：資本主義経済の一般的運動法則——資本蓄積過程
- 第11回：資本の流通過程：資本の諸変態とそれらの循環
- 第12回：資本の流通過程：資本の回転
- 第13回：資本の流通過程：社会的資本の再生産 単純再生産と拡大再生産
- 第14回：資本と剰余価値の現れ方
- 第15回：資本と剰余価値の現れ方
- 第16回：資本と剰余価値の現れ方（資本主義社会の国民所得と階級構造）
- 第17回：資本主義経済における搾取と蓄積のあり方の変遷
- 第18回：独占資本主義の形成と発展
- 第19回：グローバル資本主義と景気循環論
- 第20回：グローバル資本主義と景気循環論
- 第21回：戦後資本主義世界の危機の構造
- 第22回：マルクス経済学の方法と現代社会
- 第23回：マルクス経済学の方法で社会を見る：世界的格差拡大を如何に読み取るか？
- 第24回：マルクス経済学の方法で社会を見る：世界的格差拡大を如何に読み取るか？
- 第25回：マルクス経済学の方法で社会を見る：AIと資本主義社会
- 第26回：マルクス経済学の方法で社会を見る：AIと資本主義社会
- 第27回：マルクス経済学の方法で社会を見る：1990年代以後の日本経済における構造的危機
- 第28回：マルクス経済学の方法で社会を見る：中国経済成長におけるマルクス経済学
- 第29回：マルクス経済学の方法で社会を見る：中国経済成長におけるマルクス経済学
- 第30回：今後のマルクス経済学

【事前および事後学習の指示】

授業時間以外の予習としては、授業で取り上げる内容への理解力を高めるため、事前に配布した資料を読んでおくこと。さらに、授業計画にそって事前に配る主要専門用語の課題学習を提出すること。それらを通じて、講義へ意識を向けられるようになること。授業時間内においては、授業の最初の10分間で前回講義の内容を復習すること。また、授業終了前の15分、講義の内容の理解度を確認するため、レポートや小テストを実施し、その成果を再確認する。最後に、授業終了後は、講義の内容を復習し、次の講義に備えること。

【テキスト】

【参考文献】

- 伊藤誠 (2016) 「マルクス経済学の方法と現代社会」 桜井書店  
大西広 (2015) 「マルクス経済学」 慶應義塾大学出版社  
カールマルクス (著)、エンゲルス (編) 向坂逸郎 (翻訳) (1969) 「資本論」 岩波書店  
延近充 (2015) 「21世紀マルクス経済学」 慶應義塾大学出版社  
松尾匡 (2010) 「マルクス経済学 図解雑学シリーズ」 ナツメ社  
ヨハン・モスト原著；カールマルクス 加筆・改訂；大谷慎之介訳 (2009) 「マルクス自身の手による資本論入門」

【コメント】

【成績評価の方法】  
試験：90% レポート：0% その他：10%  
備考 試験は授業内で小テストを3回実施する (各30%)。  
授業を4回以上欠席した場合は、成績評価の対象外とする。  
その他：出席、講義への取り組み姿勢

【留意事項】

講義名称	曜日
経済原論 01 (通期)	月 1

【教員名称】  
大澤 健

【講義概要】

私たちが暮しているのは「市場経済」あるいは「資本主義」と言われる社会です。経済学は、この社会の仕組みをを考える学問です。現在、「グローバル化」という現象が進行する中で、「市場経済」、「資本主義社会」が世界を覆い尽くそうとしています。この講義では、世界に広がる「市場」や「資本」の基本的な性質を解説しながら、われわれの社会の基本的な仕組みをより深く学ぶことを目指しています。

【学習目標】

「市場」「貨幣」「資本」といったわれわれの社会の基本的なキーワードの意味を理解するとともに、資本主義社会がどのような性格をもち、どのように運動していくのかといった経済の基盤となる知識の習得を目標としている。また、こうした基本的な範疇を用いて、身の回りの経済現象を論理的に理解することができるようになることを目指しています。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンスおよび入門となる演習問題
- 第2回：1. 市場経済の仕組み 「市場経済」とは何か。
- 第3回：市場の特性 (1) 市場の原則—自由および平等の意味
- 第4回：市場の特性 (2) 価格を通じた需給の自動調整システム
- 第5回：貨幣の諸機能と商品流通 (1) 貨幣とは何か、①価値尺度機能
- 第6回：貨幣の諸機能と商品流通 (2) ②流通手段機能
- 第7回：貨幣の諸機能と商品流通 (3) ③貨幣—蓄積手段、支払手段、世界貨幣
- 第8回：銀行信用と通貨制度 (1) 銀行信用と信用通貨のメカニズム
- 第9回：銀行信用と通貨制度 (2) 中央銀行制度
- 第10回：銀行信用と通貨制度 (3) 国際的通貨制度—金本位制からドル本位制へ
- 第11回：銀行信用と通貨制度 (4) 管理通貨制度
- 第12回：2. 資本の生産過程 資本の定義とその意味 (1) 貨幣の資本への転化
- 第13回：資本の定義とその意味 (2) 価値増殖のメカニズム
- 第14回：資本主義的生産の諸特徴 (1) 利潤追求とその意味
- 第15回：資本主義的生産の諸特徴 (2) 絶えざる生産の拡大
- 第16回：資本主義的生産の諸特徴 (3) 資本主義的生産の基本的矛盾
- 第17回：資本主義的生産の諸特徴 (4) 不況と資本主義
- 第18回：相対的剰余価値の生産 (1) その概念と発生仕組み
- 第19回：相対的剰余価値の生産 (2) 相対的剰余価値に示される資本主義の特徴
- 第20回：相対的剰余価値の生産 (3) 資本主義とイノベーション
- 第21回：相対的剰余価値の生産 (4) 生産性の上昇と賃金利潤関係
- 第22回：資本の蓄積 (1) 資本主義の蓄積の一般的法則
- 第23回：資本の蓄積 (2) 相対的過剰人口の累積的生産
- 第24回：資本の蓄積 (3) 相対的過剰人口の諸形態
- 第25回：3. 資本主義の全体像 資本循環の3局面
- 第26回：資本の運動と4つの市場
- 第27回：産業革命と帝国主義
- 第28回：戦後の世界と国家的資本主義
- 第29回：グローバル化の進展と21世紀の資本主義
- 第30回：まとめとふりかえり

【事前および事後学習の指示】

経済学の基本的な部分を講義するので、話はかなり抽象的です。経済の具体的な動きを知っていると聞きやすくなるので、新聞やニュースなどで経済に関する知識をなるべく増やしておいてください。

【テキスト】

- 政治経済学の再生 柴田信也編著  
9784883521838 創風社

【参考文献】

- カール・マルクス『資本論』、岩波文庫

【コメント】

講義中に何度か講義に関する演習問題を課し、それを加点要素として考慮する。これを提出していないからと言って減点することはない。

【留意事項】

講義名称	曜時
経済数学Ⅰ（春）	水3

**【教員名称】**

二替 大輔

**【講義概要】**

本講義では、ミクロ経済学やマクロ経済学および応用科目における理論的分析でよく用いられる分野から、1変数関数の微分と最適化について学んでいきます。講義では、毎回演習問題を解いてもらい、知識の習得を確実にします。

**【学習目標】**

経済分析を行うための数学の基本的な知識を習得する。  
1変数関数の微分および最適化問題を解くことができるようになる。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス・経済学における数学の使用
- 第2回：1次関数とそのグラフ
- 第3回：2次関数とそのグラフ
- 第4回：指数関数と対数関数
- 第5回：微分係数と導関数
- 第6回：微分の基本公式(1)
- 第7回：微分の基本公式(2)
- 第8回：微分の基本公式の使い方
- 第9回：前半のまとめと中間試験
- 第10回：合成関数の微分
- 第11回：高階導関数
- 第12回：1変数関数の最適化問題(1)
- 第13回：1変数関数の最適化問題(2)
- 第14回：1変数関数の最適化問題の経済学への応用
- 第15回：後半のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

講義内容の復習及び問題演習の復習を毎回必ず行ってください。

**【テキスト】**

経済学を学ぶためのはじめての微分法 浦田健二・神谷諭一・古屋核  
9784495440923 同文館出版

**【参考文献】**

石村園子「やさしく学べる基礎数学」, 共立出版株式会社, 2001年  
A. C. チャン・K. ウエインライト「現代経済学の数学基礎 [第4版] (上)」, シーエーピー出版, 2010

**【コメント】**

中間試験(40%)と期末試験(40%)および講義中に課す課題(20%)で評価します。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
経済政策Ⅰ（春）	火2

**【教員名称】**

吉弘 憲介

**【講義概要】**

経済政策Ⅰでは、現代における政府構造、その歴史的な形成過程、主たる機能、各国の違いなどについて学ぶ。特に、多くの先進諸国が「福祉国家」という国家形態をとる中で、それがどのように形作られ、いかなる機能を持ち、我々が暮らすこの日本においてはそれがどんな姿をしているのか(していたのか)を学ぶ。また、近年、経済活動がグローバル化する中で「福祉国家」の在り方が揺らいでいることを学んでいく。

**【学習目標】**

各国における社会経済制度についての知識と、その背景にある経済学の思想・理論の習得を目指す。具体的には、関係するテーマを扱った新聞・雑誌記事などを理解することが可能にする。また、就職活動における時事問題、面接時の問題意識発表などに役立つ知識の習得を目指す。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス:講義内容のガイダンスを行う。
- 第2回：政府の機能(1):なぜ、政府は経済に介入するのか?  
公共財の理論について学ぶ
- 第3回：政府の機能(2):政府はどのように経済に介入するのか?  
所得再分配の実態と理論について学ぶ
- 第4回：政府の機能(3):政府はいつ経済に介入するのか?  
景気安定化について学ぶ
- 第5回：福祉国家の成立と変化
- 第6回：福祉レジーム論について
- 第7回：日本の福祉制度における税と社会保険料の機能
- 第8回：年金の仕組みと財政
- 第9回：医療保障の財政
- 第10回：生活保護制度の財政
- 第11回：ドイツの福祉財政
- 第12回：スウェーデンの福祉財政
- 第13回：アメリカの福祉財政
- 第14回：福祉国家を巡る展開
- 第15回：講義のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

宿題等を通じて、事前事後学習を義務付ける。

**【テキスト】**

福祉財政(福祉+ $\alpha$ シリーズ) 高端正幸編著  
ミネルヴァ書房 2018年9月刊

**【参考文献】**

**【コメント】**

講義中に行う小レポートを通じてレポートを評価する。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
経済政策Ⅱ (春)	金 1

**【教員名称】**

吉弘 憲介

**【講義概要】**

経済政策Ⅰでは、福祉国家という現代社会における国家と経済の関係について学んだ。Ⅱでは、これを前提に日本と世界の経済社会の姿をより詳細に学んでいく。具体的には、日本及び先進国が直面する種々の経済・社会的課題を幅広く学び、その根底にある持続可能性(SDGs)について検討と理解を深めていく。個別のテーマとしては、少子高齢化とこれに伴う財政と社会の持続可能性、また、個人における経済的リスクの質的变化による統治の不能に関する問題を取り扱う。

**【学習目標】**

2000年代以降の日本で進行する経済・社会問題についての知識を得る。また、新聞などを取り入れ、就職活動や社会人となった時に必要とされる知識を貯え、それぞれの問題について自分の力で何らかの意見を出せる力を養うことを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：人口減少の衝撃
- 第3回：空き屋と経済の関係
- 第4回：劣化するインフラと財政問題
- 第5回：インフラ問題の構造と都市の考え方
- 第6回：高齢化問題と介護財政
- 第7回：高齢化問題と年金財政
- 第8回：日本財政の持続可能性
- 第9回：いかなる税制度を構築すべきか
- 第10回：移住定住政策と地域競争
- 第11回：移住定住について映像視聴か講師による講義
- 第12回：古いリスクと新しい社会的リスク
- 第13回：格差は世界を飲み込むか
- 第14回：講義振り返り
- 第15回：まとめと試験について

**【事前および事後学習の指示】**

宿題を通じて、学習時間の確保を義務付ける。

**【テキスト】**

現代社会資本論 森裕之編著  
有斐閣 2020年6月刊行予定

**【参考文献】**

**【コメント】**

講義時間中に、グループワークや個人報告によってレポート分の評価を行う。実施については講義中に指示するとともに、事前に時期をアナウンスしない。

**【留意事項】**

地域政策シンクタンク職員の経験から、実際の政策運営に絡めて講義を行う。

講義名称	曜日
経済成長論Ⅰ (春)	金 1

**【教員名称】**

上ノ山 賢一

**【講義概要】**

この講義では、経済成長の仕組みや要因について学習します。一国の経済が発展し成長する要因には、人口や資本の多さ、技術水準などがあります。これらの要因がどのように互いに組み合わさり、マクロ経済が拡大していくのかを理解します。

**【学習目標】**

- (1) 経済成長モデルの基礎を習得する。
- (2) 成長モデルを基に途上国が発展していくために必要な制度やシステムについて議論出来るようになる。
- (3) 時事問題を考察する際に、経済成長に関する考え方を応用することが出来る。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス:授業の進め方や成績評価に関する説明
- 第2回：経済成長の概略:データから見るトレンド
- 第3回：成長モデルとその特徴
- 第4回：新古典派経済学のマクロ経済
- 第5回：ソローモデル(1)財市場均衡
- 第6回：ソローモデル(2)生産関数の特徴
- 第7回：ソローモデル(3)資本蓄積のメカニズム
- 第8回：ソローモデル(4)経済成長経路
- 第9回：ソローモデル(5)経済成長の要因
- 第10回：ソローモデル(6)ソローモデルの限界
- 第11回：ラムゼーモデル:家計の効用最大化
- 第12回：内生成長モデル(1):研究開発モデル
- 第13回：内生成長モデル(2):製品の品質と多様性
- 第14回：内生成長モデル(3):成長論の課題
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

この講義は、ミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎の授業を履修中または履修済みである学生の受講を想定しています。また、基本的な微分を用いた数式の展開を授業で行いますので、数学が苦手な学生は予習・復習を十分しておく必要があります。毎回の授業の内容は連続していますから、事前学習として参考資料とシラバスの確認、事後学習として練習問題を解くようにして下さい。積極的な学生の受講を歓迎します。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久「マクロ経済学」(2016)有斐閣

**【コメント】**

- ①学期末試験では、到達目標を踏まえた記述問題を出題します。成長モデルの構造や経済成長に必要な制度的要因について論理的に説明できているかについて評価します。
- ②授業では全体で5回程度の練習問題を出題します。数式の整理や式の展開、成長率の計算などが正確に出来ているかについて確認します。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
経済地理学Ⅰ〈春〉	金 3

**【教員名称】**

安倉 良二

**【講義概要】**

「産業立地に関する地理学的アプローチ第1・2次産業を中心にー」  
 経済事象を理解する場合、それが「どこで起こっているのか」、という空間と関連づけた考察が求められる。本講義では、第1～3次の各産業における立地に焦点を当て、その発生要因や背景にも踏み込んだ講義を行う。そのうち、前期は表題にある第1次産業、第2次産業に焦点を当てて講義する。なお、第3次産業に関するトピックは後期の「経済地理学Ⅱ」で取り上げるので並行履修を薦める。

**【学習目標】**

本講義では、可能な限り、レジュメに地図や図表、写真を活用して経済事象に関する地理学的な見方を身につけてもらうことを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回：講義の進め方に関するガイダンス
- 第2回：農業(1)：日本における農政の変化と地域構造ー米問題を中心にー
- 第3回：農業(2)：輸入農産物の増加と食料需給の問題
- 第4回：農業(3)：都市農業の展開
- 第5回：農山村の変容(1)：過疎化の進展と限界集落
- 第6回：農山村の変容(2)：地域振興(むらおこし)と農村空間の商品化
- 第7回：林業ー林野資源の活用をめぐる問題ー
- 第8回：漁業ー水産資源の活用をめぐる諸問題ー
- 第9回：自動車工業の立地再編
- 第10回：電気・電子機械工業の立地再編
- 第11回：ウェーバーの工業立地論
- 第12回：企業城下町の変容
- 第13回：中小製造業(地場産業)の産地変容
- 第14回：エネルギー問題(1)：石油・石炭
- 第15回：エネルギー問題(2)：電力

**【事前および事後学習の指示】**

この分野を取り巻く環境は著しく変化している。したがって、これらの問題に関するニュースを新聞やテレビ、インターネットで日常的に収集することが、講義で取り上げるテーマの背景となる知識として役立つはずである。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

1. 竹内淳彦・小田宏信編(2014)：『日本経済地理読本(第9版)』東洋経済新報社
  2. 松原 宏編(2013)：『現代の立地論』古今書院
  3. 経済地理学会編(2018)：『キーワードで読む経済地理学』原書房
- これらの文献のみならず、高校地理の資料集もレジュメに積極的に引用するつもりである。

**【コメント】**

期末試験に加えて、講義終了10～15分前に書いてもらうコメントペーパーの内容(問題への関心)も評価する。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
原価計算システム〈春〉	月 4

**【教員名称】**

濱村 純平

**【講義概要】**

この講義では、主に製造業でもちいられる原価計算の仕組みについて解説する。谷(2012)『エッセンシャル原価計算』(中央経済社)をもちいて実際に企業が財務報告に用いる原価計算について解説する。  
 なお、講義内ではみなさんに計算問題を解いてもらって、前に出てもらって解答してもらおうと考えています。

**【学習目標】**

- ・実際に製造業で用いられている原価計算システムがどのように計算されているについて理解する。
- ・各原価計算システムのメリットとデメリットについて知る
- ・総合原価計算と個別原価ができるようにする。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス及び原価計算の基礎・他の分野との関わり
- 第2回：原価計算の意義
- 第3回：原価の概念
- 第4回：原価の費目別計算①材料費の計算
- 第5回：原価の費目別計算②労務費と経費の計算
- 第6回：原価の部門別計算
- 第7回：これまでの復習及び中間試験
- 第8回：単純総合原価計算①総合原価計算とは
- 第9回：単純総合原価計算②仕損品と減損
- 第10回：工程別原価計算
- 第11回：組別総合原価計算①組別総合原価計算の利点と組固定費・組変動費
- 第12回：組別総合原価計算②組別総合原価計算の計算方法
- 第13回：個別原価計算①製造指図書と個別原価計算の種類
- 第14回：個別原価計算②部門別原価計算の計算方法
- 第15回：講義のまとめおよび期末試験

**【事前および事後学習の指示】**

必要に応じて適宜解説するので事前に財務会計について習得しておく必要はありませんが、学習しておくとういことです。計算が中心になるのでテキストや参考文献の練習問題について、なぜそのような計算になるのかを考えながら実際に手を動かして復習してください。試験では実際に計算問題が出るので、これらを解けるようにする必要があります。

**【テキスト】**

エッセンシャル原価計算 谷武幸  
 978-4502450006 中央経済社

**【参考文献】**

タイトル：インサイト原価計算  
 著者：加登豊  
 出版社：中央経済社  
 I S B N:978-4502286704

**【コメント】**

中間試験と期末試験で合わせて80点(40:40)です。レポートを提出しない場合には単位認定できません。また、公欠を含む欠席(就職活動や電車の遅延など)に対して特別の配慮はしませんので気を付けてください。  
 加えて、講義中に前に出てきて解答してもらいます。これについては加点しますし、欠席していた場合は減点します。  
 この講義では私語は慎んでください。私語がひどい場合には減点します。もちろん、質問は歓迎します。  
 また、必ず電卓を持ってきてください。この講義ではスマートフォンの使用を禁止します。必ず手を動かしてください。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
健康・スポーツ科学講義－コーチング論 〈春〉	火 1

**【教員名称】**

松本 直也

**【講義概要】**

本講義では、スポーツ現場におけるスポーツコーチに焦点を当てながら、スポーツの歴史、日本のスポーツ環境の問題点について理解を深め、スポーツコーチの役割について学習します。また、生涯スポーツと健康などスポーツを取り巻く様々な環境について考察を深めます。

**【学習目標】**

本講義では、高度に発達した現代社会に対応できるよう、幅広い知識と多面的な思考の方法を身につけるために、体育・スポーツ指導におけるコーチングの基本理論と実践について理解を深めることを目的とします。スポーツコーチの仕事について理解を深めるためにコーチの哲学や役割について、文献だけでなく実際の現場の視点からアプローチしていきます。また、パワーポイントを中心に授業を展開し、VTR映像、新聞資料等からコーチングに関わる様々な問題を取り上げます。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス……授業計画の説明
- 第2回：スポーツについて考える
- 第3回：近代スポーツの成立
- 第4回：スポーツの伝播
- 第5回：日本的スポーツ観①
- 第6回：日本的スポーツ観②
- 第7回：日本的スポーツ観③
- 第8回：諸外国のスポーツ環境
- 第9回：スポーツコーチングについて考える
- 第10回：スポーツコーチの役割①  
～コーチングスタイル～
- 第11回：スポーツコーチの役割②  
～コーチングとリーダーシップ～
- 第12回：スポーツコーチの役割③  
～スポーツ科学と情報分析～
- 第13回：スポーツコーチの役割④  
～医科学～
- 第14回：スポーツコーチの役割⑤  
～メンタルトレーニング～
- 第15回：試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

授業の予習・復習の他、授業で配布するプリント、資料等に目を通してから受講すること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- ・「知的コーチングのすすめ」勝田隆著 大修館書店
- ・「コーチング学への招待」日本コーチング学会編 大修館書店
- ・「スポーツ・コーチング学」レイナー・マートン著 西村書店

**【コメント】**

- ①学期末試験において、到達目標に関する問題を出題する。
- ② A4、1枚程度のレポート課題を授業中に2回課す。授業内容を踏まえて自身の考えを論理的に述べているかどうか重点を置いて評価する。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
健康・スポーツ科学講義－身体の文化史 〈春〉	月 5

**【教員名称】**

大野 哲也

**【講義概要】**

本講義では、昨今の健康ブームを鑑み、「健康」と密接な関係がある「スポーツ」に焦点化し、さまざまな事象を考察しながら、私たちのより良き生活を展望する。「健康」と「スポーツ」を社会的観点から捉え直しながら、現代社会における健康とスポーツの新たな可能性を追求していく。

**【学習目標】**

1. 個人的な事柄だと思われがちな「健康」が、実は社会的な事柄であることを理解し、その視点から自らの生を見直すことができる態度を養う。
2. 他者を思いやる態度を養い、より良い社会を構築していく深い考察力と行動力を身につける。

**【講義計画】**

- 第1回：講義の概要の説明 成績評価の説明 諸注意について  
「健康」と「スポーツ」について考えることの社会的意味と意義について考える
  - 第2回：脳死と臓器移植について考える
  - 第3回：認識 色と模様の文化史
  - 第4回：病氣と治療
  - 第5回：私の命は誰のものか
  - 第6回：空飛ぶ白身魚
  - 第7回：貧困の再生産
  - 第8回：スポーツとは何か
  - 第9回：オフサイドはなぜ反則か
  - 第10回：性とスポーツ
  - 第11回：ボランティアとスポーツ
  - 第12回：ダイエットの社会史
  - 第13回：人種と民族
  - 第14回：まとめ 健康編
  - 第15回：まとめ スポーツ編
- 21世紀の「健康」と「スポーツ」を展望する

**【事前および事後学習の指示】**

事前学習30時間。事後学習30時間。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

今泉隆裕・大野哲也編『スポーツをひらく社会学 歴史・メディア・グローバリゼーション』嵯峨野書院。

**【コメント】**

- ①学期末試験において到達目標に対応するテーマに関する穴埋め問題を出題する。
- ②到達目標に対応するレポート(A4で2枚程度)を1回課す。

**【留意事項】**

- ・1986年4月から1992年3月まで 中学校教諭。1988年4月から1990年4月まで青年海外協力隊。1993年5月から1998年5月まで自転車世界一周。これらの経験をもとにして講義をすすめる。
- ・状況に応じて、授業で扱う項目を調整したり、順序を入れ替えたりする場合があります。

講義名称	曜日
健康・スポーツ科学講義-体カトレーニング論 01〈春〉	水 1

**【教員名称】**

井口 祐貴

**【講義概要】**

本講義では、体力の概念、トレーニング法の原理原則や具体的な実践方法について学び、体カトレーニングの基礎的な理論について学びます。パワーポイントを中心に授業を展開し、映像資料なども用いて、体カトレーニングに関わる実践現場の視点からもアプローチしていきます。

**【学習目標】**

本講義では、スポーツ科学に基づいた体カトレーニングにおける基礎的な理論と実践について理解を深め、それらを活かして安全かつ適切に自己の体力向上・健康づくりへと実践できる教養を身につけることを目指します。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス（授業計画の概略説明）
- 第2回：体カトレーニングについて考える
- 第3回：トレーニングの原理・原則
- 第4回：運動とエネルギー代謝
- 第5回：有酸素運動
- 第6回：レジスタンストレーニング
- 第7回：体カトレーニングの実践方法
- 第8回：運動と栄養
- 第9回：スポーツ競技者と体カトレーニング
- 第10回：障がい者と体カトレーニング
- 第11回：発育発達と体カトレーニング
- 第12回：高齢者と体カトレーニング
- 第13回：体カトレーニングと性差
- 第14回：生活習慣病とその予防
- 第15回：試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

授業の予習・復習の他、授業で配布するプリント、資料等に目を通してから受講すること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 「公認スポーツ指導者養成テキスト」公益財団法人 日本スポーツ協会
- 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト」公益財団法人 日本スポーツ協会
- 「トレーニング指導者テキスト（理論編・実践編・実技編）」NPO 法人 日本トレーニング指導者協会

**【コメント】**

- (1) 学期末試験において、到達目標に関する問題を出題する。
- (2) A4、1枚程度のレポート課題を授業中に2回課す。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
言語学概論 A 〈春〉	木 3

**【教員名称】**

西岡 武彦

**【講義概要】**

認知と言語の問題を最新の研究を紹介しながら考察していきます。その際英文の論文を読むことも求められます。ただ講義を聞くだけでなく理解度を測るため毎回テストを行いますから、きちんと復習をしてテストにのぞんで下さい。何も準備をしないで受けて点数が取れるものではありませんからそのつもりで臨んで下さい。テストでは不正行為をしたものは単位を与えないだけでなく厳しい措置を講じます。また2回のレポートを課します。2回とも期日までに提出しなければ単位を与えませんから注意して下さい。

**【学習目標】**

言語使用の実際的な側面に光を当てて、言語の面白さを理解することを目標にします。

**【講義計画】**

第1回：【受講にあたっての注意】

1. 授業中にスマートフォンを机の上に置いたり、使用したり、鳴らしたりした場合はその時点で単位を与えません。1回目は大目に見るということは一切しませんから注意して下さい。
2. 毎回テストを行います。テスト配布時点でその場にいない受講生はそのテストを受験することはできません。
3. 欠席は3回までは認めますが、4回以上の欠席はいかなる理由があろうと単位を与えません。

講義内容と進め方についての説明を行います。

- 第2回：第1回  
認知と言語 研究史の回顧
- 第3回：第2回  
認知と言語 研究の最新の潮流を考察する(1)
- 第4回：第3回  
認知と言語 研究の最新の潮流を考察する(2)
- 第5回：第4回  
認知と言語 研究の最新の潮流を考察する(3)
- 第6回：第5回  
認知と言語 研究の最新の潮流を考察する(4)
- 第7回：第6回  
認知と言語 研究の最新の潮流を考察する(5)
- 第8回：第7回  
認知と言語 研究の最新の潮流を考察する(6)
- 第9回：第8回  
認知と言語 研究の最新の潮流を考察する(7)
- 第10回：第9回  
認知と言語 研究の最新の潮流を考察する(8)
- 第11回：第10回  
認知と言語 研究の最新の潮流を考察する(9)
- 第12回：第11回  
認知と言語 研究の最新の潮流を考察する(10)
- 第13回：第12回  
認知と言語 研究の最新の潮流を考察する(11)
- 第14回：第13回  
認知と言語 研究の最新の潮流を考察する(12)
- 第15回：第14回  
認知と言語 研究の最新の潮流を考察する(13)

**【事前および事後学習の指示】**

テストに備えて学習したことは必ず復習して下さい。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

適宜、授業中に案内します。

**【コメント】**

試験は毎回のテストの点数を平均したもの、レポートは2回提出したものの合計、その他出席等の点数を総合したもので評価を行います。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
言語学概論 B (春)	木 4

**【教員名称】**

西岡 武彦

**【講義概要】**

言語と比喩の問題を最新の研究を紹介しながら考察していきます。その際英文の論文を読むことも求められます。ただ講義を聞くだけでなく理解度を測るため毎回テストを行いますから、きちんと復習をしてテストにのぞんで下さい。何も準備をしないで受けて点数が取れるものではありませんからそのつもりで臨んで下さい。テストでは不正行為をしたものは単位を与えないだけでなく厳しい措置を講じます。また2回のレポートを課します。2回とも期日までに提出しなければ単位を与えませんから注意して下さい。

**【学習目標】**

日常生活でいかに比喩を用いて生活しているのかを考え、言語の面白さを理解することを目標にします。

**【講義計画】**

第1回：【受講にあたっての注意】

1. 授業中にスマートフォンを机の上に置いたり、使用したり、鳴らしたりした場合はその時点で単位を与えません。1回目は大目に見るといことは一切しませんが注意して下さい。
2. 毎回テストを行います。テスト配布時点でその場にいない受講生はそのテストを受験することはできません。
3. 欠席は3回までは認めますが、4回以上の欠席はいかなる理由があろうと単位を与えません。

授業の内容や進め方の説明をします。

- 第2回：第1回  
言語使用と比喩(1)
- 第3回：第2回  
言語使用と比喩(2)
- 第4回：第3回  
言語使用と比喩(3)
- 第5回：第4回  
言語使用と比喩(4)
- 第6回：第5回  
言語使用と比喩(5)
- 第7回：第6回  
言語使用と比喩(6)
- 第8回：第7回  
言語使用と比喩(7)
- 第9回：第8回  
言語使用と比喩(8)
- 第10回：第9回  
言語使用と比喩(9)
- 第11回：第10回  
言語使用と比喩(10)
- 第12回：第11回  
言語使用と比喩(11)
- 第13回：第12回  
言語使用と比喩(12)
- 第14回：第13回  
言語使用と比喩(13)
- 第15回：第14回  
言語使用と比喩(14)

**【事前および事後学習の指示】**

テストに備えて学習したことを復習して下さい。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

適宜、授業中に案内します。

**【コメント】**

試験は毎回のテストの点数を平均したもの、レポートは2回提出したものの合計、その他出席等の点数を総合したもので評価を行います。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
現代英語圏文化の諸問題－フィクションと社会 A (春)	火 2

**【教員名称】**

谷山 智彦

**【講義概要】**

「小説」は基本的には想像の産物であり、創作物である。いわばフィクションであるが、その背景には多くの場合、創作された時代の社会の「空気」や「社会問題」がある。本講義では、「小説」と作家を通して、異文化である英語圏が現代にいたるまで抱えてきた社会諸問題を概観する。ここでは男性作家を主として扱う。

**【学習目標】**

英語圏の中でも特に、英国の小説家の作品を中心に取り上げ、読んでいく。英語圏社会が現在に至るまで抱えてきた男女両性の不平等や経済格差、異文化との対立などの諸問題に触れることで、より異文化への理解を深めるものとする。また、部分的に英語原典にも触れ、英語力も養成するものとする。

**【講義計画】**

- 第1回：初回オリエンテーション、授業の流れや成績評価について  
英語圏の小説の始まりについて  
18世紀の小説  
ダニエル・デフォー「ロビンソン・クルーソー」
- 第2回：ダニエル・デフォー「ロビンソン・クルーソー」
- 第3回：18世紀の小説  
ジョナサン・スウィフト「ガリバー旅行記」
- 第4回：ジョナサン・スウィフト「ガリバー旅行記」
- 第5回：19世紀の小説  
チャールズ・ディケンズ「オリバー・ツイスト」
- 第6回：チャールズ・ディケンズ「オリバー・ツイスト」
- 第7回：19世紀の小説  
トマス・ハーディ「テス」
- 第8回：トマス・ハーディ「テス」
- 第9回：20世紀の小説  
ジョセフ・コンラッド「闇の奥」
- 第10回：ジョセフ・コンラッド「闇の奥」
- 第11回：20世紀の小説  
ジョージ・オーウェル「動物農場」
- 第12回：ジョージ・オーウェル「動物農場」
- 第13回：20世紀の小説  
ジョージ・オーウェル「1984」
- 第14回：ジョージ・オーウェル「1984」
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

ある程度小説の内容は授業内で概説するが、授業で扱う物語の概要を事前に簡単に把握しておくことが望ましい。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

石塚久郎 責任編集「イギリス文学入門」三修社 2014年

**【コメント】**

主な成績評価は学期末の試験と授業内で課題として課すレポートの二つによって行う。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
現代英語圏文化の諸問題－フィクションと社会B〈春〉	金 2

**【教員名称】**

谷山 智彦

**【講義概要】**

「小説」は基本的には想像の産物であり、創作物である。いわばフィクションであるが、その背景には多くの場合、創作された時代の社会的「空気」や「社会問題」がある。本講義では、「小説」と作家を通して、異文化である英語圏が現代にいたるまで抱えてきた社会諸問題を概観する。ここでは女性作家を主として扱う。

**【学習目標】**

英語圏の中でも特に、英国の小説家の作品を中心に取り上げ、読んでいく。英語圏社会が現在に至るまで抱えてきた男女両性の不平等や経済格差、異文化との対立などの諸問題に触れることで、より異文化への理解を深めるものとする。また、部分的に英語原典にも触れ、英語力も養成するものとする。

**【講義計画】**

- 第1回：初回オリエンテーション、授業の流れや成績評価について  
英語圏の小説の始まりについて、女性作家について  
18世紀～19世紀初期の小説  
ジェイン・オースティン「高慢と偏見」
- 第2回：ジェイン・オースティン「高慢と偏見」
- 第3回：18世紀～19世紀初期の小説  
メアリ・シェリー「フランケンシュタイン」
- 第4回：18世紀～19世紀初期の小説  
メアリ・シェリー「フランケンシュタイン」
- 第5回：19世紀の小説  
ブロンテ姉妹：シャーロット・ブロンテ「ジェイン・エア」
- 第6回：19世紀の小説  
ブロンテ姉妹：シャーロット・ブロンテ「ジェイン・エア」
- 第7回：19世紀の小説  
ブロンテ姉妹：シャーロット・ブロンテ「ジェイン・エア」
- 第8回：19世紀の小説  
ブロンテ姉妹：エミリー・ブロンテ「嵐が丘」
- 第9回：19世紀の小説  
ブロンテ姉妹：エミリー・ブロンテ「嵐が丘」
- 第10回：20世紀の小説  
ヴァージニア・ウルフ「オーランド」
- 第11回：20世紀の小説  
ヴァージニア・ウルフ「オーランド」
- 第12回：20世紀の小説  
ヴァージニア・ウルフ「オーランド」
- 第13回：ヴァージニア・ウルフ「自分だけの部屋」
- 第14回：ヴァージニア・ウルフ「自分だけの部屋」
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

ある程度小説の内容は授業内で概説するが、授業で扱う物語の概要を事前に簡単に把握しておくことが望ましい。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

石塚久郎 責任編集『イギリス文学入門』三修社 2014年

**【コメント】**

主な成績評価は学期末の試験と授業内で課題として課すレポートの二つによって行う。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
憲法 A 01〈春〉	月 1

**【教員名称】**

森口 佳樹

**【講義概要】**

憲法の基本的内容について解説する。憲法規定の内容を理解したうえで、それをめぐる学説・判例について紹介・検討することとする。憲法 A では、人権規定を中心に講義する。

**【学習目標】**

憲法規定について、自らが主体的に説明できる能力を身につけてもらうことを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション、憲法総説
- 第2回：基本的人権の主体
- 第3回：人権と公共の福祉
- 第4回：人権規定の効力
- 第5回：幸福追求権の意義
- 第6回：新しい人権の具体化
- 第7回：平等の意義
- 第8回：平等権をめぐる判例
- 第9回：思想・良心の自由
- 第10回：信教の自由
- 第11回：表現の自由
- 第12回：表現の自由をめぐる判例
- 第13回：学問の自由
- 第14回：経済的自由権
- 第15回：身体的自由権

**【事前および事後学習の指示】**

講義中に指定する判例については、よく復習しておくこと。

**【テキスト】**

ワンステップ憲法 森口佳樹他  
978-4-7823-0546-1 嵯峨野書院

**【参考文献】**

別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ 第7版」(有斐閣)

**【コメント】**

受講生数によるが、基本的には定期試験を主たる評価の対象とする。補助的に小テストを行い、補充的な成績評価の対象とする。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
憲法A 02〈春〉	月2

**【教員名称】**

森口 佳樹

**【講義概要】**

憲法の基本的内容について解説する。憲法規定の内容を理解したうえで、それをめぐる学説・判例について紹介・検討することとする。憲法Aでは、人権規定を中心に講義する。

**【学習目標】**

憲法規定について、自らが主体的に説明できる能力を身につけてもらうことを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション、憲法総説
- 第2回：基本的人権の主体
- 第3回：人権と公共の福祉
- 第4回：人権規定の効力
- 第5回：幸福追求権の意義
- 第6回：新しい人権の具体化
- 第7回：平等の意義
- 第8回：平等権をめぐる判例
- 第9回：思想・良心の自由
- 第10回：信教の自由
- 第11回：表現の自由
- 第12回：表現の自由をめぐる判例
- 第13回：学問の自由
- 第14回：経済的自由権
- 第15回：身体的自由権

**【事前および事後学習の指示】**

講義中に指定する判例については、よく復習しておくこと。

**【テキスト】**

ワンステップ憲法 森口佳樹他  
978-4-7823-0546-1 嵯峨野書院

**【参考文献】**

別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ 第7版」(有斐閣)

**【コメント】**

受講生数によるが、基本的には定期試験を主たる評価の対象とする。補助的に小テストを行い、補充的な成績評価の対象とする。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
憲法・統治機構〈通期〉	水4

**【教員名称】**

前田 徹生

**【講義概要】**

憲法は「自由の学」である。自由な社会を保持できるか否か、ひとえにその社会を構成する市民の憲法的素養に負っているといっても過言ではない。市民社会の基礎的素養として憲法学習は不可欠である。そればかりでなく、司法試験をはじめ、各種公務員試験や資格試験、さらには企業採用における一般教養の試験にいたるまで、社会の基礎法たる憲法は有用性の高い学問である。

憲法は、「基本的人権」と「統治機構」の2つの構成部分からなるが、本講義では、基本的人権に関するものを除き、統治機構と憲法一般について触れることとした。理解を容易にするため、出来得る限り具体的事例を交えて進めてゆきたい。

**【学習目標】**

憲法学の基本理論の習得を目指す。司法試験や公務員試験の基礎をなす、憲法理論を最近の動向を踏まえながら、事例とともに理解し、基礎的法的思考力を身につけることを目標とする。次の三点を学習の目標とする。

- ①日本国憲法の各条文について通説的見解を理解し、立憲主義の原理を習得すること。
- ②憲法判例で重要な判例を理解すること。
- ③法的な思考法を身につける。

**【講義計画】**

- 第1回：科目ガイダンス・憲法とは何か？—立憲主義とは？
- 第2回：日本国憲法成立の歴史—「押しつけ憲法」？
- 第3回：終戦工作と原爆投下—原爆投下はなぜなされたのか？
- 第4回：平和主義(1)—憲法九条の起源
- 第5回：平和主義(2)—憲法九条の意義と解釈
- 第6回：安全保障を考える—コスタリカとフィリッピン
- 第7回：国民主権の原理—国民主権の意味
- 第8回：国民主権と象徴天皇制—天皇の地位と性格
- 第9回：国会(1)—権力の分立と国会の地位と組織
- 第10回：国会(2)—国会の権限と両議院の権能
- 第11回：国会(3)—衆議院の解散
- 第12回：国会(4)—選挙制度
- 第13回：国会(5)—政党
- 第14回：内閣(1)—内閣制度の諸類型と議院内閣制
- 第15回：内閣(2)—内閣の地位と権能
- 第16回：内閣(3)—内閣の権限行使と責任
- 第17回：裁判所(1)—裁判所の組織と権能
- 第18回：裁判所(2)—司法権の観念と限界
- 第19回：裁判所(3)—司法権の独立
- 第20回：裁判所(4)—司法権の民主的統制
- 第21回：財政(1)—財政制度の基本原則
- 第22回：財政(2)—財政制度の諸問題
- 第23回：地方自治(1)—地方自治の意義と地方公共団体の組織・権能
- 第24回：地方自治(2)—地方公共団体の権能と地方住民の権利
- 第25回：憲法訴訟(1)—違憲審査制のあり方と対象
- 第26回：憲法訴訟(2)—憲法判断の方法とその効力
- 第27回：憲法訴訟(3)—立法の合憲性判断の基準
- 第28回：憲法改正—改正の手続きと限界
- 第29回：改憲論の系譜(1)—憲法制定以来の改憲論の動向を探る
- 第30回：改憲論の系譜(2)—実質(解釈)改憲の進展と明文改憲の動向

**【事前および事後学習の指示】**

各講義のテーマにつき、事前に教科書を熟読しておくこと。  
事後に、配布資料等を参考に、それぞれノートにまとめておくこと。

**【テキスト】**

憲法【第六版】 芦部信喜著、高橋和之補訂  
9784000613224 岩波書店

**【参考文献】**

**【コメント】**

春学期・秋学期それぞれ1回づつ論文試験を行う。さらに、それぞれの学期で3回程度出席チェックを行う。論文試験の成績をベースに、それに出席点を加味して最終成績を認定する。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
考古学概論 A 〈春〉	水 4

**【教員名称】**

尾谷 雅彦

**【講義概要】**

講義は考古学を理解するための基礎編として進めます。講義形式で進めますが、わかりやすくするためにパワーポイントやビデオなどビジュアルな資料を使用します。教科書は指定せず必要に応じてプリントを配布します。

**【学習目標】**

考古学という学問を通じて、人類の残した考古資料の時代的変遷を通じて、現代社会ある地域社会の文化を理解する能力をもつ。また、博物館学芸員課程受講者は、考古資料の基礎知識を習得する。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス 考古学とは何か  
講義の進め方、成績評価について説明する。  
考古学の一般的な認識と学問的な位置について。
- 第2回：考古学史  
近世以前の考古学の歩み
- 第3回：考古学の方法 1  
年代を考える(層位論)
- 第4回：考古学の方法 2  
分布論
- 第5回：考古学の方法 3  
考古資料の収集 発掘調査
- 第6回：考古学の方法 4  
考古資料の保存と活用
- 第7回：考古学から歴史を見る 1  
人類の誕生
- 第8回：考古学から歴史を見る 2  
土器、弓矢の出現
- 第9回：考古学から歴史を見る 3  
稲作伝来
- 第10回：考古学から歴史を見る 4  
前方後円墳の出現
- 第11回：考古学から歴史を見る 5  
巨大古墳の築造
- 第12回：考古学から歴史を見る 6  
渡来人の足跡
- 第13回：考古学から歴史を見る 7  
仏教伝来
- 第14回：考古学から歴史を見る 8  
都のくらし
- 第15回：まとめ及び試験

**【事前および事後学習の指示】**

講義前に高校等の日本史の教科書や関係書籍により原始・古代の歴史的背景を理解しておくこと。講義後は参考文献などにより復習し、関連する遺跡や資料館・博物館で出土品などを見学する。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 『佐原真の仕事1 考古学への案内』金崎恕・春成秀彌 岩波書店 2005
- 『考古学通論』近藤義郎 青木書店 2008

**【コメント】**

成績は講義最終日の試験結果と講義への積極的な参加への評価によります。講義への積極的な参加態度を求めます。従って5回以上の欠席者は評価対象としません。講義最終日の試験は受講者が多数の場合は定期試験に振り替えます。

**【留意事項】**

- ・文化財担当職員として実施した発掘調査経験をもとに考古学を講義する。
- ・他大学で非常勤講師として考古学を講義していた経験をもとに講義する。

講義名称	曜時
広報の社会学 05 〈春〉	金 3

**【教員名称】**

木下 浩一

**【講義概要】**

本講義は「広報」に着目し、社会について考察していく。学術的でありつつも、極力、実社会における実践と結びつけて考えていきたい。換言すれば、聴講する皆さんが社会に出てからも有用であろう知識や考え方を包含することを旨とする。メディアの在り方が多様化するなか、「広報」という活動は、会社などの組織にとって重要性を増している。皆さんは、広報活動における「受け手」であるだけでなく、「送り手」となる可能性もあるのだ。なお、ニュースなど時事問題を扱うことが多いため、シラパスの内容は多少前後する可能性があることをこわっておく。

**【学習目標】**

学習目標は、様々な組織の広報活動を「受け手」と「送り手」の双方の立場から理解することである。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：「広報」とは何か:学術において、そして実社会において
- 第3回：広報活動の実際(1):企業の事例
- 第4回：広報活動の実際(2):行政の事例
- 第5回：広報活動の実際(3):もっとも身近な事例としての大学広報
- 第6回：守りの「広報」と攻めの「広報」
- 第7回：広報とメディア(1)
- 第8回：広報とメディア(2)
- 第9回：広報、広告、宣伝(1)
- 第10回：PRとは何か
- 第11回：「広報」というコミュニケーション(1)
- 第12回：「広報」というコミュニケーション(2):広報における「リテラシー」
- 第13回：授業総括
- 第14回：授業内試験
- 第15回：フィードバック

**【事前および事後学習の指示】**

「テストのためではない復習」を推奨する。授業内で面白いと感じた書籍を積極的に読み込むとともに、広報的視点を持って日常生活を解釈してみることが望ましい。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

適宜提示する。

**【コメント】**

- 第一回講義に、受講希望者はなるべく出席すること。
- ・講義中にコメント・ペーパーの提出を求めることがあるが、出席点として加味しない。
- ・試験は2度行う(中間試験20%、最終試験50%)。最終試験のみでは単位認定されないので注意すること。中間試験を受けるか、レポートを提出するかすること(両方参加が望ましい)。
- ・中間試験は6割取れなければ一律0点とする。
- ・レポートはA4用紙で4枚から5枚のかなりハードなものとなるので、余裕を持って準備し執筆すること。規定枚数に達しない、剽窃がある等、レポートとして不適切な提出があった場合、その提出をもって単位認定不可とする。

**【留意事項】**

元番組プロデューサー/ディレクターが広報の実務と関連させて論じる。

講義名称	曜日
国際会計論 [2] 〈春〉	木 2

**【教員名称】**

中村 恒彦

**【講義概要】**

「会計のルールを作っているのは？」

国際会計論では、IFRS (国際財務報告基準) 会計の学習を通じて現代の会計理論を学習します。学習内容が高度であるため、ひとつひとつの理論をゆっくりと学習していく予定にしています。

**【学習目標】**

この講義を通じて、論理的な考え方がどのようなものかについて理解が深まればよいと思います。論理的な考え方に固執することはいけません、自分の視野を広げるためにも論理的な考え方が必要となります。会計学者や会計士や企業の財務担当者が考える論理の世界について体感していただければよいと思います。

**【講義計画】**

- 第1回：国際会計の世界 ～通貨・言語・会計ルール、翻訳から統一へ～
- 第2回：多国籍企業の出現と国際会計の必要性
- 第3回：会計基準の国際的調和と限界
- 第4回：会計基準の国際的収斂の動向
- 第5回：IFRS の概説
- 第6回：概念フレームワーク (1) 帰納法と演繹法
- 第7回：概念フレームワーク (2) 資産負債アプローチと収益費用アプローチについて
- 第8回：金融商品の会計 ～時価主義と原価主義について～
- 第9回：リースの会計 ～実質優先主義と法的形式主義について～
- 第10回：固定資産の会計 ～減損と減価償却～
- 第11回：連結の会計 ～経済的単一概念と親会社概念について～
- 第12回：企業結合の会計 ～パーチェイス法と持分プーリング法～
- 第13回：収益認識の会計 ～出荷基準と着荷基準～
- 第14回：包括利益 ～未実現利益と実現利益について～
- 第15回：総括とまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

財務諸表論や簿記関連科目や監査論と重複する部分が多いので、関連科目を履修することを勧める。

**【テキスト】**

はじめて学ぶ国際会計論 行待 三輪  
978-4-7944-1528-8 創成社  
ベーシック国際会計 (第二版) 向 伊知郎  
978-4-502-18011-8 中央経済社

**【参考文献】**

**【コメント】**

成績評価は、原則的に期末試験と平常評価によって行います。なお、平常評価は「出席」では行わず、講義中の「課題」や「宿題」によって評価を行います。  
・期末試験 (100点) + 宿題・課題等 (20点程度) 講義を欠席することのフォローは一切行いません。詳しい評価方法については、初回の講義で説明します。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
国際関係論 〈通期〉	木 1

**【教員名称】**

松村 昌廣

**【講義概要】**

毎日、テレビや新聞の国際問題に関するニュースに触れていても、よく分からないことが多いでしょう。ニュースは断片的で、十分な説明もありません。ちゃんと理解するには体系的で理論的な準備が必要です。このため、この講義は国際関係の理解に必要な理論的な思考とは何か、主要な理論にはどのようなものがあるかを、国際安全保障や国際政治経済などの諸側面に焦点を絞って教授します。また、刻一刻と変化する時事問題に具体的に触れながら、考察を深めていきます。

**【学習目標】**

国際政治関係を体系的に理解するために、国際政治主体、行動、過程、そして構造に注目し、激動する国際政治のダイナミズムを理論的に把握します。この講義では単に様々な理論を知るだけでなく、それを駆使して現実の国際問題を初歩的に考察する能力をつけることを目標とします。

**【講義計画】**

- 第1回：1 導入 1) 国際関係論と国際関係における日本
- 第2回：1-2) 国際関係論の諸分野、基礎概念及び一般システムの理解
- 第3回：1-3) 社会科学における認識・方法的論争と国際関係論
  - (1) 現実主義 VS 理想主義
- 第4回：1-3) - (2) 伝統主義 VS 科学主義
- 第5回：1-3) - (3) 誇大理論主義 VS 個別理論主義
- 第6回：1-3) - (4) まとめ
- 第7回：2 総論 1) 基本的捉え方 (1) 現実主義
- 第8回：2-1) - (2) 多元主義
- 第9回：2-1) - (3) グローバリズム
- 第10回：2-1) - (4) まとめ
- 第11回：2-2) 分析のレベル (1) 政策決定システム
- 第12回：2-2) - (2) 国家システム
- 第13回：2-2) - (3) 国際システム
- 第14回：2-2) - (4) まとめ
- 第15回：前半の総括
- 第16回：3 各論 1) 軍事的側面 (1) 安全保障
- 第17回：3-1) - (2) 紛争
- 第18回：3-1) - (3) まとめ
- 第19回：3-2) 経済的側面 (貿易・金融・投資・技術・開発)
  - (1) 市場機能中心主義
- 第20回：3-2) - (2) 国家機能中心主義
- 第21回：3-2) - (3) 資本形成中心主義
- 第22回：3-2) - (4) まとめ
- 第23回：3-3) 秩序づけのための組織化側面
  - (1) 国際法
- 第24回：3-3) - (2) 国際機構
- 第25回：3-3) - (3) 国際レジーム
- 第26回：3-3) - (4) まとめ
- 第27回：4-1) 冷戦後の国際構造
- 第28回：4-2) 日本の国際行動とその将来
- 第29回：全体の総括とレポート試験問題の解説
- 第30回：レポート試験の解答

**【事前および事後学習の指示】**

テキスト (桃山学院大学 MOODLE からダウンロード可能) を予習復習に使うこと。また、参考文献にあげた書籍を読むこと。

**【テキスト】**

国際関係論ー現実主義・多元主義・グローバリズム ポール・R・ピオティ、マーク・V・ウェッセルズ  
4-88202-251-6 彩流社

**【参考文献】**

E・H・カー『危機の20年』(岩波文庫)  
モーゲンソー『国際政治』(福村出版)  
シューマン『国際政治』(東京大学出版会)

**【コメント】**

レポート:50% 授業への積極的な参加:50%  
1) 出席・受講状態 50%  
2) 前期レポート試験 20%  
3) 後期レポート試験 30%  
4) 冬休みレポート 20% (希望者のみ)  
\*冬休みレポート  
参考文献3冊を読み、各著者の (1) 国際政治観 (2) 国際政治学観の主要な内容について、三者を対比しながら簡潔に要約し、(3) 現在の国際情勢では、どの著者の見方が妥当か論じなさい。  
\*評価の目安  
80～100%……A 70～79%……B 60～69%……C

**【留意事項】**

講義名称	曜日
国際機構論 (春集)	火2/金2

【教員名称】  
軽部 恵子

【講義概要】

この講義では、国際機構の成り立ちとしくみについて、国連を中心に勉強します。武力紛争、貧困、環境保護など、世界共通の問題を解決するのに、国連を中心とした国際協力は不可欠です。

春学期の国際機構論では、大学生なら誰もが持つべき世界史の基礎知識を確認しながら講義を進めます。秋学期に国際法を履修する予定の人は、国際機構論をなるべく先に履修してください。国際機構論の前半は国際法の導入部分と似ていますが、取り上げ方が大きく異なります。

講義冒頭には、国内外のメディアのホームページを用いて、メディア・リテラシーも学びます。

【学習目標】

- (1) 16世紀以降の世界史の流れを国際機構の視点から理解する。
- (2) 国連の成り立ちと諸組織の役割を把握する。
- (3) 国際問題の理解に必要な一般教養(歴史、地理、文化、宗教)を身につける。

【講義計画】

- 第1回：国際機構とは何か
- 第2回：国際機構の歴史(1) ルネサンスと大航海時代
- 第3回：国際機構の歴史(2) 宗教改革から三十年戦争へ
- 第4回：国際機構の歴史(3) ウェストファリア条約と主権国家体制の形成
- 第5回：国際機構の歴史(4) アメリカ独立革命とフランス革命
- 第6回：国際機構の歴史(5) ナポレオン戦争とウィーン会議
- 第7回：国際機構の歴史(6) ハーグ平和会議
- 第8回：国際機構の歴史(7) 赤十字国際委員会の設立
- 第9回：第一次世界大戦(1) サラエボ事件
- 第10回：第一次世界大戦(2) 近代兵器の登場
- 第11回：第一次世界大戦(3) パリ講和会議と国際連盟の設立
- 第12回：国際連盟(1) 国際連盟の目的
- 第13回：国際連盟(2) 国際連盟の問題点① 大国の不参加
- 第14回：国際連盟(3) 国際連盟の問題点② 制裁の欠如
- 第15回：第二次世界大戦(1) ファシズムの台頭
- 第16回：第二次世界大戦(2) 国際連盟の崩壊
- 第17回：第二次世界大戦(3) 国連の設立
- 第18回：国連のしくみ(1) 国連の目的
- 第19回：国連のしくみ(2) 国連の原則
- 第20回：国連のしくみ(3) 総会
- 第21回：国連のしくみ(4) 事務総長
- 第22回：国連のしくみ(5) 安保理① 任務と権限
- 第23回：国連のしくみ(6) 安保理② 朝鮮戦争
- 第24回：国連のしくみ(7) 安保理③ スエズ戦争とPKO
- 第25回：国連のしくみ(8) 安保理④ 湾岸戦争
- 第26回：国連のしくみ(9) 安保理⑤ 冷戦終結後の民族紛争
- 第27回：国連のしくみ(10) 安保理⑥ アメリカ同時多発テロとイラク戦争
- 第28回：特別テーマ(1) 核軍縮
- 第29回：特別テーマ(2) 人権の保障
- 第30回：試験とまとめ

【事前および事後学習の指示】

教科書の指定されたページおよび指示された参考サイト等で予習・復習してください。

【テキスト】

『一冊でわかるイラストでわかる図解世界史』成美堂出版編集部  
978-4415103334 成美堂出版

【参考文献】

- 横田洋三監修『入門国際機構』法律文化社 2016年
- 篠原初枝『国際連盟』中央公論新社 2010年
- 最上俊樹『国連とアメリカ』岩波書店 2005年
- 瀬岡直『国際連合における拒否権の意義と限界』信山社 2012年
- 芝生瑞和『図解フランス革命』河出書房新社 1989年
- 中村圭志『図解世界五大宗教全史』ディスカバー・トゥエンティワン 2016年

【コメント】

授業で出席票を配布するのは受講生が質問等を書くため、成績評価にはいっさい関係ありません。授業中に行う確認テストは成績評価にいっさい関係ありません。

【留意事項】

教科書は毎回使います。教科書を持参しない学生に対する配慮はありません。

講義名称	曜日
国際経済論 I (春)	月4

【教員名称】

モグベル ザファル

【講義概要】

現在は「グローバル化の時代」と言われていますが、グローバルな環境では「ヒト・モノ・カネ・技術・情報」が国境にほとんどさまたげられることなく双方向に移動しています。この講義では、グローバルな双方向の動きの中核をなす「モノの移動」(つまり、貿易)に焦点を置き、貿易の歴史、日本の貿易の現状分析、貿易実務、貿易理論の基礎などのテーマを扱います。

【学習目標】

国際経済論-I では主に下記のテーマについて学び、理解することを目指します：  
(1) 国際収支論、(2) 日本の貿易構造の変遷、(3) 経済グローバル化と世界経済の未来像  
受講生は国際収支論、国際収支統計の構成、近年の日本の国際収支の傾向、近年の日本の貿易構造について知ることができ、経済グローバル化と世界経済の未来像について自分の考えを述べるできるようになります。

【講義計画】

- 第1回：国際経済入門： 歴史に見る貿易のダイナミック効果と文明の歩み
- 第2回：国際経済入門：「ヒト・モノ・カネ・技術・情報」の自由な移動とグローバル化
- 第3回：国際収支統計の基礎知識： 国際収支表の仕組み
- 第4回：国際収支と対外資産負債残高： 経常黒字・赤字の処理
- 第5回：対外純資産の国際比較とその意義： 世界最大の債権国としての日本
- 第6回：国際収支の発展段階説： 時空を超えた調整
- 第7回：貿易と経済発展： 自由貿易 vs 保護主義再考
- 第8回：変わりゆく日本の貿易構造： 1985年以降の輸出構造を検証する
- 第9回：変わりゆく日本の貿易構造： 1997年以降の輸入構造を検証する
- 第10回：日本の国際収支： 歴史的観点から見て
- 第11回：日本の国際収支の最近の動向： 半世紀ぶりの赤字の分析
- 第12回：国際収支の調整： アプローチ・アプローチを中心に
- 第13回：国際収支の調整： 弾力性アプローチを中心に
- 第14回：マーシャル・ラーナー条件： J-カーブ効果と貿易摩擦の負の遺産
- 第15回：世界経済の未来像： 地域統合と新ルールの展開

【事前および事後学習の指示】

ミクロ・マクロ経済学の基礎を学習しておくこと。配布資料を正しく管理すること(資料の再配布はしません)。授業中に配布する練習問題の事後学習が求められます。

【テキスト】

【参考文献】

- 日本貿易会著、「日本貿易の現状、2019」
- 日本銀行国際局編、「国際収支統計の解説」
- 毎回資料を配布するので、配布資料の責任ある管理を各人に期待する。

【コメント】

- ①学期末試験において、国際収支論、日本の貿易構造、経済グローバル化などの達成目標に対応するテーマに関する選択式問題と論述問題を出題します。答案の正解率と論述問題に対して論理的に述べているかに重点をおいて評価します。
- ②授業への積極的な参加について評価します。具体的には、授業中に行う2～3回の練習問題の結果で評価します。

【留意事項】

講義名称	曜時
国際交流特別講義－現代日本社会学 〈春〉	金 4

【教員名称】 英語による  
篠原 千佳

【講義概要】

This course, Introduction to Contemporary Japanese Society, is intended to help students gain a basic sociological understanding of Japanese society. We will examine the wider social patterns and developments characterizing Japan through different segments of society and life-courses of the peoples living in Japan. Topics to be covered include social class and stratification, ethnic and regional diversity, work-family-gender, life course, civil society, and education. This course focuses on globalization and diversity as two core elements for sociological studies of Japan.

【学習目標】

- ・To develop critical thinking skills and theoretical perspectives
- ・To learn sociological topics in contemporary Japan
- ・To understand transforming cultures and structures of Japan in globalization
- ・To comprehend social issues around diverse peoples living in Japan

【講義計画】

- 第1回：Introduction
- 第2回：Sociology of Japan - Social Issues and Phenomenon
- 第3回：Social Class and Stratification
- 第4回：Sociological Literature on Japan
- 第5回：Geographical and Generational Variations
- 第6回：Education and Work
- 第7回：Gender Stratification and the Family System
- 第8回：Gender Roles, Sexuality, and Work
- 第9回：Fieldwork
- 第10回：Japaneseness, Ethnicity, and Minority Groups
- 第11回：Religion and Culture
- 第12回：Civil Society and Social Movements
- 第13回：Summing up Contemporary Japanese Society
- 第14回：Presentation Day1
- 第15回：Presentation Day2 and Conclusion

【事前および事後学習の指示】

- Course preparations are required for each class attendance.
- 1) Readings (Read 2-3 specified articles or chapters/week)
  - 2) Group Discussion Leading (Prepare a 1-page handout with discussion questions)
  - 3) Literature Review Paper (Topic, Question, Reference List, Outline, 1st draft, Final Paper)
  - 4) Paper Presentation (Oral presentation and handouts)

【テキスト】

- An Introduction to Japanese Society (Fourth Edition) Yoshio Sugimoto  
ISBN-13: 978-1107626676 Cambridge University Press Main textbook for this course
- The Decade of the Great War: Japan and the Wider World in the 1910s  
Tosh Minohara et al. (eds)  
ISBN-13: 978-9004302624 Brill
- Advances in Gender Research, Vol. 13: Perceiving Gender Locally, Globally and Intersectionally Vasilie Demos & Marcia Texler Segal (eds.)  
ISBN-13: 978-1848557529 Emerald

【参考文献】

【コメント】

- You will demonstrate your critical thinking and understanding of this course with
- 1) a variety of in-class assignments including group discussions (30%),
  - 2) a presentation of your project (20%), and
  - 3) a literature review paper (50%).

【留意事項】

講義名称	曜時
国際政治史 〈春集〉	月 3/ 木 1

【教員名称】  
塚田 鉄也

【講義概要】

国際政治は、国内政治とは少し異なった、独特の仕組みを有しています。本講義では、国際政治史上の主要な出来事を学びながら、国際政治がどのような仕組みを有しているのか、そうした仕組みはどのように形成され、現在にいたるまでどのように持続・変化してきたかを考察します。

【学習目標】

- ①国際政治史上の主要な出来事について理解し、説明できる
- ②国際政治がどのような仕組みを有しているか理解し、説明できる
- ③国際政治の仕組みがどのように形成され、どのように持続・変化してきたかを理解し、説明できる

【講義計画】

- 第1回：国際政治史を学ぶ意義
- 第2回：国際政治の基本構造
- 第3回：国際政治の理論
- 第4回：16世紀のヨーロッパ
- 第5回：三十年戦争とウェストファリア体制
- 第6回：勢力均衡の時代①:同盟の論理
- 第7回：勢力均衡の時代②:小国の運命
- 第8回：革命の時代
- 第9回：ウィーン体制の形成と展開
- 第10回：パクス・ブリタニカ
- 第11回：新たな勢力の登場①:ドイツ
- 第12回：新たな勢力の登場②:アメリカ、イタリア、日本
- 第13回：帝国主義の時代①:帝国主義の諸相
- 第14回：帝国主義の時代②:大國間関係
- 第15回：第一次世界大戦
- 第16回：パリ講和会議
- 第17回：ロシア革命
- 第18回：1920年代の国際関係
- 第19回：1930年代の国際関係
- 第20回：第二次世界大戦
- 第21回：戦後秩序の模索
- 第22回：冷戦時代①:起源
- 第23回：冷戦時代②:展開
- 第24回：冷戦時代③:終結
- 第25回：パクス・アメリカーナ
- 第26回：ヨーロッパ統合の歴史
- 第27回：脱植民地化の展開
- 第28回：冷戦後の国際関係
- 第29回：21世紀の国際関係
- 第30回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

テキストの指示された部分を事前に読んでおいてください。また、国際政治史を理解するには、世界史の知識が不可欠です。高校で世界史を履修していない場合は、簡単な入門書等(初回の授業で紹介)も活用してください。

【テキスト】

- 国際政治史—主権国家体系のあゆみ 小川浩之・板橋拓己・青野利彦  
9784641150522 有斐閣

【参考文献】

- 君塚直隆『近代ヨーロッパの国際政治史』(有斐閣、2010年)
- 有賀貞『国際関係史—16世紀から1945年まで』(東京大学出版会、2010年)
- 有賀貞『現代国際関係史—1945年から21世紀初頭まで』(東京大学出版会、2019年)
- 佐々木雄太『国際政治史—世界戦争の時代から21世紀へ』(名古屋大学出版会、2011年)

【コメント】

試験では各到達目標に関連する知識問題と論述問題を出題します。

【留意事項】

講義名称	曜時
国際政治事情研究 (通期)	月 3

**【教員名称】**

松村 昌廣

**【講義概要】**

政治学、社会学、経済学など社会科学の基礎をよく理解した2・3・4年生を念頭に講義を行う。また当然、高校の世界史、日本史、地理、政治経済、現代社会などの関連科目をよく学習してきたことを前提に行う。

この講義では発展途上世界を比較分析に必要な基本的な発想、着眼点、分析手法を会得するためはじめに初歩的な理論的考察を行い、その後いくつかの重要なケーススタディーに取り組む。

しかし、広大な発展途上世界を全てカバーすることは不可能であるから、多様な理論の適用可能性、時事的重要性に鑑み、この「授業計画」にあるように、大きく分けて3つのテーマを取り扱うこととする。この講義により発展途上国を対象とする地域研究において政治、経済、社会の諸側面から、いかに総合的な分析に取り組むかを事例を示しながら学生に理解させたい。

**【学習目標】**

資料、特にビデオ映像等を活用して、全体としては初級レベル、時として中級レベルの講義内容になるよう講義を進める。ただし、ここでいう「初級レベル」というのは簡単という意味ではない。当然、高校レベルの知識、大学生としての社会科学の思考や基本的知識を習得していることを想定している。

**【講義計画】**

- 第1回：国際関係論と地域研究
- 第2回：システム論的アプローチ
- 第3回：比較研究アプローチの危機・・・[理論の島々]
- 第4回：民族紛争(1) アイデンティティ、宗教、民族
- 第5回：民族紛争(2) ユーゴスラビア紛争
- 第6回：民族紛争(3) コソボ紛争
- 第7回：民族紛争(4) その他の民族紛争
- 第8回：民族紛争(5) フランスにおける移民問題・・・アラブ系移民を中心に
- 第9回：民族紛争(6) 総括
- 第10回：国際テロ・アフガン問題(1) 国際政治と宗教(イスラム教)
- 第11回：国際テロ・アフガン問題(2) 国際政治と宗教(ユダヤ教)・・・イスラエルを焦点に
- 第12回：国際テロ・アフガン問題(3) 中東戦争
- 第13回：国際テロ・アフガン問題(4) アフガン反テロ作戦
- 第14回：国際テロ・アフガン問題(5) イラク戦争
- 第15回：北朝鮮(1) 朝鮮半島の戦略的位置付けと地理的要因
- 第16回：北朝鮮(2) 朝鮮半島の歴史・・・戦争と平和の観点から
- 第17回：北朝鮮(3) 北朝鮮の政治と社会
- 第18回：北朝鮮(4) 北朝鮮の国際行動・・・不法活動を中心に
- 第19回：北朝鮮(5) 北朝鮮と日本の関係・・・経済・金融関係を中心に
- 第20回：北朝鮮(6) 日本の安全保障に与える影響
- 第21回：中国(1) 中国大陸の地理と戦略環境
- 第22回：中国(2) 中国の歴史・・・戦争と平和の観点から
- 第23回：中国(3) 中国の近現代史・・・国内的混乱と国際関係
- 第24回：中国(4) 中国の現状・・・社会的不均衡拡大と政治的安定性の問題
- 第25回：中国(5) 日本の安全保障に与える影響
- 第26回：中国(6) まとめ
- 第27回：日本の経済体制と歴史的経験(1) 満州国と1940年体制
- 第28回：日本の経済体制と歴史的経験(2) 戦時動員体制と戦後復興
- 第29回：日本の経済体制と歴史的経験(3) 高度経済成長の成功と矛盾
- 第30回：試験とまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

テキストを予習復習に使うこと。また、参考文献にあげた書籍を読むこと。

**【テキスト】**

動揺する米国覇権 松村昌廣  
現代図書

**【参考文献】**

E・H・カー『危機の20年』(岩波文庫)  
モーゲンソー『国際政治』(福村出版)  
シューマン『国際政治』(東京大学出版会)

**【コメント】**

授業に対する積極的な姿勢 50%

**【留意事項】**

講義名称	曜時
コンピュータ論Ⅱ (春)	水 1

**【教員名称】**

榎本 光世

**【講義概要】**

コンピュータを、より深く理解し、より広い用途に効率的に利用するためには、その動作原理について基本的なことから知っておく必要がある。そのためにはその動作原理の数学的な理解が必要である。本講義では、まず、2進数と基数変換から始め、集合、論理演算と続き、確率と統計、そしてデータ構造やアルゴリズムを学習する。これらが特に数学的な要素を多く含む学習範囲であり、これらは必ず成績評価試験に出題する。全ての講義内容は相互に関連性を持つので、一度でも欠席すれば、試験に回答するための知識を得られない可能性が少なくない。

**【学習目標】**

ICTとは何かを理解し、個人(従業員、経営者、消費者)の立場からのICT利用、それに組織体(企業、行政、非営利組織)の利用に関して認識を深め、様々な立場やレベルにおけるICTの利用が社会に与える影響について考察できるようにする。

**【講義計画】**

- 第1回：講義概要:講義内容の説明と諸注意
- 第2回：基数表現(2進数、10進数、16進数)、集合と論理演算
- 第3回：確立と統計、情報量の単位、デジタル化と文字表現
- 第4回：コンピュータのハードウェア1;電子工学以前のコンピューター、算盤>機械(歯車)式計算機>継電器(リレー)>真空管
- 第5回：コンピュータのハードウェア2;電子工学黎明期のコンピューター(コンピューターの発明) 半導体>トランジスタ>IC>コンピューター
- 第6回：電子ネットワーク;コンピューターとデータ通信(専用線、公衆網、インターネット)
- 第7回：コンピュータのソフトウェア1; OSとアプリ、ソフトウェア開発(顧客の要求分析)の困難性
- 第8回：コンピュータのソフトウェア2; ソフトウェア・クライシス;フレドリック・ブルックス『月人の神話』、エドワード・ユーードン『デスマーチ』]
- 第9回：コンピュータのソフトウェア3; フローチャート、ウォーター・フォール・モデル
- 第10回：コンピュータのソフトウェア4; いろいろなコンピュータ言語(低水準言語と高水準言語)
- 第11回：コンピュータのソフトウェア5; コンピューター言語の実際(C言語、VisualBasicのコーディング)
- 第12回：経営と情報化 コンピューター時代を理解する様々なキーワード(ネオダマ、ゲーム化、クラウド、ビッグ・データ、スマホ)
- 第13回：社会と情報化 アルビン・トフラー『第三の波』、ニューエコノミー論、ネットワーク革命、デジタル・ディバイド、スマホ依存症、SCOT
- 第14回：情報社会に関する最近の話題と未来への展望
- 第15回：予備時間

**【事前および事後学習の指示】**

前回までの内容を簡単に復習してから講義にのぞむこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

遠山暁、他『経営情報論』有斐閣アルマ 2015、その他参考書は講義中に指示する。

**【コメント】**

試験期間内に成績評価試験をする。試験範囲は講義前半のコンピュータの数学的な動作原理から大部分出題する。テキストに関しては開講時に指示する。プリントを配布する。私語厳禁。講義中にはスマホや携帯電話などの利用を一切認めない。

**【留意事項】**

プログラマーとしての実務経験があるので、プログラム作成現場の体験談を説明できる。また、いわゆる文系出身プログラマーなので、文系受講者にもわかりやすくプログラミングを説明できる。

講義名称	曜日
産業構造論Ⅰ〈春〉	金 4

**【教員名称】**

義永 忠一

**【講義概要】**

日本経済を取り巻く環境は、常に変化の中にあります。アベノミクス以降の為替変動(円安)でも輸出が伸び悩み産業構造が変化すると指摘されました。産業構造論Ⅰでは、これまでの日本の産業構造に関する議論を丁寧に追いつながら、現在に至る道筋を説明します。そして、受講者とともに今後の方向性を議論していきます。

**【学習目標】**

産業構造に関する議論を、歴史的な背景とともに理解できる事を学習目標とします。

**【講義計画】**

- 第1回：産業構造論Ⅰについてー講義概要と評価方法についてー
- 第2回：産業構造とはなにか その1ー成長と発展ー
- 第3回：産業構造とはなにか その2ー政策の視点ー
- 第4回：経済自立期の構造と政策ー官の役割ー
- 第5回：経済自立期の輸出産業の存在ー民の復興ー
- 第6回：1960年代の日本経済ーモータリゼーション前夜ー
- 第7回：1970年代の日本経済 その1ー開放政策 官民の温度差ー
- 第8回：1970年代の日本経済 その2ー石油危機下の経済変動と政の存在感ー
- 第9回：環境変化と産業構造 その1ー日本の生産システムと情報化ー
- 第10回：環境変化と産業構造 その2ー国際化・グローバル化ー
- 第11回：環境変化と産業構造 その3ープラザ合意・バブル経済ー
- 第12回：環境変化と産業構造 その4ーバブル崩壊後から2001年頃ー
- 第13回：失われた20年から現在までとこれからの産業構造
- 第14回：産業構造の変化と日本経済
- 第15回：試験とまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

事前に、貿易収支等、新聞等で掲載される経済統計について目を通しておく事が、講義の理解に役立ちます。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

鶴田俊正 / 伊藤元重 (2001) 『日本産業構造論』NTT出版を、本講義では中心に取り扱っています。しかし、最新のデータ及びこれまでの研究を補足しながら講義を展開しますので、参考文献として挙げます。

**【コメント】**

論述による試験を実施します。各講義で提示されるテーマについて、その都度、学習する事が試験において重要となります。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
産業心理学〈通期〉	火 4

**【教員名称】**

木村 貴彦

**【講義概要】**

高齢化や高度の情報化など現代社会の劇的な変化に伴って私たちの生活や労働も多様化・複雑化しています。産業心理学は現代社会における人間と労働・日常生活を考える心理学の応用的分野のひとつです。本講義では環境・組織・人間の各要因とそれらの相互作用を考え、産業心理学における諸問題を概観していきます。

**【学習目標】**

- ①労働や日常生活における産業心理学的見地に基づく知見を理解して説明できる。
- ②現代社会における産業心理学に関連した問題の抽出とその解決手法を提案することができる。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション①
- 第2回：産業心理学と現代社会
- 第3回：産業心理学の歴史と背景
- 第4回：動機づけとリーダーシップ① モチベーション
- 第5回：動機づけとリーダーシップ② 職場における人間関係
- 第6回：産業組織① 組織と人間
- 第7回：産業組織② 組織と安全・健康
- 第8回：適性① 個人差と適性研究
- 第9回：適性② 適性検査
- 第10回：産業場面におけるストレス① ストレスの基礎
- 第11回：産業場面におけるストレス② 疲労・過重労働
- 第12回：産業場面におけるストレス③ ストレスマネジメントとメンタルヘルス
- 第13回：産業心理学の現代的問題① 高齢化社会・加齢と労働
- 第14回：産業心理学の現代的問題② 障害と労働
- 第15回：試験およびまとめ
- 第16回：オリエンテーション②
- 第17回：作業と効率① 人間の動作
- 第18回：作業と効率② 心的負担
- 第19回：作業と効率③ 反応時間
- 第20回：作業と効率④ VDT 作業
- 第21回：ヒューマンエラー① ヒューマンエラーとは何か
- 第22回：ヒューマンエラー② ヒューマンエラーのメカニズム
- 第23回：ヒューマンエラー③ エラー研究と心理学
- 第24回：リスクと意思決定
- 第25回：消費者の心理
- 第26回：前半のまとめ
- 第27回：産業心理学の課題を考える① 問題の抽出
- 第28回：産業心理学の課題を考える② 問題の深化・議論
- 第29回：産業心理学の課題を考える③ プレゼンテーションの準備
- 第30回：産業心理学の課題を考える④ プレゼンテーションと議論

**【事前および事後学習の指示】**

産業心理学は労働や日常生活と密接に関わっています。普段の生活から問題点を目を向け、気づいたことをまとめた上で授業に積極的に取り組んで下さい。また、参考文献をあらかじめ読んでおくようにして下さい。

授業内で用いる資料を見直して、内容をまとめて復習して下さい。

**【テキスト】**

使用しない

**【参考文献】**

- ・篠原一光・中村隆宏(編)心理学から考えるヒューマンファクターズ -安全で快適な新時代へ- 有斐閣
- ・古川久敬(編)産業・組織心理学 朝倉書店
- ・西川一廉・三戸秀樹 他 21世紀の産業心理学 福村出版

**【コメント】**

- ①前期・後期ともに試験を実施します。また、中間の時期で小テストを実施します。
- ②レポートは適宜実施する課題や後期における発表への取り組みを含みます。
- ③毎回実施する記述課題の内容を評価します。したがって、出席しただけでは評価の対象としませんので留意して下さい。

**【留意事項】**

基本的に講義形式で実施しますが、デモやディスカッションの形式を取り入れます。また、後期の数回では実践的課題として産業心理学における諸問題についてグループワークを実施する予定です。そのため、授業外での取り組みを求めています。

講義名称	曜日
ジェンダー論 [2] 〈春〉	木 2

【教員名称】  
村上 あかね

【講義概要】

生物学的な性のあり方（セックス）に対して、社会的・文化的・心理的な性のあり方をジェンダーとよぶ。ジェンダー論を学ぶことは、グローバル化する社会の「世界市民」にとって基本的な教養といえる。レディースデーがあるのはなぜだろうか？女性専用車両があるのはなぜだろうか？このような身近な疑問から出発し、世の中の動きを知り、自分が当たり前だと思っている「男らしさ」や「女らしさ」を見直すことに挑戦することで、社会の見方が変わるだろう。これまで学んだ社会学の理論・学説だけではなく、経済学、人口学、人類学などの理論・学説も応用しながら、なぜかを徹底的に考え、知的な喜びを味わう授業とする。レジュメは最小限の内容しか書かないので、メモを取ることを心掛けてほしい。毎回、授業中にA4用紙1枚分のコメントを書くので、受講にあたっては知的好奇心と知的柔軟性に満ちた積極的な姿勢を望む。くじ引きによるグループディスカッション、ディベートやロールプレイングも行うので、学部学年性別を超えて、グループワークが上手になりたい人におすすめである。

【学習目標】

この講義の目標は、以下の3点である。

1. 学校・家庭・職場に焦点をあてて、私たちの生き方がジェンダーと関係がある現実を知り、その背後にあるメカニズムを理解する。
2. ジェンダーの問題を理解するために必要な用語やものの見方を学び、自分でも使えるようになる。
3. 性別役割分業体制が根強い日本では、女性だけではなく男性も困難な状況におかれていることを理解し、性別にかかわらず一人ひとりの違いを尊重できる社会を築くためにはどうすればよいか、問題を解決するための視点を養う。

【講義計画】

- 第1回：イントロダクション①：日本社会とジェンダー～世界の中の日本
- 第2回：イントロダクション②：男らしさ、女らしさとはなにか～あらためて考えてみる
- 第3回：性の多様性①：LGBTとは～TVとは違う現実を知る
- 第4回：「男らしさ」「女らしさ」の作られ方①：親の役割～親は子どもに何を期待するのか
- 第5回：「男らしさ」「女らしさ」の作られ方②：学校の役割～学校が児童生徒に期待すること
- 第6回：「男らしさ」「女らしさ」の作られ方③：メディアの役割～ファッション雑誌とCMを分析しよう
- 第7回：恋愛・結婚とジェンダー①：恋愛の歴史～恋愛の女性学・男性学
- 第8回：恋愛・結婚とジェンダー②：多様なライフコース・多様な家族～生き方と家族のかたちが変わる部分と変わらない部分
- 第9回：恋愛・結婚とジェンダー③：女性の貧困と子どもの貧困～なぜ子どもの貧困を減らす必要があるのか
- 第10回：家事・ケア労働とジェンダー①：母性神話～日本の家事・育児・介護はなぜ大変か
- 第11回：家事・ケア労働とジェンダー②：母性神話～歴史を振り返る
- 第12回：ジェンダーに関する現代の諸問題①：暴力・DVから自分の心と体を守る～リプロダクティブ・ヘルズライツ
- 第13回：ジェンダーに関する現代の諸問題②：スポーツとジェンダー、スポーツとレイシズム～東京オリンピックをきっかけに考えてみよう
- 第14回：ジェンダーに関する現代の諸問題③：開発途上国の現状を知る～世界に目を向けてみよう
- 第15回：まとめ  
：これまでの学習を振り返って

【事前および事後学習の指示】

毎日、新聞を読んだり、ニュースをチェックしておきましょう。授業で紹介する映画もみましよう。

【テキスト】

女性学・男性学：ジェンダー論入門 伊藤公雄・樹村みのり・国信潤子  
9784641221222 有斐閣

【参考文献】

授業中に指示する。

【コメント】

【留意事項】

政府および地方自治体の委員経験を持つ教員が政府および地方自治体の政策について解説・講義する。

社会人の方へ（聴講に際して）学部生の知識と能力を高めることが授業の目的であることをご理解のうえ、授業には原則毎回出席し、教科書を持参し、グループワークにも参加してください。

講義名称	曜日
視覚メディア論 〈春〉	水 4

【教員名称】  
ケイン 樹里安

【講義概要】

視覚文化論とは、狭義の美術だけでなく写真、映画、テレビ、広告、マンガ、ファッション、ゲームにいたるまで幅広い考察対象を含み、メディア論やカルチュラル・スタディーズなど多様な理論や方法論を駆使して視覚的なものの役割や機能、制度を批判的に考察する学問領域です。本講義では、19世紀から現代にいたるまでの視覚メディア、とりわけ写真、映画、マンガ、アニメーション、キャラクターをとりあげ、それぞれのメディアの造形的特質、誕生した社会的・歴史的・文化的・技術的背景、さらに私たちの社会生活に及ぼす影響などについて幅広く理解することを目指します。

【学習目標】

本講義では次のような知識や能力を受講生のみなさんが身につけることを目標とします。

- ・視覚文化論に関する基礎的概念や理論を習得する。
- ・視覚メディアにいかなる技術や要素が盛り込まれているのか理解する。
- ・視覚メディアについて批判的に読み解く能力を身につける。

【講義計画】

- 第1回：ヴィジュアル・カルチャーとメディア論
- 第2回：「盛り」と「映え」をたどる
- 第3回：視覚と触覚と地図
- 第4回：聴覚とプラットフォーム
- 第5回：ヴィジュアルなものと「現場」
- 第6回：デジタルメディア環境と言説空間
- 第7回：コミュニケーション資本主義
- 第8回：ネットワークメディアと「余計なものたち」
- 第9回：福祉制度とビッグデータ
- 第10回：スマートシティと囲い込み
- 第11回：バイオ資本主義と芸術
- 第12回：デジタルメディア時代のジェンダー力学
- 第13回：資本主義リアリズムと再帰的無力感
- 第14回：ヴィジュアル・カルチャーと都市
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

参考文献などを読み予習しておくこと。配布した資料を用いて復習すること。

【テキスト】

【参考文献】

伊藤守編『コミュニケーション資本主義と〈コモン〉の探求——ポスト・ヒューマン時代のメディア論』東京大学出版会

【コメント】

【留意事項】

講義名称	曜時
社会運動論 [2] 〈春〉	火 4

**【教員名称】**

本郷 正武

**【講義概要】**

社会運動は社会（問題）を映す鏡に例えられる。社会運動が提起する問題や、運動の担い手、抗議手法などの観点から、社会問題のありかを探っていく。

**【学習目標】**

社会運動論の分析概念や基本的な考え方を身に付けることで、一見すると暴力的な現象と捉えられがちな社会運動を違った角度からみることができるようになることを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション:社会運動論の考え方
- 第2回：HIV/AIDSの問題系(1):HIV/AIDSの社会意識
- 第3回：HIV/AIDSの問題系(2):「医療化」にみる問題化のプロセス
- 第4回：HIV/AIDSの集合行為(1):エイズ・ボランティアの登場
- 第5回：HIV/AIDSの集合行為(2):市民活動・NPOの活動
- 第6回：HIV/AIDSの集合行為(3):「薬害HIV」訴訟運動
- 第7回：HIV/AIDSの集合行為(4):訴訟運動が残したもの
- 第8回：良心的支持者概念の検討(1):運動参加者と集合財
- 第9回：良心的支持者概念の検討(2):カミングアウトのポリティクス
- 第10回：持つ者と持たざる者との対立:階級闘争モデル
- 第11回：社会運動とアイデンティティ:「新しい社会運動」論
- 第12回：社会運動の合理性/非合理性:資源動員論の登場
- 第13回：資源動員論の展開と収斂:政治的機会構造/動員構造/フレーミング
- 第14回：現代の社会運動(1):社会運動と暴力
- 第15回：現代の社会運動(2):ライフスタイル運動

**【事前および事後学習の指示】**

講義で紹介した概念や理論を駆使して、身の回りで起きた出来事や社会現象の謎解きを試みる。うまくいかない場合は、質問やコメントペーパーのかたちで言葉にしてみる。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

下記以外にも講義中に随時紹介する。

- 長谷川公一編, 2020,『社会運動の現在』有斐閣。
- 大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人編, 2004,『社会運動の社会学』有斐閣。
- 曾良中清司・長谷川公一・町村敬志・樋口直人編著, 2004,『社会運動という公共空間:理論と方法のフロンティア』成文堂。

**【コメント】**

コメントペーパーの内容が優れている場合は加点する。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
社会学 A 02 〈春〉	水 2

**【教員名称】**

大尾 侑子

**【講義概要】**

「社会学」とはどのような課題に向き合い、なにを追究してきた学問なのだろうか。哲学、政治学、歴史学などに比べ社会学は比較的新しい学問といえるが、これらの学問領域とはいかなる点で異なるのだろうか？社会学の主要な概念や命題を学びながら、社会学の独自性を理解し、「社会的なもの」の見方を目指すことを目指す。

**【学習目標】**

- (1)「社会学」とはなにを目指す学問なのか？を自分の言葉で説明できるようになること
- (2)社会学の重要概念を学び、「ステレオタイプ(偏見)」を批判する視点を獲得すること
- (3)自分の怒り、悩みなどの問題意識を社会的な「問い」に変換し、考察する力を身につける

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス—大学で「学ぶ」姿勢と社会学の位置づけ
- 第2回：社会学を学ぶための準備—概念、仮説、命題、理論
- 第3回：3つの方法論:ウェーバー、デュルケム、ジンメル
- 第4回：地位、役割、社会集団
- 第5回：自己の社会学(1)象徴的相互行為論:ミード、ブルーマー
- 第6回：自己の社会学(2)ドラマツルギー:ゴフマン
- 第7回：自己の社会学(3)再帰的プロジェクトとしての自己
- 第8回：シカゴ学派(1)都市と非行サブカルチャー
- 第9回：シカゴ学派(2)社会構築主義、ラベリング理論
- 第10回：構造と差異(1)ハビトゥス、文化資本、文化的オムニボア
- 第11回：構造と差異(2)消費社会と記号
- 第12回：批判理論(1)アドルノ、ホルクハイマー
- 第13回：批判理論(2)ハーバーマス、ホネット
- 第14回：エスノメソドロジー
- 第15回：まとめ—「社会秩序はいかにして可能か？」の先へ

**【事前および事後学習の指示】**

指定した文献を読み、予習してから講義に出席するスタイルを取る。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 購入は必須ではないが、予習復習のために次のテキストを推薦する。
- ・長谷川公一・浜日出夫・藤村正之ほか 2019『社会学』有斐閣
- ・奥井智之 2010『社会学の歴史』東京大学出版会
- ・奥井智之 2014『社会学』東京大学出版会

**【コメント】**

**【留意事項】**

講義名称	曜日
社会学 A 03 (春)	水 2

【教員名称】  
白波瀬 達也

【講義概要】

社会学は家族から世界社会までの多種多様な社会的な場と、そこに生じるあらゆる問題や現象を対象とする。すでに200年近い歴史を持つ社会学には、これまでの多量な知識が蓄積されており、さらには現在も日々新たな認識が生産され社会的知識として流通している。それらの大量な情報の中から、この講義ではまず社会理論と社会システムという大きな枠組みを設定し、その後に現代社会の諸相についての社会的達成点を解説し、現代社会のシステムの全体像を明らかにする。

【学習目標】

社会学を学ぶことによって知識と視野を広げ多角的な視点を獲得しつつ問題解決や意味解読の力を身につける。この講義は共通教養としての社会学の基礎知識を習得していただくことを目的としているが、同時に社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士資格の取得に必要な社会学科目としても提供される。社会学は家族から国際社会に至る種々の社会生活の場、そこに生じる諸問題、多様な文化現象などを対象としており、社会学を学ぶことによって、知識と視野を広げ多角的な視点を獲得しつつ、問題解決や意味解読の力を身につけることが可能となろう。講義は、社会福祉士・精神保健福祉士資格の国家試験の社会学および介護福祉士の人間と社会に関する選択科目の出題基準に対応して進める。社会学を学ぶことによって知識と視野を広げ多角的な視点を獲得しつつ問題解決や意味解読の力を身につけることが可能になる。

【講義計画】

- 第1回：現代社会の理解 (1) 文化と規範・法
- 第2回：現代社会の理解 (2) 産業・職業・労働
- 第3回：現代社会の理解 (3) 階級と階層
- 第4回：現代社会の理解 (4) 近代化・産業化・民主化論
- 第5回：現代社会の理解 (5) 人口構造と人口変動
- 第6回：現代社会の理解 (6) 地域社会
- 第7回：現代社会の理解 (7) 集団・組織
- 第8回：生活の理解 (1) 家族
- 第9回：生活の理解 (2) 生活 (ライフ) の諸相
- 第10回：人と社会の関係 (1) 行為・相互行為・関係
- 第11回：人と社会の関係 (2) 地位と役割
- 第12回：人と社会の関係 (3) 社会関係資本
- 第13回：人と社会の関係 (4) 社会的ジレンマ
- 第14回：社会問題の理解 (1) 逸脱と病理
- 第15回：社会問題の理解 (2) 犯罪と非行など

【事前および事後学習の指示】

講義テーマに関するリサーチを講義の前後に実施すること

【テキスト】

【参考文献】

適宜指示する

【コメント】

定期試験を実施する

【留意事項】

講義名称	曜日
社会学基礎講義 03 (春集)	火 3/ 金 1

【教員名称】  
平野 孝典

【講義概要】

社会学とは、私たちの日常の行為やコミュニケーションを出発点として、世の中の仕組みを理解しようとする学問である。この講義では、社会学のさまざまな研究領域を紹介しながら、社会学という学問に共通する「ものの見方」や「考え方」について説明していく。講義を円滑に進行するために、受講生の座席を指定することをあらかじめ了解しておく。また、授業では Mport および S ドライブを活用する。

【学習目標】

- (1) 社会学の基礎的な概念と視点を理解し、説明できるようになること。
- (2) 社会学のさまざまな研究領域を学び、その主要な論点を理解し、説明できるようになること。
- (3) 私たちの日々の生活と、社会のあり方が密接に関係していることを理解できるようにすること。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：社会学の視点 (1) : 常識を疑う
- 第3回：社会学の視点 (2) : 社会の謎を解く
- 第4回：社会学の視点 (3) : 社会の未来を考える
- 第5回：社会学の視点 (4) : 社会のなかの人間
- 第6回：社会学の視点 (5) : 社会的に自己紹介する方法
- 第7回：小まとめ
- 第8回：教育 (1) なぜいじめを止められないのか？
- 第9回：教育 (2) なぜ大学に進学する人とならない人がいるのか？
- 第10回：ジェンダー (1) なぜ女子の大学進学率は低いのか？
- 第11回：ジェンダー (2) 「草食系男子」は存在するのか？
- 第12回：社会階層 (1) 「未熟」な若者がフリーターやニートになるのか？
- 第13回：社会階層 (2) 日本は平等な社会か？
- 第14回：都市と地域 (1) 「無縁社会」とは何か？
- 第15回：都市と地域 (2) 都会人は孤独か？
- 第16回：小まとめ
- 第17回：特別講義：桃山学院大学とキリスト教の精神
- 第18回：人口減少問題
- 第19回：家族 (1) : なぜ子どもの数は減っているのか？
- 第20回：家族 (2) : なぜ結婚する人とならない人がいるのか？
- 第21回：メディア：なぜ若者はテレビを見なくなったのか？
- 第22回：若者：若者の規範意識は悪化しているのか？
- 第23回：犯罪：なぜ多くの人は治安が悪いと感じているのか？
- 第24回：自殺：「絆」を強くすれば自殺は減るのか？
- 第25回：小まとめ
- 第26回：社会とは何か (1) 予言の自己成就
- 第27回：社会とは何か (2) ラベリング
- 第28回：社会とは何か (3) 共同性
- 第29回：全体の振り返り
- 第30回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】

授業を聞いて「終わり」とするのではなく、配布した資料を使って、よく復習すること。また、授業内容をさらに深く理解するための文献も紹介するので、積極的に読み進めること。

【テキスト】

【参考文献】

- 小林盾ほか編, 2014, 『社会学入門』朝倉書店。
- 友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編, 2017, 『社会学の力』有斐閣。
- 友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典編, 2019, 『社会学で描く現代社会のスケッチ』みらい。

【コメント】

成績は (1) 定期試験 (2) 授業中に課すミニレポート (3) 授業への貢献度 (グループワークへの参加や課題の提出状況など) で評価する。詳細は初回授業で説明する。なお、遅刻や私語が目立つなど、受講態度が著しく悪い場合は大幅に減点する。

【留意事項】

講義名称	曜日
社会学原論（春集）	水3/金3

**【教員名称】**

ケイン 樹里安

**【講義概要】**

身の回りの何気ない些細な出来事から、人々の関心が集中する大きな出来事を題材に、社会の仕組みを把握するための、社会学の視点や方法、概念を全30回で学ぶ。「わかっているようで、実はよくわかっていないこと」についてじっくりと考える際に有効な「社会学の技法」を身につけることが、本講義の目標である。毎回の講義でミニ・コメントペーパーを配布する。そこに記入されたみなさんの感想・コメントをもとに、次回以降の授業内容を柔軟に組み立てることで、「アクティヴ」に社会的想像力を養う契機としたい。出席点は設けず、論述試験での評価が100%である。

**【学習目標】**

社会学の視点や方法、重要な概念を適切に理解し、自ら活用することで、さまざまな社会現象を分析・考察することができる。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：「わたしたち」について考える①—ドラマトゥルギー
- 第3回：「わたしたち」について考える②—学校空間
- 第4回：若者語りの社会史
- 第5回：「ソシャゲ」におけるソーシャルなものとは何か
- 第6回：自分らしさの社会学①—理想像の変遷
- 第7回：自分らしさの社会学②—ジェンダー
- 第8回：自分らしさの社会学③—セクシュアリティ
- 第9回：恋愛・結婚・家族①—家族は「あたたかい」もの？
- 第10回：恋愛・結婚・家族②—ロマンチック・ラブ・イデオロギー
- 第11回：恋愛・結婚・家族③—家父長制
- 第12回：障害の社会学①—ディスアビリティとインペアメント
- 第13回：障害の社会学②—カテゴリーをめぐって
- 第14回：メディア社会学①—民主主義を媒介するもの
- 第15回：メディア社会学②—「つながり」とは何か
- 第16回：「働く」こと社会学①—資本主義と感情労働
- 第17回：「働く」こと社会学②—就活とは何か
- 第18回：余暇の社会学①—観光のまなざし
- 第19回：余暇の社会学②—イメージと真正性
- 第20回：集合的記憶とモノ
- 第21回：越境する文化の社会学①—食
- 第22回：越境する文化の社会学②—表現
- 第23回：越境する文化の社会学③—モノ
- 第24回：オリンピックの社会学①—「色」から考えるスポーツの祭典
- 第25回：オリンピックの社会学②—誰のためのオリンピック？
- 第26回：国民国家と人種化①—「ハーフ」の社会史
- 第27回：国民国家と人種化②—現代を生きる「ハーフ」
- 第28回：国民国家と人種化③—人種化と帰属の政治
- 第29回：多文化社会とコンヴィヴィアリティ
- 第30回：最終講義：批判と社会学的想像力

**【事前および事後学習の指示】**

毎回の授業で配布するミニ・コメントペーパーは論述試験の「対策」になるので、積極的に記入してほしい。そのためにも、教科書や講義内で紹介された参考文献を活用し、加えて、身の回りの出来事を反省的に捉え返すためにメモを残すなど、事前・事後に能動的な学習を行う必要がある。

**【テキスト】**

- 『ふれる社会学』ケイン樹里安・上原健太郎編  
978-4-7793-0618-1 北樹出版
- 『いろいろあるコミュニケーションの社会学 VER.2.0』有田巨・松井広志編  
978-4-7793-0625-9 北樹出版
- 『アーバンカルチャーズ』岡井崇之編  
978-4-7710-3185-2 晃洋書房

**【参考文献】**

岡本健・松井広志編『ポスト情報メディア論』ナカニシヤ出版。

**【コメント】**

**【留意事項】**

講義名称	曜日
社会学特講—格差社会を理論的に読み解く（春）	水2

**【教員名称】**

藤田 悟

**【講義概要】**

近年、日本社会において格差と貧困が急速に拡大しつつある。雇用・社会保障・教育・「自己責任」論などなど、格差社会をめぐる論点は多岐に渡っている。この講義では、格差社会の実態と格差社会化を推し進めている論理を学ぶとともに、格差社会に対抗する思想・論理を皆さんと探っていききたい。

**【学習目標】**

「格差」とは何だろうか。「貧困」とは何だろうか。こうした基本的（根本的）な問いに正面から向き合い、答えられるようになってほしい。また、「格差社会」の構造と問題点について、その歴史的な背景も含めて「理論的に読み解く」視点を獲得してほしいと思う。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス  
イントロダクション—高等教育の費用と権利
- 第2回：イントロダクション—高等教育の費用と権利Ⅱ
- 第3回：格差とは何だろうかⅠ—格差は「問題」なのか
- 第4回：格差とは何だろうかⅡ—格差はなぜ「問題」なのか
- 第5回：貧困とは何だろうかⅠ—貧困の「発見」
- 第6回：貧困とは何だろうかⅡ—貧困の「境界」
- 第7回：生活保護の歴史と課題Ⅰ—歴史と制度解説
- 第8回：生活保護の歴史と課題Ⅱ—現状と課題
- 第9回：現代日本における貧困Ⅰ—ワーキングプアの増加とその要因
- 第10回：現代日本における貧困Ⅱ—ワーキングプアを生む構造
- 第11回：格差社会のイデオロギーⅠ—機会の平等と結果の平等
- 第12回：格差社会のイデオロギーⅡ—「自立」と「依存」
- 第13回：格差社会を克服する思想Ⅰ—〈自立-依存〉再考
- 第14回：格差社会を克服する思想Ⅱ—〈機会の平等〉再考
- 第15回：まとめ—格差社会の今後

**【事前および事後学習の指示】**

参考文献のいずれか一冊以上、事前に読んでおくこと。また講義では資料として新聞記事を多数使用するので、普段から新聞を読む習慣を身に付けておくことが望ましい。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

阿部彰『弱者の居場所がない社会—貧困・格差と社会的包摂』講談社現代新書、2011年。岩田正美『現代の貧困—ワーキングプア／ホームレス／生活保護』ちくま新書、2007年。後藤道夫他『格差社会とたたかう—〈努力・チャンス・自立〉論批判』青木書店、2007年。湯浅誠『反貧困—「すべり台社会」からの脱出』岩波新書、2008年。その他の文献は講義中に適宜紹介する。

**【コメント】**

期末試験により評価する。出席は取らないが、毎回提出してもらおうコミュニケーションペーパーの内容を評価に加味する場合がある。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
社会学特講－釜ヶ崎から世界を見る 〈春〉	木 1

**【教員名称】**

網島 洋之

**【講義概要】**

釜ヶ崎は、日本最大の「寄せ場」、すなわち日雇労働者の集住地域として知られてきた。「あいりん」とも呼ばれ、「西成特区構想」でも取り沙汰されてきたことは周知のとおりである。日雇労働者は、建設業など日本の基幹産業に携わってきたが、経済情勢が悪化すればホームレス状態になりやすいなど、労働や生活のさまざまな面で差別されてきた。しかし、だからこそ、釜ヶ崎では常に人間の尊厳とは何かが問われてきた。本講義では、釜ヶ崎における人々の生き様や実践に学び、自分自身と社会の関わり方について議論する。

**【学習目標】**

本講義の目的は、受講者に客観的事実に基づく知識を授けることではなく、むしろ、おそらく客観的な正解は皆無であろう人間の尊厳をめぐる諸問題について、自分自身が心から納得できるまで考え続けるための基礎を築くことである。開講期間中の目標は下記のとおりである。

- (1) 私たちの周囲にあふれる情報を批判的に検証する。
- (2) 私たちの生活と釜ヶ崎の間に、どのような関係があるのか、自分なりに考える。
- (3) 「私」を主語にして、労働や経済、社会について語る。
- (4) 生きていくための希望を見出す。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス／釜ヶ崎とは？
- 第2回：釜ヶ崎と社会学／客観性とは？
- 第3回：「寄せ場」に立てば世界が見える ①日雇労働と非正規雇用
- 第4回：「寄せ場」に立てば世界が見える ②野宿生活
- 第5回：「寄せ場」に立てば世界が見える ③野宿者襲撃と排除
- 第6回：「生きづらさ」・襲撃・暴動
- 第7回：労働と貧困
- 第8回：社会的排除
- 第9回：社会的包摂
- 第10回：究極のセーフティネット
- 第11回：労働は権利か義務か
- 第12回：働くことと稼ぐこと
- 第13回：貨幣と常識
- 第14回：自立・依存・共生
- 第15回：まとめ／課題と希望

**【事前および事後学習の指示】**

まずは「講義・演習概要」「講義・演習計画」中に出てくる言葉についてインターネット検索などで調べてみることに。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

最初は配布資料を利用する。以下2点は頻りに引用されるので、予め読んでおくことを勧める。受講生の関心に応じて、追加の必要があれば講義中に指示する。  
 生田武志『釜ヶ崎から—貧困と野宿の日本』筑摩書房、2016年  
 北村年子『ホームレス襲撃事件と子どもたち—いじめの連鎖を断つために』太郎次郎社エディタス、2009年

**【コメント】**

- (1) レポートの内容については講義中に別途指示する。
- (2) 各回の終了時に「出席カード」に感想等を任意で記入をお願いするが、あくまで講義の進行の参考にするためであり、成績評価には反映されないの、あまり無理しないこと。
- (3) 「講義計画」は「出席カード」の記入内容により逐次変更されることを了承されたい。

**【留意事項】**

学生ボランティア支援および釜ヶ崎における対人援助の経験をもとに、現地の実情から何を学べるかという問題提起を行う。

講義名称	曜日
社会学特講－人と業績 〈春〉	火 1

**【教員名称】**

竹中 英紀

**【講義概要】**

社会学という学問が、いったい何を問題にし、どのような概念や理論によってそれをとらえ、答えを導き出してきたかを、代表的な人物とその業績に注目しながら解説する。講義は教科書に沿って、時代や年代順ではなく、「個々の社会学者が社会へと向かっていく際の彼らのパースペクティブの特性」に注目し、「システムと社会」「知と歴史」「相互行為と現実」「構造化と秩序」の4部構成で行うこととする。

**【学習目標】**

社会学を代表する人物とその業績を学ぶことで、私たち自身が社会に向き合っただけでなく、分析をしていく際の基本的な視座と道具を得ること。

**【講義計画】**

- 第1回：社会学への招待
- 第2回：システムと社会(1) — デュルケムと社会的事実(第1章)
- 第3回：システムと社会(2) — パーソンズと社会秩序(第2章)
- 第4回：システムと社会(3) — ルーマンと社会学的啓蒙(第3章)
- 第5回：システムと社会(4) — コールマンと合理的選択理論(第4章)
- 第6回：知と歴史(1) — マルクスと資本主義批判(第5章)
- 第7回：知と歴史(2) — ウェーバーと理解社会学(第6章)
- 第8回：知と歴史(3) — マンハイムと知識社会学(第7章) / ハーバースとコミュニケーション的行為(第8章)
- 第9回：知と歴史(4) — フーコーと主体の系譜学(第9章)
- 第10回：相互行為と現実(1) — ジンメルと個別科学としての社会学(第10章)
- 第11回：相互行為と現実(2) — シュッツと現象学的社会学(第11章)
- 第12回：相互行為と現実(3) — 社会変化と G.H. ミードの社会学(第12章) / プルーマーとシンボリック相互作用論(第13章)
- 第13回：構造化と秩序(1) — ゴフマンと共在の社会学(第14章) / エスノメソドロジー(第15章)
- 第14回：構造化と秩序(2) — ブルデューあるいは二重の絶縁の戦略(第16章)
- 第15回：構造化と秩序(3) — ギデンズとモダニティの社会学(第17章)

**【事前および事後学習の指示】**

授業計画を参照して、教科書の該当箇所をあらかじめ熟読しておくこと。また授業中にとったノートをごまかに整理し、自己の理解を確認すること。

**【テキスト】**

クロニクル社会学 那須書編  
4-641-12041-2 有斐閣

**【参考文献】**

大澤真幸(2019)『社会学史』講談社  
 奥村隆(2014)『社会学の歴史』有斐閣  
 コリンズ(1994=1997)『ランドル・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣  
 玉野和志編(2016)『ブリッジブック社会学』信山社  
 ※スライドなどの教材は、学内ネットワークドライブの教材用フォルダ(S:/bamboo)を用いて公開する。

**【コメント】**

**【留意事項】**

講義名称	曜時
社会思想史Ⅰ〈春〉	火4

**【教員名称】**

梅田 百合香

**【講義概要】**

本講義では、西洋の古典古代から近代および現代の代表的な社会思想を分析することによって、人間性、市民的徳、共和主義などを中心に、民主主義が持つ根源的な問題と現代的課題を考察する。

**【学習目標】**

受講者は、広く経済学に関わる思想史上の専門的な知識を身につけることを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回：講義ガイダンス  
ソクラテスの問い(1)ソクラテス裁判
- 第2回：ソクラテスの問い(2)無知の知
- 第3回：プラトンの哲人王(1)正義の追究
- 第4回：プラトンの哲人王(2)哲人王の構想
- 第5回：アリストテレスの倫理学(1)倫理学の方法と対象
- 第6回：アリストテレスの倫理学(2)徳の探究
- 第7回：アリストテレスの政治学(1)ポリスと人間
- 第8回：アリストテレスの政治学(2)国制論
- 第9回：キケロの共和主義(1)正義と慈善
- 第10回：キケロの共和主義(2)共和主義
- 第11回：マキャヴェッリの新しい国家観(1)統治術
- 第12回：マキャヴェッリの新しい国家観(2)共和主義
- 第13回：アレントの複数性の政治(1)全体主義
- 第14回：アレントの複数性の政治(2)人間の条件
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

講義内容(パワーポイント)は、各講義前よりSドライブ(eureka)から見る事ができる。事前にパワーポイントのスライドを読み、予習しておくこと。講義中はノートを取り、授業後スライドの内容と照らし合わせて講義内容をノートにまとめ直し、復習しておくこと。  
授業後、各思想家が提起した問題と関わるような身近な出来事や政治や社会の問題を探求し、次のレスポンスシートに反映すること。

**【テキスト】**

テキストは使用しない

**【参考文献】**

- 山岡龍一『西洋政治理論の伝統』放送大学教育振興会、2009年。
- 宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣、2013年。
- 仲正昌樹編著『政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで』法律文化社、2013年。

**【コメント】**

- ①学期末試験において、到達目標に対応するテーマに関する選択式問題を出题する。授業内容を踏まえた専門的な知識が身につけているかどうかを評価する。
- ②毎回のレスポンスシートによって評価する。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
社会調査B 02〈春〉	水2

**【教員名称】**

平尾 一朗

**【講義概要】**

質問紙(調査票)調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

**【学習目標】**

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票の構成と質問文の作り方、調査の方法(実査の方法、調査票の配布と回収法等)、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

**【講義計画】**

- 第1回：社会調査の企画・設計
- 第2回：社会調査の実施方法
- 第3回：問題意識の絞り込み
- 第4回：仮説の検討
- 第5回：質問文の作成
- 第6回：調査票の完成
- 第7回：サンプリングの方法
- 第8回：調査の実施手順
- 第9回：調査票の配布と回収
- 第10回：調査データの整理
- 第11回：データ集計の基礎
- 第12回：統計的検定と仮説の検証
- 第13回：分析結果の発表
- 第14回：発表へのコメント
- 第15回：調査報告書の書き方

**【事前および事後学習の指示】**

事後学習を重視。事後学習の時間は1限ごとに1時間程度。授業を理解し自身の身についた感覚を得るまで事後学習すること。

**【テキスト】**

- 新・社会調査へのアプローチ 大谷信介ほか  
978-4623066544 ミネルヴァ書房

**【参考文献】**

**【コメント】**

- ①到達目標に対応するレポートを課す。
- ②授業への参加態度(グループ活動への積極的な参加を含む)から評価する。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
社会調査B 03〈春〉	木2

【教員名称】  
松川 尚子

【講義概要】  
質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

【学習目標】  
質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票の構成と質問文の作り方、調査の方法（実査の方法、調査票の配布と回収法等）、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。  
この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】  
第1回：社会調査の企画・設計  
第2回：社会調査の実施方法  
第3回：問題意識の絞り込み  
第4回：仮説の検討  
第5回：質問文の作成  
第6回：調査票の完成  
第7回：サンプリングの方法  
第8回：調査の実施手順  
第9回：調査票の配布と回収  
第10回：調査データの整理  
第11回：データ集計の基礎  
第12回：統計的検定と仮説の検証  
第13回：分析結果の発表  
第14回：発表へのコメント  
第15回：調査報告書の書き方

【事前および事後学習の指示】  
授業内容の復習を配付資料をもとにおこなうこと。事前にテキストを読んでおくことが望ましい。実際に社会調査をおこなうことを想定し、日頃から自分自身の興味関心・問題意識を意識しておくこと。

【テキスト】  
新・社会調査へのアプローチ 大谷信介ほか  
978-4623066544 ミネルヴァ書房

【参考文献】

【コメント】  
①到達目標に対応するレポートを課す。  
②授業への参加態度（グループ活動への積極的な参加を含む）から評価する。

【留意事項】

講義名称	曜日
社会調査B 04〈春〉	木3

【教員名称】  
松川 尚子

【講義概要】  
質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

【学習目標】  
質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票の構成と質問文の作り方、調査の方法（実査の方法、調査票の配布と回収法等）、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。  
この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】  
第1回：社会調査の企画・設計  
第2回：社会調査の実施方法  
第3回：問題意識の絞り込み  
第4回：仮説の検討  
第5回：質問文の作成  
第6回：調査票の完成  
第7回：サンプリングの方法  
第8回：調査の実施手順  
第9回：調査票の配布と回収  
第10回：調査データの整理  
第11回：データ集計の基礎  
第12回：統計的検定と仮説の検証  
第13回：分析結果の発表  
第14回：発表へのコメント  
第15回：調査報告書の書き方

【事前および事後学習の指示】  
授業内容の復習を配付資料をもとにおこなうこと。事前にテキストを読んでおくことが望ましい。実際に社会調査をおこなうことを想定し、日頃から自分自身の興味関心・問題意識を意識しておくこと。

【テキスト】  
新・社会調査へのアプローチ 大谷信介ほか  
978-4623066544 ミネルヴァ書房

【参考文献】

【コメント】  
①到達目標に対応するレポートを課す。  
②授業への参加態度（グループ活動への積極的な参加を含む）から評価する。

【留意事項】

講義名称	曜時
社会調査B 05〈春〉	木3

【教員名称】  
李 容玲

【講義概要】

質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

【学習目標】

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票の構成と質問文の作り方、調査の方法（実査の方法、調査票の配布と回収法等）、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】

- 第1回：社会調査の企画・設計
- 第2回：社会調査の実施方法
- 第3回：問題意識の絞り込み
- 第4回：仮説の検討
- 第5回：質問文の作成
- 第6回：調査票の完成
- 第7回：サンプリングの方法
- 第8回：調査の実施手順
- 第9回：調査票の配布と回収
- 第10回：調査データの整理
- 第11回：データ集計の基礎
- 第12回：統計的検定と仮説の検証
- 第13回：分析結果の発表
- 第14回：発表へのコメント
- 第15回：調査報告書の書き方

【事前および事後学習の指示】

授業内容の理解には、授業中に出された課題を毎回こなしてゆくことが肝要です。

【テキスト】

新・社会調査へのアプローチ 大谷信介ほか  
978-4623066544 ミネルヴァ書房

【参考文献】

ポーンシュテット・ノーキ著＝海野道郎・中村隆監訳.1990  
『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社

【コメント】

- ①到達目標に対応するレポートを課す。
- ②授業への参加態度（グループ活動への積極的な参加を含む）から評価する。

【留意事項】

講義名称	曜時
社会調査特講—質的調査法 01〈春〉	木4

【教員名称】  
李 容玲

【講義概要】

質的調査法の種類と実例について、それぞれの技法の特徴や調査実施上の倫理など、基礎的知識について実践的に学ぶ。

【学習目標】

調査の企画から報告書の作成まで、質的調査の方法について具体的に学ぶとともに体験実習を通して理解を深める。

授業は「社会調査実習」を履修している者、履修した者を念頭におこなう。授業は受講生個人またはグループ単位で、調査を実施しつつ進める。授業への出席のみならず、毎回の授業で提示される課題に取り組むために、授業時間外にも作業は必要となる。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：聞き取り調査の技法と実践①：質問の吟味
- 第3回：聞き取り調査の技法と実践②：インタビューの実践
- 第4回：聞き取り調査の技法と実践③：データのとりまとめ
- 第5回：聞き取り調査の技法と実践④：インタビュー結果の報告
- 第6回：ドキュメント分析の技法と実践①：分析対象の選定
- 第7回：ドキュメント分析の技法と実践②：ドキュメントの分析
- 第8回：ドキュメント分析の技法と実践③：分析結果のとりまとめ
- 第9回：ドキュメント分析の技法と実践④：分析結果の報告
- 第10回：観察法の技法と実践①：観察対象の選定
- 第11回：観察法の技法と実践②：プレ調査
- 第12回：観察法の技法と実践③：観察の実践
- 第13回：観察法の技法と実践④：観察結果のとりまとめ
- 第14回：観察法の技法と実践⑤：観察結果の報告
- 第15回：全体講評

【事前および事後学習の指示】

授業の性質上、時間外の学習の重要性は高い。課題の選出、選んだ課題についての取り組み方などについてのディスカッション、プレゼンテーションの作成と発表の練習など、講義の進行状況に合わせた学習活動を、学生主体でおこなってもらいたいと望んでいる。

【テキスト】

新・社会調査へのアプローチ—論理と方法 大谷 信介、後藤 範章、木下 栄二、小松 洋  
978-4623066544 ミネルヴァ書房

【参考文献】

【コメント】

出席状況・毎回の授業で提示される課題の提出及び最終レポートの結果を総合して評価する。詳細については最初の授業の際に説明する。

【留意事項】

- ・公益法人組織で社会的弱者の救済・支援活動に携わった経験を有する教員が、社会の「声なき声」に対応する質的な調査分析法を講義する
- ・授業ではコンピュータを用いて、各自が収集した質的データの分析から最終レポートの作成まで、質的分析に必要な一連の過程を経験する。そのため、毎回の授業で提出される課題をときれなく蓄積してゆくことが、とりわけ重要である。

講義名称	曜時
社会病理学（通期）	金 1

**【教員名称】**

畠中 宗一

**【講義概要】**

現代社会には、子ども虐待、ドメスティック・バイオレンス、老人虐待、いじめ、少年非行や犯罪、摂食障害、アルコール依存症等多様な社会病理現象が存在する。本講義では、多様な社会病理現象の出現する背景、メカニズム、対応等を概説する。

**【学習目標】**

〔知識・技能〕  
多様な社会病理現象について説明する。  
〔思考力・判断力・表現力〕  
多様な社会病理現象について自身の意見を発表することができる。  
〔主体性・多様性・協働性〕  
多様な社会病理現象の理解を通して、自己の能力を伸ばすための方策を考え行動することができる。

**【講義計画】**

- 第1回：社会病理学ってどんな学問？  
現代社会とはどんな社会？  
第2回：社会病理現象とは？  
第3回：現代社会の諸相(1)  
第4回：現代社会の諸相(2)  
第5回：現代社会のあり方が社会病理現象に与える影響  
第6回：問題解決への道筋:客体としての環境調整 vs. 主体としてのあり方  
第7回：まとめと小テスト  
第8回：子ども虐待(1)  
第9回：子ども虐待(2)  
第10回：まとめと小テスト  
第11回：摂食障害(1)  
第12回：摂食障害(2)  
第13回：まとめと小テスト  
第14回：アルコール問題(1)  
第15回：アルコール問題(2)  
第16回：春学期のまとめと小テスト  
第17回：E. フロムに学ぶ(1):自由・愛・平等  
第18回：E. フロムに学ぶ(2):ナルシズム的人間・悪・攻撃・服従  
第19回：E. フロムに学ぶ(3):精神の健康・正気の社会・正常の病理  
第20回：まとめと小テスト  
親密性をめぐる家族病理(1)  
第21回：親密性をめぐる家族病理(2)  
第22回：家族病理現象の背景  
まとめと小テスト  
第23回：多様な準拠枠のなかで現実の社会を問直す(1)  
第24回：多様な準拠枠のなかで現実の社会を問直す(2)  
第25回：まとめと小テスト  
現代社会における人間関係の諸特徴(1)  
第26回：現代社会における人間関係の諸特徴(2)  
第27回：現代社会と対人関係トレーニング(1)  
第28回：現代社会と対人関係トレーニング(2)  
第29回：社会病理現象を指定するもう一つの視点:事実性の概念に依拠して(1)  
第30回：社会病理現象を指定するもう一つの視点:事実性の概念に依拠して(2)

**【事前および事後学習の指示】**

事前学習 60分・事後学習 60分

**【テキスト】**

**【参考文献】**

授業に関連する資料を配布します。

**【コメント】**

テーマの区切りごとに、小テストあるいはコメント文を書かせます。春学期、秋学期にそれぞれレポート課題を出します。

**【留意事項】**

新聞やニュースで報道される社会病理現象に関心を持ち、事前学習を行いレポートにまとめておく。

講義名称	曜時
社会福祉サービス論A（春）	火 1

**【教員名称】**

加藤 貴久

**【講義概要】**

社会福祉サービスの捉え方、サービス提供の組織や団体、経営・運営管理の方法などについて理解する。

**【学習目標】**

社会福祉サービスの捉え方や全体像について把握し、その推進方法についての理解を深めることができる。  
①福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など)について理解する。  
②福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。  
③福祉サービスの経営と管理運営について理解する。

**【講義計画】**

- 第1回：社会福祉サービスの捉え方①  
第2回：社会福祉サービスの捉え方②  
第3回：福祉サービスに係る組織や団体の概要①  
第4回：福祉サービスに係る組織や団体の概要② 社会福祉法人  
第5回：福祉サービスに係る組織や団体の概要③ 医療法人  
第6回：福祉サービスに係る組織や団体の概要④ 特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会  
第7回：福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論①  
第8回：福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論②  
第9回：福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論③  
第10回：福祉サービス提供組織の経営と実際①  
第11回：福祉サービス提供組織の経営と実際②  
第12回：福祉サービス提供組織の経営と実際③  
第13回：福祉サービスの管理運営の方法と実際①  
第14回：福祉サービスの管理運営の方法と実際②  
第15回：試験・まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

シラバスを確認の上、テキストの該当箇所もしくは関連する箇所を中心に予習と復習をすること。  
テキストの該当箇所を精読し、特にわからない単語をピックアップしておくこと(事前学習 30時間)  
講義で配布したレジュメ、テキストの該当箇所を確認しておくこと(事後学習 30時間)

**【テキスト】**

社会福祉サービスの組織と経営(第5版) 社会福祉士養成講座編集委員会編  
9784535558175

**【参考文献】**

適宜、授業で伝えます。

**【コメント】**

期末試験70%、日々の授業で行う小テスト・小レポート30%

**【留意事項】**

現役の社会福祉法人の事務局長による授業。  
経験をもとに授業を行います。

講義名称	曜日
社会保障論A 〈春〉	火 4

**【教員名称】**

岡田 忠克

**【講義概要】**

わが国の社会保障制度は、日本国憲法第25条の生存権規定に基づき体系化されている。その具体的施策である年金・医療・福祉（介護）システムがどのように国民生活の安定に寄与しているのか、また、その政治経済システムへの影響はどのようなものなのか、実態をふまえ講義を行う。社会保障論Aでは、わが国の社会保障制度の理念と歴史、社会保障制度と行財政システムの運営について講義を行う。また政治経済システムとの関連において社会保障制度を多角的に考察していきたい。

**【学習目標】**

- ・わが国の社会保障制度の体系について理解できる
- ・社会保障の行財政について理解できる。
- ・年金保険制度の概要について理解できる。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス 講義の進め方
- 第2回：社会保障の範囲 社会保障の考え方
- 第3回：社会保障の機能 社会保障の役割について
- 第4回：社会保障における社会保険と公的扶助 システムの違いについて
- 第5回：社会保障の歴史と理念1 福祉国家について
- 第6回：社会保障の歴史と理念2 福祉国家の危機について
- 第7回：社会保障の歴史と理念3 欧米と日本の歴史的展開について①
- 第8回：社会保障の歴史と理念4 欧米と日本の歴史的展開について②
- 第9回：わが国の社会保障の体系 法制度について
- 第10回：わが国の社会保障行政 行政システムについて
- 第11回：わが国の社会保障財政 財政システムについて
- 第12回：年金保険制度1 年金制度の概要について
- 第13回：年金保険制度2 年金制度の運営について
- 第14回：年金保険制度3 年金制度の実際について
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

社会福祉の基礎的な知識を身につけておくこと。

**【テキスト】**

よくわかる社会保障（第5版）坂口正之・岡田忠克  
ミネルヴァ書房

**【参考文献】**

**【コメント】**

**【留意事項】**

講義名称	曜日
商業簿記 01 〈春集〉	水 1/水 2

**【教員名称】**

池之本 欣哉

**【講義概要】**

今日の社会において企業の影響力が増大するにつれ、人々は自己の利益を守るために企業の動向に強い関心をもち、企業に関する情報を必要としています。そのような情報は多くの源泉から入手することができますが、企業活動の経済的側面についての最も優れた情報源泉は、企業の会計が生み出す財務諸表です。しかしこの財務諸表は、簿記の知識がないと正確に読み取ることができません。簿記は、企業の財政状態や経営成績を知るうえで不可欠な知識となります。この講義では、日商簿記検定試験3級レベルの複式簿記について学習します。具体的には、取引の記帳から財務諸表の作成にいたるまでを、(1)複式簿記の基礎概念、(2)諸取引の会計処理、(3)決算と財務諸表、の順に解説していきます。理解をより深めるために、練習問題による演習を多く取り入れていく予定です。

**【学習目標】**

この講義では、日商簿記検定試験3級レベルの複式簿記についての基本構造を理解し、個人商店が行う取引を前提とした場合の記帳技術を習得することを学習の到達目標とします。

**【講義計画】**

- 第1回：簿記の基礎概念
- 第2回：資産・負債・純資産と貸借対照表
- 第3回：収益・費用と損益計算書
- 第4回：簿記上の取引と仕訳
- 第5回：勘定記入と転記
- 第6回：決算予備手続（試算表の作成）
- 第7回：決算本手続（6桁精算表の作成）
- 第8回：現金取引
- 第9回：預金取引
- 第10回：商品売買取引（三分法）
- 第11回：商品売買取引（諸掛・値引・返品）
- 第12回：債権・債務取引（その1）
- 第13回：債権・債務取引（その2）
- 第14回：手形取引（約束手形）
- 第15回：手形取引（為替手形）
- 第16回：有価証券取引
- 第17回：固定資産取引
- 第18回：資本取引と税金
- 第19回：決算整理手続（売上原価の計算）
- 第20回：決算整理手続（貸倒引当金の設定）
- 第21回：決算整理手続（減価償却費の計算）
- 第22回：決算整理手続（有価証券の時価評価その他）
- 第23回：8桁精算表の作成
- 第24回：決算本手続（帳簿の締切りと財務諸表の作成）
- 第25回：収益と費用の見越し・繰延べ
- 第26回：消耗品の処理
- 第27回：総合問題演習（1）
- 第28回：総合問題演習（2）
- 第29回：総合問題演習（3）
- 第30回：総括

**【事前および事後学習の指示】**

商業簿記を理解するためには、反復・継続的な学習が必要です。前回までの内容（講師が適宜指示）をしっかりと復習したうえで講義に出席してください。

**【テキスト】**

検定簿記講義3級 渡部裕巨・片山覚・北村敬子 [編著]  
中央経済社 最新版を使用します。  
最新段階式日商簿記検定問題集 渡辺正直他  
実教出版 練習問題として利用します。

**【参考文献】**

**【コメント】**

期末試験で評価します。

**【留意事項】**

受講希望者は必ず初回の講義に出席してください。

講義名称	曜日
証券論 〈春集〉	水2/金4

#### 【教員名称】

松尾 順介

#### 【講義概要】

この講義は、有価証券の定義、株式の発行市場と流通市場、信用取引やデリバティブなど、専門的で高度な内容を講義します。また、金融危機以降、証券市場は急激に変化していますので、最近の変化についても講義します。したがって、かなり難易度の高い内容を含みますが、対話型・参加型形式を取り入れ、双方向型の授業を行い、全受講生が理解できるよう努力したいと思います。毎回の授業では質疑応答、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行います。

#### 【学習目標】

本講義の学習目標は、第一に証券市場に関する専門的な知識を身につけることです。なぜなら上場企業に就職した場合、その会社は日々株式市場と直直し、敵対的買収に会うかもしれません。ベンチャー企業にとっても、資金調達手段です。また、銀行や証券会社に就職する学生は、証券外務員試験を受験しなければなりませんので、証券市場の知識が不可欠です。さらに、フィナンシャル・プランナーや税理士・会計士を目指す学生にとっても、証券市場の知識は必要です。第二に、証券市場の現状や課題を考えることによって、「考える」力を高めることです。証券市場には答えのない事象や問題が多々ありますので、これらについて考えることによって、受講生の「考える」力を高めたいと思います。

#### 【講義計画】

- 第1回：はじめに
- 第2回：課題ポートフォリオ
- 第3回：有価証券1 (有価証券の定義)
- 第4回：有価証券2 (有価証券の種類)
- 第5回：株式会社1 (様々な会社形態)
- 第6回：株式会社2 (株式会社とコーポレートガバナンス)
- 第7回：株式1 (配当請求権)
- 第8回：株式2 (議決権)
- 第9回：株式3 (その他の株主権)
- 第10回：株式4 (株式と債権)
- 第11回：株式発行市場1 (発行市場と流通市場)
- 第12回：株式発行市場2 (新規設立)
- 第13回：株式発行市場3 (IPO)
- 第14回：株式発行市場4 (上場会社の株式発行: エクイティ・ファイナンス)
- 第15回：株式発行市場5 (転換社債と新株予約権)
- 第16回：株式流通市場1 (流通市場の機能: 価格発見機能と流動化機能)
- 第17回：株式流通市場2 (流通市場の制度的条件1: ディスクロージャー)
- 第18回：株式流通市場3 (流通市場の制度的条件2: 不公正取引の禁止)
- 第19回：証券取引所1 (上場制度と取引参加資格制度)
- 第20回：証券取引所2 (売買制度)
- 第21回：証券取引所3 (清算・決済制度、自主規制)
- 第22回：株価指数
- 第23回：信用取引
- 第24回：デリバティブ1 (先物取引1)
- 第25回：デリバティブ2 (先物取引2)
- 第26回：デリバティブ (オプション取引)
- 第27回：債券市場
- 第28回：社債市場
- 第29回：クラウドファンディング
- 第30回：試験およびまとめ

#### 【事前および事後学習の指示】

この講義では、頻りに指名されるので、緊張感を持って受講する必要がある。また、専門的かつ難易度の高い内容を含んでいるので、前回の講義内容をよく復習して講義に臨む必要がある。具体的な準備学習は以下である。①この講義では、キーワードとなる専門用語が頻出するので、まずこれらの専門用語の意味や内容をしっかり頭に入れておくこと、②配布資料は、講義をより深く理解するためのものが数多く含まれているので、それらを自分で読み解き、理解を深めておくこと、③普段から証券市場に関するニュースや新聞記事に目を通し、関連する知識・情報を集めておくこと、などである。

#### 【テキスト】

証券市場論 二上季代司  
有斐閣

#### 【参考文献】

日本証券経済研究所編『図説 日本の証券市場』日本証券経済研究所

#### 【コメント】

講義形式は対話型・参加型形式を取り入れますので、授業中に質疑応答、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行います。期末テストで評価する。ただし、①毎回の質問状のうちよい質問状は期末評価に加点する。②課題提出も加点対象とする。③授業中に頻りに指名回答を求め、良い回答には加点する。④プレゼンテーションやディスカッションも加点対象とする。なお、出席点は一切考慮しない。

#### 【留意事項】

証券会社および証券経済研究所勤務の経験を授業で活用する。

講義名称	曜日
商取引法 〈通期〉	水1

#### 【教員名称】

瀬谷 ゆり子

#### 【講義概要】

主に商法総則および商行為法を対象とする。商法総則は主に個人企業組織に関する通則的な規定として、また商行為法は法人を含む企業取引に関する通則的な規定として位置づけられる。もっとも、本講義で対象とすべき範囲は広がっており、また民法改正の影響は商法にも及んでいる。このように、法規制の進展は著しく、直面する問題も多いため、具体的な事例を織り込みつつ、金融商品取引法や保険法にかかる概要も紹介する予定である。条文の確認は毎回行うので、自分の六法を必ず持参すること。

#### 【学習目標】

民法の基礎的な理解に立ち、そのうえで企業に特有のルールが存在を認識すること。商法典を中心に「実質的意義の商法」を学び、さらに企業を中心とする取引の法制度の概要を理解し、企業取引法の全体像を把握できることを目標とする。

#### 【講義計画】

- 第1回：商取引法の履修にあたって 一商取引法の全体像一
  - ・本講義で対象とする分野
  - ・法体系の理解
  - ・実質的意義の商法
- 第2回：企業法としての商法 商法の法的特性と傾向  
民法改正と商法改正
- 第3回：「商人」と「商行為」
- 第4回：商人とその営業
- 第5回：営業と営業譲渡 その1
- 第6回：営業と営業譲渡 その2
- 第7回：企業の人的要素—企業活動を支える人たち— 商業使用人
- 第8回：企業の物的要素 その1 商号
  - \* 商標とは
- 第9回：企業の物的要素 その2 商号の譲渡・廃止・変更
  - \* 名板貸し主の責任
- 第10回：企業の物的要素 その3 商業帳簿
  - \* 企業会計との関係
- 第11回：企業の物的要素 その4 商業登記制度
- 第12回：外観主義による企業活動の促進 その1 名板貸し
- 第13回：外観主義による企業活動の促進 その2 表見支配人
- 第14回：外観主義による企業活動の促進 その3 商業登記と外観主義
- 第15回：商法総則まとめ
- 第16回：企業取引法総論 商行為概念について
- 第17回：民法と商法の比較 商行為の代理と委任、契約の成立、債権の消滅、寄託 等
- 第18回：消費者取引 消費者契約法、特定商取引法
- 第19回：商事担保
- 第20回：商人間売買
- 第21回：商法がかかげる伝統的営業 その1 運送
- 第22回：商法がかかげる伝統的営業 その2 倉庫取引、場屋取引
- 第23回：商法がかかげる伝統的営業 その3 海運
- 第24回：商法がかかげる伝統的営業 その4 代理・仲立ち・問屋
- 第25回：商法がかかげる伝統的営業 その5 銀行取引 交互計算
- 第26回：企業活動への資金提供 その1 投資スキーム 匿名組合、会社、ファイナンス・リース
- 第27回：企業活動への資金提供 その2 投資と利殖
- 第28回：投資者保護法制—金融商品取引法、金融商品販売法
- 第29回：保険取引—保険法  
損害保険・生命保険・傷害疾病定額保険
- 第30回：商取引法まとめ

#### 【事前および事後学習の指示】

法適用にあたり民法との関係が必須となる分野であるため、民法履修済みであっても、使用したテキストを使って民法の復習をしておくこと。なお、民法を学習したことがない人は、上記の民法の概説書を通読し、基礎的な知識を得ておいてください。

毎回配布するレジュメには、当日の講義に關係する部分について、テキストの該当ページが示してあります。テキストの部分を読んで復習しておくこと、また、使用した条文の確認は必ずしておいてください。

#### 【テキスト】

商法総則・商行為法 [第3版] 大塚英明・川島いづみ・中東正文・石川真衣  
978-4641-221376 有斐閣

#### 【参考文献】

龍田節・杉浦市郎『企業法入門 [第5版]』(日本評論社、2018)  
民法を受講したことがない場合、野村豊弘『民事法入門 [第7版]』(有斐閣、2017)。  
最新の「六法」は、必ず持参してください。

#### 【コメント】

試験の割合 学期末試験 70点 小テスト 30点 (6回×5点)  
授業中、到達目標に対応する「小テスト」を毎月末に計6回(4月、9月、1月を除く)を行います。これは、受講生のその時点での理解度を確認するためのものです。2回以上受けていることを最終の成績評価の条件とします。

#### 【留意事項】

講義名称	曜時
人権教育論 A 01 〈春〉	火 2

**【教員名称】**

古本 義信

**【講義概要】**

参加体験学習やワークショップやDVDの視聴や教材プリントの学習を通して、人権教育の内容や差別の現実を学ぶ。文化人や芸能人や歌手やスポーツ選手でカミングアウトした被差別部落や在日朝鮮人やアイヌの人たちから基本的人権の大切さを学ぶ。

**【学習目標】**

カミングアウトの学習を通して、自己のアイデンティティを見つめ自分の人権課題を見つけ、小論にまとめる。

**【講義計画】**

- 第1回：講義ガイダンス  
講義中でのルールやマナー・授業の概要・授業計画・参加型学習・評価の方法などの説明をする
- 第2回：ワークショップ DV・セクハラ・パワハラ
- 第3回：ワークショップ 部落問題これホント
- 第4回：ワークショップ 話してみよう部落問題
- 第5回：人権教育 見直された人権の歴史
- 第6回：人権教育 障害者スポーツ パラリンピック 野球 サッカー
- 第7回：人権教育 得意な分野をのばす からすたろう
- 第8回：人権教育 公立学校での実践
- 第9回：人権教育 マラユスフザイ
- 第10回：人権学習 結婚差別と部落問題
- 第11回：人権学習 カミングアウトの意味
- 第12回：人権学習 被差別部落カミングアウト
- 第13回：人権学習 在日カミングアウト
- 第14回：人権学習 アイヌカミングアウト
- 第15回：課題設定のテストおよびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

参加体験型の講義やプリント学習が主なので、講義の準備学習は、毎日の新聞や週刊誌やマスコミやインターネットなどでテーマに沿った情報を入手しておくこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

1. 「多様性教育入門」森実 著 解放出版社
2. 「これでなっとく部落の歴史」上杉聰 著 解放出版社
3. 「新しい社会6年上下」東京書籍

**【コメント】**

授業の積極的参加を総合的に加味して評価する。特に授業妨害の私語の禁止・授業放棄の居眠りの禁止は順守すること。スマホは授業中はカバンに入れておき使用しないこと。複数回注意されているのに授業態度に改善が見られないときは退室を命じられることがある。なお、欠席が3分の1を超えるとテストを受ける資格を失う。

**【留意事項】**

元公立小学校の教員が人権教育や教育の課題を講義する

講義名称	曜時
人権教育論 A 02 〈春〉	火 3

**【教員名称】**

古本 義信

**【講義概要】**

参加体験学習やワークショップやDVDの視聴や教材プリントの学習を通して、人権教育の内容や差別の現実を学ぶ。文化人や芸能人や歌手やスポーツ選手でカミングアウトした被差別部落や在日朝鮮人やアイヌの人たちから基本的人権の大切さを学ぶ。

**【学習目標】**

カミングアウトの学習を通して、自己のアイデンティティを見つめ自分の人権課題を見つけ、小論にまとめる。

**【講義計画】**

- 第1回：講義ガイダンス  
講義中でのルールやマナー・授業の概要・授業計画・参加型学習・評価の方法などの説明をする。
- 第2回：ワークショップ DV・セクハラ・パワハラ
- 第3回：ワークショップ 部落問題これホント
- 第4回：ワークショップ 話してみよう部落問題
- 第5回：人権教育 見直された人権の歴史
- 第6回：人権教育 障害者スポーツ パラリンピック 野球 サッカー
- 第7回：人権教育 得意な分野をのばす からすたろう
- 第8回：人権教育 公立学校での実践
- 第9回：人権教育 マラユスフザイ
- 第10回：人権学習 結婚差別と部落問題
- 第11回：人権学習 カミングアウトの意味
- 第12回：人権学習 被差別部落カミングアウト
- 第13回：人権学習 在日カミングアウト
- 第14回：人権学習 アイヌカミングアウト
- 第15回：課題設定のテストおよびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

参加体験型の講義やプリント学習が主なので、講義の準備学習は、毎日の新聞や週刊誌やマスコミやインターネットなどでテーマに沿った情報を入手しておくこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

1. 「多様性教育入門」森実 著 解放出版社
2. 「これでなっとく部落の歴史」上杉聰 著 解放出版社
3. 「新しい社会6年上下」東京書籍

**【コメント】**

授業の積極的参加を総合的に加味して評価する。特に授業妨害の私語の禁止・授業放棄の居眠りの禁止は順守すること。スマホは授業中はカバンに入れておき使用しないこと。複数回注意されているのに授業態度に改善が見られないときは退室を命じられることがある。なお、欠席が3分の1を超えるとテストを受ける資格を失う。

**【留意事項】**

元公立小学校の教員が人権教育や教育の課題を講義する

講義名称	曜時
人的資源管理論A (春)	火 1

【教員名称】  
正亀 芳造

【講義概要】

現代の日本企業は、厳しい経済環境のもとで様々な経営改革に取り組んでいる。中でも、人的資源管理に関わる諸制度の改革が盛んである。人的資源管理とは、経営を構成するヒト・モノ・カネの3要素のうち、ヒトに関わる管理をいう。企業経営を動かすのはヒトであり、その動き如何が経営を左右する。企業を取り巻く経済・社会環境に加え、ヒトの価値観も転換期にある今日、従来の終身雇用と年功序列を基礎とした人的資源管理もその転換が求められている。本講義では、まず人的資源管理の基本的な考え方を解説した上で、現代の日本企業が人的資源管理において直面している諸問題の中から雇用管理に焦点を当て、新しい勤務スタイルも含めて可能な限り多面的に考察し、その展望を試みたい。

【学習目標】

人的資源管理の基本的な考え方、現代の日本企業が人的資源管理の中の主要領域である雇用管理において直面している諸問題についての理解を深めることは、有能なビジネスパーソンとして活躍するために不可欠な条件の1つです。本講義では、人的資源管理の基本的な考え方と現代の日本企業が雇用管理領域において直面している主要な問題は何か、これらを皆さんが正確に理解することが学習目標となります。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション:人的資源管理の現代的意義
- 第2回：企業経営と人的資源管理
- 第3回：モチベーション
- 第4回：リーダーシップとコミットメント
- 第5回：組織構造
- 第6回：職務設計
- 第7回：社員区分制度と社員格付制度
- 第8回：中間確認テストとこれまでの講義のまとめ
- 第9回：雇用管理(1)終身雇用
- 第10回：雇用管理(2)雇用管理の新動向
- 第11回：非正規労働者
- 第12回：女性労働者
- 第13回：高齢労働者
- 第14回：海外派遣者
- 第15回：研究開発技術者

【事前および事後学習の指示】

第2回目以降の講義を受講するには、その準備として、予め講義で指示したテキストの章ないし該当部分を事前に読み、要点をノートにまとめておくこと。また、講義の受講後は、重要キーワードを中心に復習するとともに、他の文献や資料を活用してさらに深く調べるように努力すること。

【テキスト】

入門 人的資源管理(第2版) 奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著  
978-4-502-67360-3 中央経済社

【参考文献】

吉田和夫・大橋昭一(監修) 深山明・海道ノブチカ・廣瀬幹好(編)『最新 基本経営学用語辞典(改訂版)』同文館出版、2015年。  
その他、講義中に適宜指示します。

【コメント】

学期末試験において、到達目標に対応するテーマに関する問題を出題し、解答の正否をもとに評価を行います。  
中間確認テストは、皆さん自身が自分の講義の理解度を確かめるためのものですから、成績評価には含めません。

【留意事項】

講義名称	曜時
心理学 A 01 (春)	金 1

【教員名称】  
伊庭 千恵

【講義概要】

最近、利用者ニーズが多様化する福祉現場の状況から、心理学的援助技術の導入を求める機運が急速に高まってきている。優れた支援やケアの理論的根拠としての心理学理論が求められてきている現状を踏まえ、実践に必要な心理学の基礎を学ぶことを目指す。

【学習目標】

- 心理学理論による人の理解とその技法の基礎、人の成長・発達と心理との関係について理解する。また、日常生活と心の健康との関係について、心理的支援の方法と実際について理解する。
- ①心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。
  - ②人の成長・発達と心理との関係について理解する。
  - ③日常生活と心の健康との関係について理解する。
  - ④心理的支援の方法と実際について理解する。

【講義計画】

- 第1回：心理学の歴史と領域
- 第2回：こころの動きと行動
- 第3回：認知と知能①
- 第4回：認知と知能②
- 第5回：個人と社会
- 第6回：人の成長・発達と心理①
- 第7回：人の成長・発達と心理②
- 第8回：日常生活とこころの健康①
- 第9回：日常生活とこころの健康②
- 第10回：心理学的アセスメント①
- 第11回：心理学的アセスメント②
- 第12回：カウンセリングの概念と範囲①
- 第13回：カウンセリングの概念と範囲②
- 第14回：心理療法の概要と実際①
- 第15回：心理療法の概要と実際②

【事前および事後学習の指示】

シラバスに沿って進行します。事前に予習して出席してください。  
授業後は、資料をもとに復習してください。

【テキスト】

【参考文献】

- 長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行『はじめて出会う心理学改訂版』有斐閣アルマ
- 加藤伸司・山口利勝編著『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック21 心理学理論と心理的支援第2版』ミネルヴァ書房

【コメント】

試験期間中に試験を実施し評価します。  
授業終わりにコメントシートへの記入・提出を行うことがあります。

【留意事項】

公認心理師・臨床心理士で児童福祉・障害福祉現場の心理士経験のある教員による授業

講義名称	曜日
心理学 A 02 (春)	火 2

**【教員名称】**

中村 隆行

**【講義概要】**

心理学は、人の心のしくみとはたらきを科学的に探究する学問として発展してきた。この授業では、これまで心理学が研究対象としてきたさまざまな領域で明らかにされた基礎的知見と研究成果を概説する。「心理学の研究法」「心のしくみと認知」「心のはたらきと行動」「個人と社会」「人の成長・発達」の各領域に分けて心理学の基礎理論を取り上げ、一般的包括的な内容構成に基づき講義を行う。学びの深化とともに、社会や教育現場で役立つ批判的・論理的な思考・判断能力の向上を目指す。

**【学習目標】**

- ・科学としての心理学の基礎理論および心理学研究上の基礎的知見・成果を体系的に理解している。
- ・子どもの心の発達と発達要因について理解している。
- ・日常生活におけるさまざまな心理社会的行動の特徴について、心理学理論と研究法を応用して探究し理解することができる。
- ・日常生活における多様な情報に対して、心理学的観点から批判的・論理的に思考・判断して適切に行動することができる。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション:心理学の基礎理論
- 第2回：心理学の歴史と領域
- 第3回：心理学の研究法
- 第4回：心のしくみと認知①:感覚と知覚
- 第5回：心のしくみと認知②:記憶
- 第6回：心のしくみと認知③:学習(条件づけ)
- 第7回：心のしくみと認知④:知能と思考
- 第8回：心のはたらきと行動①:動機づけ
- 第9回：心のはたらきと行動②:情動と感情
- 第10回：個人と社会①:人格・性格
- 第11回：個人と社会②:他者と集団
- 第12回：人の成長・発達と心理①:遺伝と環境
- 第13回：人の成長・発達と心理②:ライフサイクル
- 第14回：人の成長・発達と心理③:心の発達
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

- ・毎回講義終了後に、その回の重要事項復習用として、確認問題を配布する。次回講義までに必ず確認問題を解いておくこと。
- ・講義で学習したことが、実際の日常生活のどういったところと関連しているのか、注意して生活してみることに。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- ・加藤伸司・山口利勝(編著)『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック21 心理学理論と心理的支援 第3版』ミネルヴァ書房
- ・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦『はじめて出会う心理学改訂版』有斐閣アルマ

**【コメント】**

その他10%は授業内提出物

**【留意事項】**

講義名称	曜日
心理学 A 03 (春)	火 3

**【教員名称】**

中村 隆行

**【講義概要】**

心理学は、人の心のしくみとはたらきを科学的に探究する学問として発展してきた。この授業では、これまで心理学が研究対象としてきたさまざまな領域で明らかにされた基礎的知見と研究成果を概説する。「心理学の研究法」「心のしくみと認知」「心のはたらきと行動」「個人と社会」「人の成長・発達」の各領域に分けて心理学の基礎理論を取り上げ、一般的包括的な内容構成に基づき講義を行う。学びの深化とともに、社会や教育現場で役立つ批判的・論理的な思考・判断能力の向上を目指す。

**【学習目標】**

- ・科学としての心理学の基礎理論および心理学研究上の基礎的知見・成果を体系的に理解している。
- ・子どもの心の発達と発達要因について理解している。
- ・日常生活におけるさまざまな心理社会的行動の特徴について、心理学理論と研究法を応用して探究し理解することができる。
- ・日常生活における多様な情報に対して、心理学的観点から批判的・論理的に思考・判断して適切に行動することができる。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション:心理学の基礎理論
- 第2回：心理学の歴史と領域
- 第3回：心理学の研究法
- 第4回：心のしくみと認知①:感覚と知覚
- 第5回：心のしくみと認知②:記憶
- 第6回：心のしくみと認知③:学習(条件づけ)
- 第7回：心のしくみと認知④:知能と思考
- 第8回：心のはたらきと行動①:動機づけ
- 第9回：心のはたらきと行動②:情動と感情
- 第10回：個人と社会①:人格・性格
- 第11回：個人と社会②:他者と集団
- 第12回：人の成長・発達と心理①:遺伝と環境
- 第13回：人の成長・発達と心理②:ライフサイクル
- 第14回：人の成長・発達と心理③:心の発達
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

- ・毎回講義終了後に、その回の重要事項復習用として、確認問題を配布する。次回講義までに必ず確認問題を解いておくこと。
- ・講義で学習したことが、実際の日常生活のどういったところと関連しているのか、注意して生活してみることに。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- ・加藤伸司・山口利勝(編著)『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック21 心理学理論と心理的支援 第3版』ミネルヴァ書房
- ・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦『はじめて出会う心理学改訂版』有斐閣アルマ

**【コメント】**

その他10%は授業内提出物

**【留意事項】**

講義名称	曜日
心理学 A 04 (春)	木 1

**【教員名称】**

本多 隆司

**【講義概要】**

心理学は、人の心のしくみとはたらきを科学的に探究する学問として発展してきた。この授業では、これまで心理学が研究対象としてきたさまざまな領域で明らかにされた基礎的知見と研究成果を概説する。「心理学の研究法」「心のしくみと認知」「心のはたらきと行動」「個人と社会」「人の成長・発達」の各領域に分けて心理学の基礎理論を取り上げ、一般的包括的な内容構成に基づき講義を行う。学びの深化とともに、社会や教育現場で役立つ批判的・論理的な思考・判断能力の向上を目指す。

**【学習目標】**

- ・科学としての心理学の基礎理論および心理学研究上の基礎的知見・成果を体系的に理解している。
- ・子どもの心の発達と発達要因について理解している。
- ・日常生活におけるさまざまな心理社会的行動の特徴について、心理学理論と研究法を応用して探求し理解することができる。
- ・日常生活における多様な情報に対して、心理学的観点から批判的・論理的に思考・判断して適切に行動することができる。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション:心理学の基礎理論
- 第2回：心理学の歴史と領域
- 第3回：心理学の研究法
- 第4回：心のしくみと認知①:感覚と知覚
- 第5回：心のしくみと認知②:記憶
- 第6回：心のしくみと認知③:学習(条件づけ)
- 第7回：心のしくみと認知④:知能と思考
- 第8回：心のはたらきと行動①:動機づけ
- 第9回：心のはたらきと行動②:情動と感情
- 第10回：個人と社会①:人格・性格
- 第11回：個人と社会②:他者と集団
- 第12回：人の成長・発達と心理①:遺伝と環境
- 第13回：人の成長・発達と心理②:ライフサイクル
- 第14回：人の成長・発達と心理③:心の発達
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

事前に授業資料や教科書により準備しておく。  
授業内容において関心を持った領域やテーマに関して、授業資料で示した参考文献等を通じて理解を深める。

**【テキスト】**

はじめて出会う心理学 改訂版 長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行  
978-4-641-12345-8 有斐閣アルマ

**【参考文献】**

授業資料において示す。

**【コメント】**

- ①「試験」として、学期末に学習目標に対応したテーマにより出題する。
- ②「その他」として、A4版2枚程度の小レポートを課す。

**【留意事項】**

児童相談所、矯正・保護施設、障害者支援施設でのアセスメントや心理支援(セラピー)など臨床心理学による実践を授業に生かす。

講義名称	曜日
心理学 A 05 (春)	火 1

**【教員名称】**

冷水 啓子

**【講義概要】**

心理学は、人の心のしくみとはたらきを科学的に探究する学問として発展してきた。この授業では、これまで心理学が研究対象としてきたさまざまな領域で明らかにされた基礎的知見と研究成果を概説する。「心理学の研究法」「心のしくみと認知」「心のはたらきと行動」「個人と社会」「人の成長・発達」の各領域に分けて心理学の基礎理論を取り上げ、一般的包括的な内容構成に基づき講義を行う。学びの深化とともに、社会や教育現場で役立つ批判的・論理的な思考・判断能力の向上を目指す。

**【学習目標】**

- ・科学としての心理学の基礎理論および心理学研究上の基礎的知見・成果を体系的に理解している。
- ・子どもの心の発達と発達要因について理解している。
- ・日常生活におけるさまざまな心理社会的行動の特徴について、心理学理論と研究法を応用して探求し理解することができる。
- ・日常生活における多様な情報に対して、心理学的観点から批判的・論理的に思考・判断して適切に行動することができる。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション:心理学の基礎理論
- 第2回：心理学の歴史と領域
- 第3回：心理学の研究法
- 第4回：心のしくみと認知①:感覚と知覚
- 第5回：心のしくみと認知②:記憶
- 第6回：心のしくみと認知③:学習(条件づけ)
- 第7回：心のしくみと認知④:知能と思考
- 第8回：心のはたらきと行動①:動機づけ
- 第9回：心のはたらきと行動②:情動と感情
- 第10回：個人と社会①:人格・性格
- 第11回：個人と社会②:他者と集団
- 第12回：人の成長・発達と心理①:遺伝と環境
- 第13回：人の成長・発達と心理②:ライフサイクル
- 第14回：人の成長・発達と心理③:心の発達
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

授業で使用した教材スライドおよび授業情報(関連資料や定期試験要領など)は、本学の共用ネットワークドライブ“Lesson(S)”上にある“kshimizu”フォルダー内で公開する。授業の前後にそれらの情報を必ず確認し、予習・復習・発展学習・試験準備などのために役立てること。

**【テキスト】**

テキストは使わないが、スライド(パワーポイント)、インターネット、DVD、印刷物などによって資料を提供する。

**【参考文献】**

- ・加藤伸司・山口利勝(編著)『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 21 心理学理論と心理的支援 第2版』ミネルヴァ書房
- ・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行(著)『はじめて出会う心理学(改訂版)』有斐閣アルマ

**【コメント】**

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期末試験において、学習到達目標に対応するテーマに関する客観式および論述式問題を出題して、知識量および論理的な思考力・表現力を評価する。さらに、授業内で必要に応じて簡単な実験・調査への参加やコメントシートの提出を求め、授業への参加の度合いを評価する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

**【留意事項】**

- ・簡単な心理学実験・調査の実施
- ・授業中の私語や遅刻・無断退室のない快適な学習環境を維持するため、各自が自主的に受講マナーを守ること。

講義名称	曜日
政治学 A 〈春〉	木 2

**【教員名称】**

塚田 鉄也

**【講義概要】**

世の中には、さまざまな考え方や価値観、利害を持った人がいます。そして、そうした異なる価値観や利害が併存するなかで、共通の問題に対処したり集団としての方針を決めようとするときに必要になるのが政治です。本講義では、特に異なる価値観や利害の併存という点に注目して、政治の基本的な概念を学びながら、国内政治や国際政治において具体的にどのような問題が争点になっているのかを考察していきます。

**【学習目標】**

- ①政治の基本的な概念や対立軸について理解し、説明できる
- ②そうした理解に基づいて現実の政治を理解し、説明できる

**【講義計画】**

- 第1回：政治学を学ぶ意義
- 第2回：政治とは何か
- 第3回：権力論
- 第4回：自由論
- 第5回：平等論
- 第6回：デモクラシー
- 第7回：ポピュリズム
- 第8回：ネーションとナショナリズム
- 第9回：フェミニズム
- 第10回：環境と政治
- 第11回：国際政治①：対立と協調
- 第12回：国際政治②：主権と人権
- 第13回：国際政治③：文化とアイデンティティ
- 第14回：国際政治④：貧困と開発
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

テキストの指示された部分を事前に読んでおいてください。

**【テキスト】**

現代政治理論 (新版) 川崎修・杉田敦編  
9784641124547 有斐閣

**【参考文献】**

村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ (新版)』(有斐閣、2015年)

**【コメント】**

試験では到達目標に関連する知識問題と論述問題を中心に出題します。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
精神医学 A 〈春〉	水 5

**【教員名称】**

岡田 章

**【講義概要】**

精神医学 A 〈春〉では精神医学の総論について、脳の解剖学的構造、精神症状、診断、治療について最新の知見に基づいて講義を行う。特に精神機能については発達理論や治療に関しては臨床現場での問題点も含める。講義において理解を深めるためDVDやビデオを使用する予定である。また、講義の習得度も確認するため講義の終わりには小テストまたは要約を行う予定である。

**【学習目標】**

- 1. 精神医学、精神医療の歴史を理解する。 2. 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解する。 3. 精神医学の概念について理解する。 4. 精神医学の診断の基本的な方法について理解する。 5. 代表的な精神障害について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族の支援といった観点から理解する。 6. 精神科病院等における専門治療の内容及び特性について理解する。 7. 精神保健福祉士が精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。 8. 精神医療・福祉との連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解する。 9. 病院精神医学および地域精神医学について理解する。

**【講義計画】**

- 第1回：精神医学の概念 1. 精神医学の概念 2. 精神障害の分類、診断 3. 精神障害の頻度 4. 精神障害の問題点
- 第2回：脳および神経の生理・解剖 (1) 1) 形態的構造 2) 神経細胞 3) 神経膠細胞 4) 脳の発達
- 第3回：脳および神経の生理・解剖 (2) 1) 形態的構造 2) 神経細胞 3) 神経膠細胞 4) 脳の発達
- 第4回：脳および神経の生理・解剖 (3) 1) 形態的構造 2) 神経細胞 3) 神経膠細胞 4) 脳の発達
- 第5回：脳および神経の生理・解剖 (4) 1) 形態的構造 2) 神経細胞 3) 神経膠細胞 4) 脳の発達
- 第6回：精神症状 (1) 1) 精神症状 2) 精神状態像 (精神病像)、症候群 3) 神経心理学的症状 (臞症状)
- 第7回：精神症状 (2) 1) 精神症状 2) 精神状態像 (精神病像)、症候群 3) 神経心理学的症状 (臞症状)
- 第8回：精神症状 (3) 1) 精神症状 2) 精神状態像 (精神病像)、症候群 3) 神経心理学的症状 (臞症状)
- 第9回：精神科診断学 1) 診断学総論 2) 面接法
- 第10回：精神科の臨床検査 (1) 1) 身体的検査 2) 心理検査
- 第11回：精神科の臨床検査 (2) 1) 身体的検査 2) 心理検査
- 第12回：精神科の治療 (1) 1. 身体療法 2. 精神療法 3. 行動療法、活動療法、認知療法 4. 社会療法、環境療法 5. リエゾン精神医学 6. 精神科医療機関の治療構造および専門病棟 7. 精神科治療における人権擁護 8. 精神科病院におけるチーム医療と精神福祉士の役割 9. 精神医療と福祉及び関連機関との連携の重要性
- 第13回：精神科の治療 (2) 1. 身体療法 2. 精神療法 3. 行動療法、活動療法、認知療法 4. 社会療法、環境療法 5. リエゾン精神医学 6. 精神科医療機関の治療構造および専門病棟 7. 精神科治療における人権擁護 8. 精神科病院におけるチーム医療と精神福祉士の役割 9. 精神医療と福祉及び関連機関との連携の重要性
- 第14回：精神科の治療 (3) 1. 身体療法 2. 精神療法 3. 行動療法、活動療法、認知療法 4. 社会療法、環境療法 5. リエゾン精神医学 6. 精神科医療機関の治療構造および専門病棟 7. 精神科治療における人権擁護 8. 精神科病院におけるチーム医療と精神福祉士の役割 9. 精神医療と福祉及び関連機関との連携の重要性
- 第15回：まとめまたは試験。

**【事前および事後学習の指示】**

毎回配布される講義レジュメを復習して、疑問な点は次回の講義で質問すること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

改訂 精神保健福祉士養成セミナー 精神医学 第1巻 へるす出版 ICD-10 精神および行動の障害 WHO 編 医学書院 DSM-5 精神疾患の分類と手引き APA 編 医学書院 精神病 笠原嘉編 岩波書店、精神症状の把握と理解 原田憲一 中山書店

**【コメント】**

試験で評価。  
授業中に色分けした箇所やマスキングした箇所を中心に試験する。  
また、授業ごとに最後に小テストを行い、授業内容を再確認すると共に類似の問題がテストに出題される。

**【留意事項】**

- ・30年以上の精神科臨床および医学部学生と研修医の指導経験に基づき講義する。
- ・参考文献で ICD-10 が現在改訂作業中であるので授業期間中 ICD-11 に変更する可能性がある。

講義名称	曜時
税法A 〈春〉	火 1

**【教員名称】**

浦東 久男

**【講義概要】**

税法の基本的な原則を理解するために、相続税法、消費税法、所得税法などを素材にして、講義する。

**【学習目標】**

- ・憲法が規定する租税法主義について学ぶ、その内容と意義を理解する。
- ・相続税法を学び、税法の適用において私法(民法)が基礎となることを理解する。
- ・消費税法を学び、間接税についてその基本的な問題を知る。
- ・所得税法の基本的な仕組みを知る。
- ・「税制改正」がもたらす意味を知る。

**【講義計画】**

- 第1回：導入 授業計画の説明 わが国の税制を概観する
- ・税財政の状況
  - ・税法と他の科目(法分野)との関係
  - ・各税目の特徴
- 第2回：相続税法の体系と構造(税法の法源)・基本原則(租税法主義)
- 憲法と法律の関係、法律と政令の関係
  - 個別税法の例 地方税条例の例を知る
  - 法律の遡及適用について
- 第3回：相続税法の解釈と適用：「疑わしきは納税者の利益に」、「借用概念」とは
- 租税回避と「事実認定による否認」
- 第4回：相続税法(1) 納税義務者(居住と国籍)と課税対象財産：民法と税法の関係を考える
- 第5回：相続税法(2) 課税の対象：遺産取得税とはどんなものか 課税対象となる財産の範囲
- 第6回：相続税法(3) 納税額の計算：基礎控除額、累進税率、税額軽減
- 第7回：相続税法(4) 土地などの財産の評価(路線価方式と倍率方式)
- 通達の意味
  - (地方税の代表例として) 固定資産税について知る
- 第8回：消費税法(1) 直接税と間接税、間接税の分類、多段階課税の間接税と累積課税
- 第9回：消費税法(2) 累積課税の排除
- 仕入税額控除
  - 課税対象取引と非課税取引
- 第10回：所得税法(1) 所得課税の基礎、所得概念、法人税と所得税
- 第11回：所得税法(2) 所得区分と各種所得の金額(その1) 事業所得と給与所得
- 第12回：所得税法(3) 各種所得の金額(その2) 譲渡所得、利子所得、配当所得
- 第13回：所得税法(4) 所得控除と確定申告
- 第14回：租税手続法 租税債務の成立と確定 源泉徴収 強制徴収との関係
- 第15回：まとめ わが国の税制改正

**【事前および事後学習の指示】**

教科書の該当箇所によって、前回までの講義内容の復習をすること。授業中に出現された質問をノートに記す、そしてその答えを考えること。授業中に小テストを実施するが、成績評価には含めない。

**【テキスト】**

図説・租税法ノート(十二訂版) ハツ尾順一  
978-4433639297 清文社

**【参考文献】**

- 1 岡村忠生・酒井貴子・田中昌国著『租税法』(有斐閣)
- 2 吉沢浩二郎編著『図説日本の税制平成30年度版』(財経詳報社)
- 3 中里実・佐藤英明・増井良啓編『租税判例百選[第6版]』(有斐閣)
- 4 三木義一『日本の税金(第三版)』(岩波書店)

**【コメント】**

- (1) 試験：定期試験として実施
- (2) レポート：次の課題について、1000字程度で説明しなさい。  
課題「相続税法の課税の対象としての「みなし相続財産」について」  
提出期限：6月の第2回目の授業日

**【留意事項】**

講義名称	曜時
西洋経済史I 〈春〉	金 1

**【教員名称】**

豆原 啓介

**【講義概要】**

中世から19世紀後半までの西洋経済史の基本的な流れと基礎的な事項について説明する。個々の事項についての詳細な知識の暗記より、それぞれの事項がいかに関連しながら歴史上の因果関係を成しているかについて理解することが重視される。知識の定着を図るため、二回程度小テストを実施する。なお、本年度は穴埋め式のプリントは一切使用しない。期末試験は全問記述式で行う。

**【学習目標】**

- ・中世から近代に至る西洋経済史の流れを把握し、基礎的な事項を理解すること。
- ・経済のあり方が歴史を通して構築されるものであることを理解すること。
- ・現在存在する経済システムの多くがヨーロッパに歴史的な起源を持つことを理解すること。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：中世ヨーロッパ経済の構造と変質
- 第3回：中世ヨーロッパにおける都市の形成
- 第4回：「商業の復活」と中世経済の終焉
- 第5回：大航海時代とヨーロッパ世界の拡張
- 第6回：商業国家オランダの盛衰
- 第7回：映画「提督の艦隊」鑑賞
- 第8回：近世イギリスの経済発展
- 第9回：イギリス市民革命の経済史的意義
- 第10回：イギリス産業革命
- 第11回：「パックス・ブリタニカ」の時代
- 第12回：第二次産業革命とイギリス経済の変容
- 第13回：アメリカの勃興とその経済発展
- 第14回：19世紀ヨーロッパの消費文化
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

事前学習は特に必要とはしないが、歴史科目という特性上理解すべき事項が多岐にわたるために一回の授業が終了する都度、各自が復習し理解の上で次の授業に臨むことが望まれる。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

奥西孝至、鳩澤歩、堀田隆司、山本千映著『西洋経済史』有斐閣、2010年。  
須藤功、廣田功、山本通、馬場哲著『エレメンタル西洋経済史』晃洋書房、2012年。

**【コメント】**

期末試験80%+小テスト20%

備考 小テストを2回実施する。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
西洋法制史 (春集)	月2/木1

**【教員名称】**

鈴木 康文

**【講義概要】**

古代から現代までのヨーロッパにおける法と法学の歴史を概観します。具体的には、古代ローマ帝国、フランク王国、神聖ローマ帝国、ドイツ帝国、ヴァイマル共和国、ナチス・ドイツ、第二次世界大戦後の東西ドイツにおける法と法学のあり方を学びます。ドイツ法制史が中心です。

**【学習目標】**

- ①各時代のヨーロッパにおける政治・社会の状況を理解する。
- ②①を前提に、その時々々の法と法学のあり方を学び理解する。
- ③過去との比較を通じて現代の法のあり方を考察する。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：ローマ市民法、古典期ローマ法曹と法学 13-38頁
- 第3回：古ゲルマンの法と社会 39-50頁
- 第4回：部族法典、フランク王国、ユスティニアヌス法典 55-75頁
- 第5回：封建社会、中世法の理念と現実 78-103頁
- 第6回：ローマ法のルネサンス、中世ローマ法学 118-140頁
- 第7回：カノン法 104-115頁、141-154頁
- 第8回：ローマ法の継受、帝国裁判所、人文主義法学 158-186頁、201-215頁
- 第9回：糾問訴訟と魔女裁判 187-200頁
- 第10回：身分制議会と絶対主義国家 218-231頁
- 第11回：パンデクテンの現代的慣用 232-244頁
- 第12回：自然法論・啓蒙主義・法典編纂 245-268頁
- 第13回：フランス革命と法・法学
- 第14回：歴史法学派 273-284頁
- 第15回：前半のまとめ
- 第16回：ドイツ近代私法学①—パンデクテン法学 285-294頁
- 第17回：ドイツ近代私法学②—パンデクテン法学の批判者
- 第18回：ドイツ近代公法学①—フランクフルト憲法、プロイセン憲法 295-307頁
- 第19回：ドイツ近代公法学②—憲法学、行政法学
- 第20回：ドイツ帝国—憲法・民法 309-318頁
- 第21回：ヴァイマル共和国①—憲法 319-325頁
- 第22回：ヴァイマル共和国②—司法
- 第23回：ナチス①—種々の立法 325-333頁
- 第24回：ナチス②—法学・司法
- 第25回：ドイツ連邦共和国①(公法)
- 第26回：ドイツ連邦共和国②(私法)
- 第27回：ナチス司法への反省—『日独裁判官物語』から学ぶ
- 第28回：ドイツ民主共和国①(公法)
- 第29回：ドイツ民主共和国②(私法)
- 第30回：後半のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

プリントを配布しますが、必要に応じてノートをとってください。  
授業後はプリント、ノートなどを使って復習してください。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

勝田有恒ほか編著『概説 西洋法制史』(ミネルヴァ書房、2004年)  
ISBN9784623040643  
授業内容はこれに準拠します。授業計画のページ数はこの本のページ数に対応しています。

**【コメント】**

**【留意事項】**

遅刻・欠席のないよう気をつけてください。  
他の受講生の学習の妨げとなりますので私語は厳禁です。  
授業中は携帯電話等の電子機器はカバンの中にしめてください。

講義名称	曜日
世界経済事情 I (春)	月1

**【教員名称】**

モグベル ザファル

**【講義概要】**

この講義の主なテーマは経済発展と貧困です。世界経済でいま何が起きているのか。また、経済の現状を見つめるとき、世界の国々とその国民は何に期待を掛け、何を脅威と受け止めているのか。『世界経済事情 I』では、このような視点に立って経済発展と貧困の問題に焦点を当てた『世界経済入門』の講義を行い、これらの分野に関連するトピックスを取り上げて分かりやすく説明します。できるだけタイムリーな、そして受講生が関心を持てるようなトピックスを選ぶことを目指します。なお、トピックスの内容や順序は、世界情勢の展開により変わることがあります。

**【学習目標】**

世界経済の仕組みと今日的トピックスについて分かりやすく解説することがこの講義の趣旨です。受講生は、新聞の国際経済記事を興味をもって読み、自分なりの理解と意見を持つことができるようになります。さらに、受講生は、「極度の貧困」を中心に開発途上国が直面する諸問題について理解を深め、自分の考えを述べるできるようになります。

**【講義計画】**

- 第1回：世界経済展望
- 第2回：[ヒト・モノ・カネ]の国際移動とその分類
- 第3回：先進国・中進国・途上国とその他の分類
- 第4回：世界銀行の「所得層」に見る各国経済のランキング
- 第5回：様々な視点から見た世界の中の日本のランキング
- 第6回：世界経済の中の日本の位置
- 第7回：開発途上国と貧困の問題
- 第8回：国連「ミレニアム開発目標(2000～2015年)」の評価
- 第9回：国連「持続可能な開発目標(2015～2030年)」の目指すもの
- 第10回：国連「持続可能な開発目標(2015～2030年)」：持続可能な開発のための2030年アジェンダの17の目標
- 第11回：貧困撲滅を目指して：グラミン運動
- 第12回：経済援助の歴史と現状：途上国の視点
- 第13回：経済援助の歴史と現状：先進国の視点
- 第14回：日本のODA(政府開発援助)の現状と課題
- 第15回：まとめ：貧困と世界経済の未来象

**【事前および事後学習の指示】**

- 1. 経済学の基礎を復習しておくこと。
- 2. 配布資料を正しく管理し、その内容について予習・復習を行うこと。
- 3. 新聞の、国際経済関連の記事を継続的に読み、世界経済の現状をできるだけリアルタイムで追うこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

テキストの代わりに、ほとんど毎回資料を配布するので、配布資料の責任ある管理を各人に期待する。

**【コメント】**

- ①学期末試験において、国際収支論、日本の貿易構造、経済グローバル化などの達成目標に対応するテーマに関する選択式問題と論述問題を出题します。答案の正解率と論述問題に対して論理的に述べているかに重点をおいて評価します。
- ②授業への積極的な参加について評価します。具体的には、授業中に行う2～3回の練習問題の結果で評価します。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
世界の市民－医と倫理と人権 〈春〉	木 2

#### 【教員名称】

永水 裕子

#### 【講義概要】

科学技術・医療技術の発展により、今までは不可能だったことが可能となり、例えば、自然の状態では子どものできないカップルが、生殖補助医療技術により子をもつことも可能となった。しかし、技術的には可能なことであっても、当事者の人権や尊厳を侵害していないか、かりに侵害していないとしても、本当にそのような技術を利用することが倫理的に適切なのかというジレンマが生ずることがある。この講義では、このような問題について、マスコミが作り出すイメージや感情論から独立して、受講生が自らの意見を形成できるように材料を提供していくとともに、受講生が自ら考え、その考えを表現することを促していく予定である。できるだけ積極的に講義に参加し、意見交換に参加してほしい。

#### 【学習目標】

生命倫理の観点から対立のある問題に関する文献や情報を自分の力で理解することができること。

上記の問題について、自分で様々な視点から考え、他者の意見をも理解した上で自分の意見を論理的に説明・表現できるようになること。

「人にとってどのような社会が住みやすいか」という観点から、論理だけでなく、だらかで優しさのあるバランスの取れた考えを導き出せるようになること。

#### 【講義計画】

- 第1回：イントロダクション－患者の権利
- 第2回：医療訴訟・医療安全管理
- 第3回：医療情報とプライバシー
- 第4回：生殖補助医療をめぐる諸問題
- 第5回：生命誕生の場面における選択（出生前診断、着床前診断等）
- 第6回：子どもの治療をめぐる問題
- 第7回：終末期医療をめぐる問題（1）
- 第8回：終末期医療をめぐる問題（2）
- 第9回：再生医療をめぐる問題
- 第10回：臓器移植に関する問題
- 第11回：薬をめぐる規制－薬害を中心に
- 第12回：医学に関する問題
- 第13回：遺伝をめぐる問題
- 第14回：人体および死因究明に関する問題
- 第15回：まとめ

#### 【事前および事後学習の指示】

講義で得た知識をさらに発展させるために、講義の際に示した当該項目に関する参考文献を読むこと。家族や友人との議論も行うとなおよい。また、講義についていくため、講義内で自分の意見を積極的に述べていくことができるように、指定したテキストの中の該当箇所を事前に読んで予習すること。

#### 【テキスト】

#### 【参考文献】

- 甲斐克則編『レクチャー生命倫理と法』（法律文化社）
- 手嶋豊『医事法入門第5版』（有斐閣）
- 久々湊晴夫／旗手俊彦編『はじめての医事法 第2版』（成文堂）
- 甲斐克則編『ブリッジブック医事法第2版』（信山社）

#### 【コメント】

- ①学期末試験において、到達目標に対応するテーマに関する論述問題を出題する。講義内容を踏まえたうえで、論理的に自分の考えを論理的に述べていくかに重点を置いて評価する。
- ②その他、講義において、積極的に参加し、自分の意見（正しい見解ではない）を述べること、およびコメントペーパーに自分の意見を論理的に記述することも評価の対象とする。

#### 【留意事項】

講義名称	曜日
世界の市民－グローバル化する社会に生きる 〈春〉	火 2

#### 【教員名称】

篠原 千佳

#### 【講義概要】

桃山学院大学の建学の理念は、「キリスト教精神に基づく人格の陶冶と世界の市民の養成」である。この講義は新入生を対象にし、本学の目指す「世界の市民」とは何か、また、どうしたらそうなれるのかを共に学び考える。講義の序盤では、そのための概論として本学の歩んできた歴史、キリスト教、世界事情、人権、平和、環境などについて学ぶ。その後、近年のグローバル化社会に見られる現象と問題を、国際社会学的な視点で考察する。

#### 【学習目標】

大学での学びには、絶対的な正解はない。ただ単に「答え」を覚えようとする態度では、「世界の市民」への道は遠のくばかりである。この講義では、世界市民としての知識を増やすだけではなく、自ら疑問を持って積極的に考えていく姿勢を身につけることができる。グローバル化する社会で起こっている現象や問題について、法制度の変化と影響も考えながら、社会的に理解・分析する基礎能力を育成する。この講義を通して、履修生は「世界市民」であるための基礎知識を習得し、価値観の多様化するグローバル社会の現象や問題を多角的視点で理解するだけでなく、その理解を分析的に表現することができる。

#### 【講義計画】

- 第1回：建学の精神と「世界の市民」
- 第2回：キリスト教
- 第3回：世界事情と国際交流
- 第4回：人権
- 第5回：環境問題
- 第6回：戦争と平和
- 第7回：これまでのまとめと復習
- 第8回：国際人口移動
- 第9回：多文化社会
- 第10回：国際組織と制度
- 第11回：グローバル化と日本における市民権の拡大
- 第12回：日本社会と移民
- 第13回：韓国社会と国際移動－労働、養子、結婚、留学
- 第14回：移民の国アメリカ社会－移民の国の移民政策と文化
- 第15回：学期のまとめと復習

#### 【事前および事後学習の指示】

講義時の指示に従い、教科書と関係資料を毎回必ず予習・復習し授業に臨むこと。事前学習は、教科書の該当する章（週に平均20ページほど）と配布資料がある場合にはそれを熟読し、授業中の課題に取り組めるよう準備をしておくこと。事後学習としては、レポート課題等の準備や執筆に十分取り組むこと。講義時間内外での提出課題は、個人、ペア、グループ・ワークなど多様であり、自立心と積極性に加えて協調性が求められる。

#### 【テキスト】

よくわかる国際社会学 [第2版] 樽本 英樹  
ISBN-13: 978-4623075911 ミネルヴァ書房

#### 【参考文献】

#### 【コメント】

期末試験レポート40%、レポート30%、授業参加と貢献30%、

授業中の参加・貢献（課題）と講義・教科書・文献の内容理解を試験レポートで確認し、上記のように総合的に判断し評価する。毎回講義時間内外の課題に取り組み、積極的に授業参加・貢献することに加えて、協調性を持って他の受講生ともコミュニケーションをとりながら理解を深める事が求められる。

#### 【留意事項】

講義名称	曜時
世界の市民—コミュニケーション学から考える 〈春〉	火 4

**【教員名称】**

宮脇 かおり

**【講義概要】**

桃山学院大学の建学の理念は「キリスト教精神に基づく人格の陶冶と世界の市民の養成」です。グローバル化が進む現代社会では、日本に暮らしていたとしても、自分とは異なる文化背景を持った人々と接する機会が多々あります。本講義では大学生にも身近な問題を取り上げ、特にコミュニケーション学の視点から、世界市民としての態度や行動について議論します。

**【学習目標】**

自分が当たり前だと思っていた事柄に疑問を持つようになってもらいたいです。身の回りに存在しているはずなのに今まで意識していなかった人、文化、習慣を考え直す機会としてもらいたいです。グローバルな人とは、海外経験がある人は限りません。日本に暮らしながら世界市民としての意識を持つことは可能ですし、本講義がそのきっかけになれば嬉しいです。

**【講義計画】**

- 第1回：シラバス 導入
- 第2回：Chapter 1 コミュニケーション学とは
- 第3回：Chapter 2 ことば・わたし・せかい
- 第4回：Chapter 3 異文化との出会い
- 第5回：Chapter 4 海外から見た日本・日本から見た世界
- 第6回：Chapter 5 メディアと社会とわたしたち
- 第7回：Chapter 6 レトリックが作るコミュニティ
- 第8回：Chapter 7 知識が力を持つとき
- 第9回：Chapter 8 “わたし/わたしたち”と“あなた/あなたたち”
- 第10回：Chapter 9 ソーシャル・メディアと対人関係
- 第11回：Chapter 10 コンフリクト・協調
- 第12回：Chapter 11 働くことと生きること
- 第13回：Chapter 12 市民社会と公共
- 第14回：Chapter 13 健康とリスクとコミュニケーション
- 第15回：総括、レポート発表

**【事前および事後学習の指示】**

講義時の指示に従い、教科書の該当するページと、配布資料がある場合にはそれを熟読し、授業中の課題に取り組めるよう準備をしてください。講義時間内にはペアワークやグループ・ワークなどを行う為、積極的な授業参加が求められます。

**【テキスト】**

タイトル:グローバル社会のコミュニケーション学入門  
 著者:藤巻光浩・宮崎新 編  
 出版社:ひつじ書房  
 I S B N:978-4-89476-974-8

**【参考文献】**

**【コメント】**

**【成績評価の方法】**  
 期末試験: 50% レポート:20% その他:授業内小テスト30%  
 備考:自分が特に興味を持った講義内容に関するレポートを作成し、授業内で発表してもらいます。  
 期末試験の内容は、毎回の授業内で行う小テストの内容が主になります。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
世界の市民—情報の時代の世界を生きる 01 〈春〉	金 1

**【教員名称】**

藤間 真

**【講義概要】**

桃山学院大学の建学の理念は、「キリスト教精神に基づく人格の陶冶と世界の市民の養成」です。本学の構成員は学生であるか教職員であるかを問わず、世界の市民として育ち続ける必要があります。この講義では、本学の目指す「世界の市民」とは何か、また、どうしたら「世界の市民」になれるのかをともに学び考えていきたいと思えます。

担当者の本学でのポストは大学全体の情報リテラシー教育担当ですが、研究者としての出発点は現象数理学で、企業勤務経験を経て現職についています。このような担当者の特性に立脚した、講義を展開する予定です。2020年度は同一名称で2科目が開講されますが、基本的に同内容での展開を予定しています。

講義中に軽度のアクティブラーニングを交える予定であることを認識してください。

なお、一方通行ではない講義を目指すので、受講生の提示した提出物に対応して下記の講義予定が変更となることがあります。

**【学習目標】**

大学での学びには、絶対的な正解はありません。また、単に「答え」を覚えようとする態度では、「世界の市民」への道は遠のくばかりです。この講義では、世界市民としての知識を増やすだけでなく、自ら疑問を持って積極的に考えていく姿勢とそれを支える知的体力を身につけることを目指します。そのために、  
 (1)「情報」を扱う機器とインフラについての基本的な理解  
 (2)「情報」はどのように保存され管理されているのかという視点からの理解  
 (3)「情報」はいかに作成され伝達されつのかという視点からの理解  
 という三本の柱から、色々な視点を提供し考えます。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション  
 受講を検討している人は必ず出席してください。  
 なお、第一回の内容も、成績評価の対象の一部とします。
- 第2回：桃大生を支援する桃大の情報基盤
- 第3回：個人を支援する情報機器(1)自分を支援する情報機器
- 第4回：個人を支援する情報機器(2)特性を支援する情報機器
- 第5回：「市民」のためのクリティカル・シンキング
- 第6回：映画を題材に「情報」について考える—「1984」と「ドリーム」
- 第7回：「市民」とウィキペディア
- 第8回：「市民」とエコチェンバーとフィルターバブル
- 第9回：「市民」が考えることを支援する統計と数理
- 第10回：考えることと知的権利とコモンズ
- 第11回：市民となるためのレポート・ライティング
- 第12回：市民を支援する情報基盤(1)図書館の理念
- 第13回：市民を支援する情報基盤(2)MLA 連携と情報公開制度
- 第14回：人工知能とシンギュラリティ(1)
- 第15回：人工知能とシンギュラリティ(2)

**【事前および事後学習の指示】**

毎回、その回の事後学習と次回の事前学習の課題を提示します。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

都度指示します。

**【コメント】**

レポートが90%となっていますが、これは出席した上で課された課題に取り組んだ上でレポートに生かすまでを含めた数字です。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
世界の市民—情報の時代の世界を生きる 02〈春〉	金 4

【教員名称】  
藤間 真

【講義概要】

桃山学院大学の建学の理念は、「キリスト教精神に基づく人格の陶冶と世界の市民の養成」です。本学の構成員は学生であるか教職員であるかを問わず、世界の市民として育ち続ける必要があります。この講義では、本学の目指す「世界の市民」とは何か、また、どうしたら「世界の市民」になれるのかをともに学び考えていきたいと思えます。

担当者の本学でのポストは大学全体の情報リテラシー教育担当ですが、研究者としての出発点は現象数理学で、企業勤務経験を経て現職についています。このような担当者の特性に立脚した、講義を展開する予定です。2020年度は同一名称で2科目が開講されますが、基本的に同内容での展開を予定しています。

講義中に軽度のアクティブラーニングを交える予定であることを認識してください。

なお、一方通行ではない講義を目指すので、受講生の提示した提出物に対応して下記の講義予定が変更となることがあります。

【学習目標】

大学での学びには、絶対的な正解はありません。また、単に「答え」を覚えようとする態度では、「世界の市民」への道は遠のくばかりです。この講義では、世界市民としての知識を増やすだけではなく、自ら疑問を持って積極的に考えていく姿勢とそれを支える知的体力を身につけることを目指します。そのために、

- (1)「情報」を扱う機器とインフラについての基本的な理解
  - (2)「情報」はどのように保存され管理されているのかという視点からの理解
  - (3)「情報」はいかに作成され伝達されたのかという視点からの理解
- という三本の柱から、色々な視点を提供し考えます。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション  
受講を検討している人は必ず出席してください。  
なお、第一回の内容も、成績評価の対象の一部とします。
- 第2回：桃大生を支援する桃大の情報基盤
- 第3回：個人を支援する情報機器 (1) 自分を支援する情報機器
- 第4回：個人を支援する情報機器 (2) 特性を支援する情報機器
- 第5回：「市民」のためのフリティカル・シンキング
- 第6回：映画を題材に「情報」について考える—「1984」と「ドリーム」
- 第7回：「市民」とウィキペディア
- 第8回：「市民」とエコーチェンバーとフィルターバブル
- 第9回：「市民」が考えることを支援する統計と数理
- 第10回：考えることと知的権利とコモンズ
- 第11回：市民となるためのレポート・ライティング
- 第12回：市民を支援する情報基盤 (1) 図書館の理念
- 第13回：市民を支援する情報基盤 (2) MLA 連携と情報公開制度
- 第14回：人工知能とシンギュラリティ (1)
- 第15回：人工知能とシンギュラリティ (2)

【事前および事後学習の指示】

毎回、その回の事後学習と次回の事前学習の課題を提示します。

【テキスト】

【参考文献】

都度指示します。

【コメント】

レポートが90%となっていますが、これは出席した上で課された課題に取り組んだ上でレポートに生かすまでを含めた数字です。

【留意事項】

講義名称	曜時
世界の市民—世界における労働法の歴史 〈春〉	金 4

【教員名称】  
楠本 敏之

【講義概要】

世界における労働法のあり方を歴史的視点を踏まえつつ概観します。世界における労働法の歴史を学ぶことには二つの意義があります。第一に、現在の日本の労働法は、過去からの歴史的経緯と世界の諸外国との相互関係から生成してきたものであるため、世界における労働法の歴史を学ぶことで現在の日本の労働法の理解をより確かなものとするという意義があります。第二に、現在の日本の労働法の問題点の改善のために何が必要かを考えるときに、世界の現状及び歴史との比較がとて役に立つという意義があります。このような二つの意義を念頭に置きつつ、現在の日本の労働法のより深い理解と適切な改善のために必要な知識を講義します。

【学習目標】

この講義では、日本を含めた世界の労働法の歴史、具体的には、日本及び日本に影響を与え、かつ、世界の歴史において中心的役割を果たしてきたイギリス、フランス、ドイツ、アメリカ合衆国という先進4ヶ国の労働法とその歴史、さらには、各国の労働法制に一定の影響力を有してきたEU労働法や国際労働法の内容と歴史について、基本的知識を習得することが目標です。最終的には、このような知識を踏まえて、現在の日本の労働法の問題点についてより深く理解し、考察できるようにすることを目指します。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンスとイントロダクション～世界の労働法の歴史を学ぶ意義
- 第2回：イギリス労働法の歴史と特徴 (1)
- 第3回：イギリス労働法の歴史と特徴 (2)
- 第4回：フランス労働法の歴史と特徴 (1)
- 第5回：フランス労働法の歴史と特徴 (2)
- 第6回：ドイツ労働法の歴史と特徴 (1)
- 第7回：ドイツ労働法の歴史と特徴 (2)
- 第8回：アメリカ労働法の歴史と特徴 (1)
- 第9回：アメリカ労働法の歴史と特徴 (2)
- 第10回：EU労働法の歴史と特徴 (1)
- 第11回：EU労働法の歴史と特徴 (2)
- 第12回：国際労働法の歴史と特徴
- 第13回：日本の労働法の歴史と特徴 (1)～第2次世界大戦終結前の歴史を中心に
- 第14回：日本の労働法の歴史と特徴 (2)～第2次世界大戦終結後の歴史を中心に
- 第15回：総括～世界の労働法の歴史と日本の労働法

【事前および事後学習の指示】

事前学習: 次回の授業までに考えておくべきこと、調べておくべきことなどを、その都度指示します。  
事後学習: その日の授業で学習したことを配布されたレジュメを再読することを中心として復習してください。

【テキスト】

【参考文献】

各回の授業で配布されるレジュメを中心に学習しますが、以下の文献を適宜参考にしてください。  
小宮文人『イギリス労働法』(信山社)、水町勇一郎『労働社会の変容と再生：フランス労働法制の歴史と理論』(有斐閣)、ペーター・ハナウ、クラウス・アドマイト(手塚和彰、阿久澤利明訳)『ドイツ労働法』(信山社)、中窪裕也『アメリカ労働法(第2版)』(弘文堂)、濱口桂一郎『EUの労働法政策』(労働政策研究・研修機構)、小西國友『国際労働法』(信山社)、濱口桂一郎『日本の労働法政策』(労働政策研究・研修機構)ほか

【コメント】

学期末試験のみで評価します。ただ、毎回の授業の終わりにコメントシートに記入し提出することを義務とし、その提出が11回以上の者のみが成績評価の対象となります。

【留意事項】

講義名称	曜日
世界の市民－戦争と正義－日本を巡る国際法上の諸問題（春）	月 4

**【教員名称】**

松村 昌廣

**【講義概要】**

世界市民になるには、世界情勢に対する深い理解とともに、道徳的な判断力も必要である。とりわけ、多大な人命が犠牲になり、甚大な物理的破壊をともなう戦争と正義の問題は重要である。実際、第二次世界大戦・大東亜戦争・太平洋戦争（立場により、呼称が異なる）の敗戦国であった日本はドイツやイタリアとともに「侵略国」と位置付けられ、国際的な非難にさらされてきた一方、そうした位置付けを巡って、わが国の国内外でも賛否が激しく議論されてきた。そこで、本講義では、こうした議論を行う際の「始まり」であり且つ往々にして「終わり」である国際法上確定した事実などを詳しく解説する。

**【学習目標】**

戦争は始まりから終わりまで国際法に従って行われます。そうしなければ、国際法に違反することとなり、国家やその軍隊、場合によっては、個人の政治指導者や軍人は責任を負わねばなりません。国際法上、戦争はいつ、どのように始まり、終わるのでしょうか。また、戦争中は何が許され、何が許されないのでしょうか。本講義では、日本のケースに焦点を絞って、こうした論点を具体的に考えていきます。学生諸君の中には高校の世界史や日本史の授業で近現代史に関する知識を十分身につけていない者も散見されますが、こうした学生は本講義をとることによって、基本的な知識を習得するきっかけとなるでしょう。また、本講義の内容を十分習得すれば、わが国の戦争と正義の問題に関する論争をより深く理解し、自分なりの意見を持つことが可能になるでしょう。

**【講義計画】**

- 第1回：正義と戦争 － 国際法の観点
- 第2回：日米開戦
- 第3回：原爆投下・空襲
- 第4回：「無条件降伏」と占領（1）
- 第5回：「無条件降伏」と占領（2）
- 第6回：東京裁判
- 第7回：サンフランシスコ講和条約
- 第8回：台湾（1）
- 第9回：台湾（2）
- 第10回：千島列島・北方領土（1）
- 第11回：千島列島・北方領土（2）
- 第12回：南樺太（南サハリン）
- 第13回：竹島
- 第14回：尖閣列島
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

講義の進度に合わせて、参考文献に挙げた書籍を読んでください。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- ・色摩力男「日本人はなぜ終戦の日付をまちがえたのか」黙出版、2000年。
- ・芹田健太郎「日本の領土」中公文庫、2010年。
- ・各自必ず、インターネットから関連の条約等をダウンロードして、ファイルの形で自分の「条約集」を作ってください。

**【コメント】**

**【留意事項】**

講義名称	曜日
世界の市民－日本の「食」のローカルとグローバル 01（春）	月 2

**【教員名称】**

室屋 有宏

**【講義概要】**

皆さんが毎日食べている食料はどのように生産され手元に届くのだろうか？そこには農業や水産業、食品加工業、食品流通業・小売業など多くの産業が関わっている。また日本の食は「ローカル」と「グローバル」が一体化しながら今日の多様で高度なシステムとなっている。本講義では、日本の食生活を支えるさまざまな産業をフードシステムと捉え、各産業が相互に関連し合い、また内外の資源を取り込み、消費者ニーズに対応しているのかについて考察する。さらに食はたんに経済ビジネスだけでなく、地域、自然環境、安全性など幅広い問題ともつながっていることについて理解を深めてもらいたい。

**【学習目標】**

1. 日本の食と農を支える産業・ビジネスについて知る。
2. 現在の日本の食と農が直面する問題点や課題について学ぶ。
3. 長期的かつグローバルな視点から、望ましい食と農のあり方について自ら考える。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション～私たちの食、日本の食と農はどう変化してきたのか
- 第2回：食の変化とグローバル化
- 第3回：低下する日本の食料自給率～農業を持たない日本の食
- 第4回：食の安全・安心問題と環境問題
- 第5回：日本農業の構造と現状～外国人が支える日本農業
- 第6回：日本の酪農業～なぜ牛乳は水より安いのか
- 第7回：農産物の流通～青果物の価格はどのように決まるか
- 第8回：大阪農業のポテンシャル～ゲストスピーカー（予定）
- 第9回：食品製造業～海外展開を加速する食品大手
- 第10回：食品製造業～地域ブランド化を追求する地場企業
- 第11回：中食と外食～外食から中食へ、食の簡便化の流れ
- 第12回：スーパーマーケット～小売主導フードシステム
- 第13回：コンビニエンスストア～24時間営業は必要か
- 第14回：Eコマース～アマゾン食品小売の覇者になれるか
- 第15回：まとめ～持続性ある食と農のあり方

**【事前および事後学習の指示】**

食や農、また地域産業について関心を持ち、新聞・ニュース等に日常的に目を通すようにしてください。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 時子山ひろみ・荏開津典夫・中嶋康博「フードシステムの経済学」第5版（医歯薬出版）
- 清水みゆき・高橋正郎「食料経済（第5版）：フードシステムからみた食料問題」（オーム社）

**【コメント】**

1. 学期末試験において、到達目標に対応するテーマに関する論述問題を出题する。答案の構成および論理的な記述になっているかどうか重点を置いて評価する。
2. A4・1枚程度のレポート課題を3回程度課す
3. 私語等で周囲に迷惑をかける学生に対しては減点措置を取る。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
世界の市民－日本を取り巻く技術と社会の国際環境 01 (春)	火 1

【教員名称】  
岳 理恵

【講義概要】

本講義は、「世界市民ってなんだろう」という疑問を手がかりにして、現代国際社会に生きる若者の生き方を中心に議論する。第一部においては、現代国際社会の中心に位置づけられるアメリカと中国における家族・教育・人種・性別・成功等の文化風土の相違点について探ってみる。多様な文化側面の議論から、「世界市民」としてのクリティカルシンキング能力を養成する。第二部においては、技術で熱狂した世界のフロンティアや環境問題等を紹介し、人類共通の問題解決に参加できる「世界市民」としての資質を身につける。第三部においては、授業で取り上げたテーマに沿って、受講生によるパネルディスカッションを実施する。グループワークによるプレゼンテーションの準備を通して、コミュニケーション能力を高める。

【学習目標】

異文化への理解を通して、クリティカルシンキング能力を養成する。また、技術フロンティアや環境問題の題材から、問題解決に意欲的に参加する資質を身につける。さらに、パネルディスカッションでコミュニケーション能力を高める。

【講義計画】

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：クリティカルシンキング
- 第3回：国際情勢
- 第4回：アメリカ文化 - 家族・教育
- 第5回：アメリカ文化 - 人種・性別
- 第6回：中国文化 - 家族・教育・性別・民族
- 第7回：技術革新とは
- 第8回：技術のフロンティア
- 第9回：社会と環境
- 第10回：環境問題の解決へ
- 第11回：コミュニケーション
- 第12回：パネルディスカッション
- 第13回：パネルディスカッション - 第一部テーマ
- 第14回：パネルディスカッション - 第二部テーマ
- 第15回：まとめと最終試験

【事前および事後学習の指示】

英語で書かれた授業資料があるので、普段、英語で書かれたアメリカのニュースを読むようにしてください。

【テキスト】

【参考文献】

講義レジュメを配布する。

【コメント】

期末試験 (80%)、出席・小テスト・レポート (20%) を総合して学習到達度の観点から評価する。

【留意事項】

講義中、進捗状況や受講生の理解度に応じて内容や進度を調整する。

講義名称	曜時
世界の市民－日本を取り巻く技術と社会の国際環境 02 (春)	火 4

【教員名称】  
岳 理恵

【講義概要】

本講義は、「世界市民ってなんだろう」という疑問を手がかりにして、現代国際社会に生きる若者の生き方を中心に議論する。第一部においては、現代国際社会の中心に位置づけられるアメリカと中国における家族・教育・人種・性別・成功等の文化風土の相違点について探ってみる。多様な文化側面の議論から、「世界市民」としてのクリティカルシンキング能力を養成する。第二部においては、技術で熱狂した世界のフロンティアや環境問題等を紹介し、人類共通の問題解決に参加できる「世界市民」としての資質を身につける。第三部においては、授業で取り上げたテーマに沿って、受講生によるパネルディスカッションを実施する。グループワークによるプレゼンテーションの準備を通して、コミュニケーション能力を高める。

【学習目標】

異文化への理解を通して、クリティカルシンキング能力を養成する。また、技術フロンティアや環境問題の題材から、問題解決に意欲的に参加する資質を身につける。さらに、パネルディスカッションでコミュニケーション能力を高める。

【講義計画】

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：クリティカルシンキング
- 第3回：国際情勢
- 第4回：アメリカ文化 - 家族・教育
- 第5回：アメリカ文化 - 人種・性別・成功
- 第6回：中国文化 - 家族・教育・性別・民族
- 第7回：技術革新とは
- 第8回：技術のフロンティア
- 第9回：社会と環境
- 第10回：環境問題の解決へ
- 第11回：コミュニケーション
- 第12回：パネルディスカッション
- 第13回：パネルディスカッション - 第一部テーマ
- 第14回：パネルディスカッション - 第二部テーマ
- 第15回：まとめと最終試験

【事前および事後学習の指示】

英語で書かれた授業資料があるので、普段、英語で書かれたアメリカのニュースを読むようにしてください。

【テキスト】

【参考文献】

授業資料を配布する。

【コメント】

期末試験 (80%)、出席・小テスト・レポート (20%) を総合して学習到達度の観点から評価する。

【留意事項】

講義中、進捗状況や受講生の理解度に応じて内容や進度を調整する。

講義名称	曜日
総合人間学 A 〈春〉	水 1

【教員名称】 インテ  
梅山 秀幸

#### 【講義概要】

20世から今世紀にかけて専門分野の細分化が起き、さまざまな「学」が生まれたが、しかし、個別の「学」では今日の人類が直面する地球環境、人口、教育、人権などの諸問題に十分に答えることができない。そこで、学際的な、人間に関する新たな総合学が必要とされる。そうした学問的要請に基づいて、この講義は複数の講師によって行われる「インテグレーション」科目として実施される。今年度から「総合人間学 A」「総合人間学 B」と分かれるが、A では自然科学に重きが置かれ、B では人権・民族問題に重きが置かれる。

#### 【学習目標】

自然科学と人文・社会科学の最新の研究成果を踏まえながら、新たな学際的総合教育を目指す。ここで人間とは、生物種ヒトとその双方を含み、現代文明のもとでさまざまな問題に直面しながら、科学、技術、法律、教育、芸術、宗教などを生み出している主体ととらえる。文化の多様性・相対性を認めつつも、異なる文化を持つ人々の間での共通性を解明することによって、ヒューマニズムは何かという人間学の目標に迫っていきたい。

#### 【講義計画】

- 第1回：授業の到達目標およびテーマ、授業の概要、授業計画、参考書、評価などについて説明  
第2回：ゴリラとヒトと  
第3回：Out Of Africa  
第4回：地球環境と人間  
第5回：エネルギーと人間  
第6回：原子力と人間—原子力とは何か—  
第7回：原子力と人間—福島で起こったこと—  
第8回：人間の脳の働き  
第9回：感情・倫理・心理  
第10回：戦争と人間 人間の本性  
第11回：宗教は戦争をもたらすか  
第12回：イスラームの社会  
第13回：イスラームにおける人間  
第14回：アメリカの歴史  
第15回：アメリカの公民権運動

#### 【事前および事後学習の指示】

講義はシラバスに沿って、インテグレーション形式で行われるが、各講義の最後に次の講師とテーマを紹介するので、次の講師の講義のテーマに関係の深いと思われる著書などを調べて、読んでおくことが望まれる。

#### 【テキスト】

#### 【参考文献】

西原智明著「コンゴ共和国 マルミミソウとホテルの行き交う森から」(現代書館)

#### 【コメント】

成績評価は授業の内容に基づいて、どれだけ人間について総合的に理解できたかを基本的な観点とする。毎回、出席カードに講義の感想、意見、疑問などを書いてもらう。これを出席点としてカウントする。学期末の試験と出席点とで評価することになる。

#### 【留意事項】

アフリカのコンゴの環境顧問の方の授業が含まれる

講義名称	曜日
ソーシャルワーク論 I A 〈春〉	金 5

【教員名称】  
梅谷 進康

#### 【講義概要】

〔授業の目的・ねらい〕  
制度としての社会福祉を具体的に実現するための実践方法であるソーシャルワークについて、その基礎的な理解と実践活動にとって重要と思われる様々な知識の獲得を目的としている。  
〔授業全体の内容の概要〕  
ソーシャルワーク実践論の入門と位置づけ、ソーシャルワークの視点、実践概念、実践の構成要素、実践方法、実践の過程とその展開、各論的方法の特性などの解説と考察を通して、総合的な視野から理解を深める。

#### 【学習目標】

- ①社会福祉概念を明確にする
- ②ソーシャルワーク概念を明確にする
- ③ソーシャルワーク実践の構成要素への考察を深める
- ④ソーシャルワーク実践研究としての過程研究への考察を深める
- ⑤ソーシャルワークの実践方法への考察を深める
- ⑥ソーシャルワーク実践への専門的・科学的視点を明確にする
- ⑦ソーシャルワーク・インターベンション(intervention)の意義・方法・体系について理解を深める

#### 【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション ソーシャルワーク論 I Aの目的・展開・方法について  
第2回：社会福祉の概念と特色  
第3回：ソーシャルワーク実践と社会福祉(社会福祉士と精神保健福祉士の役割と意義含む)  
第4回：ソーシャルワーク概念(I)  
第5回：ソーシャルワーク概念(II)  
第6回：ソーシャルワークの歴史(I)  
第7回：ソーシャルワークの歴史(II)  
第8回：ソーシャルワーク実践方法の枠組み  
第9回：ソーシャルワーク実践の構成要素  
第10回：ソーシャルワーク実践の価値と倫理  
第11回：ソーシャルワーク実践の思考方法と視座  
第12回：エコシステム視座の特徴(I)  
第13回：エコシステム視座の特徴(II)  
第14回：エコマップを用いた事例研究  
第15回：まとめ

#### 【事前および事後学習の指示】

事前学習:社会福祉やソーシャルワークと関連する新聞記事を毎日読み、理解する。  
事後学習:テキスト、ノート、配布プリントを読み込み理解を深める。

#### 【テキスト】

相談援助の基盤と専門職(第3版) 社会福祉士養成講座編集委員会  
9784805851029 中央法規出版

#### 【参考文献】

授業中に適宜提示する。

#### 【コメント】

- ①試験は、定期試験にて評価する。
- ②レポートは一度実施し、記述内容で評価する。
- ③その他は、授業中の課題取り組み状況で評価する。

#### 【留意事項】

・社会福祉施設・機関でソーシャルワーク業務の経験のある教員が、ソーシャルワークに関する教育を行う

社会福祉士国家試験受験資格指定科目 精神保健福祉士国家試験受験資格指定科目

講義名称	曜時
ソーシャルワーク論Ⅱ A (春)	金 3

**【教員名称】**

南 友二郎

**【講義概要】**

制度としての社会福祉を具体的に実現するための実践方法であるソーシャルワークについて理解を深める。

社会福祉研究は、その実践課程を研究する以外に方法はない。本講義では、直接的に利用者へと向かって活動する、いわゆるミクロ過程から、メゾ過程、さらには、制度・政策や社会の改善を目標としたマクロ過程及びミクロからマクロ、マクロからミクロへのフィードバック過程を含めたその過程全体を多角的に捉えて考察を加えていきたい。

1970年代に起こったソーシャルワーク実践理論のパラダイム転換以降のソーシャルワーク理論に関する基礎部分については、概略理解していることを前提に講義を展開したいと考えている。したがって、場合によっては、学部の該当授業(ソーシャルワーク論Ⅰ)の受講(並行可)を条件とする可能性もありうる。

**【学習目標】**

- ①これまでの学習の積み上げを統合した上で、自らの社会福祉概念とソーシャルワーク概念を言語化する。
- ②ソーシャルワーク実践の展開過程について具体的場面を想定し、多角的に課題解決に向けた考察力を身につける。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：社会福祉とソーシャルワーク(Ⅰ)－社会福祉の概念と特色－
- 第3回：社会福祉とソーシャルワーク(Ⅱ)－社会福祉とソーシャルワークの概念と関係の整理－
- 第4回：ソーシャルワークの基礎概念(Ⅰ)－ソーシャルワーク概念－
- 第5回：ソーシャルワークの基礎概念(Ⅱ)－実践活動としてのソーシャルワーク概念－
- 第6回：ソーシャルワークの実践概念と構成要素(Ⅰ)－ソーシャルワークの端緒－
- 第7回：ソーシャルワークの実践概念と構成要素(Ⅱ)－パラダイム転換と新たなソーシャルワーク概念の模索－
- 第8回：ソーシャルワークの実践概念と構成要素(Ⅲ)－共通基盤と価値・知識・方策・方法－
- 第9回：ソーシャルワーク実践の原理(Ⅰ)－利用者原理－
- 第10回：ソーシャルワーク実践の原理(Ⅱ)－ソーシャルワーカー原理－
- 第11回：ソーシャルワーク実践の原理(Ⅲ)－支援関係原理－
- 第12回：ソーシャルワークの倫理
- 第13回：ソーシャルワーク実践のフィールド(Ⅰ)－伝統的な活動の場における役割と機能－
- 第14回：ソーシャルワーク実践のフィールド(Ⅱ)－期待される役割と機能－
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

ソーシャルワーク実践理論の概略を理解していることを前提に進めるので、ソーシャルワーク論Ⅰにおける学習を復習したうえで授業に臨むこと。

**【テキスト】**

相談援助の理論と方法Ⅰ(第3版) 社会福祉士養成講座委員会  
978-4-8058-5103-6 中央法規出版

**【参考文献】**

その都度、必要に応じて紹介する。

**【コメント】**

そのほかについて;毎回コメントカードに記入していただけます。80%以上埋めていないと評価の対象外となります。

**【留意事項】**

介護福祉士、社会福祉士としての実践経験のある教員による、ソーシャルワークの理論や展開方法に関する実践的な講義

講義名称	曜時
ソーシャルワーク論Ⅲ A (春)	月 5

**【教員名称】**

塩田 祥子

**【講義概要】**

制度としての社会福祉を具体的に実践するための実践方法であるソーシャルワークについて、その基礎的な理解と実践活動にとって重要と思われる様々な知識の獲得を目的としている。具体的には、ソーシャルワークにおいて基本となる「人と環境との相互作用」の概念について、人と環境が相互に影響し合うという「全体的にとらえる見方」として、理解を促す。またその視点に基づいて、ソーシャルワークの対象や援助関係および展開過程を理解することで、実践活動としてのイメージ化ができることをめざす。利用者とは会うインテークから援助の終結にいたるまでの一連の援助過程を基本的な専門的技術として理解する

**【学習目標】**

- ・相談援助における人と環境との相互作用に関する理論との相互作用に関する理論について理解する。
- ・援助の対象と様々な実践モデルについて理解する
- ・相談援助の過程に係る知識と技術について理解する
- ・相談援助における事例分析の意義や方法、相談援助の実践について理解する

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション  
ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念
- 第2回：実践モデルとアプローチ①
- 第3回：実践モデルとアプローチ②
- 第4回：実践モデルとアプローチ③
- 第5回：ソーシャルワークのための面接技術の実際①
- 第6回：ソーシャルワークのための面接技術の実際②
- 第7回：ソーシャルワークのための面接技術の実際③
- 第8回：アウトリーチによる相談援助の方法
- 第9回：アウトリーチによる相談援助の方法
- 第10回：スーパービジョンとコンサルテーション
- 第11回：コンサルテーションとネットワーク①
- 第12回：コンサルテーションとネットワーク②
- 第13回：情報管理と情報通信技術
- 第14回：社会資源の活用・調整・開発
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

本科目はソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱと連動しており、予習し関連付けて理解していくよう心がけること。また、多くの実際事例を活用しソーシャルワークの展開過程を学ぶようになるため予習・復習等、必要な学習をして出席すること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

授業時に紹介する。

**【コメント】**

**【留意事項】**

現場職員向け研修で用いた資料の活用

講義名称	曜日
組織倫理論 (春)	水 4

【教員名称】  
谷口 照三

【講義概要】

〈個人と共に組織の責任も考えよう〉現代社会は組織社会と言われている。人々は、大小を問わず多くの複数の組織との関連のなかで生きている。そこでは、組織は、例えば企業や政府、行政および学校など、とりわけ企業に注目しなければならないが、強力なパワーを持つ。それは、組織がその構成員や関係者に遵守を期待する、[固有のルールや倫理的価値]を創り出すことに由来する。それは、一方では個人ではなし得ない大きなプラスを、他方では公害等に見られるようなマイナスももたらした。この状況において、人々は、プラスとマイナスの効果に自覚的であればあるほど、自己の組織への関わりに関してジレンマに陥る。逆に、それらに対して無自覚であれば、[良心的な人々が組織の一員として活動する場合、なぜあれほど非倫理的になれるのか]という問題状況をもたらす。いずれにせよ、これらは克服していかなばならぬ、重い課題である。かかる課題への挑戦は、まず、組織が持つプラスとマイナス効果を事実として認識しなければならない。その上で、組織「固有のルールや倫理的価値」とそれに関わる人々の「良心」との折り合いを、個人の問題というより、むしろ「組織の責任」の問題として受け止め、その問題への応答可能性を拓く諸条件を探索していくことが、必要となる。「組織の責任」を語ることは、組織を倫理主体として捉えることでもある。倫理的な生活を生きようとする人々の能力は、その「組織の倫理」に深く影響されている。この「能力」を拓く「組織の倫理」はいかにして可能か。本講義の中心的な論点は、ここにある。それは、講義計画の第三部で展開される。その前に、第一部で、「問題の背景」として「現代社会と組織」に関して学ぶ。そして、第二部において、現代社会における組織社会を代表する企業という組織についての倫理的考察と実践についての特徴と問題点を取り上げ、第三部への橋渡しにしたいと思っている。テキストは使用しない。レジュメないし原稿および資料を配布する。

【学習目標】

この講義を受講する学生諸君は、以下の三つの目標を設定しなければならない。①現代社会における倫理的問題状況を自から解釈し、説明できること。②組織に係っている人々が自己の良心に従って責任的な行動をとれるような「組織の責任」とは何か、について説明できること。③倫理的な問題状況にある組織事例を取り上げ、①と②の成果を活用し、診断書(どのような問題がなぜ起きたのか)と処方箋(問題の解決の方向性)を作成すること。これらは、経営学部のディプロマ・ポリシーの1から4に対応している。

【講義計画】

- 第1回：序論「人間生活と社会の発展(1)  
一人間生活の向上と環境への働きかけ」
- 第2回：序論「人間生活と社会の発展(2)  
一人間生活の向上のための補完関係としての社会形成」
- 第3回：第1部「現代社会と組織」  
第1章「組織社会としての現代社会」
- 第4回：第2章「組織の概念」
- 第5回：第3章「組織を巡る問題状況」
- 第6回：第2部「倫理学と現代社会を代表する企業の倫理的考察と実践に関する特徴と問題点」  
第4章「倫理学と応用倫理学」
- 第7回：第5章「道徳と倫理概念の区別と関連」
- 第8回：第6章「企業倫理のUSA的視座とEUの視座」
- 第9回：第7章「企業倫理の一面的な見方からバランスのある見方への発展」
- 第10回：第8章「組織倫理を語る視座」
- 第11回：第3部「企業倫理の組織論的転回の試み」  
第9章「その基礎としての責任概念の再検討」
- 第12回：第10章「組織倫理の創造と創造的リーダーシップ」
- 第13回：第11章「応答可能性を拓く場としての組織」
- 第14回：結論「未来社会への組織倫理的課題(1)  
一人組織社会における補完関係の再考」
- 第15回：結論「未来社会への組織倫理的課題(2)  
一人『目指すべき価値ある社会』への洞察」

【事前および事後学習の指示】

学習目標を実現するためには、講義に出席するのは当然とし、配布する原稿、レジュメ、資料等や指示する参考書を用い、予習および復習を確実に実行しなければならない。講義が終了するまでに課題レポートを提出してもらうが、早い段階から問題関心を持ち、取り上げる特定の組織や倫理問題を想定し、応答し得るよう事前に準備しておくことが肝要

【テキスト】

【参考文献】

山本安次郎・田杉 競・飯野春樹訳『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年。ラッシュワース・M・キダー 著、中島 茂監訳、高瀬恵美訳『意思決定のジレンマ』日本経済新聞出版社、2015年。

【コメント】

毎回「記名式で数分の時間で質問やコメントなどを書いてもらうペーパー」を配布・回収するが、これは主体的に勉強してもらうことを希望し行うものであり、出席点ではない。ただし、平常点として、コメント内容を評価する(50%)。さらに、二回の課題レポート(20%)、および学期末試験(30%)によって評価する。

【留意事項】

講義名称	曜日
地域経済論 I (春)	金 1

【教員名称】  
禿 慧二

【講義概要】

本講義は地域経済の動態を把握するだけでなく、地域社会の問題を解決していくことも想定している。地域経済の主体は、地域で働き、生活する上で、地域の問題に引き合わざるをえないからである。講義は、地域経済の理論、地域問題の把握の仕方、地域開発の政策などについて、近畿圏を中心に日本全国の地域のケースを用いて進める。

【学習目標】

- ・地域経済の課題や問題を理解する
- ・地域経済の構成と動態を理解する
- ・地域問題を解決するための思想と手法を獲得する

【講義計画】

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：地域問題と地域政策
- 第3回：地域経済への接近方法
- 第4回：地域経済から見た歴史①(第2次大戦前の日本経済と地域)
- 第5回：地域経済から見た歴史②(国土計画と全国総合開発計画)
- 第6回：地域経済から見た歴史③(都市と農山漁村の変貌)
- 第7回：地域経済と地域政策の理念①(内発的発展論)
- 第8回：地域経済と地域政策の理念②(国際化時代と地域政策)
- 第9回：地域経済と地域政策の理念③(自治と新しい公共)
- 第10回：地域政策の未来を読む①(コンパクトシティ論、シュリンク・シティ論)
- 第11回：地域政策の未来を読む②(創造都市論・文化資本論、クリエイティブシティ論)
- 第12回：地域政策の未来を読む③(アグリツーリズム、地域ブランド、6次産業化、買い物弱者支援)
- 第13回：地域政策の未来を読む④(地域再生の民、日本の思想と実践)
- 第14回：地域政策の未来を読む⑤(震災復興とエネルギー)
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

テキストを購入する必要はないが、事前に読んでおくことが望ましい。

【テキスト】

地域経済学 宮本憲一・横田茂・中村剛治郎編著  
4-641-08491-2 有斐閣  
地域経済学入門 山田浩之・徳岡幸福  
978-4-641-16311-9 有斐閣

【参考文献】

授業内で紹介する。

【コメント】

【留意事項】

講義名称	曜日
地域研究Ⅰ（通期）	金 3

【教員名称】  
軽部 恵子

【講義概要】

この講義では、南北アメリカの地理、気候、歴史、文化、宗教、経済、産業などを幅広く学びます。  
春学期は南北アメリカの歴史を中心に取り上げます。秋学期の前半は主要なラテンアメリカ諸国とカナダを概観し、後半はアメリカ合衆国の政治、経済、法律、社会の諸問題を考察します。  
講義冒頭には、国内外のメディアのホームページを用いてアメリカに関するニュースを紹介し、メディア・リテラシーも学びます。

【学習目標】

- (1) 地域としてのアメリカ史を概観し、基礎知識を習得する。
- (2) アメリカ合衆国の政治、経済、法律、社会問題を中心に学ぶ。
- (3) 主要なラテンアメリカ諸国およびカナダの概要を学ぶ。
- (4) 地域研究の視点から国際ニュースに関心を持つ。
- (5) メディア・リテラシーを身につける。

【講義計画】

- 第1回：「アメリカ」とは何か
- 第2回：コロンブス以前とコロンブス以後
- 第3回：植民地の建設とピルグリム・ファーザーズ
- 第4回：アメリカ独立革命とフランス革命
- 第5回：ナポレオン戦争とラテンアメリカ諸国の独立
- 第6回：南北戦争と西部開拓
- 第7回：第一次世界大戦と「アメリカ」
- 第8回：禁酒法、世界恐慌、ファシズム
- 第9回：第二次世界大戦と「アメリカ」
- 第10回：冷戦の始まりとキューバミサイル危機
- 第11回：ベトナム戦争と米中国交正常化
- 第12回：ラテンアメリカ諸国の軍事政権と民主化
- 第13回：冷戦の終わりと湾岸戦争
- 第14回：アメリカ同時多発テロからイラク戦争へ
- 第15回：グローバリズムと「アメリカ」
- 第16回：「ラテンアメリカ」とは何か
- 第17回：ブラジル
- 第18回：ペルー、アルゼンチン、チリ
- 第19回：キューバ、カリブ海諸国
- 第20回：メキシコ、コスタリカ、パナマ
- 第21回：カナダ
- 第22回：アメリカ合衆国(1) 独立宣言と合衆国憲法
- 第23回：アメリカ合衆国(2) 大統領選挙のしくみ
- 第24回：アメリカ合衆国(3) 大統領の任務と権限
- 第25回：アメリカ合衆国(4) 連邦議会のしくみ
- 第26回：アメリカ合衆国(5) 人種、移民、難民
- 第27回：アメリカ合衆国(6) 女性、ジェンダ、LGBT
- 第28回：アメリカ合衆国(7) 宗教
- 第29回：アメリカ合衆国(8) メディア、インターネット、SNS
- 第30回：試験とまとめ

【事前および事後学習の指示】

教科書の指定されたページおよび指示された参考サイトで予習・復習してください。

【テキスト】

『一冊でわかるイラストでわかる図解世界史』成美堂出版編集部  
978-4415103334 成美堂出版

【参考文献】

- 明石和康「大統領でたどるアメリカの歴史」岩波書店 2012年  
佐々木卓也「戦後アメリカ外交史」第3版、有斐閣 2017年  
久保文明「アメリカ政治」第3版、有斐閣 2017年  
金城隆一「ルポ トランプ王国：もう一つのアメリカを行く」岩波書店 2017年  
吉見俊哉「トランプのアメリカに住む」岩波書店 2018年  
堀内一史「アメリカと宗教：保守化と政治化のゆくえ」中央公論新社 2010年  
増田義郎「図説大航海時代」河出書房新社、2008年  
芝生瑞和「図説フランス革命」河出書房新社、1989年  
清水透「ラテンアメリカ五〇〇年：歴史のトルソー」岩波書店 2017年  
大垣貴志郎「物語メキシコの歴史」中央公論新社 2008年  
岩根園和「物語スペインの歴史：海洋帝国の黄金時代」中央公論新社 2002年  
金七紀男「図説ポルトガルの歴史」河出書房新社 2011年  
金七紀男「図説ブラジルの歴史」河出書房新社 2014年

【コメント】

授業で出席票を配布するのは受講生が質問等を書くため、成績評価にはいっさい関係ありません。授業中に行う確認テストは成績評価にはいっさい関係ありません。

【留意事項】

教科書は毎回使います。教科書を持参しない学生に対する配慮はありません。

講義名称	曜日
地域社会学（通期）	木 1

【教員名称】  
白波瀬 達也

【講義概要】

この科目では、地域社会学が重視するテーマを取り上げ、現代のコミュニティが直面している諸課題を学ぶ。

【学習目標】

地域社会学、コミュニティ研究に関する具体的事例、重要概念を学ぶことができる。

【講義計画】

- 第1回：コミュニティの思想
- 第2回：コミュニティの歴史
- 第3回：コミュニティ研究の新潮流
- 第4回：近代日本の社会とコミュニティ（血縁集団）
- 第5回：近代日本の社会とコミュニティ（地縁集団）
- 第6回：都市とコミュニティ（古典的業績の紹介：基本編）
- 第7回：都市とコミュニティ（古典的業績の紹介：応用編）
- 第8回：都市とコミュニティ（創造都市論：基本編）
- 第9回：都市とコミュニティ（創造都市論：応用編）
- 第10回：過疎とコミュニティ（過疎化の背景）
- 第11回：過疎とコミュニティ（過疎化の実態）
- 第12回：過疎とコミュニティ（過疎対策：基本編）
- 第13回：過疎とコミュニティ（過疎対策：応用編）
- 第14回：まちづくりとコミュニティ（まちづくり論：基本編）
- 第15回：まちづくりとコミュニティ（まちづくり論：応用編）
- 第16回：まちづくりとコミュニティ（ソーシャリー・エンゲイジド・アート：基本編）
- 第17回：まちづくりとコミュニティ（ソーシャリー・エンゲイジド・アート：応用編）
- 第18回：エスニシティとコミュニティ（日本に在留する外国人の歴史）
- 第19回：エスニシティとコミュニティ（日本に在留する外国人の現在）
- 第20回：エスニシティとコミュニティ（多文化共生論：基本編）
- 第21回：エスニシティとコミュニティ（多文化共生論：応用編）
- 第22回：貧困とコミュニティ（貧困問題：基本編）
- 第23回：貧困とコミュニティ（貧困問題：応用編）
- 第24回：貧困とコミュニティ（貧困が集中する地域の課題：基本編）
- 第25回：貧困とコミュニティ（貧困が集中する地域の課題：応用編）
- 第26回：安心・安全とコミュニティ（リスク社会論：基本編）
- 第27回：安心・安全とコミュニティ（リスク社会論：応用編）
- 第28回：安心・安全とコミュニティ（NIMBY 問題）
- 第29回：安心・安全とコミュニティ（ゲーテッド・コミュニティの功罪）
- 第30回：講義のまとめ

【事前および事後学習の指示】

配布したレジюме及び講義で指示した文献に基づき、適宜予習・復習に努めること。

【テキスト】

【参考文献】

- 参考文献  
伊藤守・小泉秀樹・三本松政之・似田貝香門・橋本和孝・長谷部弘・日高昭夫・吉原直樹（編）、2017、「コミュニティ事典」春風社。

【コメント】

【留意事項】

講義名称	曜日
地域ビジネス論 〈春〉	木 4

**【教員名称】**

室屋 有宏

**【講義概要】**

日本においては、人口減少・高齢化が進行するなかで地域活性化に対する関心や必要性が高まっている。国の政策としても「地方創生」が展開されている。こうした中、地域の農林水産物、自然・景観、歴史・文化などの「地域資源」を積極的に活用しビジネスを興していくことで、地域が所得や雇用を改善し人口増につなげていく取組みが各地でなされている。本講義では、こうした地域内発的なビジネスについての優良事例（失敗事例も含めて）の紹介と検討を通じてビジネス存立の条件や要因について考察する。また受講する学生には主体的に地域課題を改善するビジネスについて自ら考え、地域ビジネスプランを作り上げていく意欲的なスタンスが必要となる。

**【学習目標】**

1. 地域が置かれている実情や課題について自分自身で捉える
2. 地域が持つ地域資源や価値について理解し、自ら探究する
3. 地域の問題解決についてビジネスの解決を主体的に考える
4. 自ら地域ビジネスプランをつくりあげる

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション～  
人口減少と地方創生～地域の実情を理解する
- 第2回：地域と地域資源～地域とは、地域資源とは？
- 第3回：自分の地域と地域資源を知る
- 第4回：地域経営・地域ガバナンス
- 第5回：地域活性化と企業経営者
- 第6回：観光ビジネス (1) 観光ビジネスとその意義
- 第7回：観光ビジネス (2) 観光資源とそのマネジメント
- 第8回：観光ビジネス (3) ゲストスピーカー (予定)
- 第9回：食農ビジネス (1) 6次産業化
- 第10回：食農ビジネス (2) 地場企業の取組、農商工連携
- 第11回：食農ビジネス (3) ゲストスピーカー (予定)
- 第12回：食農ビジネス (4) 直売所・道の駅
- 第13回：社会・福祉ビジネス
- 第14回：ビジネスプランを作ってみよう
- 第15回：授業のまとめ～地域を興すアントレプレナー

**【事前および事後学習の指示】**

地域活性化に関するニュースや報道について関心を持ち、日常的に目を通しておくこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

室屋有宏『地域からの六次産業化』（創森社）

**【コメント】**

1. 学期末試験において、到達目標に対応するテーマに関する論述問題を出題する。答案の構成および論理的な記述になっているかどうかにかんして重点を置いて評価する。
2. A4 1枚程度のレポート課題を2回課す
3. コメントシートおよび授業での発言・質問等への参加度合いによって加点（最大10点）する。
4. 私語等で周囲に迷惑をかける学生に対しては減点措置を取る。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
地域福祉論A 〈春〉	金 2

**【教員名称】**

小野 達也

**【講義概要】**

地域福祉論Aは、地域福祉の必要性や概念、考え方を理解させることが主要な教育目標である。そのために現代社会において地域福祉がなぜ重視されてきているかを歴史的背景ばかりでなく、社会福祉の理論に沿いながら考察する。また、地域福祉を追求するための枠組み、すなわち地域福祉の構成としては何が必要なのかを住民主体の視点に即して明らかにする。講義は次の柱で15回行う。1. 現代社会の地域生活。2. 地域福祉の必要性。3. 地域福祉の構成要素。4. 地域福祉の様々な考え方。5. これからの地域福祉のあり方。

**【学習目標】**

本授業では、地域福祉の基本的な考え方、必要性、構成、地域福祉の考え方の広がりについて理解し、説明できるようになることを目指す。

地域福祉は生活に密着した福祉であり、地域生活や地域社会のよりよいあり方の実現を目指す。現代の社会福祉においては地域福祉が重要な位置を占めている。社会福祉法では地域福祉の推進が掲げられ、社会福祉協議会、住民、行政、各種団体が地域福祉に関わる実践を行っている。同時に、高齢社会を迎え、地域社会においても福祉が中心的な課題となってきた。本講義では現代において地域福祉がなぜ必要なのか、また地域福祉の内容の構成をどう考えるのかを理解することを目標とする。

1. 現代社会生活にかかわって地域福祉がなぜ必要とされるのかを説明できること。
2. 地域福祉の構成要件を示すことができること。
3. 地域福祉の多様な考え方について概説できること。

**【講義計画】**

- 第1回：地域福祉とは—地域福祉の基本的な考え方地域福祉
- 第2回：地域福祉の問題と背景
- 第3回：現代社会での生活
- 第4回：地域での生活問題に対する社会福祉
- 第5回：地域福祉の必要性
- 第6回：地域福祉の現在の状況
- 第7回：地域福祉の構成要素
- 第8回：コミュニティ・ケア
- 第9回：地域でのケアの現代的課題
- 第10回：地域での組織化活動
- 第11回：組織化活動の現代的展開
- 第12回：地域福祉の考え方の系譜 その1
- 第13回：地域福祉の考え方の系譜 その2
- 第14回：これからの地域福祉へ
- 第15回：地域福祉のふりかえりとまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

授業時に指示する地域福祉に関する事前、事後学習やレポート作成をおこなうこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

**【コメント】**

- ①学期末試験で授業内容に即した問題を出題する。
- ②A4用紙1枚程度のレポートを2回程度課す。
- ③コメントシートの提出を求め、内容の理解を評価する。

**【留意事項】**

ア  
—  
カ  
—  
サ  
—  
タ  
—  
ナ  
—  
ハ  
—  
マ  
—  
ヤ  
—  
ラ  
—

講義名称	曜日
地誌 [4] 01 (通期)	金 4

【教員名称】  
安倉 良二

【講義概要】

本講義では、中学・高校で「地理」を教えるに際して求められる世界各地の地誌的な見方を紹介する。地誌学は、特定の地域における自然・人文の各現象を総合的に示す地理学の一分野である。本講義では、中学・高校の教科としての「地理」に留まらず、大学レベルの地理学研究成果も盛り込みながら、世界各地で見られる事象の地理学的なトピックを提示する。グローバル化が進む中、世界各地の地誌的な見方は歴史(世界史)と並んで欠かすことができないだけに、地理学概論と併せて教職に必要な知識を身につけてもらいたい。なお、前期はアジア、後期はアジア以外の世界各地を取り上げる。

【学習目標】

1. 地図や図表の読み取りを通じて、世界各地で起きる様々な現象の因果関係を「空間」から読み取る力を養う
2. 身近なニュースや何気ない話題から地理的な見方を再認識してもらう

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス-講義の進め方・「地誌学」とは？ -  
 第2回：東アジア(1)-韓国-  
 第3回：東アジア(2)-中国1:自然環境と農業・漁業-  
 第4回：東アジア(3)-中国2:人口・都市問題と民族・文化-  
 第5回：東アジア(4)-中国3:鉱工業-  
 第6回：東南アジア(1)-自然環境と農林漁業-  
 第7回：東南アジア(2)-民族・文化-  
 第8回：東南アジア(3)-鉱工業-  
 第9回：東南アジア(4)-都市問題-  
 第10回：南アジア(1)-自然環境と農業-  
 第11回：南アジア(2)-民族・文化-  
 第12回：南アジア(3)-鉱工業-  
 第13回：南アジア(4)-都市問題-  
 第14回：西アジア(1)-自然環境と鉱工業-  
 第15回：西アジア(2)-民族・文化と都市問題-  
 第16回：アフリカ(1)-自然環境と農業-  
 第17回：アフリカ(2)-鉱工業と民族・文化-  
 第18回：ヨーロッパ(1)-自然環境と農業-  
 第19回：ヨーロッパ(2)-民族・文化と都市問題-  
 第20回：ヨーロッパ(3)-鉱工業-  
 第21回：ヨーロッパ(4)-EUの歴史と近年の動向-  
 第22回：ロシア  
 第23回：北アメリカ(1)-アメリカ合衆国の自然環境と農林業-  
 第24回：北アメリカ(2)-アメリカ合衆国の鉱工業と都市問題-  
 第25回：北アメリカ(3)-アメリカ合衆国の民族・文化と都市問題-  
 第26回：南アメリカ(1)-自然環境と農林漁業-  
 第27回：南アメリカ(2)-民族・文化と都市問題-  
 第28回：オセアニア(1)-オーストラリアの自然環境と農業-  
 第29回：オセアニア(2)-オーストラリアの鉱工業と民族・文化-  
 第30回：オセアニア(3)-環太平洋の国々-

【事前および事後学習の指示】

中学や高校の「地理」教科書や地図帳があれば、それらを見ておくことが望ましい。

【テキスト】

【参考文献】

1. 辰己 勝・辰己真知子(2012):『図説・世界の地誌』古今書院
  2. 辰己 勝(2013):『図説・世界の自然環境』古今書院
  3. 寺阪昭信・伊東 理編(2013):『図説アジア・オセアニアの都市と観光』古今書院
- このほか、高校地理の資料集(帝国書院、東京法令出版、第一学習社から刊行)の図表類、写真もレジュメに盛り込む予定である。

【コメント】

試験は前期・後期の2回に分けて実施する。講義で取り上げたテーマを論述してもらうが、1問は全員解答、そして他の問題(4~5問を予定)から2問を選択解答してもらう方式を予定している。また、その他については毎回講義終了時にコメントペーパーを配布し、感想を書いてもらう。これにより、講義内容にどれだけ関心があるのかをみる。

【留意事項】

講義では特定のテキストは使わないが、レジュメを毎回配布する。科目の性質上、レジュメには写真を含めた図表を盛り込む。ただし、内容をフォローするために、レジュメの内容については、引用した原資料も含めて書画カメラに提示する。また、教職科目であることをふまえて、学生の理解度をみるために当該分野の大学入試問題を使った復習を演習形式で行う機会を与える。なお、2022年から高校で「地理総合」の名称で「地理」が必修化される。それを見通した地理的な見方を身につけてもらいたい。

講義名称	曜日
地方財政論 I (春)	火 4

【教員名称】  
田代 昌孝

【講義概要】

経済のグローバル化と少子高齢化が進む中で、政府に求められる役割が大きくなってきた。国も地方も膨大な借金を抱えており、今日において財政の再編が求められている。とりわけ、地方財政は厳しい財政状況に直面しており、何らかの改革が必要となっている。地方分権や地域の活性化、あるいは官業の民間委託はその典型的な例と言えよう。本講義では地方財政の制度や課題、そして、わが国の地方財政の実態について説明する。

【学習目標】

本講義の目的は、地方財政の基礎知識を習得することにある。具体的な地方自治体の財政データを示しながら、新聞報道の地方財政関連記事に興味を持たせ、わが国における地方財政問題について語る能力を身につけることにこの授業の狙いがある。地方財政論を学問領域とするため、当該科目履修後は将来公務員を目指す学生の基礎的な知識が身につくことを目標とする。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス。  
 地方財政とは何か。  
 成績評価についての説明。  
 講義を受けるうえでの注意事項。  
 第2回：地方財政の現状  
 第3回：財政の役割(財政の三機能)  
 第4回：国と地方の役割分担  
 第5回：地方財政計画  
 第6回：地方の歳出構造  
 第7回：地方の歳入構造  
 第8回：地方税の原則  
 第9回：地方税の制度  
 第10回：地方税の課題  
 第11回：地方交付税の制度  
 第12回：地方交付税の課題  
 第13回：国庫支出金の制度と課題  
 第14回：地方債の制度  
 第15回：地方債の課題

【事前および事後学習の指示】

講義テーマに該当する教科書の部分を熟読するようにして下さい。

【テキスト】

地方財政 新版 林 宜嗣  
 9784641183643 有斐閣ブックス

【参考文献】

- 林 宏昭・橋本恭之著「入門 地方財政 第3版」中央経済社、2013年。(ISBN978450265)  
 佐藤主光著「地方財政入門」新世社、2009年。(ISBN9784883841332)  
 和田八束・星野泉・青木宗明編「現代の地方財政 第3版」有斐閣ブックス、2004年。(ISBN4641183074)

【コメント】

学期末試験として、各講義テーマのポイントを中心とした空欄記述方式の問題を50問出題する。  
 45問以上正解をS、40問以上正解をA、35問以上正解をB、30問以上正解をCとする。

【留意事項】

講義名称	曜時
中国経済論Ⅰ（春）	火 4

**【教員名称】**

大島 一二

**【講義概要】**

改革・開放政策実施以降の30余年で中国の経済は大きく発展した。国内総生産の実質成長率は年率10%に達し、日本経済の高度経済成長期に匹敵する水準である。これにより2010年には世界第2位のGDP大国となった。また外貨準備高はすでに世界第1位の水準にある。この結果、多くの日本企業が中国に参入している。

しかし、国内には解決しなければならない課題も山積している。例えば、三農問題といわれる農業・農村の停滞、1.5億人ともいわれる大規模な労働力流動と都市・農村社会の急激な変容、国際的問題ともなった食品安全問題、深刻な環境問題など数多い。

本講義では、中国経済の成長過程を明らかにし、高度成長が実現した背景、直面している主な問題、今後の課題について解説する。また、台湾、香港、マカオ等の地域の経済についても解説する。テキストのほかに、中国経済の動きに関する新聞報道なども紹介し、NHKなどが制作したドキュメンタリーを放映するなどして、わかりやすい授業に心掛ける。

この中国経済論Ⅰでは、1949年の新中国建国から現在に至る中国経済の展開と、台湾、香港の経済について取り扱う。

**【学習目標】**

日本と中国の経済的な繋がりはますます深まっているが、現代の中国経済はどのように形成されてきたのか、またその課題は何かについて体系的、客観的に理解できるようにする。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション。授業の進め方、講義内容の概要などについて説明する。
- 第2回：近現代から現在に至る中国、台湾、香港、マカオの展開
- 第3回：社会主義計画経済体制の形成と課題。
- 第4回：計画経済期の中国経済。人民公社、国営企業、戸籍制度を中心に。
- 第5回：改革開放期の高度成長
- 第6回：南巡講話と外資導入の促進。
- 第7回：所有制改革と社会主義市場経済。
- 第8回：WTO加盟と国際化。
- 第9回：世界の工場から世界の市場へ。
- 第10回：台湾の経済(1)台湾の歴史と社会
- 第11回：台湾の経済(2)台湾経済の発展と開発モデル
- 第12回：台湾の経済(3)ファブレス、ファウンドリ関係と台湾経済
- 第13回：香港の経済
- 第14回：マカオの経済
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

テキストは特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。また、できるだけ参考文献を読んでおくこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 大島一二編著(2007)『中国野菜と日本の食卓 一産地、流通、食の安全・安心』芦書房。
- 大島一二(2015)『日系食品産業における中国内販戦略の転換(日本農業市場学会研究叢書)』筑波書房。

**【コメント】**

学年度末試験の成績(70%)を中心に評価するが、レポート(20%)と出席(10%)の結果も成績評価に加味する。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
中小企業論Ⅰ（春）	金 2

**【教員名称】**

義永 忠一

**【講義概要】**

リーマンショック、東日本大震災など、世界経済、日本経済、中小企業をめぐる環境は大きく変化した。急速に進むグローバル経済化とその下で大きく揺れ動いている地域経済の動向とともに、中小企業・ベンチャー企業について本講義では講義していく。

**【学習目標】**

地域に根を張り地域との関係をさまざまに強く持つことの多い中小企業が直面している大きな変化が、どのようなものかを理解・把握することを学習目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回：中小企業・ベンチャー企業を学ぶ—講義概要と評価の方法—
- 第2回：日本経済と中小企業—明治期から1970年代まで
- 第3回：日本経済と中小企業—1970年代から2010年代まで
- 第4回：大企業と中小企業
- 第5回：地域経済と中小企業
- 第6回：海外の中小企業
- 第7回：下請システムとものづくり中小企業
- 第8回：国際化と中小企業
- 第9回：事業承継と中小企業
- 第10回：集積・ネットワークを活かす中小企業
- 第11回：地域と共に生きる中小企業
- 第12回：中小企業金融
- 第13回：国による中小企業政策
- 第14回：自治体による中小企業政策
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

教科書にあらかじめ目を通し、講義を受けて質問が出来るようにすること。

**【テキスト】**

- 中小企業・ベンチャー企業論 新版 グローバルと地域のはざままで 植田浩史編著 978-4-641-16431-4 有斐閣

**【参考文献】**

**【コメント】**

講義中にディスカッションを行い、講義受講後に課す論述課題を設定します。事前準備を行い、ディスカッションに参加した発言者へは、加点します。

試験やレポートの提出方法やその評価基準(ループリック)、またその他の評価方法(提出物)に関する評価基準についての詳細な説明を第1回講義に行います。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
地理学概論 01 (春集)	水3/金2

#### 【教員名称】

安倉 良二

#### 【講義概要】

本講義の目的は、自然地理学・人文地理学双方のトピックを紹介しながら、中学・高校の教科として「地理」を教えるに必要な考え方を身につけてもらうことにある。近年、高校で「地理」を履修していない学生が多いものの、地理学あるいは「地理」として語られている内容の多くは、日常生活やニュースでも取り上げられる身近な内容が含まれる。本講義では可能な限り、身近なトピックを素材に、地理学的な見方とその面白さを紹介したい。なお、トピックの主な内容は国内とする。海外のトピックを学びたい場合は、同じく教職科目として担当者が通年講義で行っている「地誌」の並行履修を薦める。

#### 【学習目標】

1. 地域で起きているあらゆる現象について、図表や地図を用いて説明することができる
2. 地図・統計の読み取りを通じた「地理的技能」の初歩的な内容を理解することができる

#### 【講義計画】

- 第1回：ガイダンスー系統地理学と地誌学の違いー
- 第2回：地図の活用(1)ー世界地図の見方:地球儀・図法・時差ー
- 第3回：地図の活用(2)ー主題図の見方:種類と表現技法ー
- 第4回：地図の活用(3)ー地形図の見方:紙地図・デジタル地図ー
- 第5回：地図の活用(4)ーメンタルマップー
- 第6回：地形図からみた本学の周辺ーため池の分布との関わりでー
- 第7回：地形図からみた自然環境と土地利用(1):沖積平野
- 第8回：地形図からみた自然環境と土地利用(2):洪積台地
- 第9回：地形図からみた自然環境と土地利用(3):海岸地形
- 第10回：地形図からみた自然環境と土地利用(4):離島のサンゴ礁と火山地形
- 第11回：地形図からみた集落の立地(1):農村の歴史
- 第12回：地形図からみた集落の立地(2):城下町・宿場町・門前町
- 第13回：地形図からみた産業の盛衰:塩田と炭鉱
- 第14回：気候(1):気温・降水量と風の種類
- 第15回：気候(2):ケッペンの気候区分
- 第16回：人口(1)ー世界レベルでみた人口問題ー
- 第17回：人口(2)ー人口ピラミッドからみた日本の地域変容ー
- 第18回：人口(3)ー人口移動の諸相ー
- 第19回：人口(4)ー外国人の増減と地域ー
- 第20回：農業(1)ーホイットルセイの農業地域区分ー
- 第21回：農業(2)ーコメ問題からみる日本の農業地域ー
- 第22回：農業(3)ー食料自給と国内外における産地変容ー
- 第23回：農山漁村の変容(1)ー過疎化の進展と限界集落ー
- 第24回：農山漁村の変容(2)ー観光の変質と特産品の開発によるむらおこしー
- 第25回：林業ー林野資源の活用と日本の林業ー
- 第26回：漁業ー資源管理型漁業の導入と日本の漁業ー
- 第27回：工業ーウェーバーの工業立地論ー
- 第28回：都市(1)ー都市の内部構造ー
- 第29回：都市(2)ー住宅の立地:郊外住宅地の盛衰を中心にー
- 第30回：都市(3)ー商店街と大型店ー

#### 【事前および事後学習の指示】

日頃から防災、環境問題、まちづくりなどの時事的なトピックについて、テレビ・新聞・インターネットで情報を収集し、それが「どこで」「どうして」「どのように」起こっているのに関心を持っておくとよい。また、内容によっては、各学部の専門あるいは基本科目でも紹介されている場合もある。したがって、「地理」にこだわらず幅広い視野で物事を考えておくと良い。

#### 【テキスト】

#### 【参考文献】

1. 平岡昭利編(2019):『読みたくなる「地図」国土編ー日本の国土はどう変わったかー』海青社
  2. 山口 寛ほか編(2019):『図説京阪神の地理ー地図から学ぶー』ミネルヴァ書房
- 講義では上記の参考文献以外にも、地理学の文献ならびに高校地理の資料集を積極的に引用したレジュメを提供する。地形図についても参考文献の1以外の事例も含めて担当で用意する。

#### 【コメント】

定期試験ならびにコメントペーパー(講義終了時に配布)から評価する。定期試験については、テーマに関する基本的な論述問題を出題する。コメントペーパーは、講義内容への理解度をみるための評価材料とする。

#### 【留意事項】

講義では、随時「Google マップ」、「Google ストリートビュー」[今昔 MAP on the Web] などインターネット上での地図アプリも教室にあるパソコンを使って随時映写する。また、時間があれば講義で取り上げたテーマに関する大学入試問題を活用したミニ演習も行う機会を設けたい。

講義名称	曜日
哲学 (通期)	金3

#### 【教員名称】

木下 昌巳

#### 【講義概要】

哲学とは、世界と人間について、常識を突き抜け、その根源的なあり方を人間の知性によって認識しようとする学問である。この講義では、哲学という学問をはじめて学ぶ人を対象として、古代から現代に至るまでの西洋の主要な哲学者たちを時代順に取り上げ、それぞれの哲学者たちが具体的にどのような問題に取り組み、その問題にどのように答えようとしたかということを知解する。そして、過去の哲学者たちの問題意識と思考方法を学ぶことによって、「哲学的に考えるとはどのようなことなのか」ということを理解できるようにする。

なお、この授業では、講義のテーマとして、哲学的問題のなかでも、存在論(世界は究極的にいかなる存在から成り立っているのかという問題)と認識論(人間は何をどこまで知ることができるのかという問題)を中心的に取り上げる。「ひとはいかに生きるべきか?」という問題(道徳哲学)に関心のある人は、この授業とは別に開講される「倫理学」の受講を勧める。両方の選択も可能である。

#### 【学習目標】

春学期は「哲学」という学問が成立した古代ギリシアの哲学者たちを年代順に取り上げ、「哲学」という学問がどのように成立し、発展していったのかを概観することによって、哲学という学問の根本的な問題意識を理解することを目指す。秋学期は哲学の黄金期とも言うべきヨーロッパの近世・近代の哲学思想を中心として、17世紀から20世紀に至るまでの主要な哲学者の思想を解説する。哲学で用いられる用語が難解であることはある程度事実であろう。しかし、哲学の目的は用語や人名を暗記することではない。大切なことは、哲学的思考の枠組みと道筋を自分の頭で理解して、それを専門用語でごまかすことなしに自分の言葉で説明できるようにすることである。個々の哲学者の思想を理解することも重要であるが、哲学を学ぶことによって、論理的・抽象的思考ができるようになること、そしてそれを自分の言葉で他者に説明できるよう能力を見つけるようにする。

#### 【講義計画】

- 第1回：はじめて哲学を学ぶ人に向けての導入
  - ・「哲学」とはいかなる学問か
  - ・「哲学」という言葉の意味と成り立ち
  - ・哲学が扱う三つの領域
  - ・西洋哲学の流れとその時代区分
  - ・一年間の講義予定の説明
- 第2回：ソクラテス以前の哲学者たち①  
ミレトス学派と万物の始源(アルケー)の探求
- 第3回：ソクラテス以前の哲学者たち②  
エレア派の哲学1ー「アキレウスは亀を追い抜けない?」
- 第4回：ソクラテス以前の哲学者たち③  
エレア派の哲学2ー「矢は止まっている?」
- 第5回：ソクラテスの生き方①  
哲学 対 弁論術
- 第6回：ソクラテスの生き方②  
「よく生きる」とはどういうことか?
- 第7回：プラトン①  
ソクラテスとプラトンの関係
- 第8回：プラトン②  
プラトンの「イデア論」とは何か
- 第9回：プラトン③  
プラトンの主著「国家」と「洞窟の比喩」
- 第10回：プラトン④  
哲人王とプラトンの民主制批判
- 第11回：アリストテレス①  
「万学の祖アリストテレス」
- 第12回：アリストテレス②  
プラトンのイデア論批判
- 第13回：アリストテレス③  
アリストテレスの目的論的世界観
- 第14回：ヘレニズム期の哲学  
エピクロス派とストア派
- 第15回：古代ギリシア哲学全体のまとめとその意義の再説
- 第16回：・秋学期の講義予定の説明
  - ・西洋近世・近代哲学の概観
  - 16世紀から19世紀における哲学思想の展開
- 第17回：大陸合理論とイギリス経験論  
17～18世紀の西欧における思想的状況
- 第18回：デカルト①  
デカルトの「方法的懐疑」について
- 第19回：デカルト②  
「われ思う、ゆえに、われあり」の意味すること
- 第20回：イギリス経験論①  
ロックの思想 生得観念の否定と「タブラ・ラサ」
- 第21回：イギリス経験論②  
ヒュームによる観念の分類
- 第22回：イギリス経験論③  
ヒュームによる経験論的懐疑の徹底と因果律の否定

講義名称	曜時
ドイツの文化 A 〈春〉	木 2

- 第23回：カント①  
カントの名著『純粋理性批判』の思想的意義
- 第24回：カント②  
カントの認識論① 感性の形式としての「時間と空間」
- 第25回：カント③  
カントの認識論② 「悟性」と「カテゴリー」
- 第26回：ニーチェ①  
ニーチェの問題意識と「道徳の系譜学」
- 第27回：ニーチェ②  
奴隷道徳と貴族道徳
- 第28回：ニーチェ③  
カへの意志と超人思想
- 第29回：現代哲学の展開①  
プラグマティズムの誕生—デューイの思想
- 第30回：現代哲学の展開②  
プラグマティズムの展開—デューイ以後のプラグマティズム

#### 【事前および事後学習の指示】

シラバスで提示されたテーマに対応するテキストの箇所をできるだけ事前に読んでおくこと。テキストだけを読んでその内容を独力で理解することは難しいかもしれない。しかし、講義後に、再度読み直すことによって「そういうことが書いてあったのか」と納得することができる。さらに、授業後や休職中に授業で取り上げた思想家の原著や授業で紹介した解説書を自らすすんで読むことを望む。また授業で使用したスライドのファイルは、大学の「Sドライブ」の「kinoshita」というフォルダのなかに授業で使用したファイルをアップロードしている。各自ダウンロードして学習に使用すること。

#### 【テキスト】

物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために 伊藤邦武  
978-4121021878 中央公論新社

#### 【参考文献】

『哲学の歴史』(全13巻)、内山勝利他(中央公論新社、2007-2008) ISBN: 978-4124801415  
現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史。内容は細かいが、講義で取り上げた哲学者とその思想について、さまざまな知識を得ることができる。

さらに桃山学院大学の図書館には哲学関係の蔵書が揃っている。指示された本を読むだけでなく、自分で書架の前に立ち、自分の目から見て興味を持ってそうな本を手にとって開き、面白そうだと思うたらかりに難しそうだと思っても借りて読んでほしい。書物は一度読んだだけで理解できるものではない。哲学の書物はとくにそうである。これを繰り返しているうちに自分はどうなことに興味があるのかということもわかるようになる。これは哲学への理解が進歩していることの現われでもある。

#### 【コメント】

試験は、春学期と秋学期のテスト期間内にそれぞれ1回ずつ計2回実施する。成績はこの二つのテストの総合点(前期50点、後期50点の100点満点)によって決定される。

出題内容は、春学期・秋学期とも

- ①授業中に開設した哲学の考え方の理解度を図る問題(50%)
- ②授業中に取り上げたテーマに関する論述問題(50%)

テストを受験するためにどのような準備をすればよいのかということについては、授業中に詳しく解説する。

#### 【留意事項】

【教員名称】  
高田 里恵子

#### 【講義概要】

この講義のキャッチコピーは「ドイツを知ると日本が見えてくる!」というものである。近代ドイツの歴史や文化を辿りながら、その影響を受けた近代日本の歩を振り返ってみよう。

講義は第1部と第2部に分かれている。第1部は1900年前後のエリート教育について、ドイツの近代史を踏まえながら考察する。日本とアメリカ合衆国、ドイツとを比較しながら、各国の歴史的背景を見ていく。第2部では、1900年前後のドイツ社会の構造的な変化を、当時流行した学校小説を取りあげながら考察する。

#### 【学習目標】

文学作品や映像作品など具体的な事例に触れながら近代ドイツに特徴的な歴史状況を見ていくことによって、考察力と分析力を身につけることを目標とする。ドイツとアメリカの相違点、ドイツと他のヨーロッパの国との相違点、近現代日本と欧米諸国の相違点に注目しながら、ドイツおよび日本の近代史を知ることを目指す。

この講義では、授業の内容を自分でうまくノートにまとめる練習、人の話の要点を的確につかむ訓練をしていただきたい。したがって、レジュメは配布しないので、そのつもりで授業に臨むこと。

小テストなどを通して、わかりやすく簡潔な文章を書く練習をする。また、グループディスカッションにおいては、自分の意見を言う、他の人の意見を理解する、全体をまとめて発表する練習をする。

この講義の目標は、何かを暗記することや歴史事項を確認することではない。さらなる勉学や就職活動のために、聞く力・書く力・話す力を身につけることが目標となる。

#### 【講義計画】

- 第1回：講義の進め方や内容、試験、成績評価について説明する。  
また、講義のテーマを概観する
- 第2回：第1部 近代国家の学校制度とエリート教育—ドイツ、日本、アメリカを比較して  
19世紀から20世紀初頭にかけてのドイツ史について概観する。  
なぜ、各国が教育に力をいれたのか?
- 第3回：ドイツと日本とアメリカの教育構造  
① ドイツを中心として
- 第4回：ドイツと日本とアメリカの教育構造  
② 日本を中心として
- 第5回：ドイツと日本とアメリカの教育構造  
③ アメリカを中心として
- 第6回：日独の敗戦とエリート教育の変化
- 第7回：第2部 近代ドイツの歴史状況と学校小説  
ドイツ教養市民層の構造
- 第8回：ドイツ教養市民層の衰退
- 第9回：ブルジョアの男らしさの構造とその衰退
- 第10回：学校小説の構造と社会の動き
- 第11回：学校小説と同性間の関係
- 第12回：近代社会におけるホモソーシャリティ
- 第13回：学校小説とホモソーシャリティを考える応用問題
- 第14回：学校小説とファシズムを考える応用問題
- 第15回：全体のまとめとディスカッション

#### 【事前および事後学習の指示】

予習として、授業で扱う文学作品や参考文献のうち、文庫などで入手しやすいものを自分で読んでみることをすすめる。直接には試験にはつながらなくても、学生時代にさまざまな読書に挑戦することは重要である。

また、復習として講義のノートをよく整理しておくこと。

#### 【テキスト】

#### 【参考文献】

野田宣雄『ドイツ教養市民層の歴史』(講談社学術文庫)  
M. クラウル『ドイツ・ギムナジウム200年史—エリート養成の社会史』(ミネルヴァ書房)  
苅谷剛彦『教育の世紀:大衆教育社会の源流』(ちくま学芸文庫)  
トマス・キューネ『男の歴史—市民社会と「男らしさ」の神話』(柏書房)  
『ドイツ文学案内』(岩波文庫)

#### 【コメント】

70点満点の試験を行なう。試験では、この授業で話されたことが理解できているかどうかを問う課題を提出するので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない。試験の問題はすべて記述式である。

「その他」のものとしては、小テスト、グループディスカッションの発表、積極的な挙手、コメントシートの提出などを評価事項とする。

#### 【留意事項】

社会人の方へ(聴講に際して)

- ①一年生から履修できる科目であるため、ノートテイキングや答案の書き方などの指導に時間が割く場合があります。
- ②グループワークにもご参加いただければ助かります。
- ③ほぼ毎回、授業の最後に、講義に関する小さな問題を出します。答えの提出については、どちらでも構いません。
- ④講義の内容をより深めるため映像作品を1本観ます。

講義名称	曜時
統計学総論Ⅰ〈春〉	火1

【教員名称】  
井田 憲計

【講義概要】  
記述統計 (=統計データの整理と記述の方法) について概説し、推測統計 (=確率の考えをもとに、標本から母集団の特性を推論する方法) の基礎的な考え方について、講義を進めていく。  
「統計学総論Ⅰ」と「統計学総論Ⅱ」では、大きな流れはどちらも共通しており、Ⅰで十分に扱えないトピックスをⅡで扱う。

【学習目標】  
記述統計の知識と推測統計の考え方、これらについての理解を深めることを目標とする。このためには、各自の自習時間にパソコンも活用して教科書の例題などの課題にも挑戦していただく予定だが、決して難しい作業ではない。「統計(学)的な物の考え方」は、今後社会に出てからもあらゆる場面できっと役に立つものである。

【講義計画】  
第1回：ガイダンス  
(各回の順序は理解度に応じて入れ替えることがある)  
第2回：記述統計と推測統計  
第3回：代表値(平均値、中央値、最頻値)  
第4回：ちらばりの指標(分散、標準偏差)  
第5回：偏差値  
第6回：度数分布とヒストグラム  
第7回：確率  
第8回：正規分布  
第9回：母集団と標本  
第10回：推定と検定  
第11回：平均の区間推定  
第12回：比率の区間推定  
第13回：平均に関する検定  
第14回：相関係数  
第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】  
教科書の練習問題での復習を中心に、空き時間等を利用して積極的に課題に取り組むことが求められる。

【テキスト】  
よくわかる統計学Ⅰ 基礎編 - (第2版) 金子治平・上藤一郎編  
978-4-623-06111-2 ミネルヴァ書房 (¥2600+ 税)

【参考文献】  
郡山彬 + 和泉澤正隆 = 著「統計・確率のしくみ(入門ビジュアルサイエンス)」日本実業出版社(税込¥1365) ISBN:978-4534026620

【コメント】  
[学期末試験](配分40%)では計算問題で各回テーマの理解度を測る。[中間レポート](配分30%)は複数テーマから数枚の分量で学期途中に一回実施。[出席・講義時間中の小テスト](配分30%)もほぼ毎回実施する。

【留意事項】  
シंकタンクにおける統計分析の経験を講義に活用する

講義名称	曜時
東洋史 01〈通期〉	月3

【教員名称】  
濱野 亮介

【講義概要】  
東アジア世界の中心であった中国において成立した王朝の変遷を中心に、日本を含む東アジア各国の動向と影響に意識を向けつつ概観する。なお、本講義では中国の歴史について、高校世界史レベルの知識を有することを前提とする。高校時代の教科書を残している者はそれに目を通しておくこと。

【学習目標】  
中国を中心とする東アジアの歴史を通史的に概観することによって関連する各国の歴史と文化の流れを理解し、それぞれが歴史を学ぶ意義について考えることを目標とする。

【講義計画】  
第1回：授業ガイダンス  
・全体の流れ  
・「東洋史」とは  
・歴史を学ぶ意義  
第2回：神話～夏殷時代  
第3回：殷周革命～春秋時代—覇者と会盟  
第4回：戦国時代—戦国七雄の争い  
第5回：秦～楚漢争覇時代—始皇帝から項羽と劉邦へ—  
第6回：前漢時代—武帝の外征と朝鮮—  
第7回：後漢時代—西域経営と外戚権力—  
第8回：三国時代—二つの『三国志』—  
第9回：西晋～五胡十六国時代—北方民族の展開—  
第10回：南北朝時代—南北の争いと仏教—  
第11回：隋～唐中期—煬帝の大規模事業と唐の成立—  
第12回：唐時代—花の都長安とシルクロード—  
第13回：唐中期～末期—武則天から黄巢の乱へ—  
第14回：7世紀～10世紀の東アジア  
第15回：春期内容の確認と復習  
第16回：秋期授業内容の概観  
第17回：五代十国時代—唐宋変革期の社会—  
第18回：宋時代—中央集権主義と科挙—  
第19回：北宋・遼・西夏—三国による東アジア秩序の成立—  
第20回：金・南宋—女真族と宋の南遷—  
第21回：中国における宗教と印刷技術の発展  
第22回：モンゴル帝国—チンギス・ハンの誕生—  
第23回：モンゴル帝国～元朝—各ウルスの成立と拡がる世界—  
第24回：元末～明時代—朱元璋と永楽帝—  
第25回：中国における海と国際関係—朝貢体制と倭寇—  
第26回：明末～清中期—満洲族と黄金時代—  
第27回：清朝末期①—内乱と軍閥—  
第28回：清朝末期②—西洋の衝撃と瓜分危機—  
第29回：辛亥革命～現在まで  
第30回：授業全体のまとめ

【事前および事後学習の指示】  
【事前学習】授業終了後に、Sドライブにてその日に使用したスライドを配布する。スライドの最後に次回授業時に関するキーワードを指定しておくので、内容を確認・予習すること。  
【授業時】配布スライドを確認しながら、必要にしたがってメモをとること。  
【事後学習】内容の流れやそれぞれの出来事の因果関係、地理関係を中心に復習すること。

【テキスト】

【参考文献】  
講談社『中国の歴史』シリーズ(全12巻)、2004年～2005年  
ほか、授業中に適宜紹介する。

【コメント】  
【試験】春秋期末に試験を課す。テスト期間中の試験により、持ち込みはなし。  
【その他】毎回の授業時に行う、授業内容に関する小レポートの提出によって採点。名前のみ、課題とそぐわない内容のものは採点対象外となるため、しっかりと授業内容の把握し記入すること。

【留意事項】  
初回の授業時に、授業の運営、成績評価について詳しく説明する。受講者は必ず初回から出席すること。もし初回の授業をやむを得ず欠席した場合も、配布スライドを必ず確認しておくこと。

講義名称	曜日
東洋美術史〈通期〉	月 1

**【教員名称】**

西尾 歩

**【講義概要】**

東アジアの中心的役割を担ってきた中国の美術（主に絵画）を美術史的に考察する。具体的には、中国古代理から近世まで、各時代の代表的・特徴的な絵画あるいは文献を取り上げ、説明していく。また授業全体として通史的に概観し、中国美術の大きな流れを確認する。講義では、複製品鑑賞や画像のプロジェクターによる映写を含め、視覚教材を活用して中国美術についての理解を深めたい。

**【学習目標】**

上記「講義概要」に対応する知識を習得し、中国絵画を美術史的に理解すること。

**【講義計画】**

- 第1回：導入 授業計画について
- 第2回：絵画鑑賞の伝統 乾隆コレクションについて
- 第3回：新石器時代～戦国時代の絵画表現
- 第4回：前漢時代の絵画 長沙馬王堆出土帛画
- 第5回：後漢時代の絵画
- 第6回：三国時代までの画論
- 第7回：魏晋南北朝の出土絵画
- 第8回：顧恺之について
- 第9回：『女史箴図巻』について
- 第10回：宗炳『画山水序』
- 第11回：謝赫『古画品録』
- 第12回：隋・唐時代の西域との交流
- 第13回：唐時代の人物画
- 第14回：唐時代の山水画
- 第15回：中間試験およびまとめ
- 第16回：張彦遠『歴代名画記』
- 第17回：水墨画の誕生
- 第18回：五代の絵画 王処直墓壁画
- 第19回：北宋時代の山水画（高遠山水）
- 第20回：北宋時代の山水画（平遠山水）
- 第21回：北宋時代の花鳥画
- 第22回：北宋徽宗の花鳥画
- 第23回：趙伯驥『万松金闕図』
- 第24回：南宋時代の宮廷絵画
- 第25回：南宋時代の禅宗絵画
- 第26回：馮道真墓壁画
- 第27回：元時代の絵画
- 第28回：明時代の絵画
- 第29回：清時代の絵画
- 第30回：まとめおよび試験

**【事前および事後学習の指示】**

- ・授業内容を復習し、参考書等で予習・補足してください。
- ・事前・事後学習として、授業に関連する作品、あるいは広く美術作品全般を、博物館・美術館等に行き、実際に見るようにしてください。

**【テキスト】**

教科書は使用せず、配布資料を用意する。

**【参考文献】**

『世界美術大全集 東洋編』小学館、1997～2001年  
王耀庭『中国絵画のみかた』（桑童益訳）二玄社、1995年

**【コメント】**

試験は中間試験50%、最終試験50%で評価します。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
都市社会学〈通期〉	金 2

**【教員名称】**

竹中 英紀

**【講義概要】**

都市社会学は、都市の近代化や人口の増大といった状況のもと、ヨーロッパの近代社会学に端を発し、20世紀アメリカの「シカゴ学派」において確立をみた学問分野である。この授業では、都市社会学の学問的な系譜と、その後の展開（マルクス主義陣営からの批判、コミュニティ論・ネットワーク論との相互浸透など）について解説する。また、現代および歴史上の世界と日本の都市を取り上げ、そこで生起している問題が、社会的にはどのようにとらえられるかを考えていく。講義は教科書に沿って行い、適宜、小テストを実施して理解度を確認する。

**【学習目標】**

都市社会学の学説史に関する基本的な知識の習得と、都市問題に対する社会的な分析力・表現力の獲得。

**【講義計画】**

- 第1回：都市社会学の問い【序章】
- 第2回：都市社会学の始まり(1)【第1章】
- 第3回：都市社会学の始まり(2)【//】
- 第4回：アーバンイズム(1)【第2章】
- 第5回：アーバンイズム(2)【//】
- 第6回：都市生態学と居住分化(1)【第3章】
- 第7回：都市生態学と居住分化(2)【//】
- 第8回：第1～3章の補足・まとめ
- 第9回：地域コミュニティ(1)【第4章】
- 第10回：地域コミュニティ(2)【//】
- 第11回：都市と社会的ネットワーク(1)【第5章】
- 第12回：都市と社会的ネットワーク(2)【//】
- 第13回：都市圏の発展段階(1)【第6章】
- 第14回：都市圏の発展段階(2)【//】
- 第15回：第4～6章の補足・まとめ
- 第16回：情報化・グローバル化と都市再編(1)【第7章】
- 第17回：情報化・グローバル化と都市再編(2)【//】
- 第18回：インナーシティの危機と再生(1)【第8章】
- 第19回：インナーシティの危機と再生(2)【//】
- 第20回：郊外のゆくえ(1)【第9章】
- 第21回：郊外のゆくえ(2)【//】
- 第22回：第7～9章の補足・まとめ
- 第23回：都市再生と創造都市(1)【第10章】
- 第24回：都市再生と創造都市(2)【//】
- 第25回：文化生産とまちづくり(1)【第11章】
- 第26回：文化生産とまちづくり(2)【//】
- 第27回：アジアの都市再編と市民(1)【第12章】
- 第28回：アジアの都市再編と市民(2)【//】
- 第29回：第10～12章の補足・まとめ
- 第30回：授業の総まとめ【第13・14章は講義や試験の対象としない】

**【事前および事後学習の指示】**

授業計画を参照して、教科書の該当箇所をあらかじめ熟読しておくこと。また授業中にとったノートをこまめに整理し、自己の理解を確認すること。スライドなどの教材は、学内PCのSドライブ(S:/bamboo)からも入手できる。

**【テキスト】**

都市社会学・入門 松本康編  
978-4-641-22015-7 有斐閣

**【参考文献】**

松本康編(2011)『都市社会学セレクション1 近代アーバンイズム』日本評論社  
井上俊・伊藤公雄編(2008)『社会学ベーシックス4 都市的世界』世界思想社  
野沢慎司編訳(2006)『リーディングス ネットワーク論』勤草書房  
※スライドなどの教材は、学内ネットワークドライブの教材用フォルダ(S:/bamboo)を用いて公開する。

**【コメント】**

期末テスト(80%)と、授業時間内に実施する小テスト(複数回、20%)の結果を総合して成績を評価する。

**【留意事項】**

都市調査機関研究員の経歴を持つ教員が都市社会学について講義する

講義名称	曜日
都市政策論Ⅰ 〈春〉	水4

【教員名称】  
風岡 宗人

【講義概要】

現在、日本の人口の半数以上が三大都市圏に暮らしており今後もその数は増加が見込まれています。一方で地方の都市は少子高齢化、地域産業の衰退、人口減少などに悩んでいます。しかし人口が増える都市圏もアメニティの悪化や、気候変動を促進する二酸化炭素の多量排出など多様な問題を抱えています。これら都市問題を分野の縦割りで捉えるのではなく、また経済、情報、人の移動がグローバル化するなかで、国内にとどまらず、世界との関係の中で捉えていく必要があります。本講義では国連が2015年に採択したSDGs(持続可能な開発目標)に沿って日本の先駆的な都市・まちづくり事例を参照しつつ、私たちがめざすべき持続可能な都市・まちのビジョンとその手法について学びます。  
なお、本講義は秋学期に開講される「都市政策論Ⅱ」の導入として位置づけています。都市政策に関する理論的な内容は主に「都市政策論Ⅱ」で取り扱います。

【学習目標】

SDGsの内容を理解し、説明できる。  
SDGsの視点から、日本の都市・まちの問題の状況やその原因、解決法について理解する。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス SDGsとまちづくり
- 第2回：SDGsと地方自治体
- 第3回：地域経済とまちづくり
- 第4回：SDGsと地域づくり・文化づくり
- 第5回：福祉社会とまちづくり
- 第6回：持続可能な「農」
- 第7回：環境自治体とSDGs
- 第8回：多文化共生のまちづくり
- 第9回：祭り・観光とまちづくり
- 第10回：子どもの居場所があるまちづくり
- 第11回：まちづくりと社会教育
- 第12回：サービス・ラーニングとまちづくり
- 第13回：まちづくり教育の実践
- 第14回：学び合いの地域づくり
- 第15回：まとめ～SDGs時代のまちづくりとパートナーシップ

【事前および事後学習の指示】

本講義の構成は参考文献で挙げた田中、枝廣、久保田(2019)に沿っています。テキストとしての購入は義務付けませんが、より深い学びのため購入して該当箇所を予習することをおすすめします。その他、レジュメ等配布資料を読み返すなど、復習を欠かさないでください。

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

- 田中治彦、枝廣淳子、久保田崇『SDGsとまちづくり:持続可能な地域と学びづくり』(2019)学文社
- 中口 毅博、熊崎 実佳『SDGs 先進都市フライブルク：市民主体の持続可能なまちづくり』(2019)学芸出版社
- 事業構想大学院大学出版部(編)『SDGsの実践:自治体・地域活性化編』(2019)事業構想大学院大学出版部
- 寛裕介『持続可能な地域のつくり方 未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン』英治出版

【コメント】

レポート:学期末試験に代わるレポートを提出していただけます。  
その他:毎回のコメントシートおよびグループワークへの参加度合いによって評価します。

【留意事項】

SDGs そのものや、関連する話題について日頃から関心を持ち、新聞スクラップするなど、率先して情報収集に努めてください。

講義名称	曜日
日中ビジネス論 〈春〉	金3

【教員名称】  
大島 一三

インテ

【講義概要】

この講義は、日本および大阪を代表する企業、機関の担当者がゲスト講師となるインテグレーション講座です。「日中ビジネスの最前線」をテーマとし、日本と中国のビジネス事情について解説していただきます。  
講義は、大きく以下の内容からなっています。  
(1) 中国への企業進出や中国での事業展開について  
(2) 日本と中国それぞれの経済状況と両国間の経済関係について  
(3) 中国ビジネスの実際について  
本講義の講師陣は、中国ビジネスに活発に関わっている現役実務家や機関の方々です。実務家の視点から生きた経済を語っていただくことにより、中国の経済やビジネスに関心のある学生はもちろん、広く日本経済・業界に関心のある学生にも興味を持てる内容となるでしょう。

【学習目標】

講義は、毎回異なるテーマについて、第一線で活躍しないし経験豊富な実務家をゲスト講師として進められます。本講義の目的は、日本経済と中国経済との関わりを理解し、日本の対中国ビジネスへの関心を深めていくことです。また、各回の講義で述べられる事例から、ビジネスへの理解力を高め、業界研究を進めていくこともできると考えられます。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンスおよび大島一三「中国における食品安全問題」  
講師日程と各回のテーマは確定次第あらためて連絡します。ただし、講師都合による日程変更時は別のテーマで行うこともあります。以下の日程は2020年度の予定です。
- 第2回：原田忠直氏(日本福祉大学)「中国の農村労働力問題」
- 第3回：和田芳明氏(NTTデータ)「中国のITビジネス」
- 第4回：吉田綾子(和牛達人公司)「香港での和牛ビジネス」
- 第5回：野崎由紀子氏(三井物産戦略研究所)「中国の農業・食品事業」
- 第6回：山田七絵(アジア経済研究所)「中国の食品ビジネス」
- 第7回：浜口夏帆(香港貿易発展局)「香港ビジネス」
- 第8回：竹内健氏(丸一鋼管)「企業のグローバル展開」
- 第9回：岡野寿彦氏(NTT データ経営研究所)「中国経済の発展と日本企業」
- 第10回：高村氏(諏訪大連会)「中国の自動車産業」
- 第11回：辻維周氏(岡山理科大学)「中国・台湾からの訪日観光と課題」
- 第12回：繁実建史(日清食品)「中国での食品ビジネス」
- 第13回：森山たつを氏(スパイスアップ)「中国・香港・台湾への企業進出」
- 第14回：濱島淳博(吉備国際大学)「香港への食品輸出と課題」
- 第15回：齋藤幸則氏(テイジン)「中国での事業展開」、まとめ

【事前および事後学習の指示】

日々の中国経済関係の報道に関心を持って下さい。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】

授業に真剣に出席してメモを取り、関連資料を整理しないと書けない、字数4000字程度のレポートを1回課します。

【留意事項】

- ・本講義の講師陣は、中国ビジネスに活発に関わっている現役実務家や機関の方々です。
- ・上記は2020年度の予定日程です。多数の講師にお願いしている講義の性格上、講師の都合により変更もあり得ます。ガイダンス時に、あらためて日程とテーマを提示しますので確認してください。また、授業中に私語をするなど、聴講の態度が悪いと判断される場合は、ただちに退室を命じることがあります。悪質な場合、その場で「不合格」を宣告することがありますので、くれぐれも注意してください。

講義名称	曜日
日本近代史Ⅰ〈春〉	木2

**【教員名称】**

島田 克彦

**【講義概要】**

「東アジアの中の近代日本」というテーマの下、幕末・維新时期から日露戦争後に至る時期の歴史について講義を行います。

19世紀、発達した資本主義国である欧米列強は、アフリカ・アジアを植民地として分割し、さらに東アジアに迫ってきます。このような国際情勢の中、武力で江戸幕府を倒して成立した明治政府は、急速な近代化を推し進めていくことになります。

このような近代国家の構築過程は、日本社会や、周辺地域との関係をどのように特徴づけ、どのような矛盾を生み出していったのでしょうか。授業では、明治期の日本が東アジアの植民地帝国となっていく過程を、①東アジアの中の日本、②大阪をはじめとする地域、という2つの視点から学んでいきます。

**【学習目標】**

東アジアにおける植民地帝国・日本の構築過程で形成される、日本社会や、近隣諸地域との関係の特質を理解すること。

**【講義計画】**

- 第1回：東アジアの中の近代日本 —開講にあたって—  
第1回目に授業の進め方、課題、評価の方法等について説明をするので、必ず出席すること。
- 第2回：東アジアの伝統的国際秩序
- 第3回：開国と幕末・維新时期の社会
- 第4回：明治政府の外交路線と国際関係 —対ヨーロッパ外交・対東アジア外交—
- 第5回：明治政府と国家・国民 —アイヌ・沖縄にとっての近代—
- 第6回：徴兵制と近代軍隊の構築
- 第7回：徴兵制と近代軍隊の構築 —大阪の事例から—
- 第8回：近代日本の国家体制 —地方制度と学校教育—
- 第9回：近代日本の国家体制 —大日本帝国憲法—
- 第10回：近代工業都市大阪の成立と社会変動
- 第11回：日清戦争後の社会
- 第12回：日露戦争と国民
- 第13回：日露戦争後の社会
- 第14回：アジアにおける植民地帝国・日本
- 第15回：全体のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

各自作成する講義ノートと、配布される講義レジュメにしたがって復習すること。

**【テキスト】**

使用しない。講義ごとにレジュメと参考資料を配布する。

**【参考文献】**

- ※講義の中で適宜紹介します。
- 山口啓二『鎖国と開国』岩波書店、1993年
- 中塚明『近代日本と朝鮮』三省堂、1994年
- 石井寛治『日本の産業革命』朝日新聞社、1997年
- 原田敬一『戦争の日本史19 日清戦争』吉川弘文館、2008年
- 山田朗『戦争の日本史20 世界史の中の日露戦争』吉川弘文館、2009年
- 趙景達『近代朝鮮と日本』岩波書店、2012年
- 宮地正人『幕末維新変革史』上・下、岩波書店、2012年
- 中塚明・井上勝生・朴孟洙『東学農民戦争と日本』高文研、2013年
- 奥田春樹『維新と開化』吉川弘文館、2016年
- 飯塚一幸『日清・日露戦争と帝国日本』吉川弘文館、2016年
- 大日方純夫『主権国家』成立の内と外』吉川弘文館、2016年

**【コメント】**

学期末試験40%、レポート(1回)30%、出席・平常点30%。  
講義の最後に、その日の講義内容をまとめた小レポートを提出していただきます。この蓄積が平常の成績となります。  
試験では、受講生のみなさんが授業を通じて身につけた力を確認します。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
日本経済史Ⅰ 01〈春〉	木2

**【教員名称】**

梅本 哲世

**【講義概要】**

この講義では、幕末から1900年代までの日本経済の発展を概観し、極東の一島国がどのような過程を経て世界経済に組み込まれ「資本主義化」を進めていったのかを、多面的に考察したい。そのさい、第1に、戦前日本の「資本主義化」が進行した国際的および国内的条件を明らかにし、そのうえで日本資本主義の特質を分析し、第2に、戦後の日本資本主義とのつながりを重視し、戦前と戦後を比較対照しつつ、戦前の日本資本主義をもう一度振り返ってみたい。

歴史に興味と関心をもっている学生諸君の受講を歓迎する。現在を見据えて共に歴史から学びたいと思う。

なお、この講義は日本経済史Ⅱと内容が連続しているので、日本経済史Ⅰと日本経済史Ⅱをあわせて受講することが望ましい。

**【学習目標】**

この講義では以下の内容について学習し、理解を深めることを目標とする。  
第1に、幕末から明治初めにかけての資本主義経済の芽生えと成長について、商品経済・貨幣経済の展開過程と関連させて学習する。  
第2に、明治政府の「殖産興業政策」と、それを基礎にして展開した日本の産業革命について学習し、その日本的特徴について学ぶ。

**【講義計画】**

- 第1回：経済史の基本概念(1) 家内仕事・手工業・小営業
- 第2回：経済史の基本概念(2) マニュファクチュア・機械制大工業
- 第3回：幕末の経済
- 第4回：開港とその影響
- 第5回：明治維新
- 第6回：地租改正
- 第7回：殖産興業
- 第8回：松方財政
- 第9回：近代産業の発達—軽工業(1) 綿業
- 第10回：近代産業の発達—軽工業(2) 絹業
- 第11回：近代産業の発達—重工業(1) 石炭業と鉄鋼業
- 第12回：近代産業の発達—重工業(2) 兵器生産と機械工業、運輸業
- 第13回：財閥と日本経済
- 第14回：日本資本主義と寄生地主制
- 第15回：確立期日本資本主義の特質

**【事前および事後学習の指示】**

授業前に教科書の該当章を読んでください。

**【テキスト】**

- 概説日本経済史近代 [第3版] 三和良一  
978-4-13-042138-6 東京大学出版会

**【参考文献】**

- 石井寛治『日本経済史』(東京大学出版会)
- 三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧』(東京大学出版会)

**【コメント】**

- 1. 講義中の小テスト(2~3回程度の予定)(10%)
  - 2. 期末試験(90%)
- 以上を総合して成績評価をする。なお、受講者数が多い場合、厳正な試験ができないので、小テストを成績評価に含めない場合もある。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
日本経済史 I 02 (春)	月 3

【教員名称】  
見浪 知信

【講義概要】  
近世から1900年代にかけての日本経済のあゆみを、通時的に講義します。本講義では、日本経済について統計データや図表をもとに具体的に説明します。また、現代社会への接続を意識しつつ、国際比較や国際関係といった観点を取り入れて講義します。

【学習目標】  
①日本経済について、基本的な知識を習得し、その展開を説明することができる。  
②日本経済を、国際比較および国際関係といった観点で捉えることができる。

【講義計画】  
第1回：ガイダンス 日本経済のあゆみ  
第2回：近世① 近世経済の基礎構造  
第3回：近世② 近世の農業発展  
第4回：近世③ 近世の商品流通  
第5回：近世④ 近世の物価・財政  
第6回：幕末・維新时期① 開港の経済的インパクト  
第7回：幕末・維新时期② 新政府の樹立  
第8回：幕末・維新时期③ 維新时期の新制度  
第9回：幕末・維新时期④ 維新时期の政策  
第10回：幕末・維新时期⑤ 近代企業の生成  
第11回：幕末・維新时期⑥ 在来的経済発展  
第12回：産業革命期① 綿工業・機械工業の発展  
第13回：産業革命期② 企業勃興の制度的基盤  
第14回：産業革命期③ 明治期の国際経済関係  
第15回：産業革命期④ 農村社会と都市社会

【事前および事後学習の指示】  
授業前に、授業レジュメを印刷し、目を通しておくこと。  
授業後は、授業レジュメに記載された練習問題を問いておくこと。

【テキスト】

【参考文献】  
タイトル：『日本経済史：近世から現代まで』、著者：沢井実・谷本雅之著  
出版社：有斐閣、ISBN:9784641164888、備考：2016年出版

【コメント】  
期末試験を重視する。

【留意事項】

講義名称	曜時
日本経済論 I (春)	木 2

【教員名称】  
澤田 鉄平

【講義概要】  
日本経済は第二次世界大戦後の対米従属・安保体制を前提とした日本特有の資本蓄積および外需依存型経済発展を続け、今日まで内在する矛盾を温存・強化しており、また世界経済の変化の中で日本経済はバブル崩壊以降、深刻な長期不況が続いている。  
そこで本講義では戦後日本経済の歴史的發展過程を経済・政策の視点に立脚して振り返り、内在する諸矛盾の検討を通じて、今日求められる日本経済再生の糸口を探っていく。日本経済論 I は戦後日本の復興期から経済成長期を経て長期不況に至る前夜であるバブル崩壊までを、日本経済論 II はバブル崩壊以降今日に至るまでの長期不況の構造を、世界経済の変化を踏まえつつ考察していく。

【学習目標】  
本講義に積極的に取り組むことを通じて  
1. 戦後からバブル期までの日本経済について体系的に理解することができるようになる  
2. 今日日本経済の諸現象について、その要因を考察できるようになる

【講義計画】  
第1回：日本経済の学びとは何か？(イントロダクション)  
第2回：米ソ冷戦構造の発展とGHQによる戦後民主化改革、財閥解体、農地改革、労働改革  
第3回：朝鮮戦争と特需、高度成長を迎えるための資本蓄積  
第4回：重化学工業育成政策と企業集団・系列化  
第5回：国際競争力強化、70年代への足がかり  
：高度成長期(その2)1962～70年  
第6回：都市流入と地方過疎化  
：高度成長期の弊害(その1)  
第7回：公害発生と公害闘争  
：高度成長期の弊害(その2)  
第8回：プレトンウッズ体制の崩壊と日本経済  
：高度成長の終焉(その1)1970年代  
第9回：2度のオイルショック、狂乱物価、輸出競争力を増す製造業  
：高度成長の終焉(その2)1970年代  
第10回：米国双子の赤字・反日、輸出競争力のピーク  
：安定成長期(その1)1978～1983年  
第11回：日米貿易摩擦とその解決方法、多国籍化の萌芽  
：安定成長期(その2)1984～1986年  
第12回：プラザ合意、前川リポートと政策転換  
：バブル経済(その1)  
第13回：過剰流動性、実体経済と金融経済の乖離  
：バブル経済(その2)  
第14回：公定歩合引き上げ、金融経済の急速な収縮と不良債権問題  
：バブル崩壊  
第15回：戦後日本経済の振り返り・ゆがみの頂点  
：失われた25年への道

【事前および事後学習の指示】  
参考文献のうちのいずれかを選び、第二次世界大戦後の日本経済について予習すること。また講義各回はその前の回までの講義を前提とするため、各回を入念に復習すること。

【テキスト】

【参考文献】  
中村隆英(1986)『昭和経済史』岩波書店。  
三和良一(2012)『概説日本経済史 近現代 第3版』東京大学出版会。  
橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齋藤直(2011)『現代日本経済 第3版』有斐閣。

【コメント】

【留意事項】

講義名称	曜日
日本語学概論 〈春集〉	月3/木1

【教員名称】  
有川 康二

【講義概要】

ONE PIECEのルフィが涙や鼻水を流しながら「仲間がいるよ！」って叫んでるけど、「る」ってちょっと変。何故？でも、なんとなくわかる。何故？「青空」は[aozora]だけど、[aosora]は変。何故？でも、大学学歌では[aosora]となっている。何故？「きれいな猫の飼い主」と「きれいな猫と飼い主」では意味が違う。何故？「猫が金魚を食べた」はOK。でも、「猫が金魚が食べた」は変。何故？「が」とか「を」って何？格助詞って何？格って何？「が」とか「を」について徹底的に考えます。「が」とか「を」は母なる自然がつくった情報処理の臓器(脳)に発生した情報ウイルス(エラー)です。ホモ・サピエンス語を生み出す言語システムは、このウイルスと共生して構造を生み出す。ヒト脳内の言語システムは母なる自然がつくったウイルス・チェック・システム。意味不明ですが、授業を受けると分かります(驚)。「が」とか「を」についてこんなに徹底的に考えるのは、皆さんの人生の中で最初で最後の経験となります。日本語のネイティブ・スピーカーは日本語を文法など意識せずに自由に使えます。日本語はアホほど当たり前のこと(阿呆)。アホほど当たり前のことなので、日本語母語話者は、自分は日本語のことは何でも知っていると思込んでいます。しかし、日本語母語話者には意識できない日本語の音や文法の法則やメカニズム、それがヒト脳内で如何に生成されるかは説明できません。自分が全て知っていると思込んでいることが、実は科学的に何も解明されていないという戦慄を一緒に感じませんか？誰でも脳味噌は使えますが、その法則やメカニズムは説明できない。経験科学の手法を用いてヒト脳の言語システムの法則とメカニズムを探ります。科学は、誰もが当たり前に許さず考えるのもアホらしいと思う事柄に驚嘆することから始まります(驚)。子どもはアホなことに驚嘆できるというすばらしい能力の持ち主(科学者)です。長年の学校教育と受験勉強で抹殺されたこのすばらしい能力を、この授業で取り戻してみませんか？「自然言語(ことばをしゃべる)」というアホらしい現象は、物理学の最重要問題である「重力(ものが落ちる)」や「光(明るい・暗い)」というようない見アホらしい現象と同様に、科学の格好の対象となります。鳥は空を飛びまくり、魚は水の中を泳ぎまくり、植物は花を咲かせまくり、犬は臭いを嗅ぎまくり、カエルはジャンプしまくり、私たちがヒトはしゃべりまくりまくり。しゃべりまくりする生物であるヒトとは、一体、如何なる生き物なのか？一緒に考えてみませんか？

【学習目標】

日本語を三つの視点から概論します。(1) 生物言語学の視点=ヒト自然言語システムは、母なる自然が創造したヒト脳に突然変異と創発的自己組織化が生じて出現した。その一般的な性質とはどのようなものか？何故、ホモ・サピエンス語はこのような形になっているのか？(2) 日本語教育学の視点=日本語を外国語として学ぶ人々にとって、日本語の客観的な説明、よりよい説明とはどのようなものか？地球上の数千の言語は、ホモ・サピエンス語の方言です。日本語を外国語、サピエンス語として考えます。(3) 哲学的視点=今この瞬間も時速10万8千km(弾丸速度の約19倍)で太陽のまわりを公転している地球の表面に重力でへばりつけられて、自分は今ここで何をしているのか？約138億年前にできた宇宙の中で、46億年前にできた地球の上で、38億年前に生まれた生命のナレノハテとして、自分は何をしながら、老いて、死んでいくのか？こんなことは、お寺とか大学とか超暇な時間が流れている時空間でのみ考えられます。一緒に宇宙市民となって徹底的に考えてみませんか？(驚愕)

【講義計画】

- 第1回：イントロ。「もの」とは何か。「ところ」とは何か。(1)
- 第2回：「もの」とは何か。「ところ」とは何か。(2)
- 第3回：「もの」とは何か。「ところ」とは何か。(3)
- 第4回：「もの」とは何か。「ところ」とは何か。(4)
- 第5回：「もの」とは何か。「ところ」とは何か。(5)
- 第6回：「よい説明」とは何か。(1)
- 第7回：「よい説明」とは何か。(2)
- 第8回：「よい説明」とは何か。(3)
- 第9回：「よい説明」とは何か。(4)
- 第10回：「よい説明」とは何か。(5)
- 第11回：言語の構造(1)
- 第12回：言語の構造(2)
- 第13回：言語の構造(3)
- 第14回：言語の構造(4)
- 第15回：言語の構造(5)
- 第16回：脳とコンピュータ(1)
- 第17回：脳とコンピュータ(2)
- 第18回：脳とコンピュータ(3)
- 第19回：脳とコンピュータ(4)
- 第20回：脳とコンピュータ(5)
- 第21回：ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム(1)
- 第22回：ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム(2)
- 第23回：ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム(3)
- 第24回：ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム(4)
- 第25回：ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム(5)
- 第26回：復習とQ&A
- 第27回：復習とQ&A
- 第28回：復習とQ&A
- 第29回：復習とQ&A
- 第30回：復習とQ&Aと試験

【事前および事後学習の指示】

前にやったことを順次理解していかないと、だんだん、珍糞漢糞(ちんぷんかんぷん)になります。予習、復習をしてください。

【テキスト】

【参考文献】

Jenkins, L. (2000) Biolinguistics - Exploring Biology of Language. Cambridge University Press.  
酒井邦嘉(2002)『言語の脳科学 - 脳はどのようにことばを生み出すか』中公新書  
寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味』くろしお出版  
寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味II』くろしお出版

【コメント】

毎回の出席は前提です。筆記試験は、自筆ノートは持ち込み可です。丸暗記は不要です。何故ぞという風に考えるのかというロジックに集中してください。毎回、配付する質問コメント用紙(出席カードではありません)にいい質問やいいコメントをした人は、ボーナス点として加算されます。

【留意事項】

プリント等は授業で配布します。

講義名称	曜日
日本語教育事情 〈春〉	火2

【教員名称】  
島 千尋

【講義概要】

1. 日本にいる外国人や日本語を学んでいる学習者について
  2. 学習者から見た日本語について
  3. 日本語の教え方について
  4. 日本語を教える「日本語教師」という仕事について
  5. 日本にいる外国人や学習者を取り巻く環境について
- 以上の点に関する基礎的な知識を学ぶ。  
授業は教師と学生の双方向のやりとりを交え、またグループ活動(インタビュー)も行う。

【学習目標】

日本語教育に関わる様々な事柄についての基礎的な知識を身につけることで、日本語教育というものの全体像を把握する。また、これからの日本社会や世界の中で自分たちと共存していくこととなる外国人との接点を見出す。

【講義計画】

- 第1回：・オリエンテーション  
・初めの一歩 ~日本語教育の世界をのぞいてみよう~
- 第2回：1. 日本にいる外国人や日本語を学んでいる学習者(1)
- 第3回：1. 日本にいる外国人や日本語を学んでいる学習者(2)
- 第4回：2. 学習者から見た日本語(1)
- 第5回：2. 学習者から見た日本語(2)
- 第6回：2. 学習者から見た日本語(3)
- 第7回：2. 学習者から見た日本語(4)
- 第8回：3. 日本語の教え方(1)
- 第9回：3. 日本語の教え方(2)
- 第10回：3. 日本語の教え方(3)
- 第11回：3. 日本語の教え方(4)
- 第12回：4. 日本語を教える「日本語教師」という仕事(1)
- 第13回：4. 日本語を教える「日本語教師」という仕事(2)
- 第14回：5. 日本にいる外国人や学習者を取り巻く環境(1)
- 第15回：5. 日本にいる外国人や学習者を取り巻く環境(2)

【事前および事後学習の指示】

- ・授業で使ったパワーポイントをSドライブに上げるので、それを見て復習してください。
- ・外国人学習者向けの日本語教科書が図書館にあるので、見てみてください。
- ・授業に関連のあるテーマについて、ニュースを見たりインターネットの記事や書籍を読んだりして、関心を持つようにしてください。
- ・学内の留学生と積極的に関わり、話をして、視野を広げてください。

【テキスト】

【参考文献】

【コメント】

- ・出席は取りません。
- ・座席指定をする場合があります。また、途中退室は厳禁とします。
- ・「レポート」は学期途中で行う留学生へのインタビューの結果報告です。「その他」は時々実施する小テストの結果です。
- ・日本語や日本語教育に興味・関心がある人、将来のために外国人との関わり方について知りたい人はどうぞ受講してください。

【留意事項】

日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある現役日本語教師が経験の中で得た具体的な実例を交えつつ日本語教育を多方面から解説する。

講義名称	曜日
日本語教材・教員論 A (春)	金 2

#### 【教員名称】

友沢 昭江

#### 【講義概要】

日本語学習者の多様化に対応するためにさまざまな教授法や教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景などを考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教授法や教材を選択する眼をもたなければなりません。本講では教授法Ⅲで行う模擬授業実習などに必要な教授法の基本とレベル別の教科書などを学びます。春学期の「A」では日本語教員・教材論の基礎となる内容を中心に学びます。秋学期の「B」で行う教科書分析につながる内容です。そのため「A」を履修した後に「B」を履修することが望ましいです。

#### 【学習目標】

- ・この授業(春学期のA)では日本語を教えるのに必要な基礎的な知識(シラバスやコースデザイン、教室活動など)とともに多様な教科書の構成について理解します。
- ・教科書の特徴などを学ぶことで、秋学期の「B」での教科書分析のための視点身に付けます。
- ・また実際の日本語教育の現場を知るために交換留学生の日本語授業を見学します。見学後は分析項目に沿った報告書にまとめることで、客観的な授業分析ができるようになります。

#### 【講義計画】

- 第1回：日本語を教えるということ：授業を組み立てるために必要な基礎知識
- 第2回：いろいろな外国語教授法
- 第3回：初級の教え方(発音/会話)
- 第4回：初級の教え方(文字/読解)
- 第5回：初級の教え方—実際の授業(DVD視聴)
- 第6回：日本語教科書の構造①(初級)
- 第7回：日本語教科書の構造②(初級)
- 第8回：日本語教科書の構造③(初級)
- 第9回：中上級の教え方—初級との違いについて①
- 第10回：中上級の教え方—初級との違いについて②
- 第11回：日本語教科書の構造④(中級)
- 第12回：日本語教科書の構造⑤(中級)
- 第13回：日本語教科書の構造⑥(初級、中級、上級)
- 第14回：期末試験
- 第15回：期末試験の講評

#### 【事前および事後学習の指示】

講義期間中に教科書の内容をすべて扱うことができないので、早めに購入して読み進めてください。できれば講義が始まるまでに最後まで目を通して、扱われている項目についてある程度の知識をもっておいください(事前学習30時間)。コメントシート作成や授業見学および報告書作成(事後学習30時間)も求められます。履修要件ではないですが、この授業を履修する前または同時に、日本語教師資格に必要な科目群AおよびB群をできるだけ多く履修しておいてください。

#### 【テキスト】

新・はじめての日本語教育2—日本語教授法入門増補改訂版 高見澤孟  
9784-87217-515-8 アスク出版 2016年

#### 【参考文献】

- ・『新・はじめての日本語教育1—日本語教育の基礎知識』(高見澤孟他、アスク)
- ・『ここから始める日本語教育』(姫野昌子他、ひつじ書房)
- ・『初級ドリルの作り方』(三浦昭、凡人社)
- ・『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(庵功雄他、スリーエーネットワーク)
- ・『中上級を教える人のための文法ワークブック』(庵功雄他、スリーエーネットワーク)
- ・『ベーシック日本語教育』(佐々木泰子編、ひつじ書房)

#### 【コメント】

学期末に筆記試験を行います。試験は14回目の授業時間に行います(90分)。最終授業日には試験を返却し講評を行います。それにより求められる知識をどの程度自分が獲得しているかを確認し、他の学生の解答を参考にします。学期中に授業見学を行い、レポートにまとめます。授業中の発言、数回のコメントシートの提出などを総合的に考慮して評価を行います。資格関連の科目なので出席は重要視されますが、それだけではなくすべての課題をしあげることがより重要です。

#### 【留意事項】

講義名称	曜日
日本語教授法の基礎 (通期)	月 2

#### 【教員名称】

有川 康二

#### 【講義概要】

どんな教授法(教え方の哲学や方法)、どんな教科書にも長所と短所があります。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することです。そのためには、何が長所で、何が短所になるのかを理解しておかなければなりません。例えば、語学学習の命であるドリル(稽古)に関していえば、機械的な形の練習だけでなく、より現実に近い状況や会話の十分な練習があれば長所と言えます。日本語の初級文法に焦点を絞り、(教師のための)実践的な文法整理と、(学習者のための)効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行います。

#### 【学習目標】

一定の制限された状況(教室)や時間内(初級の集中コースとして例えば週15時間程度約6か月)に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習(ドリル)を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別な知識と技術が必要となります。何語でもそうですが、ある言葉が母語としてべらべら話せることと、その言葉を外国語として学習する人に体系的、説得的に教えることのできる能力とは別物です。日本語の母語話者は日本語学習者と適当に世間話はできますが、初級の学習者に日本語の文法や文パターンを効果的、説得的に教えることはできません。初級レベルで学習者が興味を失ってしまったら、それまでです。ある意味では初級レベルが最も難しいと言えます。文法の質問から逃げる日本語教師は学習者には信頼されません。また同時に、「何故、私は外国語を学ぶのか?何故、私は日本語を外国語として教えるのか?日本語を教えるという仕事を通して私には何ができるのか?」という問いを問いつけなくてはならないと思います。

#### 【講義計画】

- 第1回：イントロ  
外国語教授法のイロハとは何か? どんな授業がよいのか? どんな教材が必要なのか? どんな仕事に就ける可能性があるのか? 本学の先輩達は日本語教員資格を取得してどんな所で仕事をしているのか?
- 第2回：指示表現(コンアド)(1)
- 第3回：指示表現(2)
- 第4回：形容詞(イ形容詞/ナ形容詞)(1)
- 第5回：形容詞(2)
- 第6回：存在表現(アル/イル)(1)
- 第7回：存在表現(2)
- 第8回：時制(テンス)と相(アスペクト)(1)
- 第9回：時制(テンス)と相(アスペクト)(2)
- 第10回：保留形(テ形)(1)
- 第11回：保留形(テ形)(2)
- 第12回：願望の助動詞(ta/gar)(1)
- 第13回：願望の助動詞(2)
- 第14回：可能の助動詞(e/(ra)re)(1)
- 第15回：可能の助動詞(2)
- 第16回：様態・伝聞・推量の助動詞(アノぱんハオイソウダ/オイシソウダ/オイシヨウダ/オイシイラシイ)(1)
- 第17回：様態・伝聞・推量の助動詞(2)
- 第18回：テイル・テアル・テオク(怒ガ開イテイル/窓ガ(ヲ)開ケテアル/窓ヲ開ケテオク)(1)
- 第19回：テイル・テアル・テオク(2)
- 第20回：授受表現((テ)モラウ/イタダク,(テ)クレル/クダサル,(テ)ヤル/アゲル/サシアゲル)(1)
- 第21回：授受表現(2)
- 第22回：態(受身(イジメラレル)・使役(イジメサセル)・使役受身(イジメサセラル)) (1)
- 第23回：態(2)
- 第24回：条件表現(離婚シタラ~/離婚スルナラ~/離婚スレバ~/離婚スルト~/)(1)
- 第25回：条件表現(2)
- 第26回：敬語(お話しニナル/お話しスル/オッシャル/申ス/ナサル/イタス等)(1)
- 第27回：敬語(2)
- 第28回：復習とQ&A
- 第29回：復習とQ&A
- 第30回：復習とQ&Aと試験

#### 【事前および事後学習の指示】

本学には世界の様々な国から留学生が来て日本語や日本文化について勉強しています。留学生の人たちと話をしてみてください。

#### 【テキスト】

#### 【参考文献】

- 三浦昭(1983)『初級ドリルの作り方』凡人社
- 岡崎敏雄(1989)『日本語教育の教材-分析・使用・作成』アルク
- Makino, S. and Tsutsui, M. (1986) A dictionary of basic Japanese grammar- 日本語基本文法辞典. The Japan Times.

#### 【コメント】

毎回の出席は前提です。筆記試験は、自筆ノートは持ち込み可です。丸暗記は不要です。何故そういう風になるのかというロジック(論理、辻褄)に集中してください。毎回、配付する質問コメント用紙(出席カードではありません)にいい質問やいいコメントをした人は、ボーナス点として加算されます。

#### 【留意事項】

- ・専門学校、ボランティア、米国の大学でTA、講師として日本語を教えた経験を持つ教員が、初級日本語文法やドリルの基本について解説、講義する。
- ・授業で、Makino and Tsutsui (1986)と三浦(1983)から抜粋した関連項目のプリントを配布します。

講義名称	曜日
日本史 02 (通期)	月 2

**【教員名称】**

吉村 智博

**【講義概要】**

日本史を履修するにあたり、歴史学および人文地理学の最新の研究成果を反映させた内容とする。春期は、日本史の視点や認識を概観する研究入門からはじめ、文献資料を中心とした前近代史および近現代史について講義する。秋期は、図像資料を中心とした前近代を中心とする地図に関する内容とする。その際、原史料(文字と地図)をできるだけ参照しつつ進めていく。春期・秋期ともおこなう授業内レポートでは、受講生自身の独自の意見・見解・論理などを問う内容となる。なお、授業内レポートをもって「試験」に替えることとする。

**【学習目標】**

義務教育段階あるいは高等学校段階までで基本的に履修した歴史的事項はもちろんのこと、個別テーマについて掘り下げて考察することで、日本史における多様な側面を深く理解することを目標とする。ゆえに、受講生自身の関心や考究の態度など学習の到達度がわかるような授業内レポートを実施する。また、本講義を受講することによって、最新の日本史学界の動向やその研究状況、さらには、日本史のみならず日本地理に関する基本的な事柄を履修することができる。

**【講義計画】**

- 第1回：日本史入門－日本史学の現在  
通期の授業計画およびガイダンスを含め、日本史研究の現段階について概説する。
- 第2回：日本史の見方①－民衆史・社会史  
1970年代以降に注目されるようになった民衆史と1980年代にヨーロッパ社会論の影響を受けて導入された社会史について
- 第3回：日本史の見方②－国民国家論・帝国論  
1990年代に社会主義国の崩壊以降に問題となった国民国家、コロナリズムを必然的に内包する帝国主義の歴史と現段階について
- 第4回：神話的世界と古代律令国家  
記紀神話に代表される古代の歴史観と社会観、さらに律令国家の社会構成および身分制度について
- 第5回：中世権門体制と社会  
荘園公領制を基本として展開される中世の政治的・経済的社会について
- 第6回：近世身分制と社会  
近世の特徴である幕領・大名領国・旗本知行を基本とする身分制社会(都市・農村)における生活の諸相について
- 第7回：明治維新と地方自治  
日本近代化の転換点となった明治維新期の外交と政治、および国内自治の内実について
- 第8回：自由民権と帝国憲法  
民選議員設立建白に端を発する国会開設、憲法制定運動の内実と帝国憲法について
- 第9回：日清戦争と日露戦争  
近代化路線を進進する日本が東アジアにおいておこなった戦争とその意味について
- 第10回：第1次世界大戦と民力涵養  
ヨーロッパにおける戦争にアジアを舞台に参戦した日本の意図とその新たな分析視角について
- 第11回：米騒動と社会政策  
富山に端を発した米騒動の通説的理解の見直しと、その後の都市型社会政策について
- 第12回：大正デモクラシーと民本主義  
「大正」期に隆盛したデモクラシー的状況とその思潮・文化の内容について
- 第13回：アジア・太平洋戦争  
昭和恐慌後におこった15年におよび対中国戦争(アジア)と、対米・英・蘭戦争(太平洋)の意味と現在性について
- 第14回：春期のまとめとレポートについて  
春期13回の内容を再度確認し、論点を整理するとともに、次回の授業内レポートについての注意事項
- 第15回：まとめと試験  
春期の学習到達度を確認するため、授業内でレポートを実施(注意事項は第14回に明示)
- 第16回：古代社会と荘園絵図  
班田制から荘園公領制に移行していく古代・中世の社会の諸相と現存する荘園絵図について(あわせて古地図・絵図の歴史的位置づけの外観)
- 第17回：中世社会と行基図  
一般的に「行基図」と称されている絵図の特徴と東アジアにおける日本の地理的位置、および中世の世界観について
- 第18回：戦国大名と洛中洛外図  
京の街並みを鳥瞰した洛中洛外図屏風が描き出す日常の空間と人々の生活、さらに武家文化と公家文化との相違について
- 第19回：外国との接触と世界図  
大航海時代に「到達・発見」されたことによって、高い関心を寄せた多くの地理学者・地図作成者の手になる世界図と日本図について
- 第20回：測量への挑戦と伊能図  
歩測における日本地図を完成させた伊能忠敬を取り巻く人間関係と測量方法およびシーボルト事件について

第21回：徳川の権威と国絵図

将軍家が日本全国の諸大名や旗本などの領国・知行地などを一括支配するために命じた国絵図の編纂意図について

第22回：松前・薩摩と蝦夷図・琉球図

松前藩を通じて交易のありながら長くその存在を明記されなかった「蝦夷」、尚氏による王朝として栄えた「琉球」を描いた地図について

第23回：共同体生活と村絵図

近世身分制社会を支える経済生活の基礎となっていた在地共同体(農村)の水利・入会などを記した村絵図について

第24回：出版文化と大坂町絵図

近世の三大都市のひとつある大坂市中を描いて出版された大坂町絵図の特徴と変遷について

第25回：伝統都市と京都町絵図

洛中洛外図以来、衆目をさらっていた京の街並みを描いて出版された京都町絵図の特徴と変遷について

第26回：明治維新と基本図

内務省地理局と陸軍参謀本部との2系列で作成されていく基本図の法制史的位置づけとその特徴について

第27回：日本帝国主義と外邦図

植民地支配を軸に帝国の版図を拡大していくなかで作成された外邦図について

第28回：大正デモクラシーと遊覧図

デモクラシーの思潮とともに整備されていく諸都市を描いた吉田初郎、美濃部政治郎に代表される遊覧図について

第29回：秋期のまとめとレポートについて

秋期13回の内容を再度確認し、論点を整理するとともに、次回の授業内レポートについての注意事項

第30回：まとめと試験

本講義の通年にわたる学習到達度を最終確認するため、授業内でレポートを実施(注意事項は第29回に明示)

**【事前および事後学習の指示】**

事前・事後とも30分程度

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 各講義ごとに詳細なものを提示するが、さしあたり、全体にかかわる以下のものを提示する。
- ①永原慶二『20世紀日本の歴史学』吉川弘文館、2003
- ②高埜利彦『天下泰平の時代』岩波新書(近世史シリーズ③)、2015
- ③岩波書店編集部編『日本近現代史をどう見るか』岩波新書(近現代史シリーズ⑩)、2010
- ④金田章裕・上杉和央『日本地図史』吉川弘文館、2011

**【コメント】**

基本的には講義形式として毎回作成するレジュメ(基本的に学内のPCよりダウンロード)をもとに授業を進める。春期・秋期ともに数回出席をとる予定をしている。また、春期および秋期の最後に論述中心の授業内レポート(試験に相当)を課すことになる。なお、甚だしい私語、著しい欠席など授業態度が悪い場合については単位を認定することは難しい。また、第3回以降は、レジュメを配布しないので、受講生各自がm-portにアクセスして当該講義のレジュメをダウンロードする必要がある。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
日本文化研究－文化財保護修復と日本文化 A 〈春〉	水 1

**【教員名称】**

山内 章

**【講義概要】**

絵画や彩色文化財を主題として文化財の保護・保存・修復の視点から日本の歴史文化を学ぶ。授業は講義形式で行い、絵具類や接着剤など伝統的材料の解説では、彩色する、接着するなどの体験学習を取り入れる。

**【学習目標】**

日本の文化財保護・保存・修復の基本的な考え方や原則を知り、伝統的材料を学び、歴史文化を次世代社会へ継承する意義や方法を理解する。

**【講義計画】**

- 第1回：日常生活の中にあるモノの劣化や破損について－腐る・カビが生える・脆弱になる・錆びる・色褪せる・剥がれる・割れる・折れる等の原因を探る－
- 第2回：有形文化財の劣化と破損①
- 第3回：有形文化財の劣化と破損②
- 第4回：有形文化財の劣化と破損③
- 第5回：伝統的材料－接着剤－
- 第6回：接着実習と伝統的糊の作り方実習
- 第7回：伝統的材料－顔料と墨－
- 第8回：伝統的材料－メディウム－
- 第9回：伝統的材料－和紙と洋紙－
- 第10回：彩色実習
- 第11回：文化財の修復と修理－絵画修復と建造物彩色修理の違い－
- 第12回：修復材料の原則－不可逆性－
- 第13回：保存修復事例① 壁画の修復処置
- 第14回：保存修復事例② 天井絵の修復処置
- 第15回：授業内試験

**【事前および事後学習の指示】**

次回授業で取り上げる文化財や伝統的材料を事前に調べ、予備知識を持つ。教員が配布するテキストを読み込み理解を深めるとともに、関連する文化財や伝統的材料を調べる。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

**【コメント】**

本講義は授業の出席を重視する。授業内試験は授業で書いた小レポートのみを持ち込み可とする。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
日本文化史 A 〈春〉	月 3

**【教員名称】**

梅山 秀幸

**【講義概要】**

担当者がこれまでに関心をもってきたことを振り返りながら、日本文化の諸相について考えていく。物語文学の語っていること、語っていないこと。「みやび」とは何か。「もののおはれ」とは何か。韓国の人のいう「ハン(恨)とは何か」。浄土の教えは日本人に何をもたらしたか。

**【学習目標】**

日本人の美意識といわれるものの本質を考え、お隣の韓国と似ているところ、違うところを考える。

**【講義計画】**

- 第1回：『竹取物語』を読む(1)－かぐや姫の光と影－
- 第2回：『竹取物語』を読む(2)－律令体制と後宮－
- 第3回：『伊勢物語』を読む(1)－いちはやき「みやび」－
- 第4回：『伊勢物語』を読む(2)－百済王家のものがたり－
- 第5回：『源氏物語』を読む(1)－「もののおはれ」とは何か－
- 第6回：『源氏物語』を読む(2)－「もののおはれ」の類落－
- 第7回：『源氏物語』を読む(3)－地獄の思想
- 第8回：朝鮮宮廷小説を読む(1)『癸丑日記』
- 第9回：朝鮮宮廷小説を読む(2)『仁顯王后伝』
- 第10回：朝鮮宮廷小説を読む(3)『閑中録』
- 第11回：日本の所蔵する高麗・朝鮮仏画を見る(知恩院の阿弥陀仏絵)
- 第12回：日本の所蔵する高麗・朝鮮仏画を見る(鏡神社の楊柳観音)
- 第13回：六道絵を見る
- 第14回：九相詩絵を見る
- 第15回：まとめ(試験)

**【事前および事後学習の指示】**

配布した資料は読んでおくこと。できれば古語辞典を引きながら、解釈しておくこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 梅山秀幸著『かぐや姫の光と影』(人文書院)
- 梅山秀幸訳『朝鮮女流小説集』(総和社)

**【コメント】**

出席カードにコメントを書いてもらい、それをレポートとしても評価する。授業に出ていても寝ていたり、スマホを見ていたりでは「出席」とはいえない。授業に「参加」しているかどうかを評価する。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
日本法制史〈通期〉	木 3

【教員名称】  
的場 かおり

【講義概要】

基本的人権の保障、罪刑法定主義、契約自由の原則、労働者の保護・・・。普段みなさんが学ぶ現行法の講義では「当たり前」のものばかりです。でもこれらが「当たり前」になったのは「明治」以降、いわゆる「近代法」が誕生してからなのです。ちょんまげが切り落とされ、ガス燈が街を照らし、工場が煙を吐くようになった「明治」は法の世界にも大転換をもたらしました。

講義では、まず、日本が西洋法をモデルに達成した「法の近代化」を共通テーマに、各分野で法律や国家制度がどのように変化・展開したのか、次に、近代法に続いて登場する「現代法」とはどのような特徴をもつのかを説明します。

【学習目標】

- ①「歴史で法を読み解く力」を身につけます。高校までに学んだ「歴史」を「法」の観点から見直し、現行法の「当たり前」を理解できるようになります。
- ②「比較する力」を養います。時代や国・地域などを比較することで、物事を多面的・相対的に観察し問題を解決する力を磨きます。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス（講義の進め方・成績評価・講義の内容）
- 第2回：条約改正と西洋法の継受
- 第3回：国家機構と官僚制
- 第4回：憲法制定前史①自由民権運動と私擬憲法
- 第5回：憲法制定前史②伊藤博文の憲法調査
- 第6回：憲法①大日本帝国憲法の制定とその特徴
- 第7回：憲法②大日本帝国憲法から日本国憲法へ
- 第8回：刑法①法典編纂の先駆け
- 第9回：刑法②旧派・新派と法典編纂
- 第10回：警察法制
- 第11回：軍事法制
- 第12回：司法制度
- 第13回：治安法制①治安立法とは
- 第14回：治安法制②法整備と運用実態
- 第15回：春学期のまとめと試験
- 第16回：地方自治法制①制度と運用
- 第17回：地方自治法制②思想と理念
- 第18回：学校・教育法制①諸学校令と勅令主義
- 第19回：学校・教育法制②国体観念と教育
- 第20回：植民地法制①台湾
- 第21回：植民地法制②朝鮮
- 第22回：民法①フランス民法と旧民法
- 第23回：民法②ドイツ民法と明治民法
- 第24回：民法③家族法制
- 第25回：土地法制
- 第26回：財産法制
- 第27回：商事・産業法制
- 第28回：現代法①労働と法
- 第29回：現代法②社会保障と法
- 第30回：秋学期のまとめと試験

【事前および事後学習の指示】

【事前学習】

- ①関連する歴史的出来事や人物について調べる
- ②関連する現行法を復習する

【事後学習】

- ①配布したレジュメ・資料、スライド（Lesson フォルダで公開）を用いて復習する
- ②現行法・現行制度の抱える課題を歴史的に考える

【テキスト】

【参考文献】

- ・山中永之佑編『新・日本近代法論』（法律文化社、2002年）
- ・川口由彦『日本近代法制史（第2版）』（新世社、2015年）
- ・岩村等『入門日本近代法制史（改訂版）』（ナカニシヤ出版、2008年）
- ・浅古弘ほか編『日本法制史』（青林書院、2010年）
- ・山中永之佑監修『日本現代法史論』（法律文化社、2010年）
- ・山中永之佑編『日本近代法案内—ようこそ史料の森へ—』（法律文化社、2003年）
- ・藤田正ほか編著『日本近代法史・資料年表（第2版）』（信山社、2015年）

【コメント】

- ①試験：中間試験（春学期）と期末試験（秋学期）を実施（注意）2つとも受験しなければ「不可」とします。
- ②その他
  - ・課題 15%（内容）事前学習として、簡単な調べ物をしてもらう回があります。
  - ・出席・授業参加態度 15%（内容）グループワーク、発言、コメントシートを評価対象とします。（注意）各学期3分の2以上出席しない場合は、受験資格を喪失します。

【留意事項】

- ①高校までに「日本史」を学んでいること
  - ②憲法、刑事法、民事法の講義をバランスよく履修していること
- これら2つの要件を満たしていることが望ましい。

講義名称	曜時
ネットビジネス A 〈春〉	火 3

【教員名称】  
岳 理恵

【講義概要】

情報化時代においては、IT (ICT) の活用は社会や経済に画期的な変化をもたらしている。IT の進展に伴い、「ネットビジネス」という画期的な商取引形態は、90年代の半ばから登場した。本講義では、電子商取引、EDI などインターネットを介して行うネットビジネスの仕組みや特徴などの基本事項について、応用事例を紹介しながら説明する。それにより、実際に応用する上で求められる専門知識の理解を深めることを目的とする。

【学習目標】

実際にネットビジネスを推進する上で求められる専門知識の理解を深める。

【講義計画】

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：電子商取引の基礎
- 第3回：業務情報システム
- 第4回：業務分析
- 第5回：業務評価・改善
- 第6回：電子商取引の仕組み
- 第7回：電子商取引のセキュリティ
- 第8回：電子商取引の関連法規
- 第9回：EDI 標準
- 第10回：流通 BMS の基礎
- 第11回：流通 BMS の仕組み
- 第12回：流通 BMS の通信手順
- 第13回：SCM と CRM の応用事例
- 第14回：電子商取引の最新動向
- 第15回：授業総括

【事前および事後学習の指示】

今回の学習内容について、その都度予告する。

【テキスト】

【参考文献】

講義レジュメを配布する。

【コメント】

期末試験（80%）、出席・小テスト・レポート（20%）を総合して学習到達度の観点から評価する。

【留意事項】

授業進捗状況に応じて、内容を変更することがある。

講義名称	曜時
ネットビジネス技術 A 〈春〉	月 3

【教員名称】  
村山 博

【講義概要】

AI人工知能やロボットやeスポーツなどのゲームのように、現代のビジネスを支える最新情報技術は目覚ましく、私たちの生活を飛躍的に変革させた。現代の高度情報社会では、これらの情報の活用が個人や企業の成否を決めると言っても過言ではない。本講義は、ビジネスマンまたはビジネスウーマンが必要な情報技術の基礎を習得することを目的とする。

【学習目標】

AI人工知能やインターネットを活用した最新ビジネスの技術を得し、その技術を応用した具体的なビジネスの特徴を理解し、ネットビジネスの未来を考える力を養います。

【講義計画】

- 第1回：ネットビジネス技術の概要
- 第2回：AI人工知能、インターネットの活用
- 第3回：情報社会の特徴とネットビジネス技術の進歩
- 第4回：アナログとデジタルの特徴とコンピュータの進歩
- 第5回：eスポーツを例にした情報端末の進歩
- 第6回：コンピュータ技術の進歩
- 第7回：企業活動における知的財産情報の管理
- 第8回：企業活動における著作権情報の管理
- 第9回：企業活動における技術情報の管理
- 第10回：企業活動における情報セキュリティ
- 第11回：2進数の基礎と計算
- 第12回：16進数などのN進数の基礎と計算
- 第13回：ネットビジネス技術と次世代自動車
- 第14回：ネットビジネス技術の未来
- 第15回：試験と講義のまとめ

【事前および事後学習の指示】

高校で学習した「情報」を復習しておいてください。事前学習30時間。

【テキスト】

進化するネットビジネス技術 村山博 プイツーソリューション

【参考文献】

【コメント】

【留意事項】

講義名称	曜時
ネットワーク論 01 〈春〉	木 1

【教員名称】  
中崎 修一

【講義概要】

ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴い、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。さらにセキュリティの観点から、情報通信ネットワーク構築・運用に関する知識は様々な分野で求められるようになった。本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に現在および今後のネットワークシステムに関して解説する。

【学習目標】

現代社会と情報通信ネットワークとの関係の理解を深めることを目的とする。また、情報通信ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、更には新しいサービス提供やビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

【講義計画】

- 第1回：現代社会と情報通信
- 第2回：情報通信の基礎(1) 情報処理関連の基礎知識
- 第3回：情報通信の基礎(2) 通信の基礎知識
- 第4回：情報通信のしくみ(1) 階層構造、各層の機能、物理的なしくみ
- 第5回：情報通信のしくみ(2) 論理的なしくみ
- 第6回：TCP/IP
- 第7回：インターネット(1) インターネットの歴史・構成
- 第8回：インターネット(2) 主要なプロトコル・サービス
- 第9回：インターネット(3) WWW
- 第10回：有線通信、無線通信
- 第11回：ネットワークセキュリティ(1)
- 第12回：ネットワークセキュリティ(2)
- 第13回：情報通信技術の活用(1)
- 第14回：情報通信技術の活用(2)
- 第15回：まとめ

【事前および事後学習の指示】

事前学習及び事後学習については、その都度配布資料等で指示する予定である。普段から情報通信ネットワーク(携帯電話を含む)について、利便性や安全面を意識しながら利用してもらいたい。パソコンやインターネット関連の基本的な用語理解、利用方法の習得を前提として授業を進行するため、再確認しておくこと。

【テキスト】

改訂4版 TCP/IP ネットワーク ステップアップラーニング 三輪賢一 9784774193618 技術評論社

【参考文献】

適宜資料を配布する予定。  
参考文献についても、学習内容にあわせて適宜紹介する予定。

【コメント】

レポート課題の提出と、試験の受験は必須とする。  
レポート課題は3回を予定。それに加えて、授業中に課題を出す事もある。(レポートの評価割合を含む)

【留意事項】

講義名称	曜日
農業経済論Ⅰ（春）	水2

**【教員名称】**

大島 一二

**【講義概要】**

近年特に、国の内外でわが国の農業と農業政策をめぐる各種の議論が高まっているが、わが国の農業・食料政策はどうあるべきかということは、非常に重要な課題である。

本講義では、農業生産の特質を踏まえた上で、日本と世界各国の農業生産と食料消費の現状と問題点、さらにこれらのあり方を考えるために、最低限必要な基礎的知識・考え方について講義する。

農業経済論Ⅰでは、農業経済、フードシステムにかんする理論的な学習を行う。

**【学習目標】**

本講義が目標とすることは、各自が日本の農業問題および食料問題を正しく認識し、その政策の方向性について、自分の考えを述べる事が出来るようになることである。

**【講義計画】**

- 第1回：序論、講義の進め方、評価、参考書についての紹介
- 第2回：経済発展と農業、農業部門の縮小、エンゲルの法則、
- 第3回：世界人口の急増と食料
- 第4回：食料自給率の低下と影響
- 第5回：農地と地代、農業技術の進歩、農業機械化
- 第6回：農業の経営組織、大規模経営の育成
- 第7回：高齢化と新たな農業の担い手
- 第8回：農業と協同組合(1)日本の農協組織
- 第9回：農業と協同組合(2)中国の農民專業合作社
- 第10回：農産物貿易と貿易保護
- 第11回：フードシステムの発展と食品産業
- 第12回：食品産業のグローバル化(1)農業企業
- 第13回：食品産業のグローバル化(2)食品加工産業
- 第14回：食品産業のグローバル化(3)外食産業、食品小売業
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

新聞を毎日読むよう習慣付けること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 1) 速水佑次郎・神門善久著『農業経済論』(岩波書店)
- 2) 荏開津典生・鈴木宣弘『農業経済学[第4版]』岩波書店 2015年
- 3) 生源寺真一『農業経済学』東京大学出版会 1993年
- 4) 時子山ひろみ・荏開津典生『フードシステムの経済学』医歯薬出版株式会社 1998年
- 5) 大島一二・山田七絵『朝日緑源、10年の軌跡 - 中国における日系農業企業の挑戦』農林統計出版、2019年
- 6) 大島一二編著『日系食品産業における中国内販戦略の転換(日本農業市場学会研究叢書)』筑波書房、2015年

**【コメント】**

- ①学期末試験において、到達目標に対応するテーマに関する論述問題を出题する。答案の構成および論理的な記述になっているかどうか重点を置いて評価する。
- ②A4用紙・3枚程度のレポート課題を1回課す(到達目標に対応して複数のテーマの中から任意のものを1つ選択)
- ③出席確認を1回のみ行う。

**【留意事項】**

講義メモや講義で用いた資料については、[Sドライブ] [oshima12] 上で、配布する予定。

講義名称	曜日
博物館資料論（春）	月4

**【教員名称】**

白石 耕治

**【講義概要】**

博物館資料論の講義は①博物館資料の概念、②博物館資料の分類、③博物館資料に対する学芸員の仕事、の3つの内容に大きく分けて行う。①では博物館資料とは何かについて、②では博物館資料の分類方法の概要を述べるとともに、学芸員が実務上必要とする行政上の分類に従い資料を具体的に提示し、その特色について、③では、学芸員の仕事として博物館資料とどのように関わっているか、収集・整理・保管・取扱い・移動・調査・撮影・展覧会の企画(公開)・図録編集に焦点を当てて講義する。

**【学習目標】**

博物館資料、特に日本の美術工芸資料を中心に収集・整理・取扱い等に関する理論や方法についての知識・技術を習得し、さらに博物館における調査研究活動を深く理解して博物館資料に対する基礎的能力を養う。博物館資料に名称を付け、分類できるようにすることを到達目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回：「博物館資料の概念」  
博物館資料論の授業ガイダンス。  
博物館資料の意義、価値について考え、資料の種類と分類について説明できる。
- 第2回：「博物館資料の収集・分類・保管(総論)」  
博物館資料の収集の理念とその方法、資料の調査研究・鑑定について説明できる。
- 第3回：「博物館資料の収集・分類・保管(人文系博物館)」  
歴史学・考古学などの人文系博物館資料の収集・分類・保管について説明できる。
- 第4回：「博物館資料の収集・分類・保管(自然系博物館)」  
自然史学などの自然系博物館資料の収集・分類・保管について説明できる。
- 第5回：「博物館資料の公開の理念と方法」  
博物館資料の公開の理念とその方法、資料化のプロセスについて説明できる。
- 第6回：「博物館における調査研究活動・博物館種別の調査研究①」  
博物館における資料の調査研究活動についての意義とその方法について説明できる。  
博物館種別では、総合博物館における資料の調査研究について説明できる。
- 第7回：「博物館種別の調査研究②」  
歴史民俗系・考古系・美術系博物館における資料の調査研究について説明できる。
- 第8回：「博物館種別の調査研究③」  
野外博物館・自然史博物館における調査研究について説明できる。
- 第9回：「人文系博物館の事例研究」  
大学近隣の歴史資料館、美術館の事例を取り上げて、資料研究について説明できる。
- 第10回：「博物館資料の展示解説」  
博物館資料のさまざまな展示解説方法と展示解説書の作成などについて説明できる。
- 第11回：「博物館・大学の共同調査研究」  
博物館と大学との共同研究の必要性と課題を示し、その成果の公表の特質、地域社会への還元について説明できる。
- 第12回：「博物館資料の活用」  
博物館の平常展・特別展における資料の活用、展示活用に伴うリスク、資料の価値の発見と伝達について説明できる。
- 第13回：「博物館資料の教育的・情報的活用」  
博物館における生涯学習の支援、資料の伝統と文化、デジタルアーカイブス化・資料の情報化について説明できる。
- 第14回：「博物館資料の今後と課題」  
博物館資料収集の現実と限界、資料の展示と保存のバランスについて説明できる。
- 第15回：試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

授業中に次回の授業内容について説明するので、次回までに事前に予習を済ませること(ただし、第1回分は参考文献等で、博物館資料の意義について考えておくこと)。また、講義・演習計画を理解したうえで、毎回参考文献等で予習しておくことが望ましい。  
復習は、配布したプリントなどを用いて授業の内容を整理しておくこと。

**【テキスト】**

プリント配布

**【参考文献】**

- 『博物館学Ⅰ 博物館概論、博物館資料論』学文社 2013年
- 『博物館学Ⅲ 博物館情報・メディア論、博物館経営論』学文社 2016年
- 『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版 2014年
- 『展示学事典』日本展示学会「展示学事典」編集委員会 ぎょうせい 1997年

**【コメント】**

授業最終日に、到達目標に対応できるテーマに関する論述問題を出题する。答案の構成および論理的な記述になっているかどうか重点を置いて評価する。  
授業を4回以上欠席した場合は、成績評価の対象外とする。

**【留意事項】**

- ・博物館学芸員として勤務経験のある教員が、博物館資料(文化財)の取り扱いについて解説できる
- ・学生自らが博物館や美術館などを訪問し、展示資料に接する時間を増やしてほしい。

講義名称	曜日
博物館展示論 〈春〉	火 1

【教員名称】  
 鮫島 泰平

【講義概要】

博物館における展示の役割を、博物館の使命との関連や来館者の視点から学び、さまざまな展示の種類を知る。展示の歴史では、博物館の種類別にその歴史をみることで、館種別の特徴や変遷を知る。展示の計画と施工では、その全体像と計画における展示評価の活用、個別の手法ごとの特徴と留意点を学ぶ。実際に博物館の展示を見て分析する事前学習を課す。

【学習目標】

学芸員として展示を通じた博物館活動を行ううえでの必要な基礎的能力を養う。実際に展示を見て分析することで展示企画を行う上で基礎となる言葉でまとめる力を高める。

【講義計画】

- 第1回：ガイダンス  
 大阪近郊の博物館の展示をとりあげ、多様な展示を概観する。また、博物館展示に類似する様々なメディアや機関と比較することで、博物館展示の特徴を考える。
- 第2回：博物館における展示の役割①使命と教育  
 三つの世代に分けられる博物館について、それぞれの使命とその教育観がどのように違うかを見ていくことにより、それぞれの博物館における展示の役割を考える。
- 第3回：博物館における展示の役割②顧客満足と集客  
 来館前から来館を経て来館後までの一連の利用者の行動の流れ、すなわち博物館体験の視点から、来館者を満足させ、集客につながる展示のありかたをみていく。
- 第4回：博物館展示の種類①人文系博物館  
 国内の博物館、特に歴史系の博物館展示を中心に、展示と展示論の歴史を見ていくとともに、展示の政治性にもふれながら、多様な展示の展開を見ていくことで、社会に働きかける展示の意義を考える。
- 第5回：博物館展示の種類②自然系博物館  
 欧米の自然史博物館に、調査研究の成果の提示としての展示のルーツを見ていく。また自然史から科学技術や生物の生態展示まで、さまざまな展示や環境的な視点で社会に働きかける展示を考える。
- 第6回：博物館展示の計画と施工  
 事業としての展示をつくる視点をもって計画から施工までの流れ、関係者との協力を見る。展示シナリオの作成については、コミュニケーション目標を設定して展示のねらいをはっきりさせることの重要性を認識する。
- 第7回：展示評価の活用  
 構成主義的な考え方に基づく展示評価について、その目的を踏まえながら、調査の方法や手法、評価結果の活用までの流れを見ていく。利用者の声を直接聞くことと、展示のねらいをはっきりさせることが不可分であることを認識する。
- 第8回：展示諸計画①ゾーニング  
 空間に展開する展示では、ゾーニング計画は展示の流れや文脈を具体化するうえで欠かせない。展示を見ることを助け、展示を眺める楽しさを提供するゾーニングと動線づくりを事例にそって見ていく。
- 第9回：展示諸計画②ケース・照明・演示  
 実物資料展示を中心に、資料保存に配慮したケース展示と照明、および理解に導く演示について、事例にそって見ていく。さらにモノを見ることによる教育という博物館の特性をどのように活かすかを考える。
- 第10回：展示諸計画③解説グラフィック  
 これは何かを解説する図解、これによって何がもたらされたかを解説する文章など、解説する内容と手法について、主に平面上の表現をみていく。展示のねらいを端的に伝えることとともに、見ることや考えることを誘発する解説活動を考える。
- 第11回：展示諸計画④造形・模型  
 博物館展示の大きな役割の一つである歴史や環境の復元を実現する技術、造形や模型について、その計画や制作の留意事項を事例にそって見ていく。また、こうした再現展示の利活用について考える。
- 第12回：展示諸計画⑤体験展示  
 近年要望の高い体験型の展示。ハンズ・オンをはじめとする多彩な手法を事例にそって見ていく。引付けの力や使いやすさをつくるための留意事項とともに、遊びで終わらせずに自由な学びに導く方法を考える。
- 第13回：展示諸計画⑥映像・情報  
 解説からイメージまで、モバイルから大型画面まで、さらには双方向など、多彩な展開を見せる映像・情報メディアについて、コンテンツをよく表現するための留意事項を事例にそって見ていく。
- 第14回：展示諸計画⑦展示の運営  
 ワークシートやセルフガイド、人による解説や展示室でのプログラム、さらには展示替えや改修など、リピーターの獲得に欠かせない展示運営のあり方考える。
- 第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】

博物館の展示を実際に自分の目で見て体験することが必要。何が自分を引付けるのか、何が自分を遠ざけるのか、経験することが展示をつくるうえでの基礎となる。

【テキスト】

【参考文献】

- 『展示論』 日本展示学会編 雄山閣  
 『市民の中の博物館』 伊藤寿朗 吉川弘文館  
 『ひらけ、博物館』 伊藤寿朗 岩波ブックレット  
 『博物館をみせる』 K. マックリーン 玉川大学出版会  
 『ハンズ・オンとこれからの博物館』 ティム・コールドトン 東海大学出版会  
 『子どものための博物館』 染川香澄 岩波ブックレット

【コメント】

最終回の試験および、博物館見学レポートによって評価する。

【留意事項】

博物館展示の企画から制作までを請け負った経験のある教員が講義する。

講義名称	曜日
比較経済体制論 I 〈春〉	月 1

【教員名称】  
 上野 勝男

【講義概要】

「ソ連(ロシア)の経済ってどんな特徴あるの?」ときかれたら、少し勉強したひとなら、旧ソ連では企業活動の自由がなく命令でがんじがらめに縛られ、消費者は選択の余地がなく商品はいつも不足していた。こうした「社会主義計画経済」が行き詰まってソ連は崩壊に至り、いまでは「体制転換」という「市場経済」=資本主義のシステムへの移行がすすんでいる、と説明するかもしれない。

たしかに「社会主義から資本主義への移行」というのは一見わかりやすい。でも、ワーキングプアという懸命に働いてもまともに生活を維持できない人々が急増しているような社会、アメリカ発の金融危機が広がるなかで世界に名だたる大会社が我先にと賃金を押さえ込んだり、非正規雇用を増やすなどしている社会、この私たちの日本も「市場経済」=資本主義だと思ふと、少し考え込んでしまいませんか。「はたしてこんな矛盾を抱えた資本主義が旧ソ連の転換の模範になるのか」と。それに、「社会主義は、本来、資本主義の矛盾を克服した体制のはずなの、なぜソ連があんなふう崩壊したのか」「崩壊したのは社会主義だったからなのか」等々。

この比較経済体制論では I、II を通じて、こうした資本主義と社会主義、そしてソ連をめぐる疑問をじっくり考えていきます。

【学習目標】

上の講義概要にもとづいて、比較経済体制論 I では、(1) 社会主義とは本来どのようなものか、(2) わたしたちの生きる現代資本主義にとって社会主義はどのような意味をもつのか、について基本的な理解を得ること、その主要なポイントを講義を知らない人にも話せるようになることを目指します。

【講義計画】

- 第1回：比較経済体制論 (I 及び II) で何を学ぶのか? 授業の進め方、成績評価の方法
- 第2回：社会主義思想の始まりとマルクス  
 (1) 社会主義はどのように生まれたか
- 第3回：社会主義思想の始まりとマルクス  
 (2) マルクスの社会・歴史観の基礎
- 第4回：社会主義思想の始まりとマルクス  
 (3) マルクスの社会・歴史観の基礎(続き)
- 第5回：資本主義の本性とその矛盾  
 (1) マルクスによる経済学の変革=剰余価値の発見
- 第6回：資本主義の本性とその矛盾  
 (2) 飽くなき利潤追求=資本主義の本性
- 第7回：資本主義の本性とその矛盾  
 (3) 利潤追求の矛盾=「我が亡き後に洪水来たれ!」の結果
- 第8回：資本主義の本性とその矛盾  
 (4) 利潤追求の矛盾=「我が亡き後に洪水来たれ!」の結果(続き)
- 第9回：社会主義的将来の本質的特徴  
 (1) 資本主義の矛盾はどのように変革されるか
- 第10回：社会主義的将来の本質的特徴  
 (2) 社会主義(共産主義)の本質的特徴=人間の全面的発達・人間の自由な発展
- 第11回：社会主義的将来の本質的特徴  
 (3) 社会主義(共産主義)の本質的特徴=人間の全面的発達・人間の自由な発展(続き)
- 第12回：社会主義的将来の本質的特徴  
 (4) 資本主義から社会主義(共産主義)への過渡期
- 第13回：社会主義的将来の本質的特徴  
 (5) 社会主義と市場経済
- 第14回：社会主義的将来の本質的特徴  
 (6) 社会主義と議会・民主主義
- 第15回：講義のまとめ

【事前および事後学習の指示】

講義はプリントにしたがって進めます。事前の準備として、毎回の授業で次の授業までに読んでおくべきプリント部分を指示します。それにしたがって、事前学習を進めてください。復習についても授業のなかで指示します。

【テキスト】

【参考文献】

講義においてその都度指示する。

【コメント】

成績評価の詳しいやり方については、第1回の講義で述べる。

基本的には、

1. 不定期(2ないし3回)の「小テスト」で最高30%相当分の成績評価。事前に告知する場合もあるが突然の「抜き打ち」実施もある。ただし、受講者数が多くなって、小テストの実施が困難になった場合は、定期試験とレポートによる評価に切り替える。詳細は講義において説明する。
2. 定期試験期間中に試験をおこなう。

【留意事項】

講義名称	曜時
比較文学 A (春)	水 3

**【教員名称】**

岩男 久仁子

**【講義概要】**

西洋古典期の早くから「イソップ寓話」は流布していた。様々な形態で文字化され保存されてきている。現在では全世界に広まっている「イソップ寓話」をその初期の形態を中心に他の時代の物(特に日本のイソップ寓話)との比較を行い、イソップ寓話の特質を見ていく。

**【学習目標】**

イソップ伝(イソップの生涯の物語)を中心に、講義を進めていく。  
2000年以上も前から伝わる伝承から現在まで脈々とつながる思想を読み解くとともに、当時の社会背景なども、日本と比較していく。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション  
          どういう視点で行う講義なのか、評価の方法など解説
- 第2回：イソップ寓話・伝記 伝承系統図 解説①
- 第3回：イソップ寓話・伝記 伝承系統図 解説②
- 第4回：①原典イソップ伝の紹介 (第1部)
- 第5回：②原典イソップ伝の紹介 (第1部)
- 第6回：③原典イソップ伝の紹介 (第2部)
- 第7回：④原典イソップ伝の紹介 (第2部)
- 第8回：⑤原典イソップ伝の紹介 (第3部)
- 第9回：⑥原典イソップ伝の紹介 (第4部)
- 第10回：⑦原典イソップ伝の紹介 (第5部)
- 第11回：⑧原典イソップ伝の紹介 (第5部)
- 第12回：日本に伝播したイソップ寓話(明治期以後)
- 第13回：難題解決譚 蟻通明神縁起
- 第14回：難題解決譚 賢者アヒカル物語
- 第15回：まとめのテスト

**【事前および事後学習の指示】**

詳細は講義中に指示するが、理解を深めるために、「イソップ寓話集」を読む。  
「イソップ寓話集」は数多くあるが、手に入るもので良い。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 『イソップ寓話の世界』 中務哲郎著 ちくま新書 600円
- 『イソップ寓話集』 中務哲郎訳 岩波文庫 700円

**【コメント】**

レポート33%→こちらが指定するテーマでレポートを提出  
試験33%→講義の総まとめとして春学期の終わりに行う  
出席34%→春学期を通しての出席率+コメント→出席  
以上のどれか1つでも欠けていれば、評価しません。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
比較文化研究-インドネシアと日本の音楽文化 A (春)	金 3

**【教員名称】**

由比 邦子

**【講義概要】**

インドネシアと日本は地域も民族も文化も異なるが、東南アジアもしくは東アジアの域内における位置関係、さらにインドもしくは中国という古代の大国の影響を色濃く受けているという点で共通性がある。そして、両国の音楽文化には明らかな類似性、またその反面、似て非なる相違点が見られる。本講義では、音楽の演奏形態と楽器に特に焦点を当てて、両国の古典音楽の諸相を対比させて論じる。

**【学習目標】**

音楽は、それを生み出す人間が属する文化の脈絡内で理解しなければならない。したがって、「音楽は世界共通の言語ではない」ということを説明できるようにする。

**【講義計画】**

- 第1回：音楽から見たインドネシアと日本の文化的背景
- 第2回：多様な楽器から成る日本の合奏形態(雅楽)
- 第3回：音の同質性を特徴とする日本の合奏形態(長唄)
- 第4回：音の同質性を特徴とするインドネシアの合奏形態(ガムラン)
- 第5回：ゴングの生成と発展
- 第6回：ゴングの組み合わせ奏という発想
- 第7回：金属楽器と竹楽器の関係
- 第8回：ドレミファソラシドではない音階
- 第9回：型の組み合わせによる創作
- 第10回：戦争を媒介とする音楽の伝播
- 第11回：ポピュラー音楽をも巻き込む古典音楽のパワー
- 第12回：一直線にやってきた弦楽器
- 第13回：幻の弓形ハーブ
- 第14回：日本とインドネシアの交差点としての木琴
- 第15回：試験およびまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

前回の授業内容の確認を事前学習とし、授業ノートの整理および授業内容に関連する音楽チェック(YouTubeなど)を事後学習とする。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 月深恒子『日本音楽との出会い 日本音楽の歴史と理論』(東京堂出版)
- 皆川厚一編『インドネシア芸能への招待 音楽・舞踊・演劇の世界』(東京堂出版)
- 福岡まどか『インドネシア上演芸術の世界 伝統芸術からポピュラーカルチャーまで』(大阪大学出版会)

**【コメント】**

第15回に実施する試験70%、不定期に計5回実施するミニテスト30%

**【留意事項】**

楽器博物館で民族楽器の調査・研究に携わった経験を持つ教員が、インドネシアと日本の楽器について解説する。

講義名称	曜日
比較文化研究－近現代の日本と朝鮮半島 A 〈春〉	水 4

【教員名称】  
西村 直登

【講義概要】

日本の「敗戦」、朝鮮植民地支配の「解放」から70年以上が過ぎた。にもかかわらず、植民地支配と戦争の歴史をめぐる、日本と朝鮮半島のあいだでは、「過去」をどのように克服していくのかをめぐる論争がいまなお続いている。いわゆる「歴史認識問題」といわれるような論争は、政治やナショナリズム、記憶と結びつきながら複雑化し、新聞やテレビ、インターネットを含むメディアによっても増幅されている。そのような「過去」をめぐる対立や葛藤、そして交流の歴史は、単に国家間のみならず、日本と朝鮮半島の人びとの「現在」の課題であり続けている。そこで本講義では、戦前における日本と朝鮮半島とのあいだの基本的な歴史を概観しながら、その中における暴力、差別、葛藤などの意味を歴史的に考えたい。その際、視聴覚資料（パワーポイント・映像・写真・史料など）を積極的に用いて、授業内容に対する理解を深め、想像力を高めるような工夫を行う。

【学習目標】

朝鮮半島の歴史・社会・文化について基本的な理解を得る。  
近現代の日朝・日韓関係について想像力を働かせながら、歴史的に考えることができるようになる。  
国際的な諸問題に対して、主体的に物事を考え、相互理解ができるようになる。

【講義計画】

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：「開国」をめぐる日本と朝鮮
- 第3回：日清・日露戦争と朝鮮① 東学農民戦争と日清戦争
- 第4回：日清・日露戦争と朝鮮② 日露戦争と朝鮮の「保護国」化
- 第5回：日本の朝鮮植民地支配① 「韓国併合」
- 第6回：日本の朝鮮植民地支配② 「武断政治」と3.1独立運動
- 第7回：日本の朝鮮植民地支配③ 「文化政治」と「協力」体制
- 第8回：日本の朝鮮植民地支配④ 戦時下朝鮮における「皇民化」政策
- 第9回：日本の朝鮮植民地支配⑤ 「同化」と「排除」
- 第10回：日本の朝鮮植民地支配⑥ 植民地朝鮮で生きた日本人
- 第11回：戦前における在日朝鮮人① 朝鮮人の「渡日」と社会の形成
- 第12回：戦前における在日朝鮮人② 関東大震災と朝鮮人
- 第13回：戦前における在日朝鮮人③ 近代大阪と朝鮮人
- 第14回：近代における日本と朝鮮半島
- 第15回：試験およびまとめ

【事前および事後学習の指示】

毎回授業で配布するレジュメや参考資料、授業で紹介した参考文献を読んだり調べたりしておくこと。  
日々、日本と朝鮮半島に関する新聞記事やニュースに関心を持って、読んだり見たりしておくこと。

【テキスト】

【参考文献】

配布プリント。その他にも必要に応じて授業中で紹介する。

- 歴史教育研究会・歴史教科書研究会編『日韓交流の歴史：先史から現代まで』（明石書店、2007年）
- 水野直樹・文京洙『在日朝鮮人：歴史と現在』（岩波新書、2016年）
- 関周一編『日朝関係史』（吉川弘文館、2017年）
- 岡本有佳・加藤圭木編『だれが日韓「対立」をつくったのか－徴用工、「慰安婦」、そしてメディア』（大月書店、2019年）

【コメント】

試験：各授業におけるキーワードについての理解を問う問題を課す。  
その他：毎回授業時のコメントペーパーの内容によって成績を評価する。

【留意事項】

春・秋学期に開講する「比較文化研究－近現代の日本と朝鮮半島 A・B」（戦前・戦後編）をそれぞれ受講することが望ましい。

講義名称	曜日
比較文化研究－生と権力：東西史の裏街道 A 〈春〉	火 2

【教員名称】  
Philip Billingsley

英語による

【講義概要】

In easy-to-understand ENGLISH, I'll talk about aspects of gender and history in Europe, China, and Japan including gender education and women's history. きわめてやさしい英語を使うので恐れずに受講してみてください。歴史教科書に載らない話を通して、欧州・中国・日本においてジェンダーが社会史に与えてきた影響に焦点を当てて。取り上げる項目：グリム童話集の男女像、中国のジェンダー教育、日本の女性観などなど。

Courses A and B were originally one 30-lecture course: registering for both of them will give you a better understanding of the surprising ways in which gender has affected world history. ちなみに、AとBはもともと一つのコースだったので、両方に登録するとジェンダーの様々な分野への影響をより深く理解することができる。

【学習目標】

In this course I will help you look at aspects of the world through "gendered eyes". As well as noticing many things you had not noticed before, I hope it will help you to take a fresh look at yourselves. If you attend the class regularly and listen carefully to what I say, you will not only improve your English listening ability but also learn many new things! ジェンダーの観点からモノを見ると不思議な繋がりが見えてくる。しっかり出席すれば、英語の聴解力を磨くと同時に、世界を「新しい目」で見える力も育つ。

【講義計画】

- 第1回：Introduction to the lectures: what the classes will be like, how to make them easier and more interesting, what you will have to do to pass the course, how to download the lecture recordings, etc. コース内容について、英語による講義の「賢い受け方」について、講義録音のダウンロード方法について、受講生の責任などについてを（日本語交じりの）英語で説明する。
- 第2回：Repeat of first lecture 念のため、前回の講義をもう一度
- 第3回：Overview: how I became interested in gender ジェンダーとの出会い 1
- 第4回：Overview 2 ジェンダーとの出会い 2
- 第5回：Nature vs. Nurture: learning to be boys and girls「ネーチャー」か「ナーチャー」か：「男の子」・「女の子」の誕生
- 第6回：Girls and boys in Grimms' Fairy Tales [グリム童話集]の男女像 1
- 第7回：Girls and boys in Grimms' Fairy Tales [グリム童話集]の男女像 2
- 第8回：Gender Education in China 中国：ジェンダー教育の起伏 1
- 第9回：Gender Education in China 中国：ジェンダー教育の起伏 2
- 第10回：Gender Education in China 中国：ジェンダー教育の起伏 3
- 第11回：Images of Women in Japan 日本文化の女性像 1
- 第12回：Images of Women in Japan 日本文化の女性像 2
- 第13回：Images of Women in Japan 日本文化の女性像 3
- 第14回：Summary of the main points of the course コース全体のサマリー
- 第15回：Test 試験+まとめ

【事前および事後学習の指示】

予備知識を持っていると講義内容が面白くなり、英語が理解しやすくなる。事前に調べて、ジェンダーに関する基礎知識を身につけることをお勧めする！ A little prior knowledge will make the lectures more interesting and easier to understand！

【テキスト】

【参考文献】

教科書はなく、関連資料は毎回配布される。There will be no textbook; instead, materials will be handed out at each class.

【コメント】

毎回しっかり聴かないと英語力は上達しないから出席を特に重視する。宿題も時折出すが、成績評価の基本はコース最後の試験結果による。講義は毎回録音されるので、リアルタイムで聞き取れなくても録音をダウンロードすれば何度でも聴きなおすことができる！ まめに受講・ダウンロードさえ思えば思うほど難しくない。Regular attendance is required, and there will be occasional homework, but your final score will depend chiefly on your test result. All lectures will be recorded and can be downloaded from the university database.

【留意事項】

- ・ As most Japanese students are not used to listening to lectures in English, each lecture will last for only about 45 minutes. In the second half of each class we will watch videos or do activities related to the topic of that day's lecture. My speaking speed will be appropriate to Japanese students' English ability too. If your English skills are good, you may find the lectures rather slow, but I believe that you will still find the contents interesting. Also, please do not put your celphones/smartphones on the desk; switch them off beforehand and keep them inside your bag. Thank you. 日本の受講生の英語力を配慮して講義時間は45分間だけで、クラスの後半では関連するビデオなどを観賞して。授業中の携帯電話・スマホの利用は禁止、発覚した場合は退室してもらうこともある。教室に入る前に電源を切り、カバンの中に入れておいてください。スマホ依存症は立派な精神病です！
- ・ Introduction to the lectures: what the classes will be like, how to make them easier and more interesting, what you will have to do to pass the course, how to download the lecture recordings, etc. コース内容について、英語による講義の「賢い受け方」について、講義録音のダウンロード方法について、受講生の責任などについてを（日本語交じりの）英語で説明する。

講義名称	曜日
比較文化研究－生と権力：東西史の裏街道 B 〈春〉	水 4

【教員名称】 英語による  
Philip Billingsley

【講義概要】

In easy-to-understand ENGLISH, I'll talk about aspects of gender and history in Europe, China, and Japan: the link between the witch-hunts and modern medicine, between Frankenstein and the atomic bomb, and between Cinderella and Chinese footbinding, and a comparison of gender images in mid-20th century rock lyrics and traditional fairy tales. きわめてやさしい英語を使うので恐れずに受講してみてください。歴史教科書に載らない話しを通して、欧州・中国・日本においてジェンダーが社会史に与えてきた影響に焦点を当てる。取り上げる項目：「魔女狩り」と現代医学のルーツ、「フランケンシュタイン」と原子力爆弾の開発、纏足と「シンデレラ」、おとぎ話とロック歌詞の男女像、などなど。

Courses A and B were originally one 30-lecture course: registering for both will provide you with a better understanding of the surprising ways in which gender has affected world history. ちなみに、A と B はもともと一つの講義であった。両方に登録するとジェンダーの様々な分野への影響をより深く理解することができる。

【学習目標】

In this course I will help you look at aspects of the world through "gendered eyes". As well as noticing many things that you had not noticed before, I hope that it will also help you to take a fresh look at yourselves. If you attend class regularly and listen carefully to what I say, you will not only improve your English listening ability, but also learn many new things! ジェンダーの観点からモノを見ると不思議な繋がりが見えてくる。しっかり出席すれば、英語の聴解力を磨くと同時に、世界を「新しい目」で見える力も育つ。

【講義計画】

- 第1回： Introduction to the lectures: what the classes will be like, how to make them easier and more interesting, what you will have to do to pass the course, how to download the lecture recordings, etc. コース内容について、英語による講義の「賢い受け方」について、講義録音のダウンロード方法について、受講生の責任などについて（日本語交じりの）英語で説明する。
- 第2回： Repeat of first lecture 念のため、前回の講義をもう一度
- 第3回： Overview: how I became interested in gender ジェンダーとの出会い 1
- 第4回： Overview ジェンダーとの出会い 2
- 第5回： Footbinding, high heels, and the origins of Cinderella 纏足、ハイ・ヒール、そしてシンデレラの誕生 1
- 第6回： (続き) Continued
- 第7回： The witch-hunts and the roots of modern medicine 魔女狩りと現代医学のルーツ 1
- 第8回： (続き) Continued 2
- 第9回： (続き) Continued 3
- 第10回： The long shadow of the witch-hunts in modern society 魔女狩りが現代社会にかけた長い影
- 第11回： "Frankenstein" and the birth of the atomic bomb「フランケンシュタイン」と原爆の誕生 1
- 第12回： (続き) Continued 2
- 第13回： (続き) Continued 3
- 第14回： Course Summary コースの要点をもう一度
- 第15回： Test 試験とまとめ

【事前および事後学習の指示】

予備知識を持っていると講義内容が面白くなり、英語が理解しやすくなる。事前に調べて、ジェンダーに関する基礎知識を身につけることをお勧めする！ A little prior knowledge will make the lectures more interesting and easier to understand !

【テキスト】

【参考文献】

教科書はなし。関連資料は毎回配布される。There will be no textbook; instead, materials will be handed out at each class.

【コメント】

毎回しっかり聴かないと英語力は上達しないから、出席を特に重視する。宿題も時折出すが、成績評価の基本はコース最後の試験結果による。講義は毎回録音されるので、リアルタイムで聞き取れなくても録音をダウンロードすれば何度でも聴きなおすことができる！まめに受講とダウンロードさえすれば思うほど難くない！ Regular attendance will be required, and there will be occasional homework, but your final score will depend chiefly on your test score. All lectures will be recorded and can be downloaded from the university database.

【留意事項】

- ・ As most Japanese students are not used to listening to lectures in English, each lecture will last for only about 45 minutes. Afterwards we will watch videos or do activities related to the topic of that day's lecture. My speaking speed will be appropriate to Japanese students' English ability too. If your English skills are good you may find the lectures rather slow, but I believe that you will still find the contents interesting.
- Also, please do not put your celphones/smartphones on the desk; switch them off beforehand and keep them inside your bag. Thank you. 日本の受講生の英語力を配慮して講義時間は 45 分間だけで、クラスの後半では関連するビデオなどを観賞することもある。教室に入る前に電源を切り、カバンの中に入れておいてください。スマホ依存症は立派な精神病です！
- ・ Introduction to the lectures: what the classes will be like, how to make them easier and more interesting, what you will have to do to pass the course, how to download the lecture recordings, etc. コース内容について、英語による講義の「賢い受け方」について、講義録音のダウンロード方法について、受講生の責任などについて（日本語交じりの）英語で説明する。

講義名称	曜日
比較文化研究－日韓の暮らしと文化 A 〈春〉	月 4

【教員名称】  
崔 杉昌

【講義概要】

本講座は比較文化研究の側面から日韓の一般庶民の暮らしや生活文化を正しく理解することを目的とする。春学期は民俗学および文化人類学の手法を紹介しながら、特に日本の民俗文化の事例を中心に自文化に対する理解を深めていく。また、関連記事や映像なども取り入れながら現代社会が抱える問題や多様な文化現象を「民俗」の視点から問い直していく。

【学習目標】

- ・ 比較文化研究方法論として、民俗学・文化人類学の手法を身につける。
- ・ 自文化・異文化についての理解度を深める。
- ・ 家・家族・近隣社会（地域）を柱とする比較文化研究の視座を培う。

【講義計画】

- 第1回： 授業のオリエンテーション  
講義内容の案内と周知事項の説明
- 第2回： 民俗学の生い立ちと現在  
－現代学としての民俗学－
- 第3回： 柳田国男と民俗学
- 第4回： 民俗学の誕生（映像）
- 第5回： 現代の家族事情  
おひとりさま、親の介護
- 第6回： 人間関係のゆくえ  
村社会・祭り、つきあいと贈答
- 第7回： 墓と葬儀  
墓地・墓標、葬儀と義理
- 第8回： 区別と差別  
放送禁止用語、被差別部落の民俗
- 第9回： 横並び志向の心理  
個性の発見とムラ社会、世間と空気
- 第10回： 暮らしと自然環境  
コモングの思想、災害伝承の背景、捕鯨と自然保護
- 第11回： 神と自然  
聖地巡礼とスピリチュアリティ、妖怪の多様性と変遷、盆と彼岸
- 第12回： 暮らしと信仰  
誕生と民俗、暦と行事、年齢の民俗
- 第13回： 内と外  
引き戸からドアへ、縁側、境界と神仏
- 第14回： 日本文化の多様性  
列島の地域性、沖縄文化の柔軟性と多様性、食文化の近代
- 第15回： まとめと期末テスト

【事前および事後学習の指示】

必要に応じて配布資料を事前に読んでおくこと。  
自文化・異文化理解への積極的な姿勢が求められる。

【テキスト】

知って役立つ民俗学－現代社会への40の扉－福田アジオ  
978-4-623-07126-5 ミネルヴァ書房

【参考文献】

市川秀之・中野紀和『はじめて学ぶ民俗学』ミネルヴァ書房  
八木透・正岡伸洋編『図解雑学こんなに面白い民俗学』

【コメント】

- ・ 初日のオリエンテーションには必ず出席すること。
- ・ 国立民族学博物館の見学予定  
（見学は代替授業として土曜日を実施する予定）

【留意事項】

ア  
—  
カ  
—  
サ  
—  
タ  
—  
ナ  
—  
ハ

マ  
—  
ヤ  
—  
ラ

講義名称	曜時
ビジネス英語 A 〈春〉	月 3

**【教員名称】**

森岡 裕一

**【講義概要】**

ビジネスに特化したテキストを精読する。

**【学習目標】**

ビジネス特有の語彙に慣れ、その意味するところを理解できるようにする。  
また、理解した内容を説得的に説明するプレゼンテーション能力も合わせて涵養する。

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：Chapter 1
- 第3回：Chapter 1
- 第4回：Chapter 2
- 第5回：Chapter 2
- 第6回：Chapter 3
- 第7回：Chapter 3
- 第8回：Chapter 4
- 第9回：Chapter 4
- 第10回：Chapter 5
- 第11回：Chapter 5
- 第12回：Chapter 6
- 第13回：Chapter 6
- 第14回：Chapter 7
- 第15回：Chapter 7

**【事前および事後学習の指示】**

事前学習に120時間は最低さいてもらいたい。

**【テキスト】**

Business Sense Andrew E. Bennett  
978-4-523-17742-5 南雲堂

**【参考文献】**

授業中に適宜指示する。

**【コメント】**

主として予習テストと授業中の受け答えで評価するので、やる気があり努力を惜しまない学生以外は受講が難しいだろう。英語力を高めビジネスの世界に近づきたい学生を歓迎する。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
ファイナンス I 〈春〉	月 2

**【教員名称】**

北野 友士

**【講義概要】**

英語のことわざに“A fool and his money are soon parted”（「愚者の金は身につかない」）というものがあるそうです。お金に関する知識がないと生きていけないわけではありませんが、人生とお金との関係を理解し、お金に関して賢くなることは、豊かな人生を歩むうえで非常に重要です。なお、「豊かな人生」とは必ずしも「お金持ちになる」ことを意味しません。

本講義では、お金に関する意思決定の学問といえる「ファイナンス」について学びます。ファイナンスの対象としては企業や政府も想定できますが、この講義では家計の意思決定を中心に扱います。

**【学習目標】**

- ・貨幣の時間価値、金融システム、およびライフサイクルとの関係を把握する。
- ・資産評価の方法について理解する。
- ・家計が直面するリスクと、リスクに応じたリスク管理手法を選択できるようにする。
- ・ファイナンス理論に基づく意思決定を行う素養を身につける。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：金融上の意思決定
- 第3回：金融システム①金融システムの役割
- 第4回：金融システム②金利および金融仲介機関
- 第5回：貨幣の時間的価値①複利計算と将来価値
- 第6回：貨幣の時間的価値②割引現在価値
- 第7回：貨幣の時間的価値③インフレや税金を考慮した現在価値
- 第8回：ライフサイクル・ファイナンシャル・プランニング
- 第9回：資産評価の理論
- 第10回：債券の評価
- 第11回：株式の評価
- 第12回：リスク管理の基礎①トラブルに強くなる
- 第13回：リスク管理の基礎②リスク分散とデリバティブ
- 第14回：リスク管理の基礎③リスクマップと保険
- 第15回：ファイナンス I のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

ファイナンスⅡと合わせて受講し、FP（ファイナンシャル・プランニング）技能士3級、ひいてはFP技能士2級に合格できる力をつけ、ぜひ検定に挑戦してください。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

ツヴィ・ボディ、ロバート・C・マートン、デーヴィッド・L・クリートン(著)、大前恵一朗(訳) (2011)『現代ファイナンス論 原著第2版』ピアソン桐原。

**【コメント】**

**【留意事項】**

私語は周りに対する迷惑行為なので、厳しく対処します。

講義名称	曜日
福祉レクリエーション援助論 〈春〉	金 2

**【教員名称】**

水流 寛二

**【講義概要】**

年齢、障害に関わりなくすべての人々がいきいきと生きる権利を有しています。レクリエーションは、人がその人らしく生きていく上で不可欠であり、その本質を理解することが重要です。生活とレクリエーションの結びつきを理解した上で、レクリエーションを福祉現場で展開していくための考え方や方法論を学びます。福祉レクリエーションの理念やサービスの目的を理解し、具体的に援助計画に反映させる過程を学びます。

**【学習目標】**

- ①医療・保健・福祉領域におけるレクリエーションの考え方や意義を理解する
- ②福祉レクリエーション援助方法、援助過程（援助プロセス）を理解する

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション
  - ・レクリエーションのイメージ
  - ・授業のねらい、すすめ方、評価について
- 第2回：レクリエーションの基本的理解
- 第3回：福祉レクリエーションの基礎的理解
- 第4回：福祉レクリエーションの理解～事例から学ぶ
- 第5回：福祉レクリエーション支援とは
- 第6回：福祉レクリエーション援助の方法①～福祉レク情報の収集
- 第7回：福祉レクリエーション援助の方法②～TRモデルのプロセス
- 第8回：個別レクリエーション援助の計画①～個別援助とアセスメント
- 第9回：個別レクリエーション援助の計画②～目標設定と援助計画
- 第10回：コミュニケーションワークの実際
- 第11回：グループレクリエーション援助の意義と方法
- 第12回：グループレクリエーション援助の実際①～地域高齢者のレク支援
- 第13回：グループレクリエーション援助の実際②～地域高齢者へのレク支援
- 第14回：グループレクリエーションの展開
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

レクリエーション援助において大切なことは、援助者自らが「楽しさ」や「楽しみ」の活動を実践することです。普段の生活で楽しみの活動を意識し、実践することを期待します。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- ・日本レクリエーション協会編  
楽しさの追求を支える理論と支援の方法（公益財団法人 日本レクリエーション協会）
- ・日本レクリエーション協会編  
楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施（公益財団法人 日本レクリエーション協会）
- ・日本レクリエーション協会編  
楽しさの追求を支えるための介入技術（公益財団法人 日本レクリエーション協会）

**【コメント】**

本授業では授業中に実施する課題の提出および課題に取り組む姿勢や態度から総合的に評価を行います。授業内でのディスカッション、グループワークに積極的に取り組む態度を望んでいます。

**【留意事項】**

障害者福祉センターにおける体育講座指導経験のある教員が、ホスピタリティ・トレーニングやアイスブレイキングの技法を用いたコミュニケーション・ワークについて実例を交えて指導する。

講義名称	曜日
文化人類学 A 〈春〉	月 1

**【教員名称】**

小池 誠

**【講義概要】**

文化人類学は自分たちとは異なる文化を調査・研究し、この世界に住むさまざまな人々の多様性を明らかにしてきました。この講義では家族と結婚を中心テーマに選び、文化人類学における重要な問題を取り上げます。現代日本の家族からインドネシア・スンバの結婚まで世界中の多様な文化を取り上げ、具体的な事例をとおして文化人類学の考え方を講義します。この講義は異文化理解を深め、「多文化共生をめざす国際理解の促進」につながることを目的としています。文化の多様性だけでなく、人類としての普遍性も見ていきたいと思えます。私たちの常識とまったく違う習慣や社会のあり方を「遅れたもの」と見下すのではなく、それぞれに独自の価値を見いだす文化相対主義の視点を身につけてください。

**【学習目標】**

- 講義を通して、以下の3つの目標を達成できるようにします。
- ①文化人類学の基本的な用語と概念をきちんと理解し、正しい知識をもつ。
  - ②文化人類学の考え方を理解し、それにもとづいて授業で取り上げたテーマについて自分の考えを述べることができる。
  - ③講義で学んだことをまとめ、それについて自分の意見を述べるができる。

**【講義計画】**

- 第1回：授業ガイダンス:文化人類学の家族研究
- 第2回：家族とは何か、親子とは何か
- 第3回：家族の多様性:イエと家族
- 第4回：家族の多様性:現代日本の家族
- 第5回：親族と出自:祖先との系譜のたどり方
- 第6回：父系社会と母系社会
- 第7回：現代の生殖医療技術と親子関係
- 第8回：人類学者のフィールドワーク
- 第9回：特別養子とは何か
- 第10回：結婚の多様性:誰が誰と結婚するのか
- 第11回：ネパールの一妻多夫婚
- 第12回：インドネシア・スンバの母方交叉イトコ婚
- 第13回：新しい結婚のかたち:同性婚
- 第14回：複数の愛を生きる人々
- 第15回：講義のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

毎回の講義のなかで紹介する図書を読むようにしてください。必要に応じて、次の講義までに読んでおくべき資料を配布します。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- 山下晋司・船曳建夫編、1997『文化人類学キーワード』有斐閣
- 山下晋司編、2005『文化人類学入門』弘文堂

**【コメント】**

- 定期試験によって、学習目標の①を評価します（40％）。
- 定期試験によって、学習目標の②を評価します（40％）。
- 講義の後に提出するコメントカードによって、学習目標の③を評価します（20％）。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
文化人類学 B (春)	木 3

【教員名称】  
小池 誠

【講義概要】

文化人類学は自分たちは異なる文化を調査・研究し、この世界に住むさまざまな人々の多様性を明らかにしてきました。この講義では宗教と儀礼を中心テーマに選び、人類学における重要な問題を取り上げます。イスラームの儀礼から日本の祭まで世界中の多様な文化を取り上げ、具体的な事例をとおして文化人類学の考え方を講義します。この講義は異文化理解を深め、「多文化共生をめざす国際理解の促進」につながることを目的としています。文化の多様性だけでなく、人類としての普遍性も見ていきたいと思えます。私たちの常識とまったく違う習慣や社会のあり方を「遅れたもの」と見下すのではなく、それぞれに独自の価値を見いだす文化相対主義の視点を身につけてください。

【学習目標】

講義を通して、以下の3つの目標を達成できるようにします。  
①文化人類学の基本的な用語と概念をきちんと理解し、正しい知識をもつ。  
②文化人類学の考え方を理解し、それにもとづいて授業で取り上げたテーマについて自分の意見を述べるができる。  
③講義で学んだことをまとめ、それについて自分の意見を述べるができる。

【講義計画】

- 第1回：授業ガイダンス：文化人類学の宗教研究
- 第2回：宗教とは何か
- 第3回：神とイスラーム
- 第4回：イスラームの暦と儀礼
- 第5回：呪術と儀礼
- 第6回：死者の霊の行方：靈魂観の人類学
- 第7回：鳥取県大山山麓の両墓制の村
- 第8回：現代日本の葬送と墓
- 第9回：シャーマニズム：亡くなった家族との交流
- 第10回：インドネシア・スンバの死者儀礼と墓
- 第11回：インドネシア・スンバの家屋と儀礼
- 第12回：日本の神道と神社
- 第13回：日本の祭：神事としての天神祭
- 第14回：日本の祭：風流としての天神祭
- 第15回：講義のまとめ

【事前および事後学習の指示】

毎回の講義のなかで紹介する図書を読むようにしてください。必要に応じて、次の講義までに読んでおくべき資料を配布します。

【テキスト】

【参考文献】

- 山下晋司編、2005『文化人類学入門』弘文堂
- 関一敏・大塚和夫編、2004『宗教人類学入門』弘文堂

【コメント】

定期試験によって、学習目標の①を評価します(40%)。  
定期試験によって、学習目標の②を評価します(40%)。  
講義の後に提出するコメントカードによって、学習目標の③を評価します(20%)。

【留意事項】

講義名称	曜日
法学 A 01 (春)	月 3

【教員名称】  
大川 清植

【講義概要】

法の存在意義は、「社会における秩序の維持と調和の実現にある」、といえる。私たちは、地域社会や国際社会の一構成員として社会的かつ経済的な生活(以下「日常生活」という)を営んでいる。「法(規範)」は、このような私たちの日常生活に欠かせないものである。  
本講義では、私たちの日常生活、すなわち国内外の一市民としての日常生活(スポーツや芸術世界を含む)において、教養知識として知っておくべき法学の基本4科目(憲法・民法・刑法・商法)と、国内外の市民生活に密接に係る行政法、国際法の世界への道を案内することをその対象とする。

【学習目標】

1. 基礎的な法律知識を身につけ、法的な思考力を獲得する
2. 具体的な事例を通して、課題を解決するための多面的・多角的な力を身につける
3. 国際社会で主体的に生き、平和で民主的な国家及び社会の一員として生きるために必要な能力を養う

【講義計画】

- 第1回：法の世界(社会規範、法の理念、法源)
- 第2回：法の体系(法の適用と解釈、実定法の分類)
- 第3回：国家生活と憲法①(憲法の基本原理)
- 第4回：国家生活と憲法②(参政権)
- 第5回：取引社会と法①(取引と契約、契約への規律、契約当事者の権利・義務)
- 第6回：取引社会と法②(契約の成立から効力の発生まで)
- 第7回：犯罪と刑罰①(刑法の機能、刑法の基本原則)
- 第8回：犯罪と刑罰②(刑法の適用範囲)
- 第9回：企業と法①(企業形態)
- 第10回：企業と法②(会社の目的、会社の種類)
- 第11回：行政と法(市民生活と行政)
- 第12回：国際法(国際社会の法的規律(条約、慣習法、国連))
- 第13回：国際私法(国際私法の統一、国際私法を通じての規律、国際民事訴訟法)
- 第14回：国際的協調の法的枠組み(独占禁止法の域外適用、ガット・WTO)
- 第15回：期末試験

【事前および事後学習の指示】

限られた授業時間内において、「法学 A」のすべての内容について網羅的に詳説するのは、可能なことではない。そこで、①授業で講述すべき内容と、②受講生のみなさんの自学自修に期待し委ねるべき内容とに振り分けることによって、授業の効率化および学習効果の最大化を図りたい。したがって、本講義では、受講生自らが、事前学習をする際にテキスト等を読むだけで理解でき、または理解しやすい内容もしくは説明しなくてもよい内容については、説明を省略する。その代わりに、本講義では、主として「法学 A」の基本的論点として検討すべき内容に焦点を合わせて授業を進行する。  
この点、受講生のみなさんには、「法学 A」の主要内容から選別した基本的事項に関する論点を中心に進める授業内容を理解するべく、必ずテキスト・レジュメを使い、授業で詳説しない内容または取り扱っていない内容についても幅広く学習していただきたい。  
なお事前および事後学習の範囲については、講義開始1週間前までにテキストの単元ごとに具体的に提示する。

【テキスト】

タイトル：法の世界へ 第7版  
著者：池田真朗、犬伏由子、野川忍、大塚英明、長谷部由起子  
出版社：有斐閣  
I S B N:978-4-641-22088-1

タイトル：ポケット六法令和2年版  
著者：佐伯仁志、大村敦志 編集代表  
出版社：有斐閣  
I S B N:978-4-641-00920-2

【参考文献】

特記事項なし。

【コメント】

【留意事項】

講義名称	曜日
法学A 02 (春)	金 1

**【教員名称】**

松田 聡子

**【講義概要】**

社会生活を送っている以上、わたしたちは法と無縁でありえない。現代社会を生きていくために、その基本的枠組みを理解し、とくに民主主義国家では、わたしたちがわたしたちのために法を作っているという観点から法の世界にふれていく。課題をみつけその解決のための知識の習得とその活用を内容とする。

**【学習目標】**

1. 基礎的な法律知識を身につけ、法的な思考力を獲得する
2. 具体的な事例を通して、課題を解決するための基礎的な力を身につける
3. 国際社会で主体的に生き、平和で民主的な国家及び社会の一員として生きるために必要な能力を養う

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：法とは何か：国際法と国内法
- 第3回：憲法とは何か：わが国の法体系
- 第4回：裁判の役割：刑事裁判と民事裁判、裁判の公開
- 第5回：刑事裁判の諸原則：責任と罪、少年犯罪、死刑制度
- 第6回：裁判員制度：国際比較のなかで
- 第7回：契約社会と法：契約の自由、個人及び企業の経済活動における権利・責任・役割、消費者保護
- 第8回：労働と法：勤労の権利と義務、職業の意義と役割、ハラスメントと企業の責任
- 第9回：家族と法：国際化のなかの家族
- 第10回：少子高齢化と法：国際比較のなかで
- 第11回：人権の体系：自由権・社会権・「新しい人権」
- 第12回：情報社会と法：情報社会のなかの「個人」と「行政」
- 第13回：人権の国際化：外国人の人権、グローバル化社会における人権保障
- 第14回：民主主義と民主政治：民主主義と権力分立、立憲主義
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

事前にテキスト該当部分を熟読しておくこと。また、授業で不明な点があればノートに書き出し、復習しておくこと。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

『ポケット六法』(有斐閣・2019年)、『トピックからはじめる法学』編集委員会編『トピックからはじめる法学』(成文堂・2010年)、池田真朗編『プレスステップ・法学』(第3版)』(弘文堂・2016年)

**【コメント】**

全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合、成績評価の対象外とする。出席に対する加点はない。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
法女性学 (通期)	木 4

**【教員名称】**

的場 かおり

**【講義概要】**

「#Ku Too」[メガネ禁止]、医学部入試での不正問題、増えるパタハラ、「おっさんずラブ」人気…。世間を賑わすこれらのニュースに共通するのは性別に基づく差別です。日本の最高法規である憲法の14条は性差別を禁じ、各分野で法整備が進められているはずなのに、なぜなのでしょう。

講義では、身体・家族・労働・政治/行政の分野を「ジェンダー」[男/女]の観点から見直すことで、そこに潜む問題を明らかにし、その解決策を探ります。そして今や「男/女」という二者択一自体が適切でなくなっています。日本では取り組みが遅れている「LGBTs」についても考えます。

**【学習目標】**

- ①「ジェンダー」という視点から社会の問題を考える力を養います。これまでの「当たり前」を見直すことで、そこに潜む問題・課題に気づき、解決策を考えられるようになります。
- ②他者との違いを認め、多様性を尊重する姿勢を身に付けます。この姿勢は、多様な個性をもつ人々が平等に生きられる社会の実現に不可欠なものです。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス(講義の進め方・成績評価・講義の内容)
- 第2回：女性/男性/ジェンダー学と法
- 第3回：LGBTsとは
- 第4回：日本におけるジェンダー平等の実態
- 第5回：性犯罪
- 第6回：売買春
- 第7回：ポルノグラフィ
- 第8回：リプロダクティブ・ライツ①人工妊娠中絶
- 第9回：リプロダクティブ・ライツ②優生思想と障がい者
- 第10回：リプロダクティブ・ライツ③生殖補助医療
- 第11回：婚姻①婚姻と法
- 第12回：婚姻②婚姻と子ども
- 第13回：離婚①離婚と法
- 第14回：離婚②離婚にともなう課題
- 第15回：春学期のまとめと試験
- 第16回：ドメスティック・バイオレンス①DV防止法の制定
- 第17回：ドメスティック・バイオレンス②DV防止法の内容と「見えにくいDV」
- 第18回：ストーカー
- 第19回：児童虐待・高齢者虐待
- 第20回：教育①学校教育
- 第21回：教育②法学教育/法曹
- 第22回：雇用①男女雇用機会均等法とは
- 第23回：雇用②多様化する労働形態
- 第24回：ワーク・ライフ・バランス①仕事と育児・介護
- 第25回：ワーク・ライフ・バランス②「働き方改革」
- 第26回：セクシュアル・ハラスメント
- 第27回：社会保障
- 第28回：政治・行政
- 第29回：天皇制
- 第30回：秋学期のまとめと試験

**【事前および事後学習の指示】**

**【事前学習】**

- ・関連するニュース・出来事を調べる

**【事後学習】**

- ・配布したレジュメ・資料、スライド(Lessonフォルダで公開)を用いて復習する
- ・参考文献などを用いて問題を掘り下げ、自分の見解をまとめる

**【テキスト】**

**【参考文献】**

- ・犬伏由子・井上匡子・君塚正臣編『レクチャー ジェンダー法』(法律文化社、2012年)
- ・三成美保・笹沼朋子・立石直子・谷田川知恵『ジェンダー法学入門』(第2版)』(法律文化社、2015年)
- ・辻村みよ子『概説ジェンダーと法』(第2版)』(信山社、2016年)
- ・山下泰子・矢澤澄子監修・国際女性の地位協会編『男女平等はどこまで進んだか』(岩波書店、2018年)
- ・加藤秀一『はじめてのジェンダー論』(有斐閣、2017年)

**【コメント】**

- ①試験：中間試験(春学期)と期末試験(秋学期)を実施  
(注意)2つとも受験しなければ「不可」とします。
- ②その他
  - ・課題 15%  
(内容)事前学習として、簡単な調べ物をしてもらう回があります。
  - ・出席・授業参加態度 15%  
(内容)グループワーク、発言、コメントシートを評価対象とします。  
(注意)各学期3分の2以上出席しない場合は、受験資格を喪失します。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
ボランティア論 〈春〉	水5

**【教員名称】**

石田 易司

**【講義概要】**

今、ボランティアが社会を動かす時代になった。一つのことにとこだわらず、働きながら、あるいは学びながらボランティア活動もする時代になった。新しい社会を拓くキーワードとしてのボランティア活動を体験的に学ぶ。

**【学習目標】**

ボランティア活動に参加する。そして、そのことの意味と必要を考える。また、そのことを通して、コミュニケーション力やリーダーシップ力など、必要な力をつける。

**【講義計画】**

- 第1回：戦後の社会の流れとボランティア社会への道のり  
評価と体験のガイダンス
- 第2回：ボランティアの要素と様々な考え方
- 第3回：ボランティア活動の動機
- 第4回：若者の自己成長性
- 第5回：いろいろなボランティア活動
- 第6回：様々な地域課題
- 第7回：障がい者福祉とボランティア
- 第8回：高齢者福祉とボランティア
- 第9回：課題解決とコミュニケーション能力
- 第10回：大災害とボランティア
- 第11回：青少年育成とボランティア
- 第12回：福祉コミュニティとは
- 第13回：NPO法人とは
- 第14回：今後の地域課題と市民社会
- 第15回：ボランティア体験発表

**【事前および事後学習の指示】**

実際にボランティアセンターに行き、自分で活動を見つけ、授業期間中、継続して活動に参加する必要があります。そして、それをみんなの前で発表するため、パワーポイントづくりをすることが求められます。

**【テキスト】**

体験するボランティア論 石田易司

**【参考文献】**

**【コメント】**

体験をしながら考えるため、ボランティア活動を實際にするフィールドワーク必修です。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
マーケティング論A 〈春〉	水1

**【教員名称】**

辻本 法子

**【講義概要】**

【マーケティングはビジネスパーソンのマストスキルです！企業の戦略的視点から考える】  
マーケティング論Aでは、マーケティングを企業の戦略的視点から学習します。マーケティングとは、市場における「価値」を創造する活動のことです。企業のみならず非営利組織においてもマーケティング視点からの活動がおこなわれています。そのため、みなさんが就職し、企業や組織で働く場合に、マーケティングは必要不可欠なスキルです。本講義では、戦略的マーケティングを構築するプロセスとマーケティングの構成要素について具体的な事例を交えながら学習します。本講義は、みなさんが就職した際に、自分に与えられた職務が企業の戦略のどの部分を担っているのかを正確に理解し、自らが主体的に行動できるようになることを目指します。

**【学習目標】**

- 本講義の目標は、企業のマーケティング戦略を理解することです。
- ①戦略的マーケティング構築のプロセスを理解すること
- ②マーケティングの構成要素を理解すること
- ③マーケティング戦略の具体的な事例についての説明ができること

**【講義計画】**

- 第1回：オリエンテーション  
講義の進め方、予習方法、成績評価の方法、受講の際のルールについての説明をおこなう
- 第2回：マーケティングとは何か  
マーケティングの基本構造と研究の歴史を解説する
- 第3回：事業機会の選択と市場需要の探索  
事業機会・市場需要の探索のためのポイントと事業の成長を方向付けるためのフレームワークについて解説する
- 第4回：事業領域の選択  
企業のアイデンティティを形成する方法として、企業ドメイン（コンセプト）について解説する
- 第5回：標的市場の選択  
市場におけるターゲット（標的）を明確にするための市場細分化戦略について解説する
- 第6回：競争戦略  
市場環境の分析と競争地位別のマーケティング戦略について解説する
- 第7回：消費者行動  
消費者行動を理解するための主要モデルと、消費者の分類手法について解説する
- 第8回：製品 (Product) 戦略  
製品開発、および製品ライフサイクルの考え方とステージごとのマーケティング戦略について解説する
- 第9回：価格 (Price) 戦略  
価格設定の基本方針と価格戦略について解説する
- 第10回：流通チャネル (Place) 戦略  
日本型流通システムの概要、チャネル政策の種類と選択における意思決定課題について解説する
- 第11回：マーケティング・コミュニケーション (Promotion) 戦略  
消費者への効果的な情報伝達手段としてのコミュニケーション・ミックスについて解説する
- 第12回：サービスマーケティング  
サービス業におけるマーケティングについて解説する
- 第13回：ソーシャルマーケティング  
非営利組織のマーケティング、社会志向のマーケティングについて解説する
- 第14回：IT時代のマーケティング戦略  
インターネットの普及によるマーケティング戦略の変化について議論する
- 第15回：まとめ  
講義の内容全体を振り返り、本試験に向けてのまとめをおこなう

**【事前および事後学習の指示】**

次回の講義に対応する教科書の章を事前に読んでおくこと。

**【テキスト】**

マーケティング戦略 和田充夫, 恩蔵直人, 三浦俊彦著  
9784641220782 有斐閣

**【参考文献】**

講義のなかで紹介します。

**【コメント】**

- ①授業の理解度を確認するためのレポートの作成を3回、授業中に実施する。授業内容を踏まえて自身の考えを論理的に述べているかどうかにかんして重点を置いて評価する。
- ②学期末試験において、到達目標に対応するテーマに関する問題を出题する。

**【留意事項】**

百貨店のマーケティング部門で勤務経験のある教員が、具体的な事例を交えた授業をおこなう。

講義名称	曜日
マクロ経済学 01 (通期)	水 4

**【教員名称】**

二替 大輔

**【講義概要】**

本講義では、学部で必要とされるマクロ経済学の理論を学んでいきます。前半ではマクロ経済を計測するための基礎概念とマクロ経済の長期の分析を扱います。後半では、マクロ経済の短期・中期の分析と開放経済のマクロ分析の基礎を扱います。講義では、公務員試験等で扱われるような問題を解くことにより、基本的なマクロ経済理論の知識の習得を目指します。

**【学習目標】**

マクロ経済学の基本理論を理解し、基本的な問題を解けるようにする。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス・マクロ経済学の考え方
- 第2回：国民経済計算(1)：GDPの計測
- 第3回：国民経済計算(2)：三面等価の原則
- 第4回：国民経済計算(3)：物価指数
- 第5回：労働統計
- 第6回：マクロ経済の長期分析：総生産の決定
- 第7回：マクロ経済の長期分析：財政政策の効果
- 第8回：マクロ経済の長期分析：労働市場と失業
- 第9回：マクロ経済の長期分析：物価水準と貨幣(1)貨幣の機能と貨幣市場
- 第10回：マクロ経済の長期分析：物価水準と貨幣(2)物価水準の決定
- 第11回：経済成長理論：経済成長理論の基礎と生産関数
- 第12回：経済成長理論：ソローモデル(1)資本蓄積
- 第13回：経済成長理論：ソローモデル(2)定常状態
- 第14回：経済成長理論：成長会計
- 第15回：前半のまとめ
- 第16回：短期モデルの基本的考え方
- 第17回：乗数効果のメカニズム
- 第18回：IS曲線の導出
- 第19回：LM曲線の導出
- 第20回：IS-LM分析における財政政策の効果
- 第21回：IS-LM分析における金融政策の効果
- 第22回：AD-AS分析(1)：AD曲線とAS曲線
- 第23回：AD-AS分析(2)：物価水準の決定
- 第24回：AD-AS分析(3)：フィリップス曲線
- 第25回：国際収支統計
- 第26回：開放経済のマクロ分析：為替レートと平価関係(1)購買力平価
- 第27回：開放経済のマクロ分析：為替レートと平価関係(2)金利平価
- 第28回：開放経済のマクロ分析：マンデル・フレミングモデル(1)総生産と為替レートの決定
- 第29回：開放経済のマクロ分析：マンデル・フレミングモデル(2)財政政策と金融政策の効果
- 第30回：後半のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

講義内容の復習及び問題演習の復習を毎回必ず行ってください。

**【テキスト】**

テキストは使用せずプリントを配布します。

**【参考文献】**

齊藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久『マクロ経済学 [新版]』, 有斐閣, 2016年  
 N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編(第4版)』, 東洋経済新報社, 2019年  
 N・グレゴリー・マンキュー『マンキューマクロ経済学Ⅰ 入門編(第4版)』, 東洋経済新報社, 2017年  
 N・グレゴリー・マンキュー『マンキューマクロ経済学Ⅱ 応用編(第4版)』, 東洋経済新報社, 2018年

**【コメント】**

春学期末試験(40%)と秋学期末試験(40%)および講義中におこなう課題(20%)で評価します。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
マクロ経済学 02 (春集)	火 1/ 金 3

**【教員名称】**

中村 勝之

**【講義概要】**

マクロ経済学の主要な課題は、一国経済の動向を規定するGDP(国内総生産)の決定メカニズム、およびそこから派生する経済成長、失業、インフレーションといった諸変数の決定メカニズムを探り、その上で、政府によるマクロ経済政策(景気対策とほぼ同義)の効果を理論的に検証することにある。だが入門書で語られていることと今の日本経済の現状を素朴に観察したとき、かなりの食い違いに気づく。そこにはいくつかの理由があるのだが、その1つとして確実に言えそうなのは、入門書では経済の「グローバル化」、すなわち対外経済取引をほとんど捨象していることが問題を見えにくくしている点である。

そこでこの講義ではマクロ経済学の基礎知識の1つのゴールであるIS-LM分析を、対外経済取引が行われる状況に拡張した議論(マンデル=フレミング・モデル)を最終到達点として、マクロ経済学の基礎知識を解説していく。

なおこの講義では数学をより積極的に使用する予定にしているが、初学者で対応可能な操作を行うので、恐れずに受講していただければ幸いです。

**【学習目標】**

学部初級レベルのマクロ経済学は「連立方程式体系」で構成され、数多くの式と記号で記述される。これを数多く触れながら、

- ① 背後にある前提
  - ② 論理を追求した際の整合性
  - ③ 政策上の帰結と含意
- これらを理解していただきたい。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス  
(このときに成績評価基準の詳細を通知する。)
- 第2回：文法としての経済数学Ⅰ(関数と方程式)
- 第3回：文法としての経済数学Ⅱ(微分法)
- 第4回：GDPⅠ(三面等価の原則)
- 第5回：GDPⅡ(さまざまな指標)
- 第6回：GDPⅢ(名目と実質)
- 第7回：第1回小テストと単元まとめ
- 第8回：主要関数一覧Ⅰ(需要面の諸関数)
- 第9回：主要関数一覧Ⅱ(供給面の諸関数)
- 第10回：乗数理論Ⅰ(ノーマルケース)
- 第11回：乗数理論Ⅱ(均衡財政主義)
- 第12回：第2回小テストと単元まとめ
- 第13回：IS-LM分析Ⅰ(均衡の導出)
- 第14回：IS-LM分析Ⅱ(ノーマルケース)
- 第15回：IS-LM分析Ⅲ(経済政策論争の入り口)
- 第16回：第3回小テストと単元まとめ
- 第17回：中間試験とまとめ
- 第18回：AD-AS分析Ⅰ(ノーマルケース)
- 第19回：AD-AS分析Ⅱ(新古典派ケース)
- 第20回：AD-AS分析Ⅲ(ケインズ本人のケース)
- 第21回：AD-AS分析Ⅳ(ケインズ派ケース)
- 第22回：第4回小テストと単元まとめ
- 第23回：乗数理論の拡張Ⅰ(ノーマルケース)
- 第24回：乗数理論の拡張Ⅱ(2国間貿易)
- 第25回：第5回小テストと単元まとめ
- 第26回：マンデル=フレミング・モデルⅠ(3つの曲線の導出)
- 第27回：マンデル=フレミング・モデルⅡ(固定相場制でのマクロ経済政策の効果)
- 第28回：マンデル=フレミング・モデルⅢ(変動相場制でのマクロ経済政策の効果)
- 第29回：マンデル=フレミング・モデルⅣ(閉鎖経済との比較考察)
- 第30回：期末試験および総まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

- ・特段の事前学習の指示はない。
- ・桃山トップレベルの難易度を誇っているため、やりきりだけの覚悟を持って事後学習に励むこと。

**【テキスト】**

使用しない。適宜資料(レジュメ)を配付する。

**【参考文献】**

中村勝之(2009)『大学院へのマクロ経済学講義』現代数学社

**【コメント】**

- ①講義時間中に行われる「小テスト」(5回実施(1回につき10点満点))。獲得合計を100点満点に換算)
  - ②講義期間中に行われる「中間試験」
  - ③「期末試験」
  - ④単元末の「レスポンスシート」提出
- ※上記①～④の獲得点数をもとに、一定のルールにしたがって評点を計算し、60点以上であれば合格。

**【留意事項】**

受講生数や能力等に応じて、講義進行を変更することがある。

講義名称	曜日
マス・コミュニケーション論 01 (春)	火 2

【教員名称】  
木下 浩一

【講義概要】

「マス・コミュニケーション」とは、「マスコミ」の略称が定着しているので、情報伝達機関(各種メディア)と同義だと考える人は多いだろう。だが、なぜ「マスコミ」という言葉はそうしたメディアを指すのだろうか。一方で、個人間のメディアを介したやりとり(パーソナルなコミュニケーション)は、マス・コミュニケーションとはなじまない気がするのなぜだろうか。本講義前半ではこうした点をふまえ、一般的な「マスコミ」イメージが、どのような専門的な考え方に支えられているのかについて学ぶ。講義後半では前半で学んだマス・コミュニケーションやメディア研究の知見を踏まえ、「戦争イメージ」を事例として今日のマス・コミュニケーションにおける課題について考える。なお、ニュースなど時事問題を扱うことが多いため、シラバスの内容は多少前後する可能性があることをこたわっておく。

【学習目標】

本講義では、「メディア」を通じたコミュニケーションの特徴を理解したうえで、「マス・コミュニケーション」とは何か、その問題点は何か、なぜこうした領域を学ぶ必要があるのかについて考える。第一に、マス・コミュニケーションの理想的形態(規範)についての考え方、第二に、マス・コミュニケーション研究が誕生した社会的背景とその後の発展過程を学ぶ。

マス・コミュニケーション論は、世の中の出来事や話題になっていること、つまりは現代社会への関心があって受講することに意味がある。受講者は、日常生活のなかで世の中では今、何が話題(ニュース)になっているのか、流行になっているのかに関心を持つことをまず求めたい。

【講義計画】

- 第1回: 「マス・コミュニケーション」とは何か
- 第2回: マス・コミュニケーションと現代社会
- 第3回: 「世論」が動かす社会とは
- 第4回: インターネットの中の「声」
- 第5回: 「市民」になる: 市民社会の登場とメディア
- 第6回: 「新聞」というメディア・コミュニケーションを考える
- 第7回: 読書をするといふことがある?: 近代的読書論
- 第8回: 声に出して「読む」VS 黙って「読む」: 音読文化と黙読文化
- 第9回: 本を読んでいないで、街に出る: デモとコミュニケーション
- 第10回: 型どおりの「日本人」、そのイメージはどこから?
- 第11回: ラジオの時代、戦争の時代
- 第12回: メディアの統合機能論——マス・コミュニケーション研究の系譜
- 第13回: 広報(PR)・広告・プロパガンダ、さてその違いは?
- 第14回: どうしてそうなるの、受け手の勝手にしょ: マス・コミュニケーションの受け手研究の紹介
- 第15回: メディアの持つ影響力(効果)についての考え方(1)(中間試験)

【事前および事後学習の指示】

講義中に指示する。レポートは講義内容にもかかわるテーマなので時間をかけて取り組んでもらう。レポートは原稿用紙12枚相当の分量を書いてもらうため、そのための事前学習(資料探索、文献読解等)が必要となる。そのつもりで受講すること。

【テキスト】

【参考文献】

- 吉田裕「日本人の戦争観日本人の戦争観—戦後史のなかの変容」岩波現代文庫、2005年
- 佐藤卓己「増補 八月十五日の神話: 終戦記念日のメディア学」ちくま学芸文庫、2014年
- 福岡良明「反戦のメディア史: 戦後日本における世論と輿論の拮抗」世界思想社、2006年
- 高井昌史編「反戦と好戦のポピュラー・カルチャー: メディア/ジェンダー/ツーリズム」人文書院、2011年

【コメント】

- 第一回講義に、受講希望者はなるべく出席すること。
- ・講義中にコメント・ペーパーの提出を求めることがあるが、出席点として加味しない。
- ・試験は2度行う(中間試験20%、最終試験50%)。最終試験のみでは単位認定されないので注意すること。中間試験を受けるか、レポートを提出すること(両方参加が望ましい)。
- ・中間試験は6割取れなければ一律0点とする。
- ・レポートはA4用紙で4枚から5枚のかなりハードなものとなるので、余裕を持って準備し執筆すること。規定枚数に達しない、剽窃がある等、レポートとして不適切な提出があった場合、その提出をもって単位認定不可とする。

【留意事項】

元番組プロデューサー/ディレクターがマス・コミュニケーションの実務と関連させて論じる。

講義名称	曜日
マス・コミュニケーション論 02 (春)	金 4

【教員名称】  
ケイン 樹里安

【講義概要】

本講義では、私たちの行動や思考に大きな影響を及ぼし、現代の生活に欠かすことができないマス・コミュニケーションについて、欧米と日本における個別のメディア装置をとりあげながら以下の3つのポイントに留意しながら考察していきます。すなわち(1)近代のマス・メディアが生起していく歴史の経緯をたどること、(2)マス・コミュニケーション理論の成立を具体的な事例と関連づけて理解すること、(3)現代のメディアがどのように実践されているのかを知ることです。それぞれの時代における歴史的・社会的・文化的背景を盛り込みながら、メディアの様相について幅広く理解することが本講義の目的です。

【学習目標】

- 本講義では次のような知識や能力を受講生のみなさんが身につけることを目標とします。
- ・欧米および日本における近代のマス・メディアがいかなる歴史的な変遷をたどったのかを理解する。
- ・戦後から現代における日本の様々なメディア状況について把握する。
- ・マス・メディアをとりまく技術や文化を幅広く知り、デジタル化やグローバル化に即したマス・コミュニケーションの様相を考察する。

【講義計画】

- 第1回: マスとコミュニケーションのあいだ
- 第2回: 文字の誕生
- 第3回: 写本と紙
- 第4回: 印刷術(1)グーテンベルク以前・以後
- 第5回: 印刷術(2)新聞ジャーナリズム
- 第6回: 写真術(1)テクノロジーとしての写真
- 第7回: 写真術(2)肖像画とコミュニケーション
- 第8回: 写真術(3)見えないモノを撮る
- 第9回: 電気メディア(1)声と動きを記述する
- 第10回: 電気メディア(2)見世物興行から映画へ
- 第11回: マス・メディアの時代: メディア・イベント
- 第12回: マス・メディアの時代: プロパガンダ
- 第13回: ネット・インキュナブラ
- 第14回: パーソナル化するメディア
- 第15回: まとめ

【事前および事後学習の指示】

参考文献などを読み予習しておくこと。配布した資料を用いて復習すること。

【テキスト】

【参考文献】

- 伊藤明己2014『メディアとコミュニケーションの文化史』世界思想社
- 長谷正人2016『映像文化の社会学』有斐閣

【コメント】

【留意事項】

講義名称	曜時
ミクロ経済学 01 (通期)	水3

**【教員名称】**

谷口 和久

**【講義概要】**

本講義は経済学部の専門科目です。ミクロ経済学は数学を用いた理論的ですが難解な内容になりがちですが、本講義では、はじめてミクロ経済学を学ぶ人にもわかりやすく経済の仕組みを、ミクロ的な観点から解説します。消費者の行動や市場における企業の動きを説明し、社会が発展してきた基盤にある貨幣や価格などの意味も考えていきます。現実の経済現象と関わりのある内容も取り上げますので、新聞の経済記事を積極的に読むようにしてください。インターネット上の情報は、速報性という点で優れているかもしれませんが、正確さに欠け偏った情報となりがちです。幅広い情報を正確にかつある程度深く知るには、現状では新聞が最も信頼できます。

なお、受講には高等学校卒業程度の数学の知識が前提となります。

**【学習目標】**

受講学生は、この講義を受講することによって、

- (1)ミクロ経済学の基礎的な概念を理解できるようになります。
  - (2)現実の経済をミクロ経済学の視点から考えることができるようになります。
- この科目の修得は、経済学部のディプロマ・ポリシー「経済学の専門的な知識および周辺諸領域をも含めた有機的知識」の獲得に関係しています。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：需要と供給1:需要曲線について
- 第3回：需要と供給2:供給曲線について
- 第4回：消費者行動1:効用概念について
- 第5回：消費者行動2:消費者余剰について
- 第6回：供給と費用曲線1:費用の種類
- 第7回：供給と費用曲線2:費用曲線の性質
- 第8回：市場と価格1:完全競争市場
- 第9回：市場と価格2:独占市場と寡占市場
- 第10回：無差別曲線1:無差別曲線の理解
- 第11回：無差別曲線2:予算制約と効用最大化
- 第12回：所得変化と価格変化1:所得の変化と需要
- 第13回：所得変化と価格変化2:価格の変化と需要
- 第14回：生産と費用1:生産関数
- 第15回：生産と費用2:当量曲線
- 第16回：一般均衡1:交換
- 第17回：一般均衡2:ボックスダイアグラムの理解
- 第18回：資源配分と比較優位1:比較優位
- 第19回：資源配分と比較優位2:簡単な国際貿易
- 第20回：独占1:供給独占
- 第21回：独占2:独占的競争
- 第22回：ゲーム理論1:利得行列と囚人のジレンマ
- 第23回：ゲーム理論2:協調のメカニズム
- 第24回：ゲーム理論3:経済政策のゲーム理論的理解
- 第25回：市場の失敗1:外部効果
- 第26回：市場の失敗2:費用増産業の場合
- 第27回：不確実性1:リスクと経済
- 第28回：不確実性2:期待効用の最大化仮説
- 第29回：不完全情報経済1:情報の不完全性と市場
- 第30回：不完全情報経済2:モラルハザード

**【事前および事後学習の指示】**

新聞の経済記事を読む。ノートをとって復習する。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

スティグリッツ ミクロ経済学, 東洋経済新報社  
クルーグマン ミクロ経済学, 東洋経済新報社

**【コメント】**

講義中のスマートホンの使用を禁止します。電源を切ってカバンなどにしまってください。机上や手元に置かないようにしてください。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
民俗学 A (春)	木2

**【教員名称】**

大野 啓

**【講義概要】**

本講義は民俗学とはどのような学問であるのかについて、その成り立ちや学問としての特徴について講義する。その際、民俗学がどのような「知」を構築してきたのか、そして、それがどのような問題を内包し、どのような可能性を持ちうるのかなどについて検討していく。

**【学習目標】**

1. 講義中に解説した用語を理解すること
2. 講義の内容を理解して説明することができること
3. 民俗学がどのような学問的特性を有しているのかを学史を通じて考えることができる

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：近代国家の形成と「文化」
- 第3回：ナショナリズムと国民1 民族・文化・言語と国家
- 第4回：ナショナリズムと国民2 「国民」の同質性と周縁の存在
- 第5回：国家が規定する「民俗」
- 第6回：前近代における「日本」へのまなざし
- 第7回：民俗学前史 - 「伝統」を対象化すること
- 第8回：民俗学の形成
- 第9回：民俗学の成立
- 第10回：柳田以降の民俗学1 「常民」の歴史へのまなざし
- 第11回：柳田以降の民俗学2 「常民」の文化へのまなざし
- 第12回：「常民」概念の可能性について
- 第13回：「伝統」を対象化する意味について
- 第14回：民俗学の限界と可能性
- 第15回：まとめ

**【事前および事後学習の指示】**

講義中に指示した参考文献などに目を通すこと。  
また、講義内容で理解できない用語などがある場合には、「日本民俗大辞典」などで調べること。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

ベネディクト・アンダーソン著、白石隆／白石さや訳『増補 想像の共同体－ナショナリズムの起源と流行』NTT 出版

**【コメント】**

試験での評価を基本とする。  
講義時間中に課す小レポートとリアクションペーパーも評価の対象に入れます。

**【留意事項】**

講義名称	曜時
メディア英語 A 〈春〉	火 3

**【教員名称】**

福屋 義則

**【講義概要】**

メディア英語とは、媒介を通じて情報伝達される言語である。この授業では、映画で発信されている英語に接していく。また、テレビ、新聞、雑誌等の英語も扱うことがある。

**【学習目標】**

- リスニング能力を向上する。
- リーディング能力を向上する。
- 文学に接することで、教養を身に付ける。
- 語句や慣習的表現を修得する。

**【講義計画】**

- 第1回：An Introduction to the Course  
[To Kill a Mockingbird (アラバマ物語)]  
Unit 13: Vocabulary Exercise
- 第2回：Unit 13: Scene 1 (アティカスの家庭)  
Unit 13: Scene 2 (父と子の会話)
- 第3回：Unit 13: Scene 3 (裁判所ののぞき見)  
Unit 13: Review and Additional Exercises  
Unit 14: Scene 1 (学校)
- 第4回：Unit 14: Scene 2 (約束)  
Unit 14: Scene 3 (アティカスを守る)  
Unit 14: Review and Additional Exercises
- 第5回：Unit 15: Scene 1 (ユーウェル親子の証言)  
Unit 15: Scene 2 (トムの証言とアティカスの最終弁論)
- 第6回：Unit 15: Scene 3 (アティカス、最後の訴え)  
Unit 15: Review and Additional Exercise  
Unit 16: Scene 1 (裁判の結末)
- 第7回：Unit 16: Scene 2 (命の恩人)  
Unit 16: Scene 3 (懐かしい日々)
- 第8回：Unit 13-16 Summary  
[Gone with the Wind (風と共に去りぬ)]  
Unit 1: Vocabulary Exercise
- 第9回：Unit 1: Scene 1 (スカーレットの秘密)  
Unit 1: Scene 2 (大園遊会で)
- 第10回：Unit 1: Scene 3 (レットとの出会い)  
Unit 1: Review and Additional Exercises  
Unit 2: Scene 1 (アトランタからの脱出)  
Unit 2: Scene 2 (廃墟と化した故郷)  
Unit 2: Scene 3 (スカーレットの戦い)  
Unit 2: Review and Additional Exercises
- 第12回：Unit 3: Scene 1 (レットとの面会)  
Unit 3: Scene 2 (スカーレットの作戦)
- 第13回：Unit 3: Scene 3 (レットとの求婚)  
Unit 3: Review and Additional Exercises  
Unit 4: Scene 1 (メラニーの最期)
- 第14回：Unit 4: Scene 2 (レットとスカーレットの別れ)  
Unit 4: Scene 3 (去っていくレット)
- 第15回：Unit 1-4 Summary

**【事前および事後学習の指示】**

12回実施される小テストの準備をする。

**【テキスト】**

American Spirits in Movies (2009) 名作映画で学ぶアメリカの心 Mika Ishizuka / Megumi Kobayashi / Miyoko Maass / 978-4-7919-3119-4 成美堂

**【参考文献】**

速読速聴・英単語 Advanced 1100 松本茂 / Robert Gaynor Z会  
英語類義語 使い分け辞典 研究社

**【コメント】**

- ◆小テストを12回実施する。これらの小テストは2種類に分けられる。(第1回目の授業でその詳細を説明する。)
- ◆授業15回のうち4回以上欠席した(病欠を含む)場合、いかなる理由であってもD評価とする(ただし、公認欠席は除く)。すなわち、3回の欠席と2回の遅刻(または、早退)まで認める。3回の遅刻(または、早退)で1回の欠席とみなす。また、30分以上の遅刻(または、早退)は1回の欠席とみなす。なお、授業の欠席を他の課題によって代替することはできない。
- ◆授業(授業中、宿題など)の第一義的目的は学習である。この目的完遂を妨げるあらゆる行為や態度に対して処置を行う。(第1回目の授業でその詳細を説明する。)

**【留意事項】**

辞書(電子・英英・英和のいずれか)を必ず授業に持参すること。辞書を使用する目的であっても、スマホは使用禁止。英英辞書と類義語辞書の使用を推奨します。

講義名称	曜時
モラルの社会学 〈春〉	火 2

**【教員名称】**

平野 孝典

**【講義概要】**

この授業では、犯罪という社会現象から社会の仕組みを理解する方法について学習していきます。  
授業は大きくわけて2部構成からなります。第1部では、社会学的な犯罪原因論を紹介し、具体的な犯罪現象の説明を試みていきます(第2回～第8回)。第2部では、ラベリング論と社会構築主義の視点と方法を学習したうえで、犯罪統計の基本的な読解方法を学習します(第9回～第15回)。  
なお、授業を円滑に進めるため、座席を指定することがあることを了解すること。また、授業ではMportおよびSドライブを活用する。

**【学習目標】**

- 講義の到達目標は次の3点です。
- (1) 犯罪現象を社会学的な視点から分析し、説明できるようになること。
  - (2) 代表的な犯罪原因論の長所と短所を理解し、説明できるようになること。
  - (3) 犯罪統計の分析方法を理解し、現代日本社会の犯罪現象をデータによって分析できるようになること。

**【講義計画】**

- 第1回：イントロダクション  
第2回：アルバイトは校則で禁止すべきか?——社会的ボンド理論の視点から  
第3回：朱に交われれば赤くなる?——社会的学習理論の視点から  
第4回：「夢」が私たちを追い込む?——アノミー論の視点から  
第5回：地域の絆は犯罪を防ぐか?——社会解体論の視点から  
第6回：刑罰は役に立っているのか?——合理的選択理論の視点から  
第7回：非行少年はいつ足を洗うのか?——ライフコース論の視点から  
第8回：第1部のまとめ  
第9回：そもそも「犯罪」とは何か?——社会学の視点から  
第10回：犯罪は社会の役に立つ?——デュルケームの犯罪理論の視点から  
第11回：社会が犯罪をつくる?——ラベリング論の視点から  
第12回：犯罪は「社会問題」か?——社会構築主義の視点から  
第13回：犯罪統計をどう読むか?——犯罪統計の読解(1)  
第14回：日本社会の治安は悪化しているか?——犯罪統計の読解(2)  
第15回：第2部のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

各授業の冒頭で小テストをおこないますので、授業資料をよく復習してください。

**【テキスト】**

**【参考文献】**

矢島正見ほか編、『よくわかる犯罪社会学入門[改訂版]』, 学陽書房, 2009年  
土井隆義, 『人間失格?——「罪」を犯した少年と社会をつなぐ』日本図書センター, 2010年  
岡邊健編, 『犯罪・非行の社会学——常識をとらえなおす視座』, 有斐閣, 2014年

**【コメント】**

成績は(1)定期試験(2)1000字～2000字程度のレポート2本(3)授業参加(小テストの成績や課題の提出状況)によって評価します。  
遅刻や私語が目立つなど、受講態度が著しく悪い場合は大幅に減点します。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
ヨーロッパ経済論Ⅰ〈春〉	水3

**【教員名称】**

中島 俊克

**【講義概要】**

ヨーロッパ経済の現状を、EUだけでなく、各主要国のレベルにまで降りて詳しく検討する。アメリカや中国に比べなじみは薄いですが、今の経済のしくみはヨーロッパが本家本元である。そこが現在どうなっているのかを知ることは、我々自身の未来を占う上で重要である。

**【学習目標】**

EU経済と各国経済のおおまかな現状、さらに欧州と各国が現在抱える主要な経済問題を把握することをめざす(テキストの第1・3部)。ニュースや新聞記事で欧州経済・各国経済が話題になったとき、自らそれについて解説できる程度にまで理解を深める。

**【講義計画】**

- 第1回：西欧経済の歴史
- 第2回：EUの形成(テキスト1-1、2-1)
- 第3回：EUの拡大と深化(1-2・3)
- 第4回：EUのしくみ(1-4)
- 第5回：関税同盟(2-2~5)
- 第6回：EU財政と各国財政(3-4)
- 第7回：ユーロのしくみ(4・5)
- 第8回：フランス(9)
- 第9回：ドイツ(10)
- 第10回：イギリス(11)
- 第11回：イタリアその他(12)
- 第12回：中・東欧(13)
- 第13回：地域間利害対立(8-1・4・5)
- 第14回：ユーロペシズム(1-5)
- 第15回：EUにおける環境と経済

**【事前および事後学習の指示】**

日ごろ欧州関係の情報に注意し、授業後は要点についてネット等で調べよう。すれば理解は深まる。

**【テキスト】**

現代ヨーロッパ経済論 第5版 田中素香他  
978-4-641-22018-6 有斐閣

**【参考文献】**

川野祐司『ヨーロッパ経済の基礎知識 2020』文真堂、2019年4月刊  
本田雅子・山本いづみ編著『EU経済入門』文真堂、2019年3月刊

**【コメント】**

出席はとらないが、理解度を確認するためレポート代わりに数回、小テストを行う。

**【留意事項】**

講義名称	曜日
倫理学〈通期〉	金4

**【教員名称】**

木下 昌巳

**【講義概要】**

われわれは日々生きていくなかで、誰もがさまざまな事柄に関して、「これは善いことだ。あれは悪いことだ」というような価値的判断を積み重ねながら生きている。しかし、その「善」や「悪」という判断は、そもそもどのような根拠に基づいてなされているのだろうか。倫理学は、「善と悪」について、それはそもそもどういふことを意味しているのか、さらにそれと深くかかわる「幸福」や「正義」とはどのようなことなのかという問題を哲学的に探究して、その本性をあきらかにしようとする学問である。この講義では、倫理学を初めて学ぶ人を対象として、倫理学における重要な問題と学説、とくに①功利主義、②義務論、③メタ倫理学、④公共哲学という現代さかんに論じられている4つのテーマを中心として解説する。

**【学習目標】**

近年の社会においては、たとえば安楽死、フェミニズム、多文化主義というような問題について、さまざまな角度から論じられている。しかし、これらのトピックが提起する問題は、最終的には、われわれは何を善として何を悪とするか、という倫理的判断を前提として初めて答えられる問題である。この講義では、以上のようなトピックを取り上げながら、その背後にある倫理学的問題を分析して、その根本にある倫理的問題を理解できるようにする。さらに、日常生活から新しいテクノロジーの分野にいたるまで、われわれがこれから直面するであろうさまざまな倫理的問題について、他者の言うことを鵜呑みにするのではなく、問題となっていることを自らの力で整理・分析して、各人が主体的で自立的な判断をする態度と見識を養う。

**【講義計画】**

- 第1回：倫理学の基礎①
  - 1、倫理学とは何を研究する学問か
  - 2、伝統的な倫理学と応用倫理学
  - 3、規範倫理的問題と生命倫理的問題の具体例の紹介
- 第2回：倫理学の基礎②
  - 倫理について合理的に考えるということとはどういうことか？
- 第3回：規範倫理学①
  - 帰結主義としての功利主義
- 第4回：規範倫理学②
  - 功利主義の欠点
- 第5回：規範倫理学③
  - カントの義務論
- 第6回：規範倫理学④
  - カントの定言命法
- 第7回：規範倫理学⑤
  - 徳理論(ヴァーチャー・エシクス)
- 第8回：権利論①
  - 「権利」という概念の歴史的展開
  - さまざまな権利とその分類
- 第9回：権利論②
  - 権利はどのようにして根拠づけられるのか
- 第10回：法と道徳
  - ①法と道徳の分離
  - ②法による道徳の強制
- 第11回：倫理学のアプローチの分類
  - 規範倫理学
  - メタ倫理学
  - 記述倫理学
- 第12回：徳倫理学①
  - 行為と性格の優先順位
- 第13回：徳倫理学②
  - 規範倫理学としての義務論
- 第14回：社会契約説
  - 倫理学説としての社会契約説
- 第15回：春学期の内容のまとめと振り返り
- 第16回：秋学期の講義の概説
  - 1、メタ倫理学
  - 2、政治哲学
- 第17回：メタ倫理学①
  - メタ倫理学とは何か？－規範倫理学とメタ倫理学
- 第18回：メタ倫理学②
  - 実在論・認知主義1 自然主義
- 第19回：メタ倫理学③
  - 実在論・認知主義2 非自然主義
- 第20回：メタ倫理学④
  - 反実在論・非認知主義
- 第21回：政治哲学としての倫理学
  - 現代政治哲学の主要な立場とその分類
- 第22回：現代リベラリズムの諸理論①
  - 1、リベラリズムとは何か
  - 2、古典的功利主義
- 第23回：現代リベラリズムの諸理論②
  - ロールズのリベラル平等主義

講義名称	曜時
労働法〈通期〉	金 1

**【教員名称】**

橋本 敏之

**【講義概要】**

近年、テレビ・新聞などの報道で、しばしば「非正規雇用問題」「働き方改革」など多くの労働問題が議論され、その解決の必要性が叫ばれています。実際、日本の労働現場では、非正規雇用、同一労働同一賃金、長時間労働をはじめとして、セクハラ、パワハラ、ワーク・ライフ・バランス、時間外労働規制、過労死・過労自殺など多くの解決すべき問題があります。本講義では、そのような問題に対処するための手段としての現在の労働法についてわかりやすく解説するとともに、現在においても未解決の様々な問題を解決するために何を改善するべきなのかを考えることができますようにします。

**【学習目標】**

まず、労働法の全体像を体系的に把握した上で、労働法の基本知識をしっかりと習得していくことから始め、最終的には、何らかの労働問題に直面した時に、正しく判断し適切に処理することのできる法的能力を身に付けることができるようにすることが目標です。

**【講義計画】**

- 第1回：ガイダンス～講義の進め方・方針など
- 第2回：労働法の意義—労働法の発生とその歴史
- 第3回：労働法における登場人物—労働者・使用者・労働組合
- 第4回：労働法の法源—労働法のルールの所在(1)・労働契約・労働法規など
- 第5回：労働法の法源—労働法のルールの所在(2)・その他
- 第6回：労働契約法(1)—採用・採用内定・試用
- 第7回：労働契約法(2)—配転・出向・転籍
- 第8回：労働契約法(3)—懲戒など
- 第9回：労働契約法(4)—労働契約の終了①解雇・整理解雇
- 第10回：労働契約法(5)—労働契約の終了②解雇・整理解雇以外の終了事由
- 第11回：労働契約法(6)—労働条件の変更
- 第12回：労働契約法(7)—非正規労働者の労働契約
- 第13回：労働保護法(1)—雇用平等
- 第14回：労働保護法(2)—一人権擁護
- 第15回：労働保護法(3)—賃金①
- 第16回：労働保護法(4)—賃金②
- 第17回：労働保護法(5)—労働時間①
- 第18回：労働保護法(6)—労働時間②
- 第19回：労働保護法(7)—休暇・休業
- 第20回：労働保護法(8)—労働安全衛生・労災補償
- 第21回：労働保護法(9)—年少者・女性の保護規定とまとめ
- 第22回：労使関係法(1)—総論
- 第23回：労使関係法(2)—団結権
- 第24回：労使関係法(3)—団体交渉権
- 第25回：労使関係法(4)—労働協約締結権
- 第26回：労使関係法(5)—団体行動権
- 第27回：労使関係法(6)—不当労働行為救済制度
- 第28回：労働紛争解決システム
- 第29回：労働市場法
- 第30回：まとめと今後の課題

**【事前および事後学習の指示】**

労働法は、法律だけでなく、実際に生じた問題を取り扱った判例がとりわけ重要な分野です。事前に指示されたテキストの該当部分や配布された判例などの資料については、読んで上で講義に臨み、事後には、知識・理解の定着のために、講義の際に配布されたレジュメを再確認し、丁寧に復習するようにしてください。

**【テキスト】**

タイトル：『プレップ労働法』(第6版)  
 著者：森戸英幸  
 出版社：弘文堂  
 I S B N：9784335313295

**【参考文献】**

村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選(第9版)』(有斐閣)  
 小六法(最新版)

**【コメント】**

学期末試験のみで評価します。ただ、毎回の授業の終わりにコメントシートに記入し提出することを義務とし、その提出が22回以上の者のみが成績評価の対象となります。

**【留意事項】**

実務経験のある教員による授業(元弁護士が、専門分野における実務経験で涵養された知見をも活用して講義する。)

- 第24回：現代リベラリズムの諸理論③  
ロールズの「見えないヴェール」
- 第25回：現代リベラリズムの諸理論④  
ノージックのリパタリアニズム
- 第26回：現代リベラリズム対抗理論①  
サンデルのコミュニタリアニズム
- 第27回：現代リベラリズム対抗理論②  
共和主義—パーリンの「二つの自由」
- 第28回：フェミニズム①  
第1波フェミニズムと第2波フェミニズム
- 第29回：フェミニズム②  
フェミニズムと「ケアの倫理」
- 第30回：秋学期の内容の総括と全体のまとめ

**【事前および事後学習の指示】**

授業前に、テキストの該当箇所を一読しておくこと。しかし、テキストを独力で読みこなすことは初めて倫理学を学ぶ学生には困難かもしれない。しかし、講義を受けた後で読み返してみると「なるほど、そういうことが書いてあるのか」と腑に落ちるはずである。授業後、テキストを繰り返し熟読すること。  
 授業で使用したスライドのファイルは、大学の「Sドライブ」の'kinoshita」というフォルダのなかにアップロードしている。各自ダウンロードして学習用にしてほしい。

**【テキスト】**

入門・倫理学 赤林朗、児玉聡編  
 9784326102655 勁草書房 必要時にはプリントを随時授業中に配布する。

**【参考文献】**

生命倫理やフェミニズムなどの応用倫理の分野は日進月歩の状態なので、書籍だけではなく、インターネットで最新の状況・情報を収集することが不可欠である。検索やリンクをたどっていけば、さまざまな主張や論争がいたるところで展開されていることがわかる。大切なことは、あるところで書かれていることを鵜呑みにするのではなく、反対の意見にも耳を傾けて、双方の主張を整理し、自分はどのような立場を採るかということをつねに考える習慣を身に付けることを望む。倫理学を学ぶことの意義はここにある。  
 さらに桃山学院大学の図書館には倫理学関係の充実した蔵書が揃っている。指示された本を読むだけでなく、自分で書架の前に立ち、自分の目から見て興味を持ってそうな本を手にとって、興味があると思ったら難しそうに見えても借りて読んでほしい。書物は一回だけ読んで理解できるものではない。思想に関わる書物はとくにそうである。これを繰り返しているうちに自分はどんなことに興味があるのかということもわかってくるようになるだろう。これは自分の倫理学に対する理解が進歩していることの現われである。

**【コメント】**

試験は、春学期と秋学期のテスト期間内にそれぞれ1回ずつ計2回実施する。成績はこの二つのテストの総合点(前期50点、後期50点の100点満点)によって決定される。

- 出題題内容は、春学期・秋学期とも
- ①授業中に開設した哲学の考え方の理解度を図る問題(50%)
- ②授業で取り上げたテーマに関する論述問題(50%)

テストを受験するためにどのような準備をすればよいのかということについては、授業中に詳しく解説する予定である。

**【留意事項】**